千葉県文化財センター調査報告第384集

東関東自動車道(千葉・富津線)
埋蔵文化財調査報告書 6

－木更津市金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡－

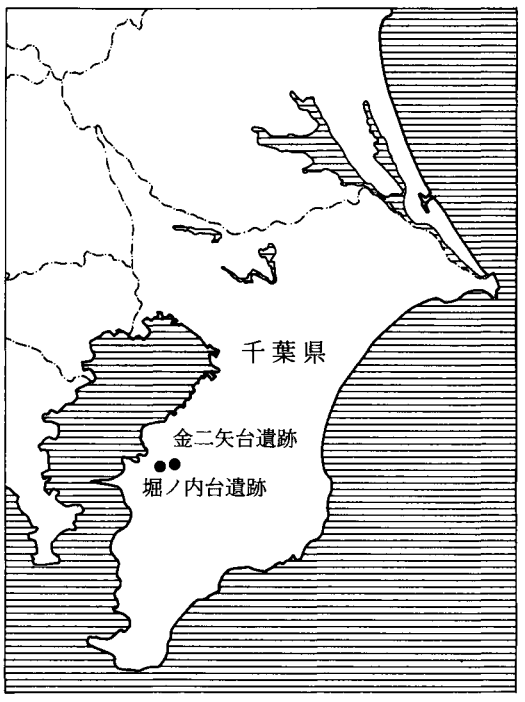
平成12年 3 月

日　本　道　路　公　団

財団法人　千葉県文化財センター

東関東自動車道(千葉・富津線)
埋蔵文化財調査報告書 6

－木更津市金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡－



金二矢台遺跡出土旧石器時代石器

金二矢台遺跡出土旧石器時代石器接合資料

序　文

財団法人千葉県文化財センターは，埋蔵文化財の調査研究，文化財保護思想の涵養と普及などを目的として昭和49年に設立され，以来，数多くの遺跡の発掘調査を実施し，その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび，千葉県文化財センター調査報告第384集として，日本道路公団の東関東自動車道（千葉・富津線）建設事業に伴って実施した木更津市金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では，旧石器時代の石器，縄文時代の土器及び石器を初め，奈良・平安時代の集落及び石櫃が検出されるなど，この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり，この報告書が学術資料として，また埋蔵文化財の保護に対する理解を深めるための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに，調査に際し御指導，御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関，また，発掘から整理まで御苦労をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成12年３月31日

財団法人千葉県文化財センター
理事長　中　村　好　成

凡　例

1　本書は，日本道路公団による東関東自動車道（千葉・富津線）建設事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査報告書の第６集である。

2　本書は，下記の遺跡を収録したものである。

金二矢台遺跡　千葉県木更津市中烏田字東谷144－1ほか　（遺跡コード206-006）

堀ノ内台遺跡　千葉県木更津市下烏田字堀ノ内台400－1ほか　（遺跡コード206-008）

3　発掘調査から報告書作成に至る業務は，日本道路公団の委託を受け，財団法人千葉県文化財センターが実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当者，実施期間は本文中に記載した。

5　本書の執筆は，研究員井上哲朗が第１章並びに各章の奈良・平安時代及び中・近世の部分，主任技師豊田秀治が各章の旧石器時代の部分，主任技師小笠原永隆が各章の縄文時代の部分を担当した。

6　発掘調査から報告書の刊行に至るまで，千葉県教育庁生涯学習部文化課，木更津市教育委員会生涯学習部社会教育課の御指導，御協力を得た。

7　本書で使用した地図は，下記のとおりである。

第１図　国土地理院発行　1/50,000地形図「木更津」」（NI-54-25-4）

第２図　参謀本部陸軍部測量局作成　1/20,000迅速測図
「木更津村」・「奈良輪村」・「桜井村」・「上村」　（明治15年測量・明治20年発行）

第３図　木更津市発行　1/2,500都市計画図
（IX-LE32-3）・（IX-LE32-4）・（IX-LE42-1）・（IX-LE42-2）
（昭和60年測量・平成６年修正）

第４図　国土地理院発行　1/25,000地形図「木更津」（NI-54-25-4-2）・「鹿野山」（NI-54-26-1-1）

8　周辺地形航空写真は，京葉測量株式会社による昭和48年３月撮影のものを使用した。

9　本書で使用した図面の方位は，すべて座標北である。

10　本書で使用した遺構番号は，調査時の番号を踏襲した。

11　遺物の色調については，農林水産省・㈶日本色彩研究所監修の日本色研事業株式会社　1988『新版標準土色帖』掲載の用語・記号を使用した。

12　挿図に使用したスクリーントーン及び記号の用例は，次のとおりである。

旧石器時代分布図凡例

（器　種）

△ ナイフ形石器
▲ 掻・削器
◐ 礫器
◎ UF・RF
■ 台石
□ 石核
○ 剝・砕片

（石　材）

○ 黒曜石
● 安山岩
□ 凝灰岩
△ チャート
○ 頁・珪質頁岩
□ 砂岩
● 流紋岩

竪穴住居跡凡例

焼土
炉・カマド火床部
カマド袖部砂質粘土
硬化面

本文目次

第1章　はじめに …… 1
　第1節　調査の概要 …… 1
　第2節　遺跡の位置と環境 …… 2
第2章　金二矢台遺跡 …… 9
　第1節　概要 …… 9
　第2節　旧石器時代 …… 9
　第3節　縄文時代 …… 58
　第4節　奈良・平安時代 …… 91
　第5節　中・近世 …… 103
第3章　堀ノ内台遺跡 …… 107
　第1節　概要 …… 107
　第2節　旧石器時代 …… 107
　第3節　縄文時代 …… 111
　第4節　奈良・平安時代 …… 136
　第5節　中・近世 …… 140
第4章　まとめ …… 145
　第1節　旧石器時代 …… 145
　第2節　縄文時代 …… 145
　第3節　奈良・平安時代 …… 146
　第4節　中・近世 …… 147
報告書抄録 …… 巻末

挿図目次

第1図　遺跡の位置と周辺の地形 …… 1
第2図　遺跡周辺地形図（1） …… 3
第3図　遺跡周辺地形図（2） …… 4
第4図　周辺遺跡分布図 …… 6
（金二矢台遺跡）
第5図　確認トレンチ及び本調査範囲(上層) …… 9
第6図　確認トレンチ及び本調査範囲(下層) …… 10
第7図　下層基本土層柱状図 …… 11
第8図　3B～5Cグリッド石器分布 …… 11
第9図　3B-44ブロック石器分布（1） …… 12
第10図　3B-44ブロック石器分布（2） …… 13
第11図　3B-44ブロック出土石器（1） …… 14
第12図　3B-44ブロック出土石器（2） …… 15
第13図　3B-44ブロック出土石器（3） …… 16
第14図　3B-44ブロック出土石器（4） …… 17
第15図　3B-44ブロック出土石器（5） …… 18
第16図　4B-02ブロック石器分布（1） …… 20
第17図　4B-02ブロック石器分布（2） …… 20

第18図　4B-02ブロック出土石器（1）…… 21
第19図　4B-02ブロック出土石器（2）…… 22
第20図　4B-02ブロック出土石器（3）…… 23
第21図　4B-02ブロック出土石器（4）…… 24
第22図　4B-02ブロック出土石器（5）…… 25
第23図　4B-22ブロック出土石器…… 28
第24図　4B-22・4B-34ブロック石器分布 …… 29
第25図　4B-34ブロック出土石器（1）…… 30
第26図　4B-34ブロック出土石器（2）…… 31
第27図　4C-12ブロック石器分布…… 33
第28図　4C-12ブロック出土石器（1）…… 34
第29図　4C-12ブロック出土石器（2）…… 35
第30図　4C-30ブロック石器分布（1）…… 36
第31図　4C-30ブロック石器分布（2）…… 36
第32図　4C-30ブロック出土石器…… 37
第33図　4C-22・4C-32ブロック石器分布 …… 38
第34図　4C-32ブロック出土石器…… 39
第35図　4C-42ブロック石器分布…… 40
第36図　4C-42ブロック出土石器（1）…… 41
第37図　4C-42ブロック出土石器（2）…… 42
第38図　4C-42ブロック出土石器（3）…… 43
第39図　4C-42ブロック出土石器（4）…… 44
第40図　4C-42ブロック出土石器（5）…… 45
第41図　5C-01ブロック石器分布（1）…… 47
第42図　5C-01ブロック石器分布（2）…… 47
第43図　5C-01ブロック出土石器…… 48
第44図　4Eブロック石器分布（1）…… 49
第45図　4Eブロック石器分布（2）…… 49
第46図　4Eブロック出土石器（1）…… 50
第47図　4Eブロック出土石器（2）…… 51
第48図　5Gブロック石器分布 …… 52
第49図　5Gブロック出土石器 …… 53
第50図　接合状態（1）…… 55
第51図　接合状態（2）…… 56
第52図　接合状態（3）…… 57
第53図　上層検出遺構配置…… 59
第54図　炉穴…… 60
第55図　集石遺構（1）…… 62
第56図　集石遺構（2）…… 63
第57図　集石遺構（3）…… 64
第58図　集石遺構（4）…… 65
第59図　遺構外出土縄文土器（1）…… 67
第60図　遺構外出土縄文土器（2）…… 69
第61図　遺構外出土縄文土器（3）…… 71
第62図　遺構外出土縄文土器（4）…… 72
第63図　遺構外出土縄文土器（5）…… 74
第64図　遺構外出土縄文土器（6）…… 76
第65図　遺構外出土縄文土器（7）…… 78
第66図　遺構外出土縄文土器（8）…… 79
第67図　遺構外出土縄文時代石器（1）…… 82
第68図　遺構外出土縄文時代石器（2）…… 83
第69図　遺構外出土縄文時代石器（3）…… 84
第70図　遺構外出土縄文時代石器（4）…… 85
第71図　5B-12グリッド出土礫集計…… 88
第72図　遺構外出土礫集計（1）…… 89
第73図　遺構外出土礫集計（2）…… 90
第74図　003（竪穴住居跡）…… 92
第75図　003遺物分布 …… 93
第76図　003出土土器 …… 94
第77図　004（竪穴住居跡）…… 95
第78図　004出土遺物 …… 96
第79図　010（竪穴住居跡）及び出土遺物 …… 98
第80図　011（竪穴住居跡）…… 99
第81図　011，3G-20グリッド出土遺物 ……100
第82図　006A・B ……101
第83図　003出土金属製品 ……104
第84図　中・近世金属製品……105
（堀ノ内台遺跡）
第85図　旧石器時代石器……107
第86図　下層調査範囲……108
第87図　旧石器時代本調査区……109
第88図　上層検出遺構配置……110
第89図　土坑（1）……112
第90図　土坑（2）……113

第91図　土坑（3）……115
第92図　土坑（4）……116
第93図　土坑（5）……118
第94図　土坑（6）……119
第95図　土坑（7）……120
第96図　遺構外出土縄文土器（1）……121
第97図　遺構外出土縄文土器（2）……123
第98図　遺構外出土縄文土器（3）……124
第99図　縄文時代石器（1）……125
第100図　縄文時代石器（2）……126
第101図　縄文時代石器（3）……128
第102図　縄文時代石器（4）……128
第103図　遺構外出土礫の質量と石材……129
第104図　遺構外出土礫グリッド毎質量分布……130
第105図　遺構外出土礫集計（1）……131
第106図　遺構外出土礫集計（2）……132
第107図　遺構外出土礫集計（3）……133
第108図　奈良・平安時代遺構（1）……137
第109図　奈良・平安時代遺構（2）……138
第110図　奈良・平安時代遺構（3）……139
第111図　中・近世遺構（1）……141
第112図　中・近世遺構（2）……142
第113図　中・近世遺物……143
第114図　中烏田所在石製道標……148

表　目　次

（金二矢台遺跡）
第1表　3B-44ブロック …… 19
第2表　4B-02ブロック …… 26
第3表　4B-22ブロック …… 28
第4表　4E-34ブロック …… 31
第5表　4C-12ブロック …… 32
第6表　4C-22ブロック …… 35
第7表　4C-30ブロック …… 37
第8表　4C-32ブロック …… 38
第9表　4C-42ブロック …… 46
第10表　5C-01ブロック …… 48
第11表　4Eブロック …… 51
第12表　3Gブロック …… 52
第13表　遺構外出土縄文土器集計表 …… 80
第14表　遺構出土縄文時代石器属性表 …… 86
第15表　遺構外出土縄文時代石器属性表 …… 86
第16表　奈良・平安時代土器観察表 ……102
第17表　銭貨計測表 ……105
（堀ノ内台遺跡）
第18表　縄文時代石器属性表 ……127
第19表　遺構外出土礫集計表 ……134
第20表　銭貨計測表 ……143

図版目次

巻首図版　金二矢台遺跡出土旧石器時代石器・金二矢台遺跡出土旧石器時代石器接合資料
図版１　金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡周辺航空写真
（金二矢台遺跡）
図版２　旧石器時代遺物集中地点（１）
図版３　旧石器時代遺物集中地点（２）
図版４　旧石器時代遺物集中地点（３）
図版５　縄文時代炉穴・集石遺構（１）
図版６　縄文時代集石遺構（２）
図版７　奈良・平安時代竪穴住居跡（１）
図版８　奈良・平安時代竪穴住居跡（２）
図版９　奈良・平安時代竪穴住居跡（３）
図版10　奈良・平安時代竪穴住居跡（４）
図版11　古代～中・近世遺構
図版12　旧石器時代石器（１）
図版13　旧石器時代石器（２）
図版14　旧石器時代石器（３）
図版15　旧石器時代石器（４）
図版16　旧石器時代石器（５）
図版17　旧石器時代石器（６）
図版18　旧石器時代石器（７）
図版19　旧石器時代石器（８）
図版20　旧石器時代石器（９）
図版21　旧石器時代石器（10）
図版22　遺構外出土縄文土器（１）
図版23　遺構外出土縄文土器（２）
図版24　遺構外出土縄文土器（３）
図版25　遺構外出土縄文土器（４）
図版26　遺構外出土縄文土器（５）
図版27　遺構外出土縄文土器（６）
図版28　遺構外出土縄文土器（７）
図版29　遺構外出土縄文土器（８）
図版30　縄文時代遺構内出土遺物
遺構外出土縄文時代石器（１）
図版31　遺構外出土縄文時代石器（２）
図版32　遺構外出土縄文時代石器（３）
図版33　奈良・平安時代土器（１）
図版34　奈良・平安時代土器（２）
図版35　奈良・平安時代土器（３）
図版36　奈良・平安時代土器（４）
中・近世金属製品
（堀ノ内台遺跡）
図版37　旧石器時代本調査区
図版38　縄文時代土坑（１）
図版39　縄文時代土坑（２）
図版40　縄文～中・近世遺構
図版41　奈良・平安時代遺構（１）
図版42　奈良・平安時代遺構（２）
図版43　中・近世遺構
図版44　遺構内出土縄文土器
図版45　遺構外出土縄文土器（１）
図版46　遺構外出土縄文土器（２）
図版47　遺構外出土縄文土器（３）
中・近世遺物
図版48　縄文時代石器

第１章　はじめに

第１節　調査の概要

１　調査に至る経緯

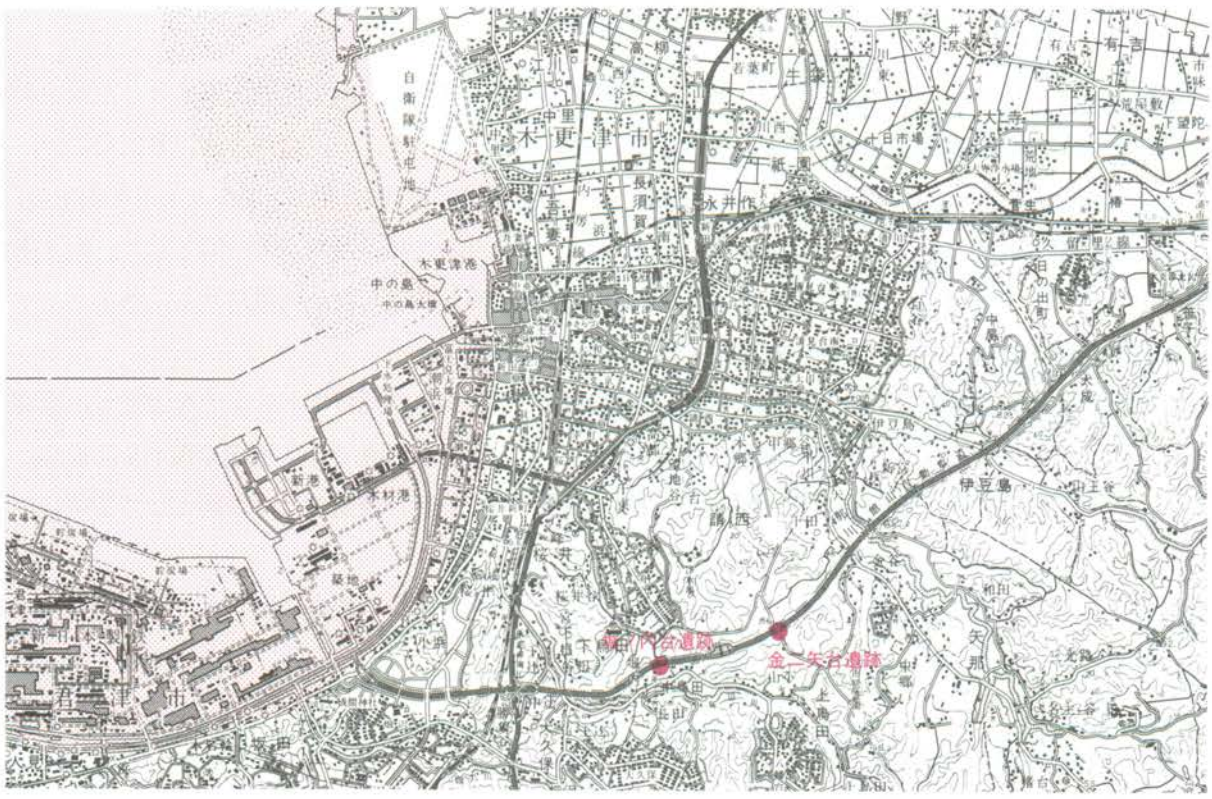
日本道路公団では，千葉市から富津市に至る高速自動車道である東関東自動車道館山線を計画した。この路線のうち，千葉市から市原市，袖ケ浦市を経て木更津市に至る約35㎞の区間が事業化され，千葉・富津線として建設が行われることとなった。

用地内には数多くの遺跡が所在することから，その取扱いについて，千葉県教育委員会と日本道路公団との慎重な協議が重ねられた。その結果，現状保存が困難な部分については，やむを得ず発掘調査による記録保存の措置を講ずることで協議が整い，財団法人千葉県文化財センターが発掘調査を実施することとなった。

調査は，平成元年１月から開始され，平成６年６月に全ての発掘が終了した。平成５年度から各遺跡ごとの本格的な整理作業が開始され，順次報告書を刊行し，現在に至っている。

２　調査経過

今回報告する金二矢台遺跡及び堀ノ内台遺跡は，木更津市内に所在する（第１図）。発掘調査は，平成３年度及び平成４年度に行われた。本格的な整理作業は，平成11年度に実施された。各年度の作業内容等は，以下のとおりである。



第１図　遺跡の位置と周辺の地形　※トーン部分は埋立前の東京湾
（S＝1/50,000）

（1）発掘調査

平成3年度

金二矢台遺跡 ・平成3年7月16日～9月20日

内容：（上層）確認調査　4,050m²のうち405m²，本調査　470m²

（下層）確認調査　4,050m²のうち162m²，本調査　185m²

担当職員：技師　大谷弘幸

平成4年度

金二矢台遺跡・平成4年4月1日～7月31日

内容：（上層）確認調査　3,750m²のうち375m²，本調査　3,150m²

（下層）確認調査　3,750m²のうち152m²，本調査　1,000m²

担当職員：技師　半澤幹雄

堀ノ内台遺跡・平成4年2月1日～3月27日

内容：（上層）確認調査　1,300m²のうち120m²，本調査　1,200m²

（下層）確認調査　1,300m²のうち48m²，本調査　50m²

担当職員：技師　福田　誠

（2）整理作業

平成11年度

金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡

内容：接合・復元から原稿執筆・報告書刊行

担当職員：研究員　井上哲朗，主任技師　豊田秀治・石田清彦・小笠原永隆

3　調査方法

両遺跡とも発掘区は，対象となる区域を包含するように，国土地理院の国土座標を基準とした設定を行った。20m×20mの方眼を大グリッドとして設定し，北から1，2，3，…，西からA，B，C，…，とした。この大グリッドを，金二矢台遺跡では25分割，堀ノ内台遺跡では100分割し，小グリッドを設定した。従って，金二矢台遺跡の小グリッドは4m×4mとなり，北から00～40，西から00～04とした。堀ノ内台遺跡の小グリッドは2m×2mとなり，北から00～90，西から00～09とした。両遺跡とも，各小グリッドは，1A-13，2C-04というように呼称されている。

調査に際しては，調査対象範囲の面積に対し，上層10%，下層4%の割合でトレンチを設定し，確認調査を行い，この結果を考慮して本調査範囲を決定した。なお，上層本調査では，重機で表土を除去し，ジョレンによる遺構確認及び遺物包含層の検出後，精査を行った。下層本調査では，原則としてジョレンで掘り下げ，遺物を検出した。

遺構名は，遺跡ごとに通し番号が付された。原則として，現地調査から報告に至るまで，遺構番号の変更は行っていない。

第2節　遺跡の位置と環境

1　地理的環境（第2・3図）

金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡の位置は，東から北は小櫃川，南は小糸川という清澄山系を源流とし東京

村田太
村西諸
村西諸
陀
道標
金二矢台遺跡
堀ノ内台遺跡
村田烏下
村田烏中
村田烏上
寺福西
寺穴臣
祠野原
祠野原
祠神天
祠神天
祠谷金
祠野原
郷中
寺薬師
寺薬師
祠山白
祠宮堂
寺薬師
寺薬師
寺薬師

第3図　遺跡周辺地形図（2）　※1994年時

湾へ注ぐ河川に挟まれた木更津台地の南部にあたる。木更津台地は，更に小河川によって樹枝状に開析されており，金二矢台遺跡は，北東側を矢那川により，南側を烏田川により開析された樹枝状谷に面し，堀ノ内台遺跡は，南側を烏田川により開析された樹枝状谷に面する，いずれも標高60mほどの台地上に位置する。

2　歴史的環境（第4図）

金二矢台遺跡（1）・堀ノ内台遺跡（2）周辺は，古くは明治時代末期から昭和40年代にかけて葭ヶ作貝塚（34）・祇園貝塚（5）・永井作貝塚（4）などの縄文時代の貝塚や金鈴塚古墳（3）などの学術調査が若干行われてきた[1,2]が，昭和50年頃から大規模な区画整理事業が進められており，主に財団法人君津郡市文化財センターによって発掘調査が実施されている。よって，以下，既調査遺跡の成果を中心に周辺の歴史的状況を概観することとしたい。なお，金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡から烏田川を挟んだ南部の台地上については，古くから宅地開発が進んだため，発掘調査は行われておらず，考古学的資料の空白地域である。

旧石器時代は，東関東自動車道建設に伴って当センターが調査した金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡・中越遺跡（32）[3]の他，マミヤク遺跡（31）[4]・大畑台遺跡（18）[5,6]・天神前遺跡（25）[7]・蓮華寺遺跡（26）[8]などで石器ブロックが検出されている。

縄文時代は，金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡のほか，請西遺跡群の野焼B遺跡（15）[9]，塚原遺跡（9）[10]，千束台遺跡（8）[11]，大畑台遺跡群の小谷遺跡（21）[12,13]・銭賦遺跡（20）[12]・大畑台遺跡で早期の礫群が検出されている。また，早期の炉穴は野焼B遺跡・天神前遺跡，陥穴は天神前遺跡・中越遺跡，前期住居跡は大畑台遺跡で検出されている。中期以降については天神前遺跡で土器が出土しているが，集落は未検出である。なお，マミヤク遺跡では，草創期から後期の土器が，永井作貝塚（4）・葭ヶ作貝塚（33）・三直貝塚（37）では堀之内式・加曽利B式・安行式などの後期土器が，祇園貝塚（5）・峯ノ台貝塚（23）では阿玉台式・勝坂式・加曽利E式・称名寺式・加曽利B式・安行式など中・後期の土器が採集されている。

弥生時代は，中期に請西遺跡群の鹿島塚A遺跡（14）[14]・大山台遺跡（16）[15]・山伏作遺跡（17）[16]・野焼遺跡（15）[9,17]，千束台遺跡に集落が出現し，その内，環濠集落は鹿島塚A遺跡・千束台遺跡に検出されている。なお，小櫃川流域の沖積地である菅生遺跡では水田が検出されている。後期には請西遺跡群の中郷谷遺跡（13）[9]・大山台遺跡・野焼遺跡，千束台遺跡群，天神前遺跡・塚原遺跡，小浜遺跡群のマミヤク遺跡・俵ヶ谷遺跡で集落を形成する。なお，方形周溝墓は野焼遺跡・大畑台遺跡に見られる。

古墳時代は，請西をはじめとする台地上の縁辺部では集落が，内部では古墳群が形成される傾向が見られる。また，沖積地の砂丘列上においても金鈴塚古墳をはじめとする現木更津市街地や君津市南小安地域で見られる。また，百谷地域と畑沢地域の丘陵斜面には横穴墓群が形成されている。前期には，大畑台遺跡群の中台遺跡（12）[18]・大畑台遺跡，請西遺跡群の野焼遺跡，千束台遺跡群，蓮華寺遺跡（26），中越遺跡，マミヤク遺跡・俵ヶ谷遺跡で集落が検出され，中越遺跡の住居跡からは小銅鐸が出土している。前期古墳は大畑台遺跡，請西遺跡群の野焼古墳群，小浜遺跡群の手古塚古墳で検出されている。中期には，大畑台遺跡群の大畑台遺跡・銭賦遺跡・小谷遺跡，請西遺跡群の野焼A遺跡（15）[17]・中郷谷遺跡・山伏作遺跡・大山台遺跡，千束台遺跡群，塚原遺跡（9）[10]，天神前遺跡，小浜遺跡群のマミヤク遺跡・俵ヶ谷遺跡に集落が営まれる。後期には，集落は大畑台遺跡群の小谷遺跡・銭賦遺跡・中台遺跡・大畑台遺跡，請西遺跡群の中郷台遺跡，山神遺跡（29）[19,20]，中越遺跡，峯遺跡（28）[21]，マミヤク遺跡・俵ヶ谷遺跡と主に烏田川沿いに展開する。後期古墳は，集落が消えた請西遺跡群の鹿島塚古墳群（14）[9]，千束台遺跡群，小浜遺跡

第4図　周辺遺跡分布図（S＝1/25,000）

群の関田塚古墳に造営される。

奈良・平安時代は，当地域は『和名抄』記載の周淮郡域に，北側の小櫃川流域の沖積地は望陀郡域に推定されている。集落は，烏田川に面した台地縁辺に多く分布する。大畑台遺跡群の大畑台遺跡で8世紀後半～9世紀前半集落と掘立柱建物跡，銭賦遺跡で8世紀以降の火葬墓・方形墳墓，小谷遺跡で8世紀～9世紀の集落・基壇建物・火葬墓・方形墳墓，中台遺跡で8世紀後半～9世紀前半の集落が検出されている。また，請西遺跡群の鹿島塚遺跡で集落，野焼遺跡で集落・円形周溝状遺構が検出されている。ほかに，天神前遺跡で方形周溝状遺構，中越遺跡・山神遺跡で集落が検出されている。この内，小谷遺跡は瓦葺基壇建物跡が検出され，瓦塔・瓦堂などの仏教関連遺物が出土し，周辺遺跡からは火葬墓が多く検出されている。石櫃が計3基検出された金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡もその一つであり，集落・寺院・墓地の有機的な関係が窺われる。なお，石櫃については，現在までに千葉県内で14遺跡33基以上が検出されており，そのほとんどが市原市武士遺跡の9基を筆頭に上総国西部地域に集中しており，軟質砂岩・凝灰岩質砂岩製が多い。当地域では，大畑台遺跡で3基，マミヤク遺跡で1基検出されている[22,23]。また，古代寺院としては，小櫃川流域の川原寺系軒丸瓦の上総大寺，小安地域の山田寺系軒丸瓦の九十九坊廃寺（36）が調査され，後者は周淮郡の郡寺に推定されている。また，瓦窯には象ヶ谷窯（35）・大鷲窯，須恵器窯では北谷窯（19），金二矢台窯（38）が確認されている。

中世は，当地域は周東郡域に推測される。当地域の中世前期については不明な点が多いが，政治的には，北側の小櫃川流域の沖積地では12世紀から14世紀にかけて菅生荘が藤原家や近衛家によって継承されており，菅生遺跡の発掘調査でも当該期の遺物を伴う館跡の堀が検出されている。生産の面では，矢那川流域の大野五郎右衛門遺跡は平安末期以来の鋳物師として文書を伝え，屋敷周辺で鉄滓が採集される。また，交通面では，堀ノ内台遺跡の北約150mの三叉路（大字中烏田・下烏田・請西・真舟の境界）に江戸初期と伝えられる「北ハかまくらみち・右ハからす田道・左ハ高くら道」の石製道標が存在し，西方へ伸びる道路は鎌倉街道にも推定されており[24]，中近世の主要道路であった。中世後期（戦国時代）には，15世紀後半から真里谷城を本拠とした真里谷武田氏が領域化し，16世紀中頃以降同氏は衰亡し，後北条氏と里見氏の領域紛争の地域となる。中世城館跡としては，中尾城跡（6）・請西城跡（11）・大坪城跡（24）が台地上に存在する。

近世には，貝淵藩の貝淵陣屋（7），それを継承した請西藩の真武根陣屋（10）が造られた。また，塚は，矢那川・烏田川沿いに多く点在することから，中世以降は，谷津を生産基盤とした集落が営まれたようである。

中・近世の調査された遺跡としては，天神前遺跡の14世紀後半～15世紀前半の墓域，小浜遺跡群の西谷塚（近世）[25]，池ノ谷2号塚（近世）（27）[26]などがある。

注1　木更津市　1972『木更津市史』

2　角川書店　1984『角川日本地名大辞典 12 千葉県』

3　麻生正信　1994「木更津市中越遺跡出土の小銅鐸について」『研究連絡誌』42　財団法人千葉県文化財センター

4　小沢　洋・野口行雄他　1989『小浜遺跡群II　マミヤク遺跡』財団法人君津郡市文化財センター

5　井上　賢他　1996『大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ－大畑台遺跡－』木更津市教育委員会

6　當眞嗣史　1997 『大畑台遺跡群発掘調査報告書II－大畑台遺跡－』木更津市教育委員会
7　小高幸男　1992 『天神前遺跡発掘調査報告書』財団法人君津郡市文化財センター
8　松本　勝　1994 『蓮華寺遺跡II』財団法人君津郡市文化財センター
9　稲葉昭智・當眞嗣史・豊巻幸正　1991 『請西遺跡群発掘調査報告書III－野焼B遺跡・野焼古墳群第2号墳・鹿島B遺跡・中郷谷遺跡－』木更津市教育委員会
10　財団法人君津郡市文化財センター　1996 「千束台遺跡」「塚原遺跡」『年報№13』
11　財団法人君津郡市文化財センター　1995 「千束台遺跡」『年報№12』
12　今泉　潔・笹生衛　1994 『大畑台遺跡群遺跡発掘事前総合調査報告書－銭賦遺跡・小谷遺跡－』木更津市教育委員会
13　甲斐博幸　1998 『大畑台遺跡群発掘調査報告書III－小谷遺跡－』木更津市教育委員会
14　岡野祐二　1994 『請西遺跡群III－鹿島塚A遺跡－』財団法人君津郡市文化財センター
15　豊巻幸正　1990 『請西遺跡群発掘調査報告書II－大山台遺跡－』木更津市教育委員会
16　山形美智子　1994 『請西遺跡群発掘調査報告書V－山伏作遺跡－』木更津市教育委員会
17　酒巻忠史・山形美智子　1995 『請西遺跡群発掘調査報告書VI－野焼A遺跡－』木更津市教育委員会
18　小石　誠　1983 『中台遺跡発掘調査報告書』中台遺跡発掘調査委員会
19　財団法人千葉県文化財センター　1993 「山神遺跡」『千葉県文化財センター年報№18』
20　財団法人千葉県文化財センター　1994 「山神遺跡」『千葉県文化財センター年報№19』
21　浅野雅則　1983 『峯遺跡発掘調査報告書』峯遺跡発掘調査団
22　當眞嗣史他　1995 「千葉県－上総・安房－」『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』第II分冊　東日本埋蔵文化財研究会
23　笹生　衛　1993 「第6章　古代の信仰」『房総考古学ライブラリー7　歴史時代（1）』財団法人千葉県文化財センター
24　小熊吉蔵　1933 「鎌倉街道」『史蹟名勝天然記念物調査』第十輯　千葉県
25　小沢　洋他　1990 『小浜遺跡群III－浜ヶ谷古墳・西谷塚・浜清水遺跡・二十歩古墳・丸山塚・関田塚古墳群－』財団法人君津郡市文化財センター
26　松本明子 1997 『池ノ谷2号塚』財団法人君津郡市文化財センター

第２章　金二矢台遺跡

第１節　概要（第５図）

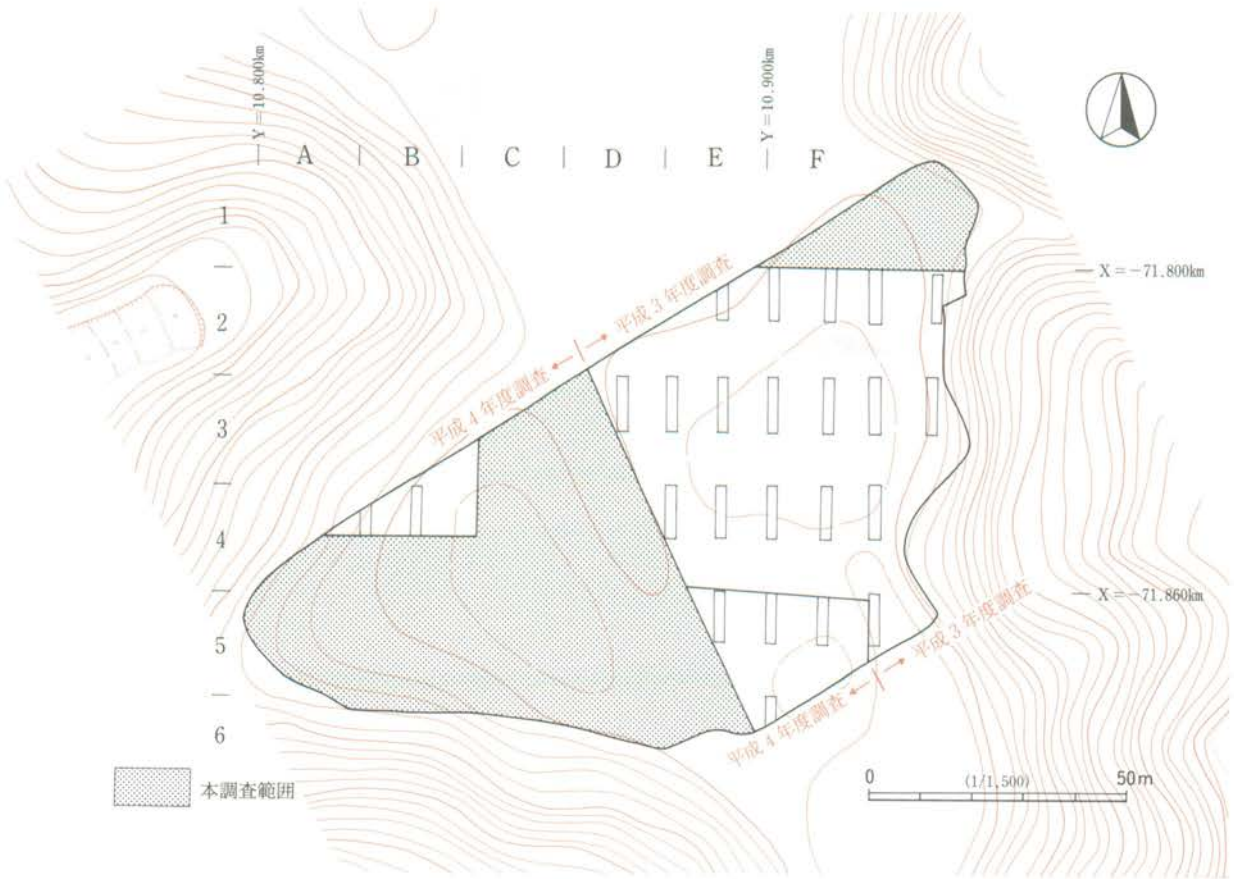
金二矢台遺跡は，木更津市矢那字金二矢台4,450-2ほかに所在する。遺跡は，東側が矢那川左岸へ注ぐ支谷に，西側が烏田川右岸へ注ぐ支谷にそれぞれ面する，標高約65mの台地上に立地する。今回の調査区は，分水嶺上のやせ尾根がやや東西に広がる部分である。

第１章に記したとおり，調査は２か年にわたって行われた。各年度の確認調査の結果，下層計1,185m²，上層計3,620m²を本調査範囲とした。そして，本調査の結果，旧石器時代遺物集中地点９か所，縄文時代炉穴４基，集石遺構３基，奈良・平安時代竪穴住居跡４軒，石櫃２基，中・近世の道跡１条を検出した。

第２節　旧石器時代

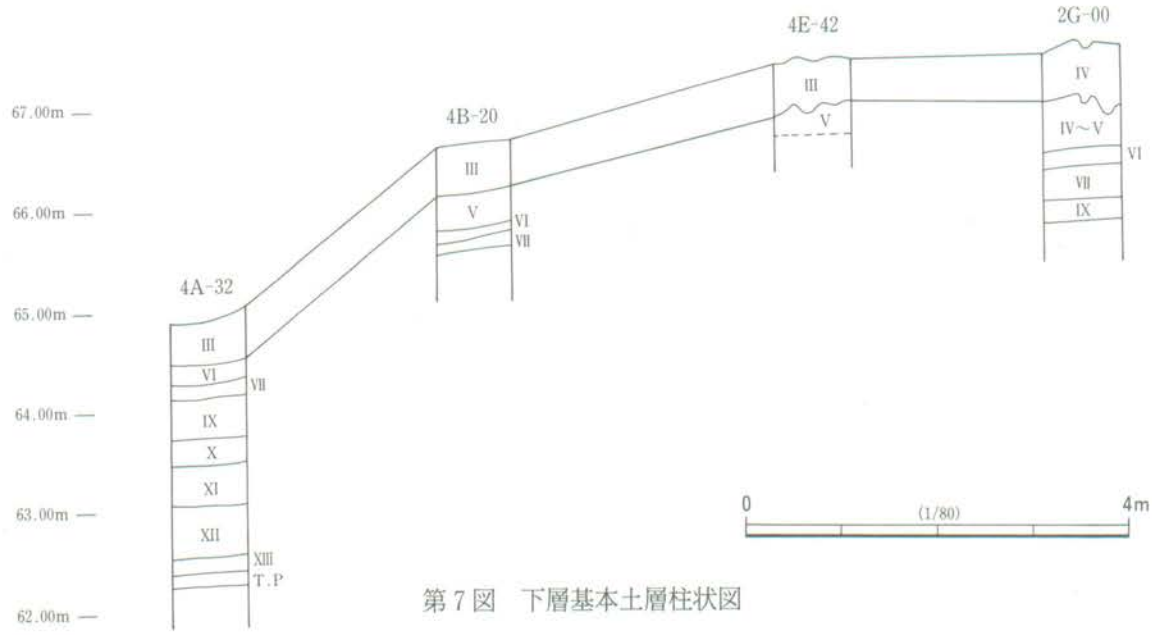
本遺跡において，平成３年に２ｍ×２ｍのグリッド41か所162m²において確認調査を行ったところ，4E-32・5G-10グリッドの２か所で旧石器時代の遺物の広がりが確認され，２地点185m²において，旧石器時代の本調査を実施し，石器集中地点（以下，ブロックと呼称する）２か所を検出した。

更に平成４年にも，２ｍ×２ｍのグリッド41か所152m²において確認調査を行ったところ，4B-02・3C-90・4B-24・4C-20・4C-22・4C-42グリッドの６か所で旧石器時代の遺物の広がりが確認され，1,000m²において，旧石器時代の本調査を実施し，ブロック10か所を検出した。

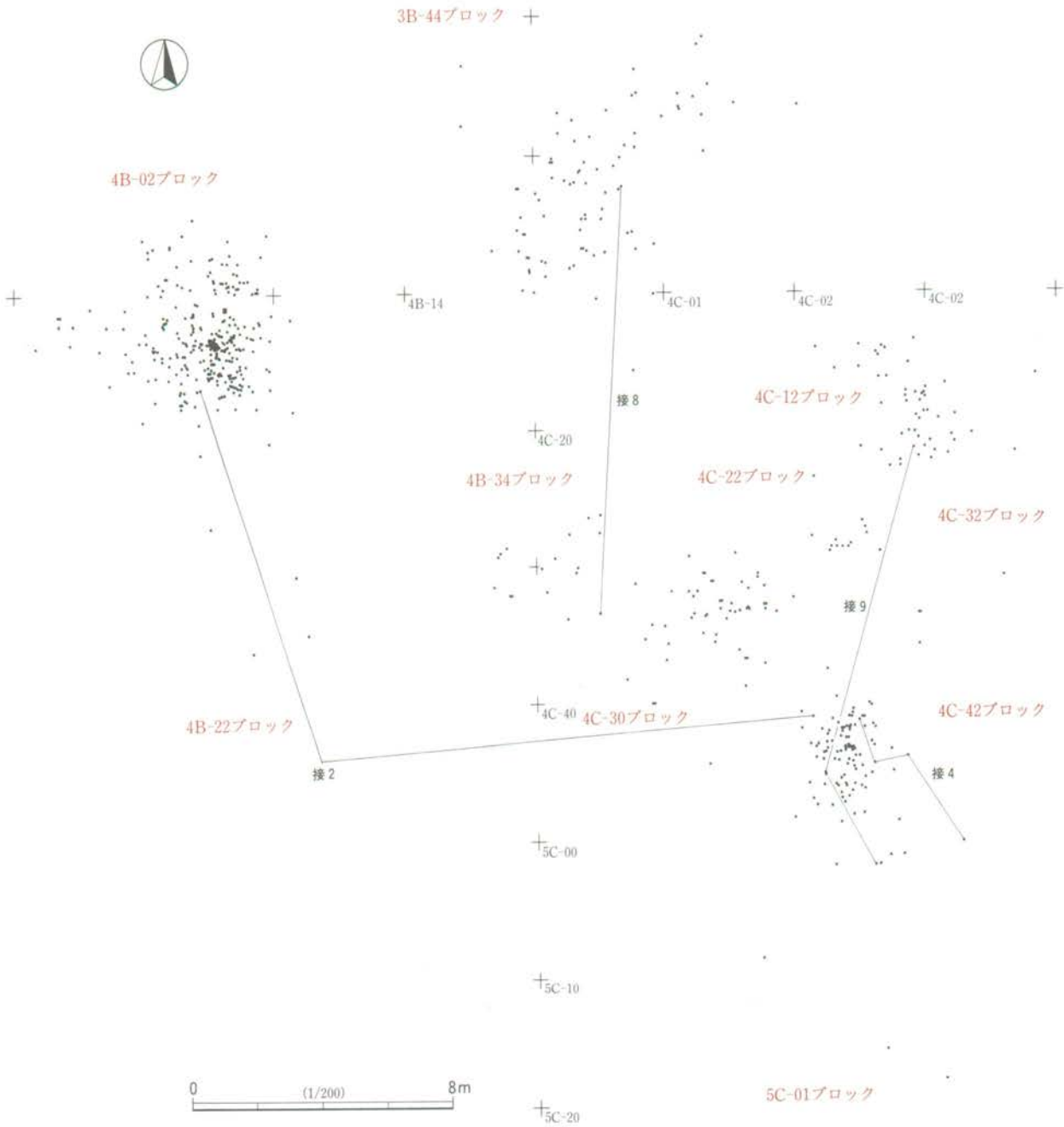


第５図　確認トレンチ及び本調査範囲（上層）

第６図　確認トレンチ及び本調査範囲（下層）



第7図　下層基本土層柱状図



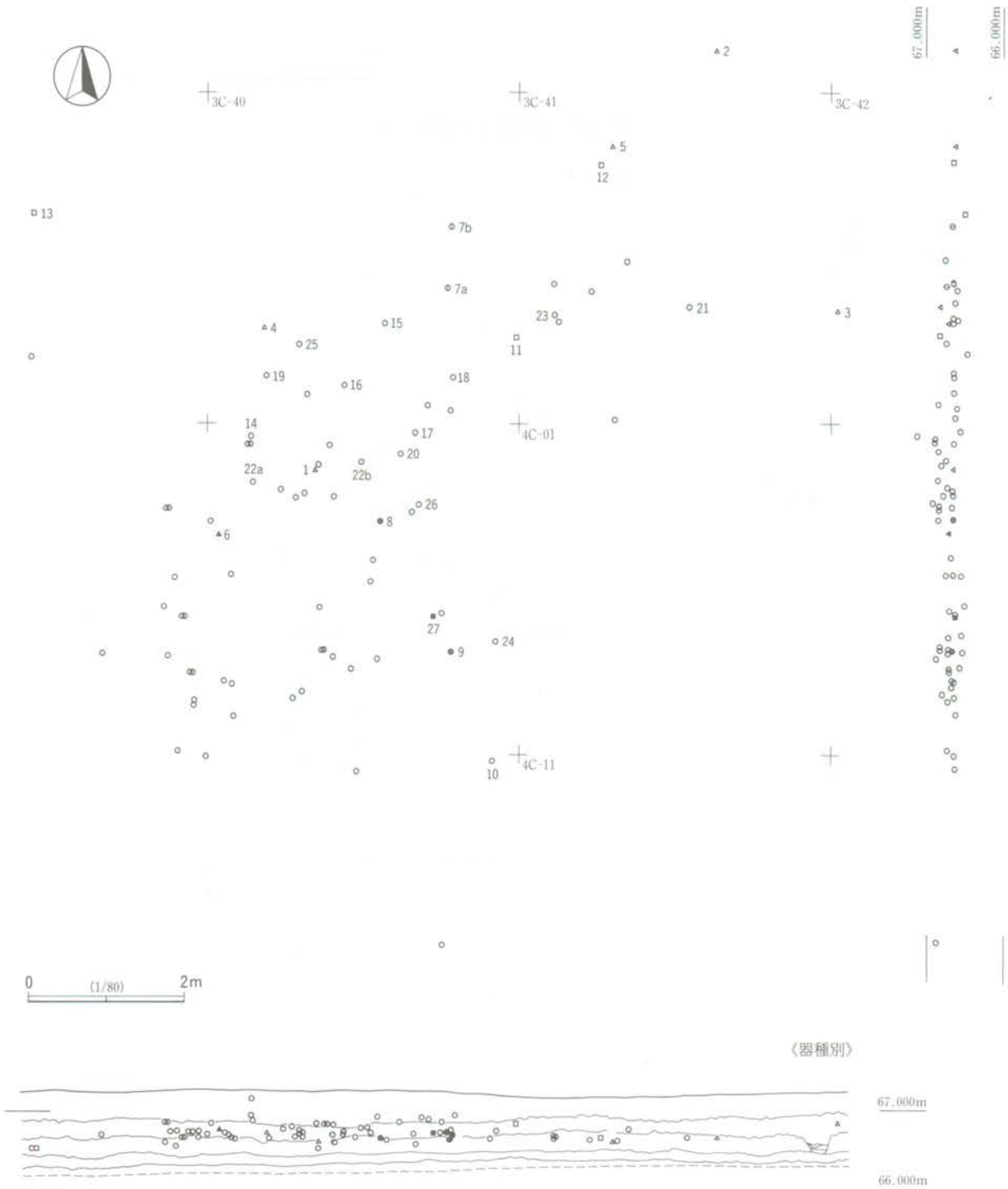
第8図　3B～5Cグリッド石器分布

1　検出した遺構と遺物

今回検出した12か所のブロックは，出土層位等から，全て同一の文化層として捉えられた。

（1）3B-44ブロック（第９～15図）

本ブロックは，3B-44～3C-41・4B-04～4C-00・4C-10に位置し，南北5.5m，東西５mの範囲に，ナイフ形石器５点，掻器１点，礫器１点（接合しており，数的には２点），加工痕を有する剥片２点，石核３点，台石１点，剥片・砕片66点が，中心部に集中して分布する。垂直分布は，66.505m～67.170mの約0.7m，



第９図　3B-44ブロック石器分布（１）

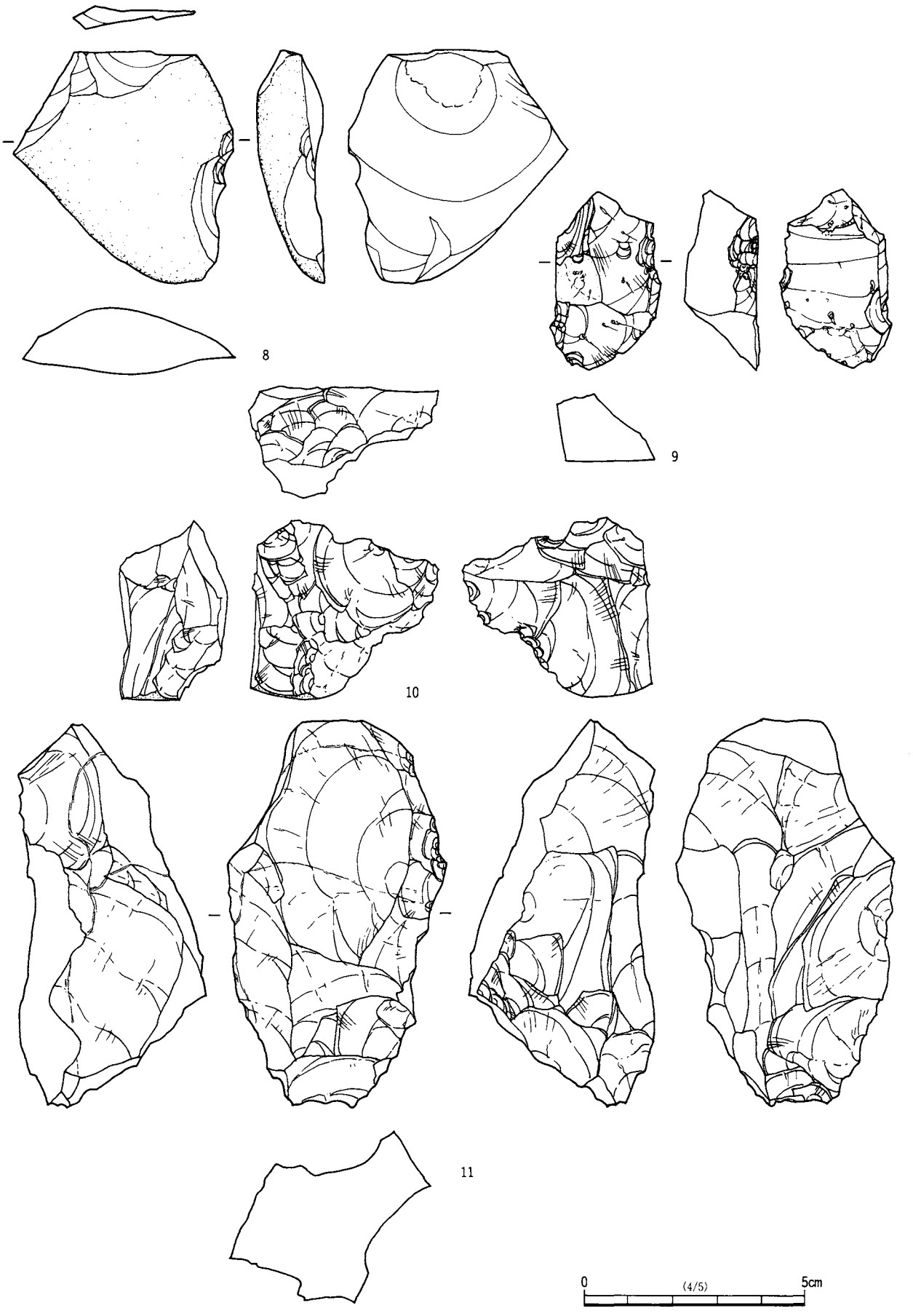
Ⅳ～Ⅵ層の間，特にⅤ層中に濃く分布する。

石材は，黒曜石49点，頁岩12点，安山岩９点，チャート４点，凝灰岩３点，砂岩３点で，黒曜石が半数以上を占める。

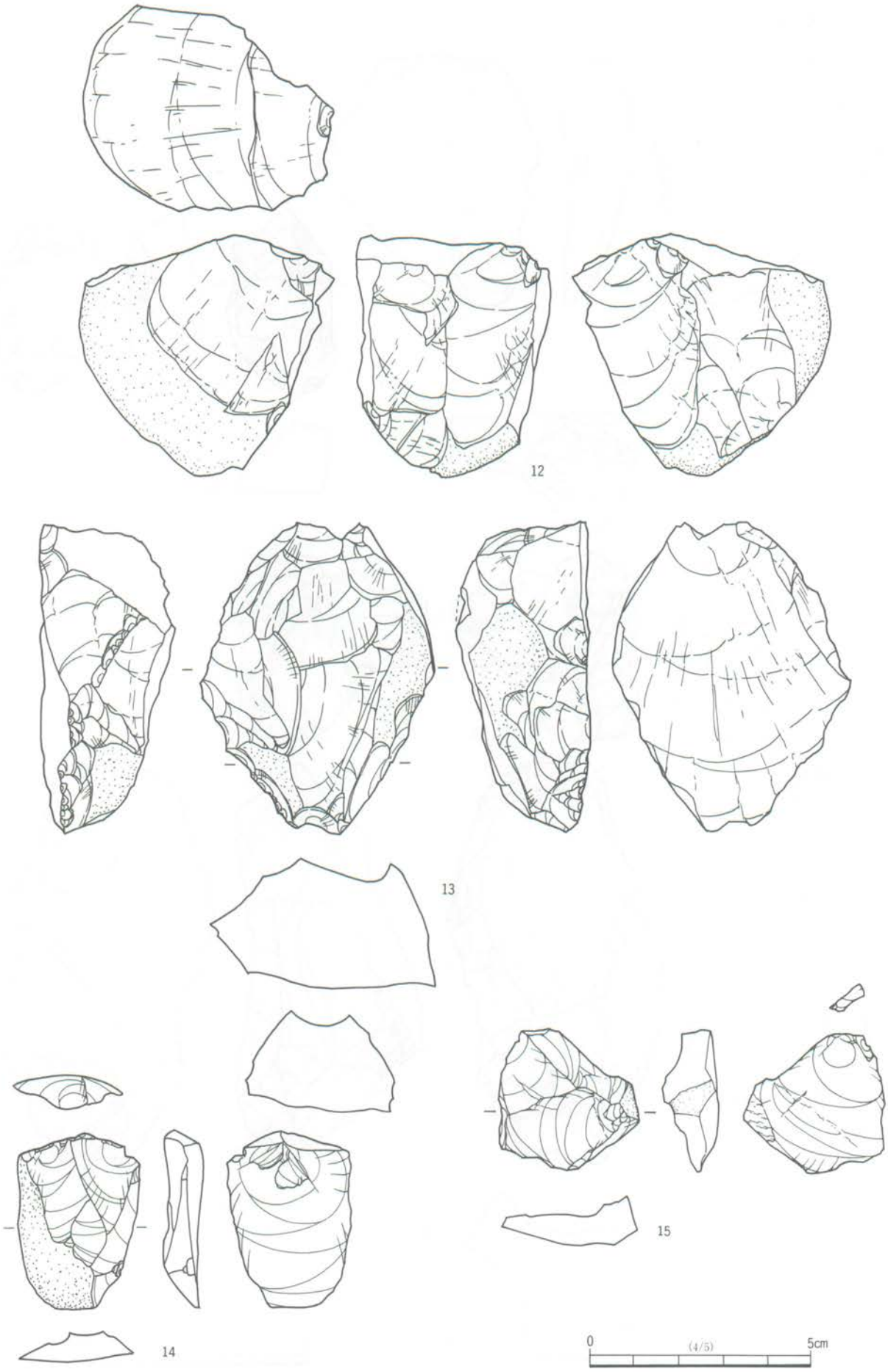
出土石器（第11～15図）　１～５は，ナイフ形石器である。横長剝片を素材として，その打面部を取り除くようにブランティングを施しているもの（１～４）と，剝片を縦に折断し，その折断面にブランティングを施したもの（５）とがある。前者には，更に先端部の一部にもブランティングを施し２側縁調整の

第10図　3B-44ブロック石器分布（２）

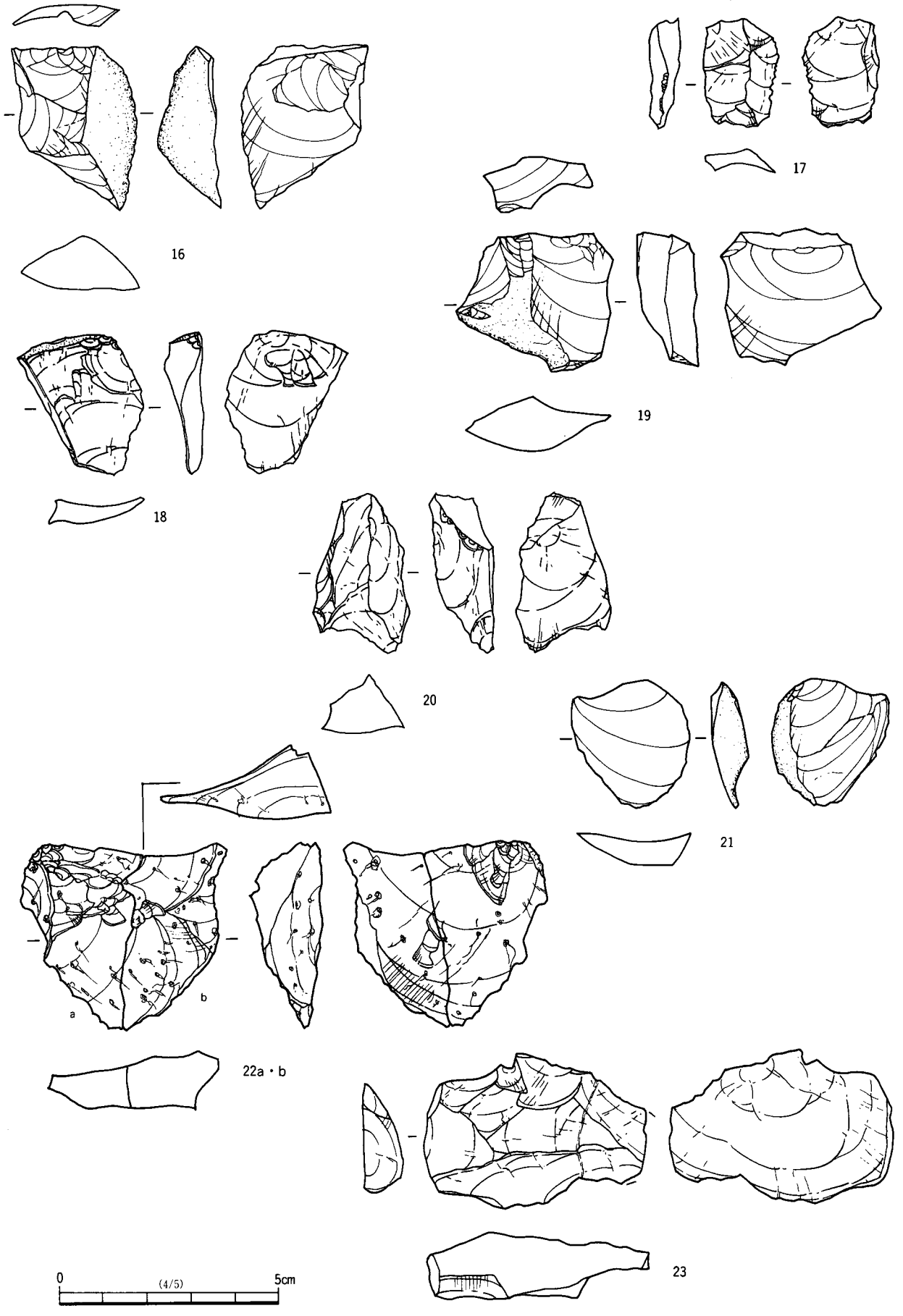
第11図　3B-44ブロック出土石器（1）



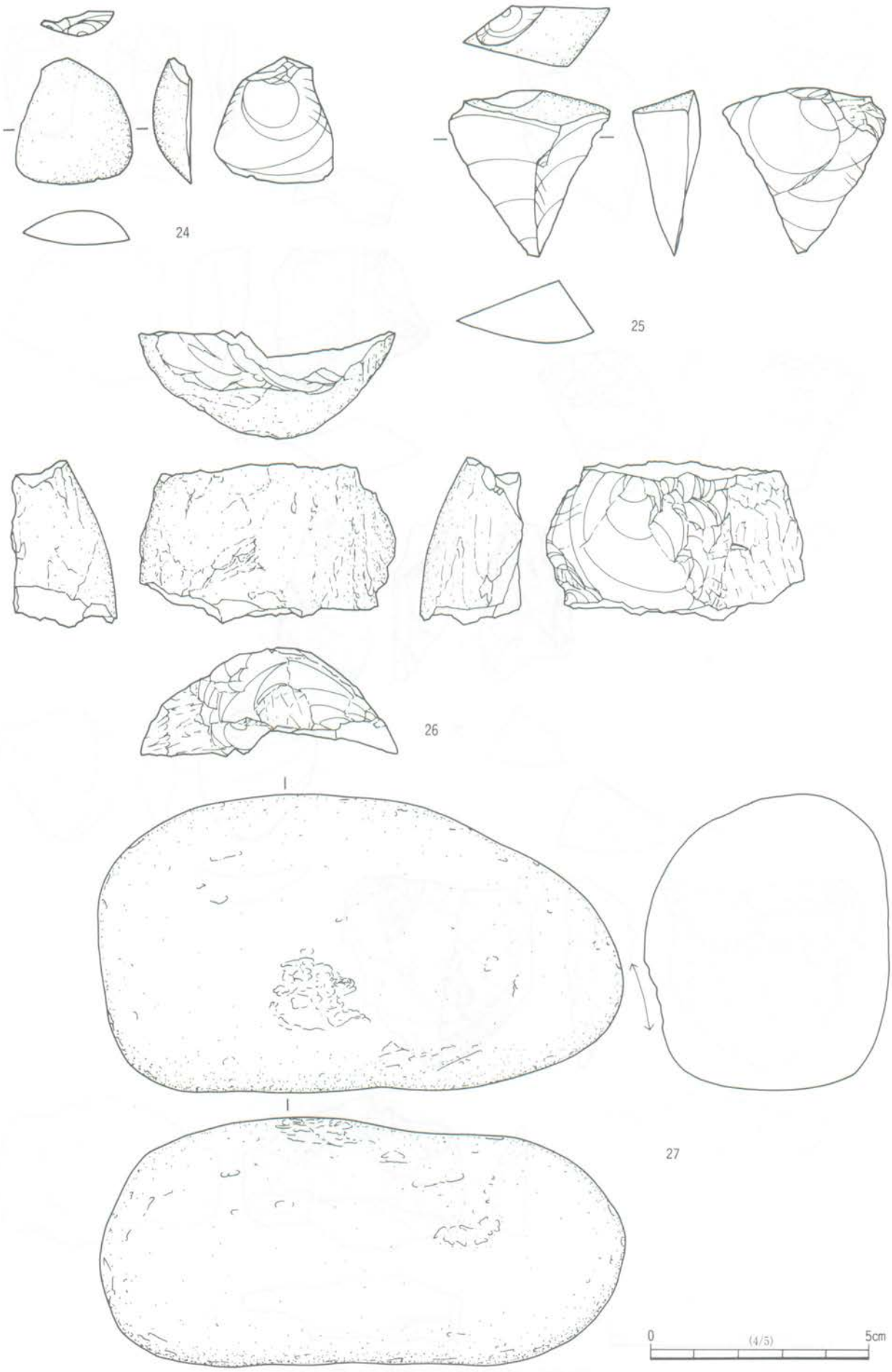
第12図　3B-44ブロック出土石器（2）



第13図　3B-44ブロック出土石器（3）



第14図　3B-44ブロック出土石器（4）



第15図　3B-44ブロック出土石器（5）

もの（1）も認められる。石材は，前者が黒曜石なのに対して，後者は頁岩を用いている。6は，掻器である。幅広の剝片を素材として，一部を除く縁辺に刃部を作り出したラウンドスクレイパーの形状を呈する。7は，礫器である。節理によって分割された素材に，刃部を作り出している。8～10は加工痕を有する剝片，11～13は石核，14～26は剝片である。27は台石である。

第1表　3B-44ブロック

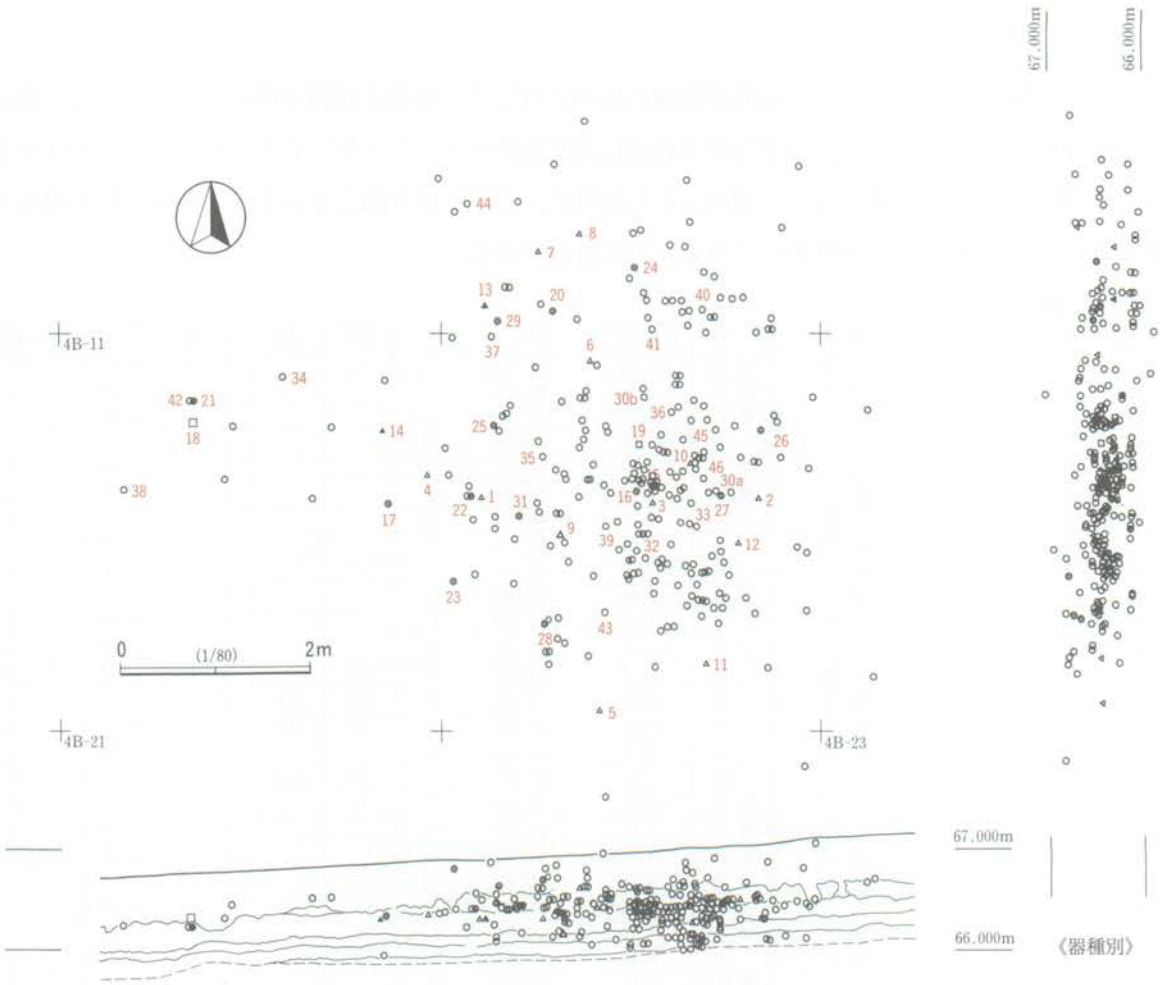
グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
3B-44	2	13	接3	石核	安山岩	114.90
3B-44	3			砕片	黒曜石	0.55
3C-31	2	2		ナイフ	黒曜石	2.33
3C-40	1	25		剝片	頁岩	11.70
3C-40	3	4		ナイフ	黒曜石	2.39
3C-40	6			剝片	黒曜石	6.95
3C-40	7	16		剝片	安山岩	11.45
3C-40	11	15		剝片	チャート	8.04
3C-40	13			剝片	砂岩	1.28
3C-40	14			剝片	頁岩	55.93
3C-40	15	18	接6	剝片	頁岩	5.26
3C-40	18	11	接1	石核	凝灰岩	154.01
3C-40	23	7a		礫器	砂岩	22.73
3C-40	26	7b		礫器	砂岩	21.37
3C-40	34	19		剝片	頁岩	12.92
3C-41	43			砕片	チャート	0.20
3C-41	50	5		ナイフ	頁岩	5.80
3C-41	51	12	接3	石核	安山岩	140.65
3C-41	59			剝片	黒曜石	1.10
3C-41	66	21		剝片	安山岩	4.78
3C-41	77			剝片	頁岩	0.70
3C-41	82	23	接1	剝片	凝灰岩	21.46
3C-41	83			剝片	黒曜石	1.47
3C-41	88			剝片	頁岩	5.66
3C-42	1	3		ナイフ	黒曜石	2.52
4B-04	3			剝片	黒曜石	3.75
4B-04	3			剝片	黒曜石	1.35
4B-04	5			剝片	黒曜石	0.94
4B-04	6			剝片	黒曜石	1.38
4B-04	6			剝片	黒曜石	5.22
4B-04	7			剝片	黒曜石	0.91
4B-04	8			剝片	黒曜石	0.94
4B-04	8			剝片	黒曜石	0.95
4B-04	9			剝片	黒曜石	1.58
4B-04	13			剝片	黒曜石	0.59
4B-04	21			剝片	黒曜石	5.53
4B-04	27			剝片	安山岩	5.56
4B-04	28			剝片	黒曜石	4.00
4B-04	29			砕片	黒曜石	0.72
4B-14	1			剝片	黒曜石	1.72
4C-00	1	6		掻器	黒曜石	27.56
4C-00	2			砕片	黒曜石	0.14
4C-00	4			剝片	黒曜石	2.26
4C-00	13			剝片	黒曜石	11.55
4C-00	28			剝片	黒曜石	8.91
4C-00	29			剝片	黒曜石	3.19
4C-00	30			砕片	黒曜石	0.25
4C-00	31	22a		剝片	黒曜石	11.21
4C-00	33	1		ナイフ	黒曜石	10.81
4C-00	37			剝片	チャート	1.86
4C-00	39			剝片	黒曜石	0.49
4C-00	40			砕片	黒曜石	0.03
4C-00	43	22b		剝片	黒曜石	12.04
4C-00	45	20	接6	剝片	頁岩	8.32
4C-00	47	17	接6	剝片	頁岩	2.26
4C-00	56			剝片	黒曜石	1.30
4C-00	57	26	接6	剝片	頁岩	40.30
4C-00	62	8		R F	頁岩	32.41
4C-00	65			砕片	黒曜石	0.46
4C-00	66			剝片	黒曜石	2.01
4C-00	73	27		台石	安山岩	737.75
4C-00	74			剝片	黒曜石	2.23
4C-00	77	9		R F	黒曜石	13.37
4C-00	78	24		剝片	チャート	6.39
4C-00	81			剝片	黒曜石	1.17
4C-00	84			剝片	黒曜石	8.12
4C-00	84			砕片	黒曜石	0.47
4C-00	97			砕片	黒曜石	0.33
4C-00	102			剝片	安山岩	3.06
4C-00	107			砕片	黒曜石	0.33
4C-00	108			剝片	安山岩	3.08
4C-00	116			剝片	黒曜石	17.59
4C-00	118			剝片	黒曜石	1.00
4C-00	139			剝片	黒曜石	4.39
4C-00	141	14		剝片	凝灰岩	9.06
4C-00	142			剝片	黒曜石	1.23
4C-00	142			剝片	黒曜石	1.08
4C-10	7			剝片	安山岩	1.77
4C-10	8	10	接6	剝片	頁岩	32.84
4C-10	11			剝片	黒曜石	8.18

（2）4B-02ブロック（第16～22図）

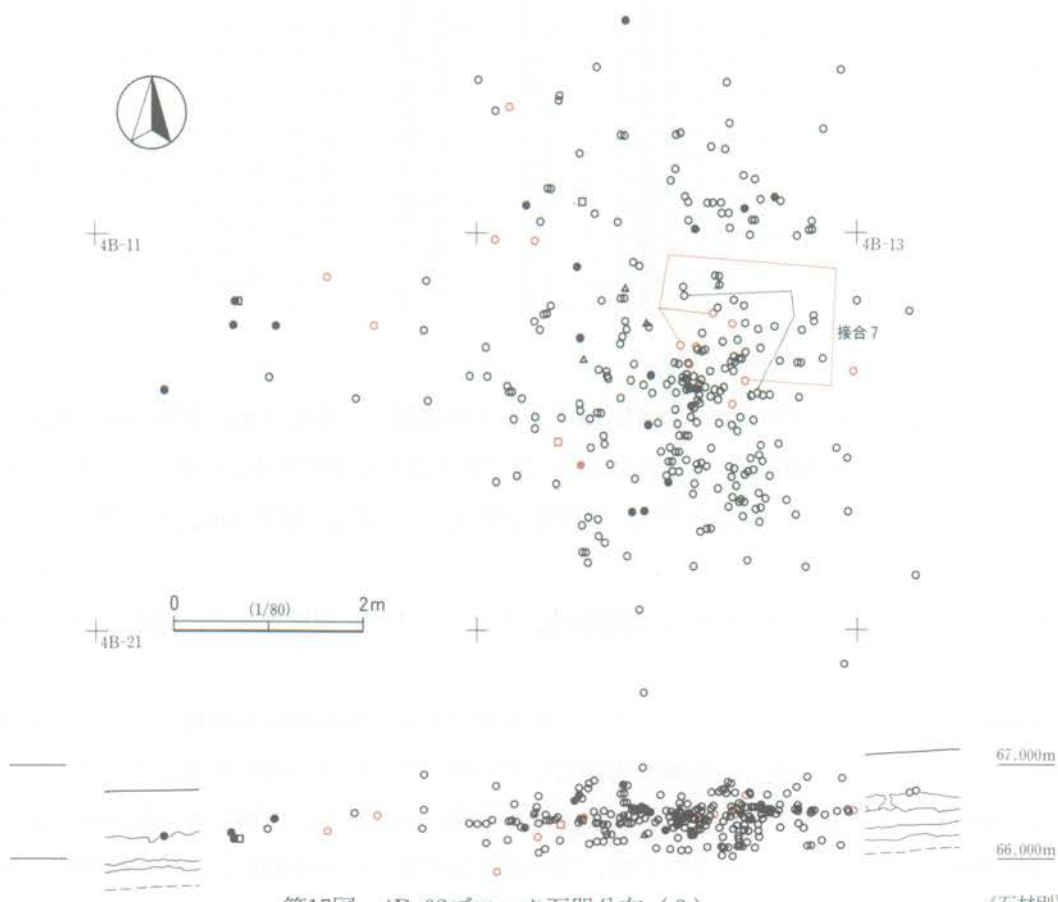
本ブロックは，4B-02・4B-11～13・4B-22グリッドに位置し，南北7m，東西8mの範囲に，ナイフ形石器12点，削器2点，使用痕を有する剝片3点，加工痕を有する剝片11点，石核2点，剝片・砕片243点が，中心部に集中して分布する。垂直分布は，標高65.888m～67.042mの約1.1m，Ⅲ～Ⅶ層の間，特にⅤ層中に濃く分布する。

石材は，黒曜石237点，安山岩16点，頁岩13点，チャート4点，凝灰岩2点，砂岩1点で，黒曜石が大半を占める。

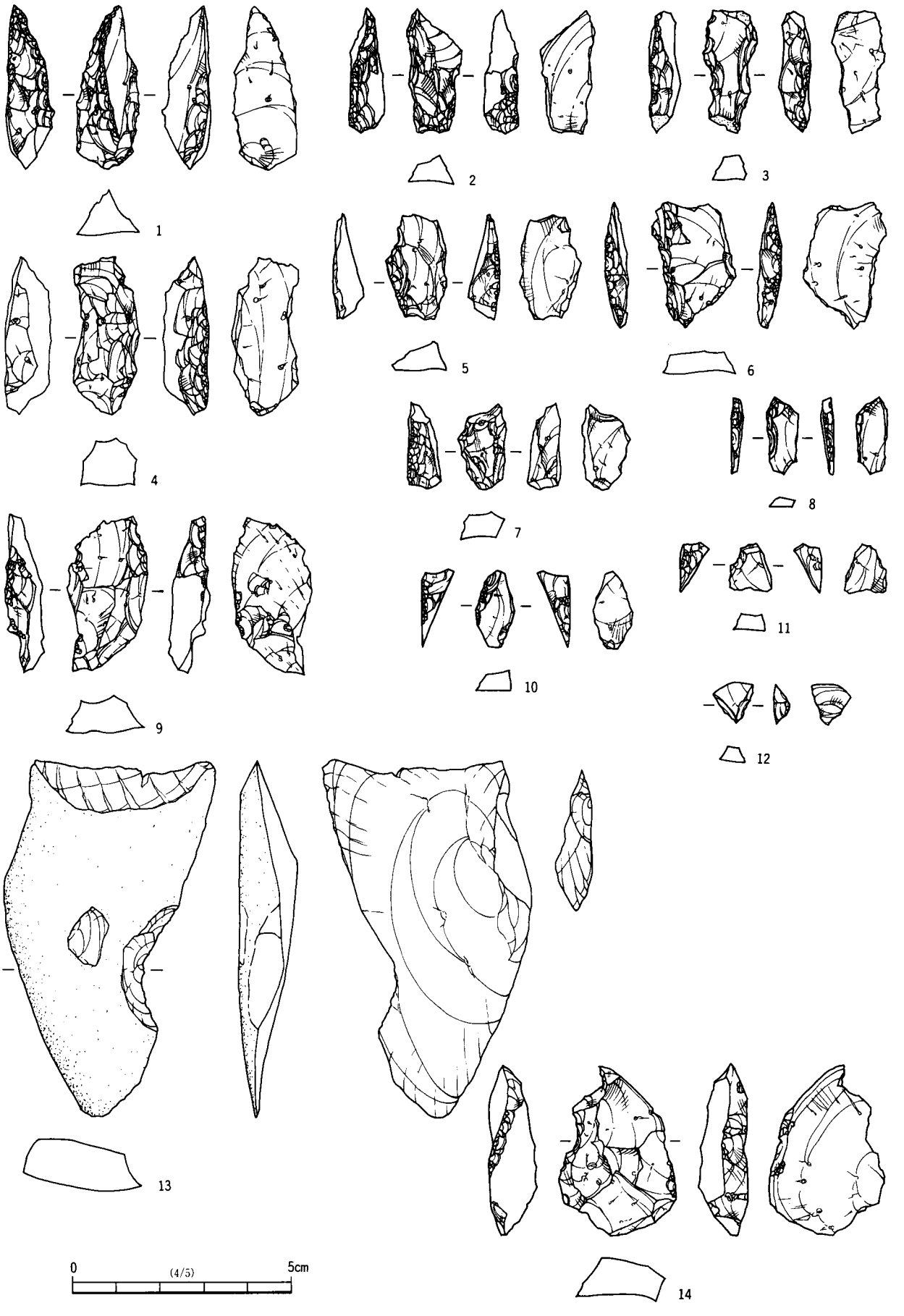
出土石器（第18～22図）　1～12は，ナイフ形石器である。横長剝片を素材として，打面部と先端部の2側縁にブランティングを施し，側縁を刃部としている。7～12は一部を欠損している。13～14は，削器である。横長剝片の先端部（13）又は，打面部を取り除いた部分に，内湾した刃部を作り出している。15～17は使用痕を有する剝片，18～19は石核，20～31は加工痕を有する剝片，32～46は剝片である。



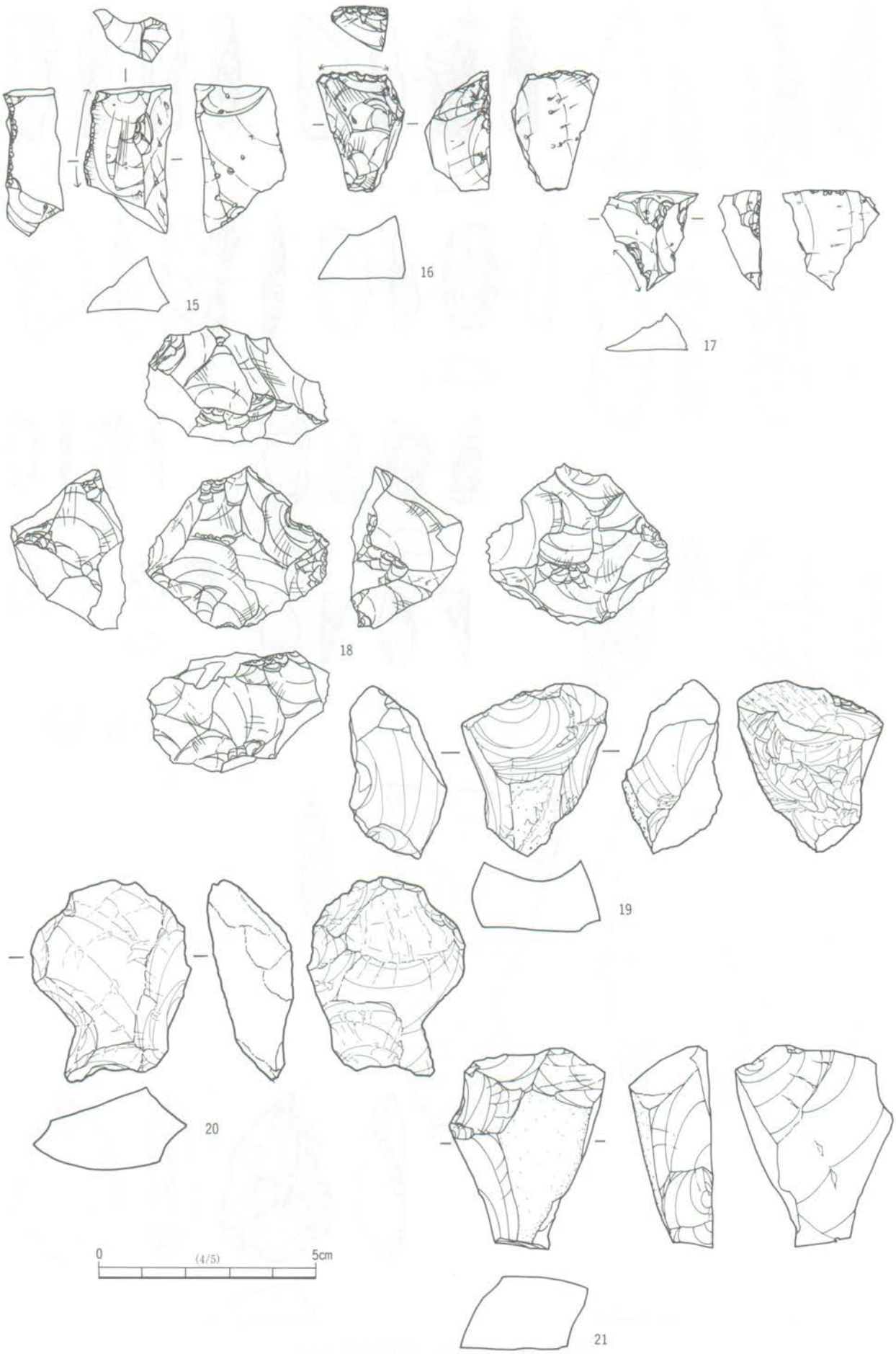
第16図　4B-02ブロック石器分布（1）



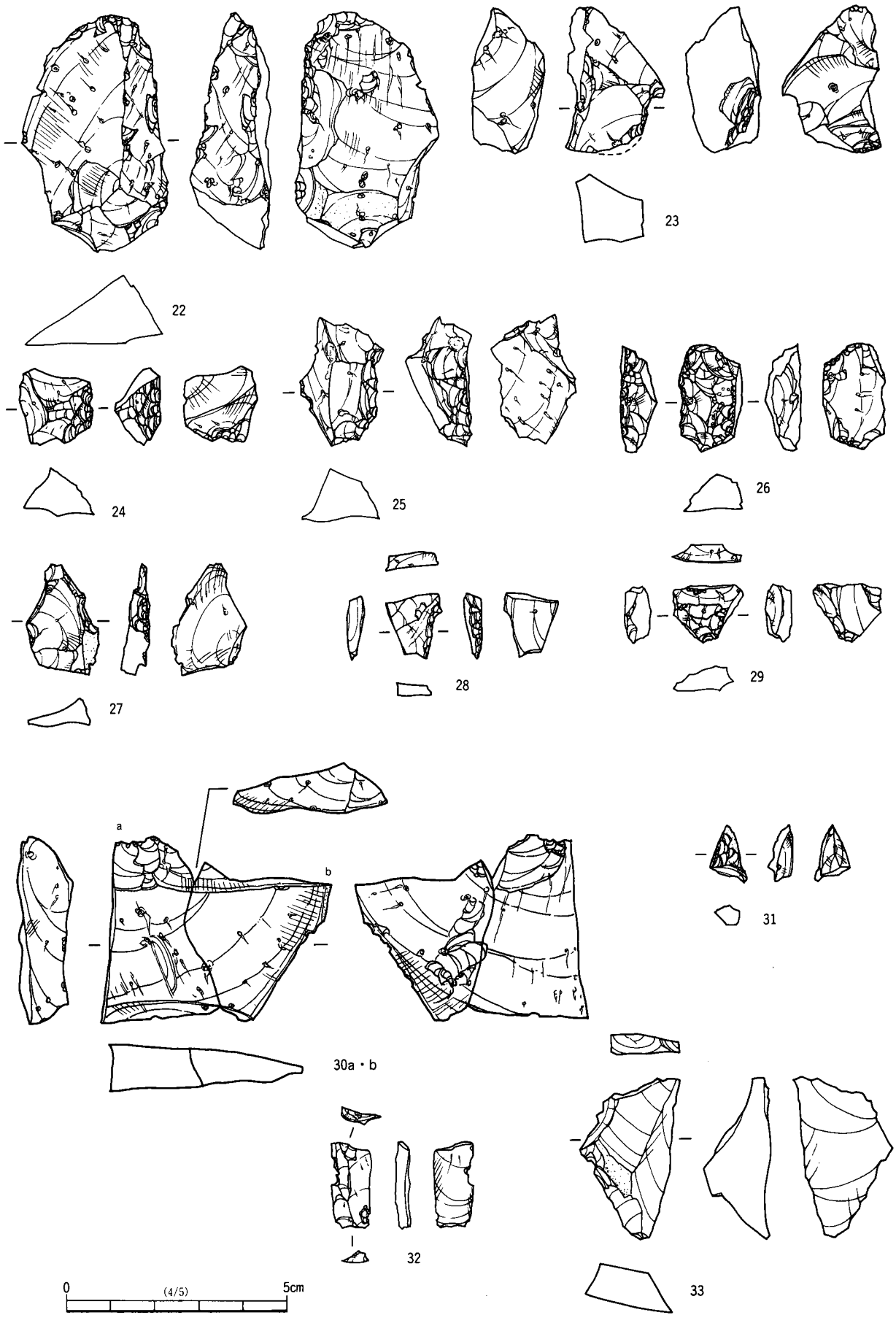
第17図　4B-02ブロック石器分布（2）



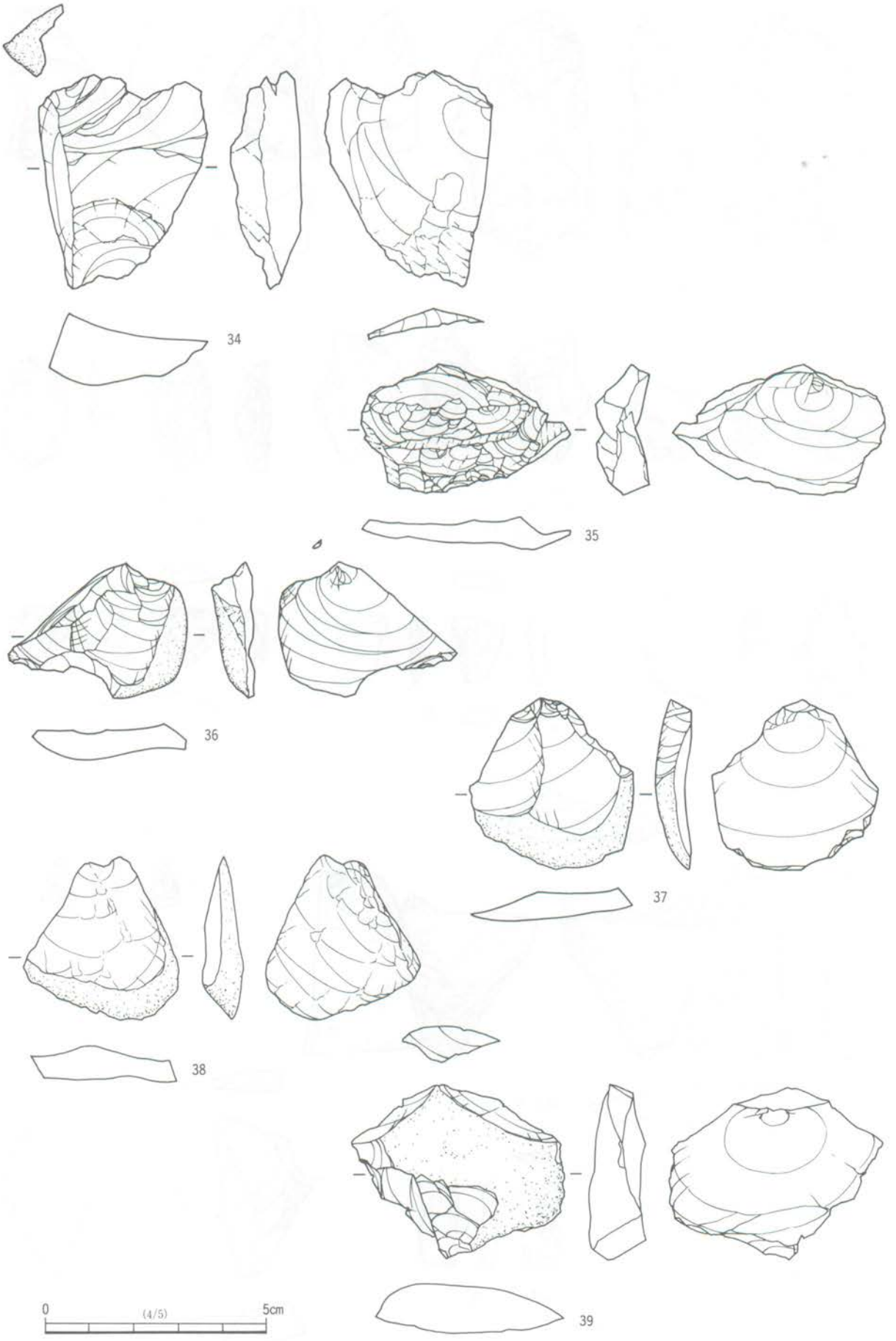
第18図　4B-02ブロック出土石器（1）



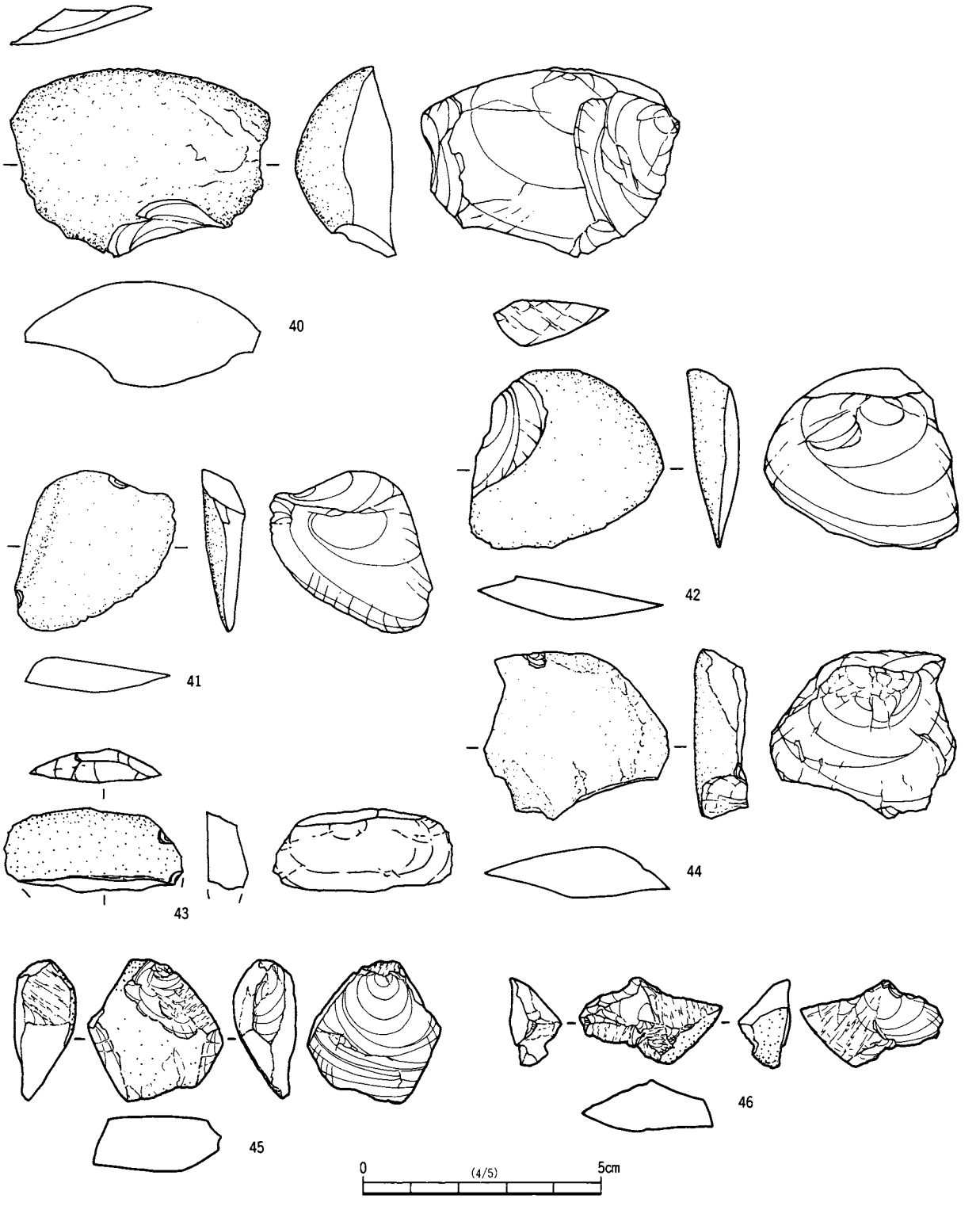
第19図　4B-02ブロック出土石器（2）



第20図　4B-02ブロック出土石器（3）



第21図　4B-02ブロック出土石器（4）



第22図　4B-02ブロック出土石器（5）

第2表　4B-02ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4B-02	4			剝片	安山岩	45.33
4B-02	9			剝片	黒曜石	1.02
4B-02	13			剝片	黒曜石	2.57
4B-02	15			剝片	黒曜石	0.60
4B-02	16			砕片	黒曜石	0.16
4B-02	17			剝片	黒曜石	0.79
4B-02	21			剝片	安山岩	7.92
4B-02	22			砕片	黒曜石	0.50
4B-02	27			剝片	黒曜石	0.40
4B-02	28			剝片	黒曜石	0.69
4B-02	31	24		R F	黒曜石	2.02
4B-02	33			剝片	黒曜石	0.63
4B-02	35			砕片	黒曜石	0.10
4B-02	40			砕片	黒曜石	0.24
4B-02	41	40		剝片	安山岩	46.00
4B-02	42			砕片	黒曜石	0.16
4B-02	42			剝片	黒曜石	2.29
4B-02	44			剝片	黒曜石	0.41
4B-02	44	8		ナイフ	黒曜石	0.35
4B-02	48	7		ナイフ	黒曜石	1.45
4B-02	51			砕片	黒曜石	0.14
4B-02	55			剝片	黒曜石	1.25
4B-02	56			砕片	黒曜石	0.14
4B-02	58	44		剝片	頁岩	15.89
4B-02	60	13		削器	安山岩	40.23
4B-02	61			剝片	黒曜石	1.17
4B-02	61			剝片	黒曜石	0.86
4B-02	63			剝片	黒曜石	0.51
4B-02	64	20		R F	凝灰岩	26.35
4B-02	65			砕片	黒曜石	0.10
4B-02	66			砕片	黒曜石	0.12
4B-02	67			砕片	黒曜石	0.05
4B-02	68			砕片	黒曜石	0.11
4B-02	69	29		R F	黒曜石	1.15
4B-02	71			砕片	黒曜石	0.58
4B-02	73			剝片	黒曜石	0.71
4B-02	74	41		剝片	安山岩	7.33
4B-02	76			砕片	黒曜石	0.05
4B-02	77			砕片	黒曜石	0.10
4B-02	78			砕片	黒曜石	0.30
4B-02	80			砕片	黒曜石	0.42
4B-02	81			砕片	黒曜石	0.16
4B-02	82			剝片	黒曜石	0.71
4B-02	87			剝片	黒曜石	0.52
4B-02	88			砕片	黒曜石	0.02
4B-02	89			剝片	黒曜石	1.83
4B-02	89			砕片	黒曜石	0.29
4B-02	90			剝片	黒曜石	1.64
4B-11	4	38		剝片	安山岩	9.72
4B-11	5	42		剝片	凝灰岩	12.19
4B-11	5	21		R F	安山岩	29.16
4B-11	6	18		石核	安山岩	30.33
4B-11	8			剝片	安山岩	2.09
4B-11	9			砕片	黒曜石	0.10
4B-11	10			剝片	黒曜石	3.91
4B-11	11			剝片	頁岩	1.46
4B-11	12	34		剝片	頁岩	20.79
4B-11	13	14		削器	黒曜石	8.07
4B-11	14			剝片	黒曜石	1.58
4B-11	17	4		ナイフ	黒曜石	6.07
4B-11	18	17		U F	黒曜石	2.48
4B-12	13			剝片	黒曜石	9.98
4B-12	14	23		R F	黒曜石	8.59
4B-12	16			剝片	黒曜石	0.88
4B-12	26			剝片	砂岩	225.03
4B-12	31			砕片	黒曜石	0.12
4B-12	31			剝片	黒曜石	0.28
4B-12	33			剝片	黒曜石	1.85
4B-12	34	28		R F	黒曜石	0.67
4B-12	35			剝片	黒曜石	0.18
4B-12	36			砕片	黒曜石	0.10
4B-12	41			砕片	黒曜石	0.18
4B-12	49	43	接2	剝片	安山岩	6.23
4B-12	55			剝片	黒曜石	0.75
4B-12	57			剝片	黒曜石	0.37
4B-12	68			剝片	黒曜石	1.00
4B-12	71	32		剝片	黒曜石	0.55
4B-12	72			剝片	黒曜石	0.38
4B-12	72			砕片	黒曜石	0.10
4B-12	74			剝片	黒曜石	0.61
4B-12	77			砕片	黒曜石	0.06
4B-12	78			剝片	黒曜石	0.38
4B-12	81			砕片	黒曜石	0.03
4B-12	83			砕片	黒曜石	0.06
4B-12	89			砕片	黒曜石	0.17
4B-12	90			砕片	黒曜石	0.19
4B-12	91			砕片	黒曜石	0.01
4B-12	94			剝片	黒曜石	0.37
4B-12	95			砕片	黒曜石	0.05
4B-12	97			砕片	黒曜石	0.16
4B-12	98			剝片	黒曜石	0.78
4B-12	116			剝片	黒曜石	14.22
4B-12	124			砕片	黒曜石	0.10
4B-12	134			砕片	黒曜石	0.07
4B-12	135			剝片	黒曜石	0.62
4B-12	136			砕片	黒曜石	0.16
4B-12	137			砕片	黒曜石	0.12
4B-12	140			砕片	黒曜石	0.08
4B-12	141			砕片	黒曜石	0.12
4B-12	142	11		ナイフ	黒曜石	0.36
4B-12	144			剝片	黒曜石	0.84
4B-12	148			砕片	黒曜石	0.26
4B-12	154			砕片	黒曜石	0.25
4B-12	158			砕片	黒曜石	0.36
4B-12	163			剝片	黒曜石	1.18
4B-12	166			砕片	黒曜石	0.24
4B-12	167			砕片	黒曜石	0.15
4B-12	174			砕片	黒曜石	0.14
4B-12	186			砕片	黒曜石	0.14
4B-12	188			砕片	黒曜石	0.05
4B-12	189			剝片	黒曜石	0.26
4B-12	190			剝片	黒曜石	0.56
4B-12	191			砕片	黒曜石	0.12
4B-12	196			砕片	黒曜石	0.28
4B-12	199	12		ナイフ	黒曜石	0.16
4B-12	202			砕片	黒曜石	0.19
4B-12	202			砕片	黒曜石	0.14
4B-12	203			砕片	黒曜石	0.11
4B-12	205			砕片	黒曜石	0.12
4B-12	209			剝片	黒曜石	0.53
4B-12	212			剝片	黒曜石	0.78
4B-12	213			砕片	黒曜石	0.21
4B-12	217			剝片	黒曜石	0.60
4B-12	218			砕片	黒曜石	0.09
4B-12	218			砕片	黒曜石	0.29
4B-12	220			剝片	安山岩	3.95
4B-12	224			剝片	黒曜石	0.75
4B-12	225			砕片	黒曜石	0.63
4B-12	226			砕片	黒曜石	0.02
4B-12	227			砕片	黒曜石	0.15
4B-12	230			剝片	黒曜石	0.82
4B-12	231			砕片	黒曜石	0.25
4B-12	233			砕片	黒曜石	0.21
4B-12	234			砕片	黒曜石	0.41
4B-12	234			剝片	黒曜石	0.93
4B-12	234			剝片	黒曜石	4.67
4B-12	237	5		ナイフ	黒曜石	1.58
4B-12	244			砕片	黒曜石	0.32
4B-12	246			剝片	黒曜石	0.50
4B-12	248			砕片	黒曜石	0.11

グリッド	No	図No	接合	器種	石材	質量(g)
4B-12	249			剝片	黒曜石	0.65
4B-12	251			剝片	黒曜石	1.27
4B-12	251			砕片	黒曜石	0.34
4B-12	253			剝片	頁岩	5.25
4B-12	258			剝片	黒曜石	0.55
4B-12	263			砕片	黒曜石	0.02
4B-12	264	46	接7	剝片	頁岩	3.41
4B-12	267			砕片	黒曜石	0.23
4B-12	269			砕片	黒曜石	0.17
4B-12	270			剝片	黒曜石	8.26
4B-12	272			砕片	黒曜石	0.49
4B-12	273			砕片	黒曜石	0.06
4B-12	275			砕片	黒曜石	0.04
4B-12	277			剝片	黒曜石	0.82
4B-12	278			砕片	黒曜石	0.24
4B-12	278			砕片	黒曜石	0.41
4B-12	279			剝片	黒曜石	3.61
4B-12	280			剝片	黒曜石	12.45
4B-12	301	30b		剝片	黒曜石	9.08
4B-12	304	2		ナイフ	黒曜石	2.16
4B-12	315			剝片	黒曜石	1.17
4B-12	316			剝片	黒曜石	1.27
4B-12	321			剝片	黒曜石	0.88
4B-12	323			剝片	安山岩	2.30
4B-12	325			剝片	黒曜石	1.20
4B-12	326			剝片	黒曜石	0.63
4B-12	330			剝片	黒曜石	0.69
4B-12	330			剝片	黒曜石	10.35
4B-12	333	6		ナイフ	黒曜石	2.24
4B-12	334			砕片	黒曜石	0.37
4B-12	340			剝片	安山岩	2.81
4B-12	341	37		剝片	頁岩	8.55
4B-12	343			剝片	黒曜石	0.43
4B-12	344			剝片	黒曜石	1.14
4B-12	345	25		R F	黒曜石	5.43
4B-12	347			剝片	黒曜石	0.57
4B-12	354			剝片	黒曜石	1.68
4B-12	355			砕片	黒曜石	0.23
4B-12	358			剝片	黒曜石	4.46
4B-12	359	22		R F	黒曜石	23.60
4B-12	359			剝片	黒曜石	2.64
4B-12	361			剝片	黒曜石	3.57
4B-12	363			剝片	頁岩	0.95
4B-12	364	26		R F	黒曜石	2.67
4B-12	366			剝片	黒曜石	1.28
4B-12	367			剝片	黒曜石	2.70
4B-12	368			剝片	黒曜石	2.44
4B-12	370			砕片	黒曜石	0.48
4B-12	372			剝片	黒曜石	5.83
4B-12	375	27		R F	黒曜石	1.43
4B-12	376	30a		剝片	黒曜石	15.83
4B-12	378	33		剝片	頁岩	6.15
4B-12	381			剝片	黒曜石	2.73
4B-12	382			砕片	黒曜石	0.32
4B-12	384	39		剝片	安山岩	21.50
4B-12	386	9		ナイフ	黒曜石	4.85
4B-12	387			剝片	黒曜石	0.39
4B-12	387			剝片	黒曜石	0.83
4B-12	388			剝片	黒曜石	1.24
4B-12	389	31		R F	黒曜石	0.33
4B-12	391			剝片	黒曜石	2.41
4B-12	392	1		ナイフ	黒曜石	4.27
4B-12	393			剝片	黒曜石	0.32
4B-12	394			剝片	黒曜石	0.64
4B-12	396			剝片	黒曜石	0.83
4B-12	399			剝片	黒曜石	0.26
4B-12	402			剝片	黒曜石	1.04

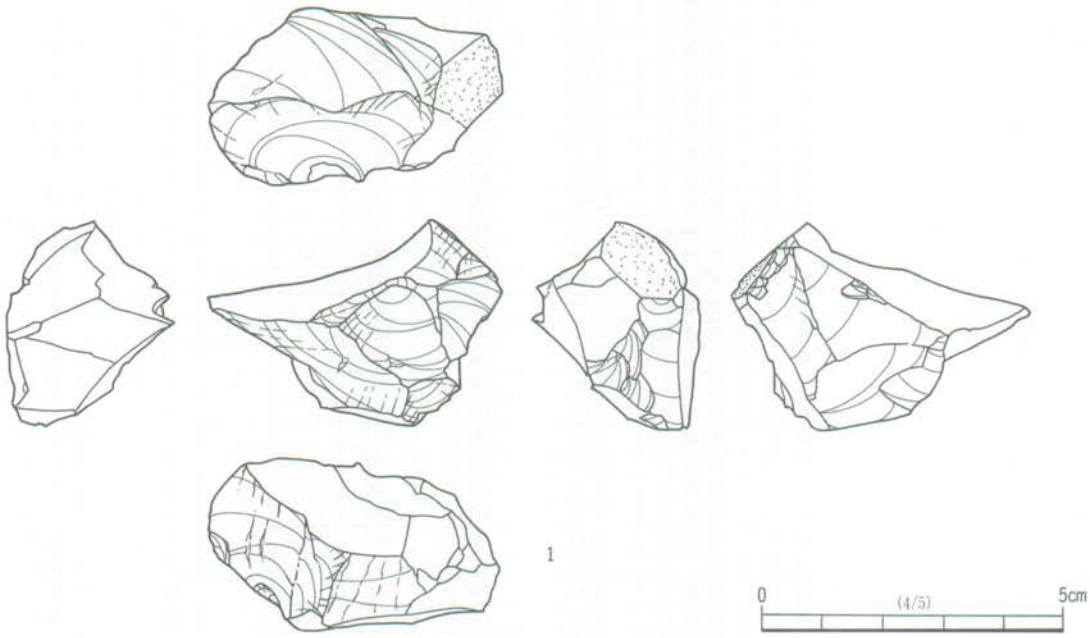
グリッド	No	図No	接合	器種	石材	質量(g)
4B-12	403	36		剝片	頁岩	5.97
4B-12	404	45	接7	剝片	頁岩	9.92
4B-12	408			剝片	黒曜石	0.67
4B-12	412			剝片	安山岩	3.84
4B-12	413			剝片	黒曜石	1.48
4B-12	418			剝片	黒曜石	0.34
4B-12	423			剝片	チャート	4.84
4B-12	426	35		剝片	チャート	11.36
4B-12	431			砕片	黒曜石	0.21
4B-12	438			砕片	黒曜石	0.33
4B-12	447			砕片	黒曜石	0.21
4B-12	453			剝片	黒曜石	0.55
4B-12	460			剝片	黒曜石	1.48
4B-12	468	19	接7	石核	頁岩	21.57
4B-12	469			剝片	黒曜石	0.92
4B-12	473			剝片	黒曜石	1.45
4B-12	478			砕片	チャート	0.04
4B-12	479			剝片	黒曜石	0.42
4B-12	480			砕片	黒曜石	0.05
4B-12	483	10		ナイフ	黒曜石	0.48
4B-12	484			剝片	黒曜石	1.16
4B-12	484			剝片	黒曜石	0.77
4B-12	487			剝片	チャート	1.31
4B-12	493			剝片	黒曜石	1.20
4B-12	495			砕片	黒曜石	0.03
4B-12	496			砕片	黒曜石	0.02
4B-12	501			砕片	黒曜石	0.42
4B-12	502			砕片	黒曜石	0.12
4B-12	506			砕片	黒曜石	0.01
4B-12	507			砕片	黒曜石	0.36
4B-12	510			砕片	黒曜石	0.08
4B-12	514			剝片	黒曜石	0.69
4B-12	515			砕片	黒曜石	0.08
4B-12	523			砕片	黒曜石	0.01
4B-12	526			砕片	黒曜石	0.11
4B-12	527			砕片	黒曜石	0.25
4B-12	532			砕片	黒曜石	0.02
4B-12	536			砕片	黒曜石	0.02
4B-12	537			砕片	黒曜石	0.46
4B-12	539			砕片	黒曜石	0.01
4B-12	541			砕片	黒曜石	0.16
4B-12	542			剝片	黒曜石	2.50
4B-12	554			剝片	黒曜石	1.26
4B-12	561			砕片	黒曜石	0.05
4B-12	565			砕片	黒曜石	0.46
4B-12	569			砕片	黒曜石	0.32
4B-12	570			剝片	頁岩	1.90
4B-12	572			砕片	黒曜石	0.32
4B-12	577	16		U F	黒曜石	6.28
4B-12	580			剝片	黒曜石	0.71
4B-12	582			剝片	黒曜石	1.58
4B-12	584	15		U F	黒曜石	6.73
4B-12	585			剝片	安山岩	3.74
4B-12	587			剝片	頁岩	10.99
4B-12	588			砕片	黒曜石	0.04
4B-12	589			砕片	黒曜石	0.28
4B-12	592			砕片	黒曜石	0.23
4B-12	596	3		ナイフ	黒曜石	1.98
4B-12	603			剝片	黒曜石	2.06
4B-12	613			砕片	黒曜石	0.05
4B-12	614			剝片	黒曜石	1.64
4B-13	1			砕片	黒曜石	0.25
4B-13	8			剝片	黒曜石	5.93
4B-13	11			剝片	黒曜石	1.15
4B-22	42			剝片	黒曜石	0.91
4B-22	77			剝片	黒曜石	2.47

（3）4B-22ブロック（第23・24図）

本ブロックは，4B-22・4B-32～33グリッドに位置し，南北4m，東西3mの範囲に，石核1点，剥片・砕片3点が散在している。垂直分布は，66.486m～66.606mの約0.1m，Ⅲ～Ⅴ層の間に分布する。

石材は，頁岩1点，凝灰岩1点，黒曜石1点，安山岩1点である。

出土石器（第23図）　1は，石核である。



第23図　4B-22ブロック出土石器

第3表　4B-22ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4B-22	72	1		石核	頁岩	29.10
4B-32	4			剥片	凝灰岩	8.85

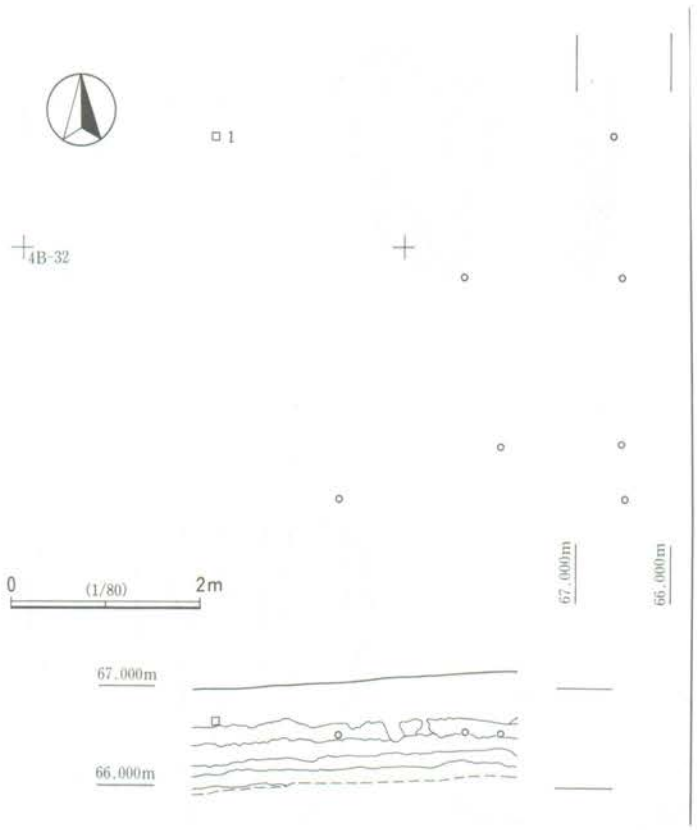
グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4B-33	1			砕片	黒曜石	0.21
4B-33	2			剥片	安山岩	2.70

（4）4B-34ブロック（第24～26図）

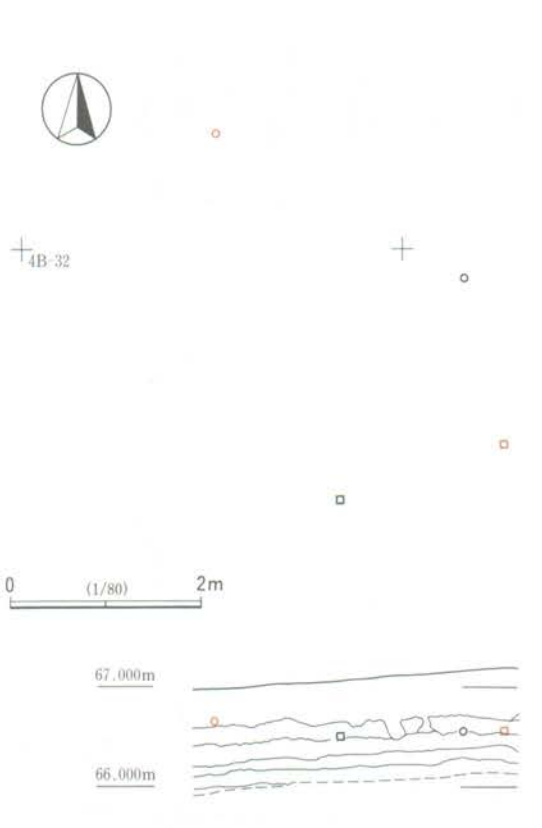
本ブロックは，4B-24～4C-20・4B-34～4C-30グリッドに位置し，南北3m，東西5mの範囲に，ナイフ形石器2点，石核1点，剥片・砕片19点が散在している。垂直分布は，標高66.313m～66.750mの約0.4m，Ⅳ～Ⅴ層の間に分布する。

石材は，頁岩9点，安山岩7点，黒曜石3点，チャート2点，メノウ1点であり，頁岩・安山岩が大半を占めている。

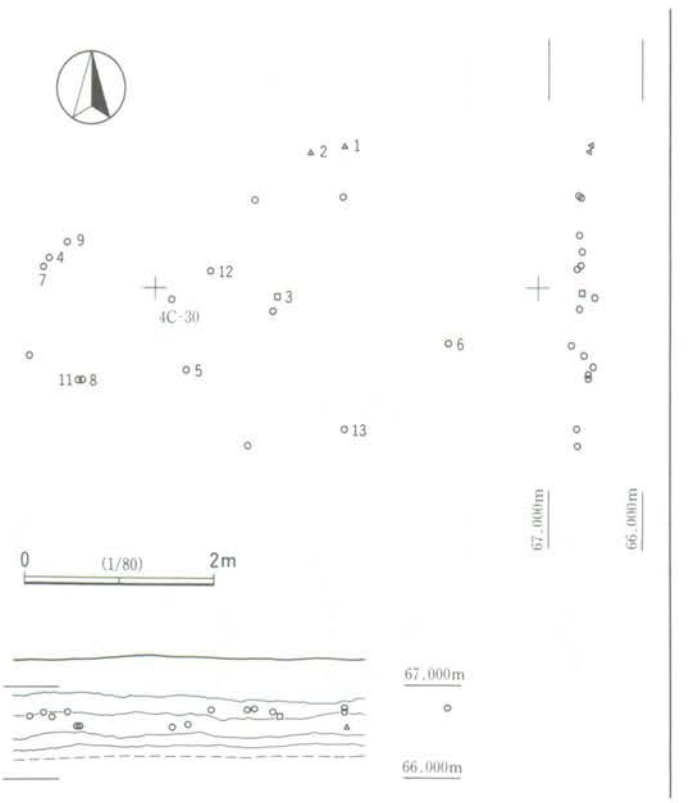
出土石器（第25・26図）　1～2は，ナイフ形石器である。1は横長剥片を素材として，打面部と先端部にブランティングが施された，二側縁加工のものである。2は，ぶ厚い剥片の側縁にブランティングが施されている。未成品の可能性もある。3は石核である。節理に沿って輪切り状に剥離した素材から，横長剥片を剥離している。4～13は，剥片である。



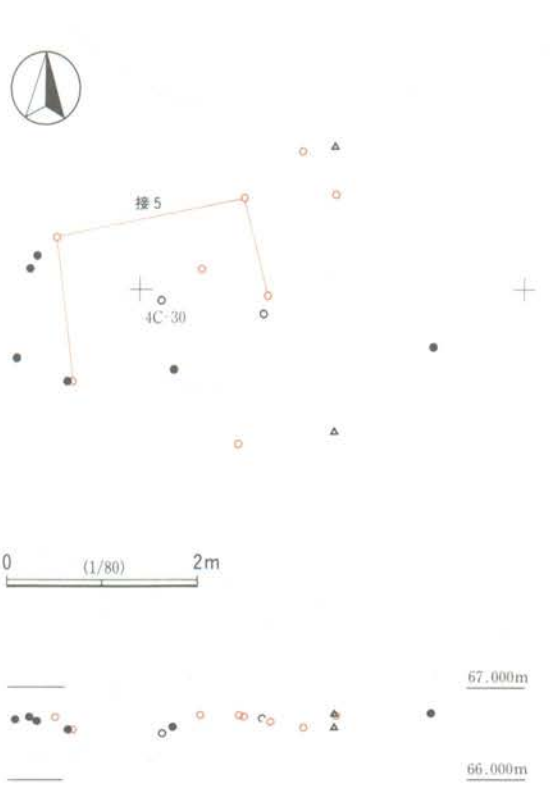
《4B-22ブロック器種別》



《4B-22ブロック石材別》

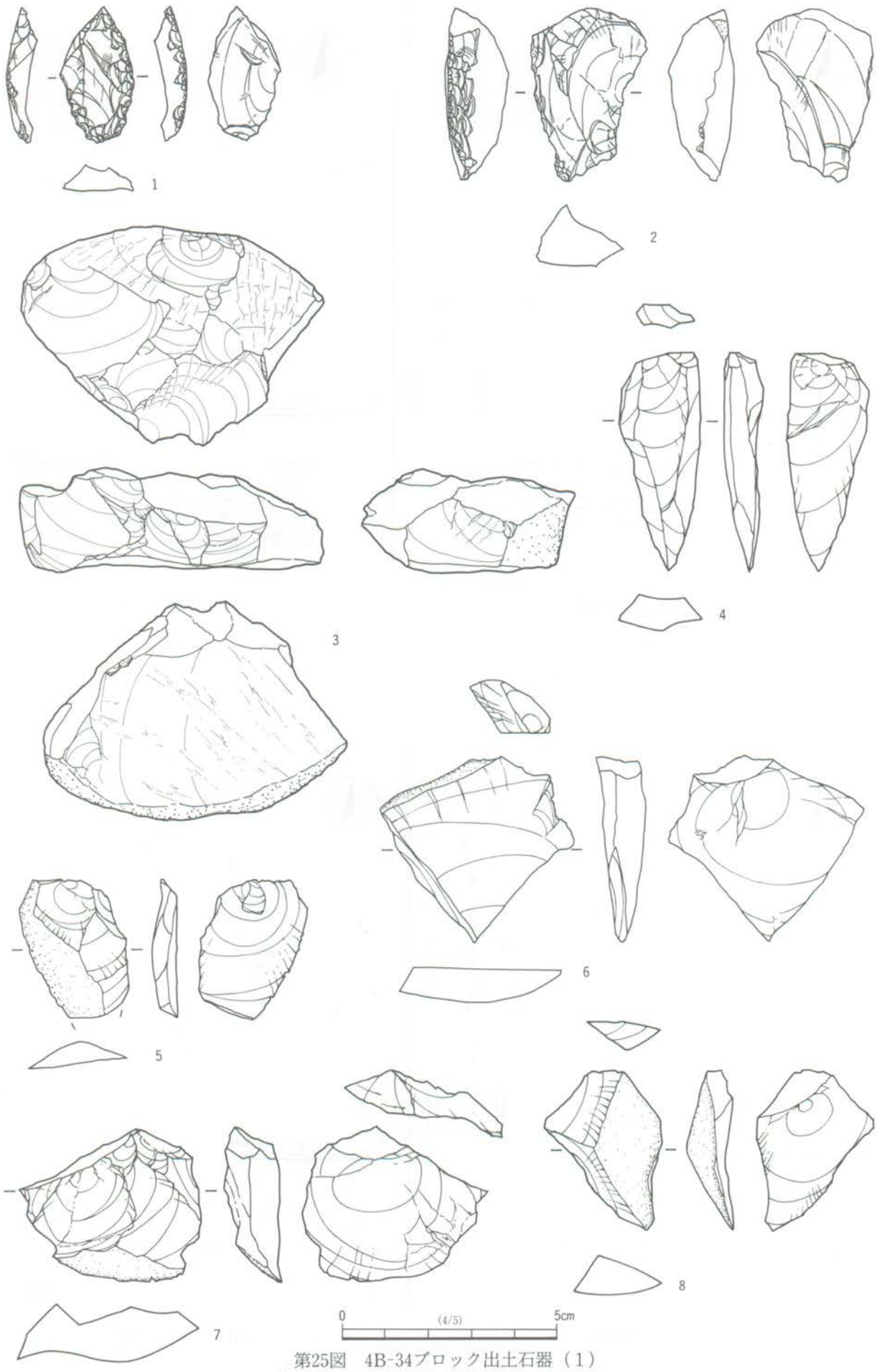


《4B-34ブロック器種別》

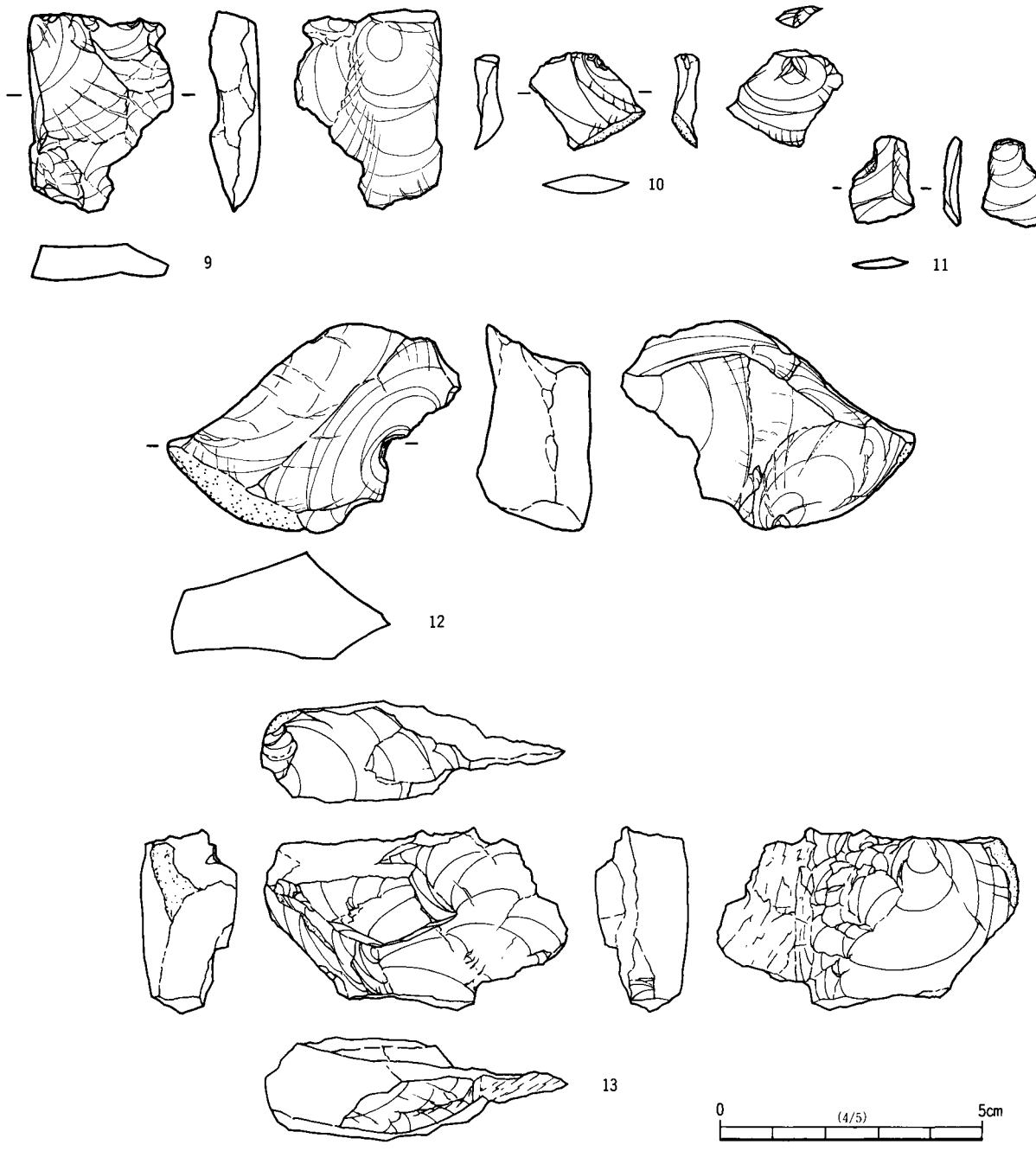


《4B-34ブロック石材別》

第24図　4B-22・4B-34ブロック石器分布



第25図　4B-34ブロック出土石器（1）



第26図　4B-34ブロック出土石器（2）

第4表　4B-34ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4B-24	1	7		剝片	安山岩	15.38
4B-24	2	9	接5	剝片	頁岩	9.50
4B-24	3	4		剝片	安山岩	7.32
4B-24	4			剝片	安山岩	17.81
4B-34	2			剝片	頁岩	214.99
4B-34	3			剝片	安山岩	9.80
4B-34	4	11	接5	剝片	頁岩	0.47
4B-34	4	8		剝片	安山岩	6.02
4C-20	1	12	接5	剝片	頁岩	33.53
4C-20	3			剝片	頁岩	3.14
4C-20	4	2		ナイフ	頁岩	11.99
4C-20	5			剝片	頁岩	4.07
4C-20	7	1		ナイフ	チャート	2.71
4C-20	8			砕片	黒曜石	0.37
4C-20	10	10		剝片	メノウ	1.02
4C-20	17			砕片	黒曜石	0.36
4C-30	1			剝片	黒曜石	1.27
4C-30	2	3	接5	石核	頁岩	82.16
4C-30	10	6		剝片	安山岩	15.23
4C-30	16	5		剝片	安山岩	3.98
4C-30	17			剝片	頁岩	4.54
4C-30	24	13	接8	剝片	チャート	27.99

（5）4C-12ブロック（第27～29図）

本ブロックは，4C-12～13，4C-21～23グリッドに位置し，南北4m，東西8mの範囲に，ナイフ形石器3点，削器1点，礫器1点，加工痕を有する剥片1点，剥片・砕片34点が，中心に集中して分布する。垂直分布は，標高66.324m～67.356mの約1m，Ⅲ～Ⅴ層の間，特にⅤ層上面に濃く分布する。

石材は，黒曜石15点，頁岩15点,，安山岩7点，砂岩2点，凝灰岩1点で，黒曜石・頁岩・安山岩で大半を占める。

出土石器（第28・29図）　1～3は，ナイフ形石器である。1は，縦長剥片を素材として，側縁の一部にブランティングを施している。2は，横長剥片を素材として，打面部側と先端部側にブランティングを施している。3は，素材の背面から調整を施し，2側縁加工状を呈している。4は，削器である。縦長剥片の打面部側から側縁にかけて刀状の刃部を作り出している。5は，礫器である。扁平礫を素材として，長軸の一端に刃部を作り出し反対側の端部には敲打痕を有している。7～13は，剥片である。

（6）4C-22ブロック（第33図）

本ブロックは，4C-22グリッドに位置し，南北1m，東西2mの範囲に，剥片・砕片12点が分布する。垂直分布は，標高66.588m～66.961mの約0.4m，Ⅲ～Ⅴ層の間に分布する。

石材は，黒曜石11点，安山岩1点で，ほぼ全体を黒曜石が占めている。

第5表　4C-22ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4C-22	31			剥片	黒曜石	2.51
4C-22	32			剥片	黒曜石	0.98
4C-22	33			剥片	黒曜石	6.42
4C-22	34			剥片	黒曜石	0.64
4C-22	35			剥片	安山岩	4.97
4C-22	36			剥片	黒曜石	0.60
4C-22	37			砕片	黒曜石	0.17
4C-22	38			剥片	黒曜石	0.34
4C-22	39			剥片	黒曜石	1.13
4C-22	40			剥片	黒曜石	0.95
4C-22	42			砕片	黒曜石	0.38
4C-22	62			砕片	黒曜石	0.17

（7）4C-30ブロック（第30～32図）

本ブロックは，4C-21・4C-30～31・4C-40～41グリッドに位置し，南北6m，東西5mの範囲に，加工痕を有する剥片3点，剥片・砕片52点が散在する。垂直分布は，標高66.546m～66.952mの約0.4m，Ⅲ～Ⅴ層の間に分布する。

石材は，黒曜石52点，頁岩3点で，ほぼ全体を黒曜石が占めている。

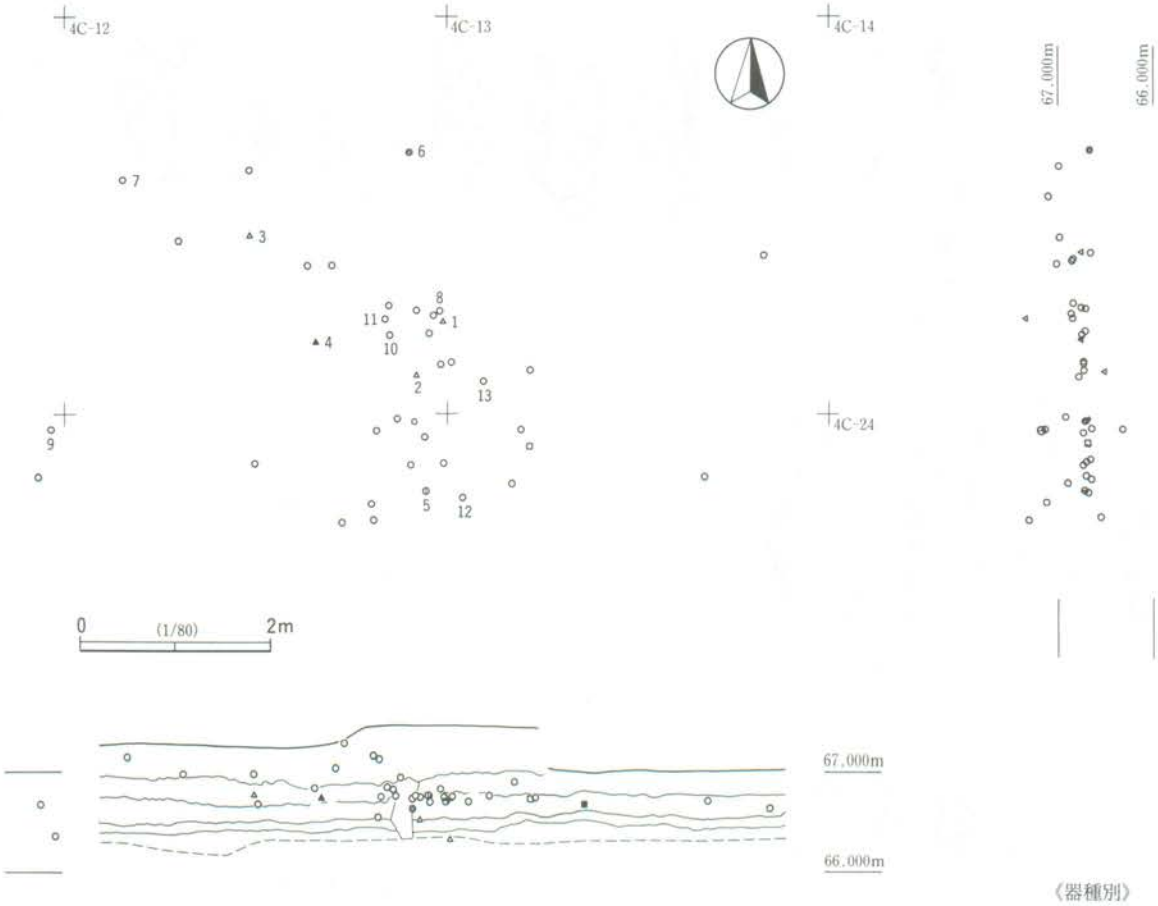
出土石器（第32図）　1～3は，加工痕を有する剥片である。縦長剥片の側縁に調整を施している。3は，石核の可能性がある。

（8）4C-32ブロック（第33～34図）

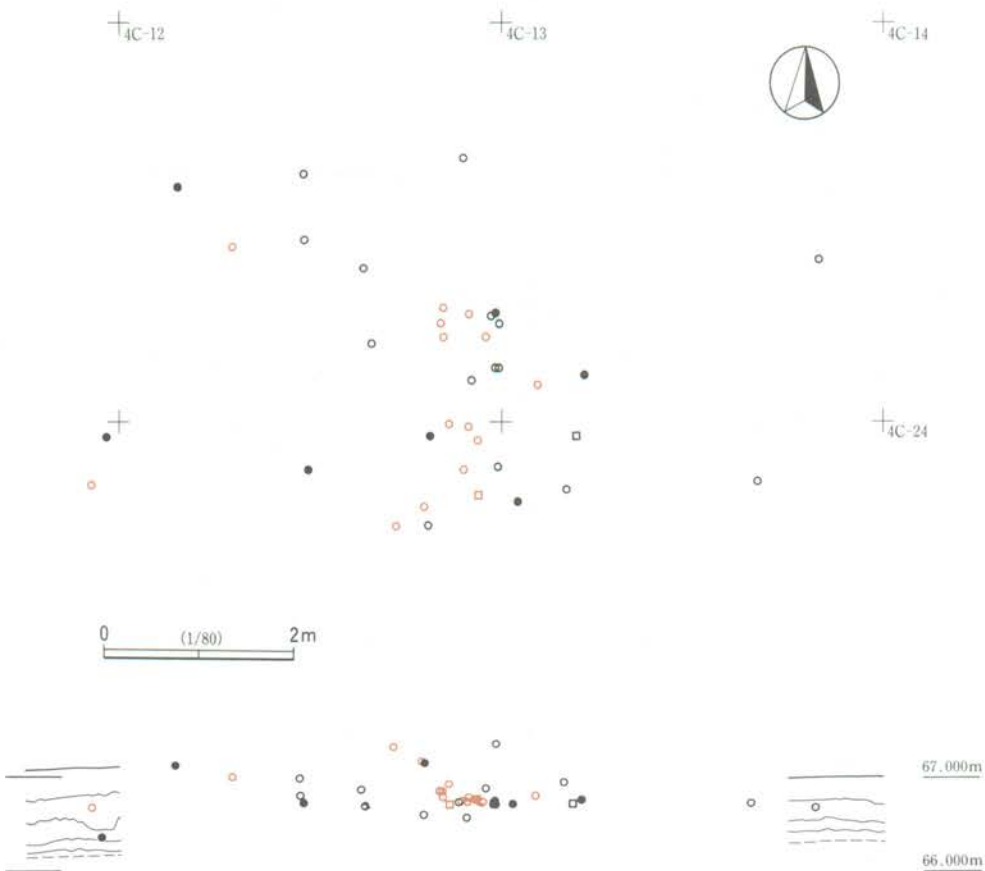
本ブロックは，4C-32～33グリッドに位置し，南北2m，東西3mの範囲に，ナイフ形石器1点，加工痕を有する剥片1点，剥片2点が散在する。垂直分布は，標高66.450m～66.670mの約0.2m，Ⅳ～Ⅴ層の間に分布する。

石材は，チャート2点，黒曜石1点，頁岩1点である。

出土石器（第34図）　1は，ナイフ形石器である。横長剥片を素材にして，打面を取り除く様にブランティングを施している。2は，加工痕を有する剥片である。背面を自然面に覆われた横長剥片の打面部側に調整を施している。

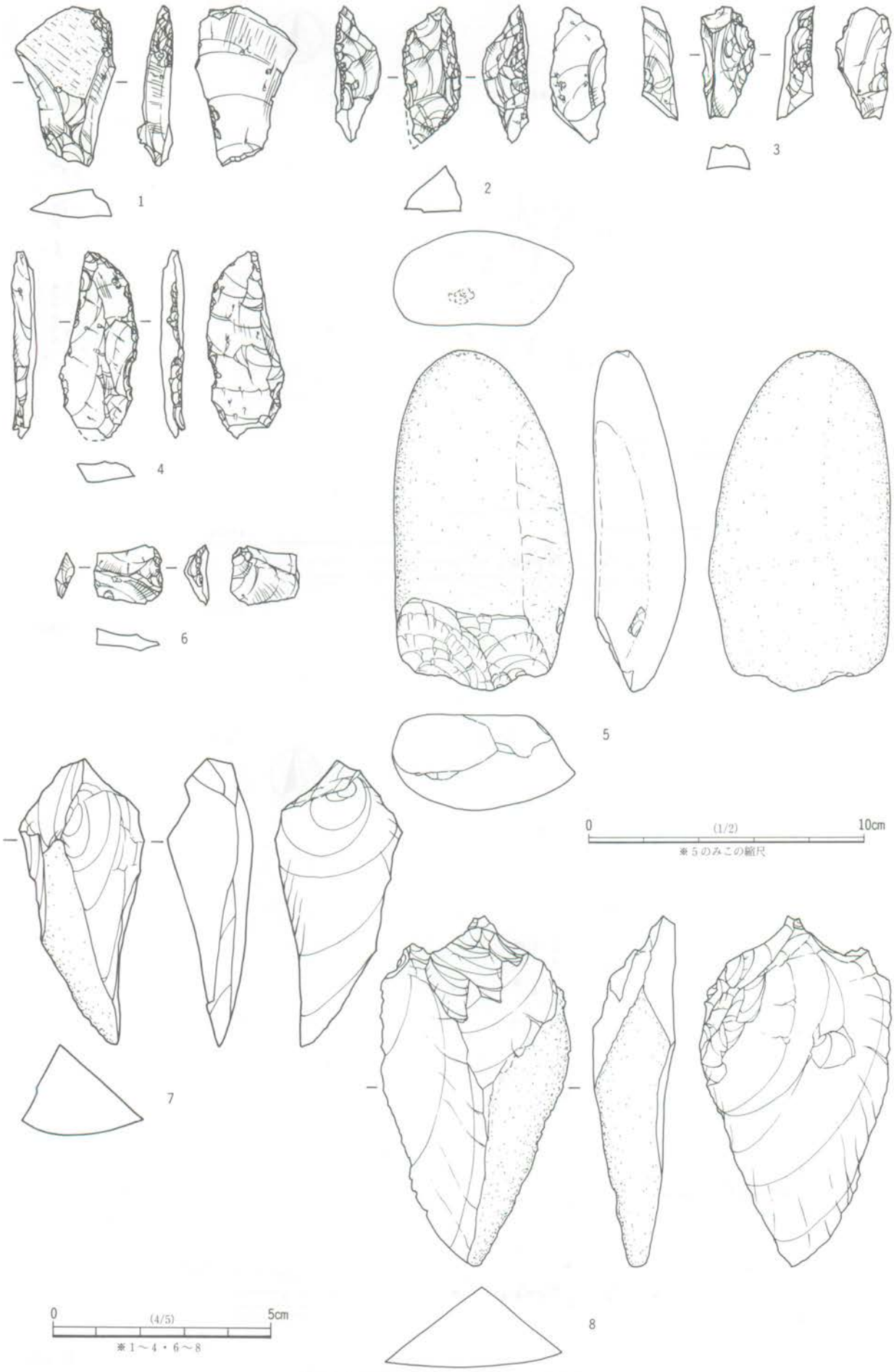


《器種別》

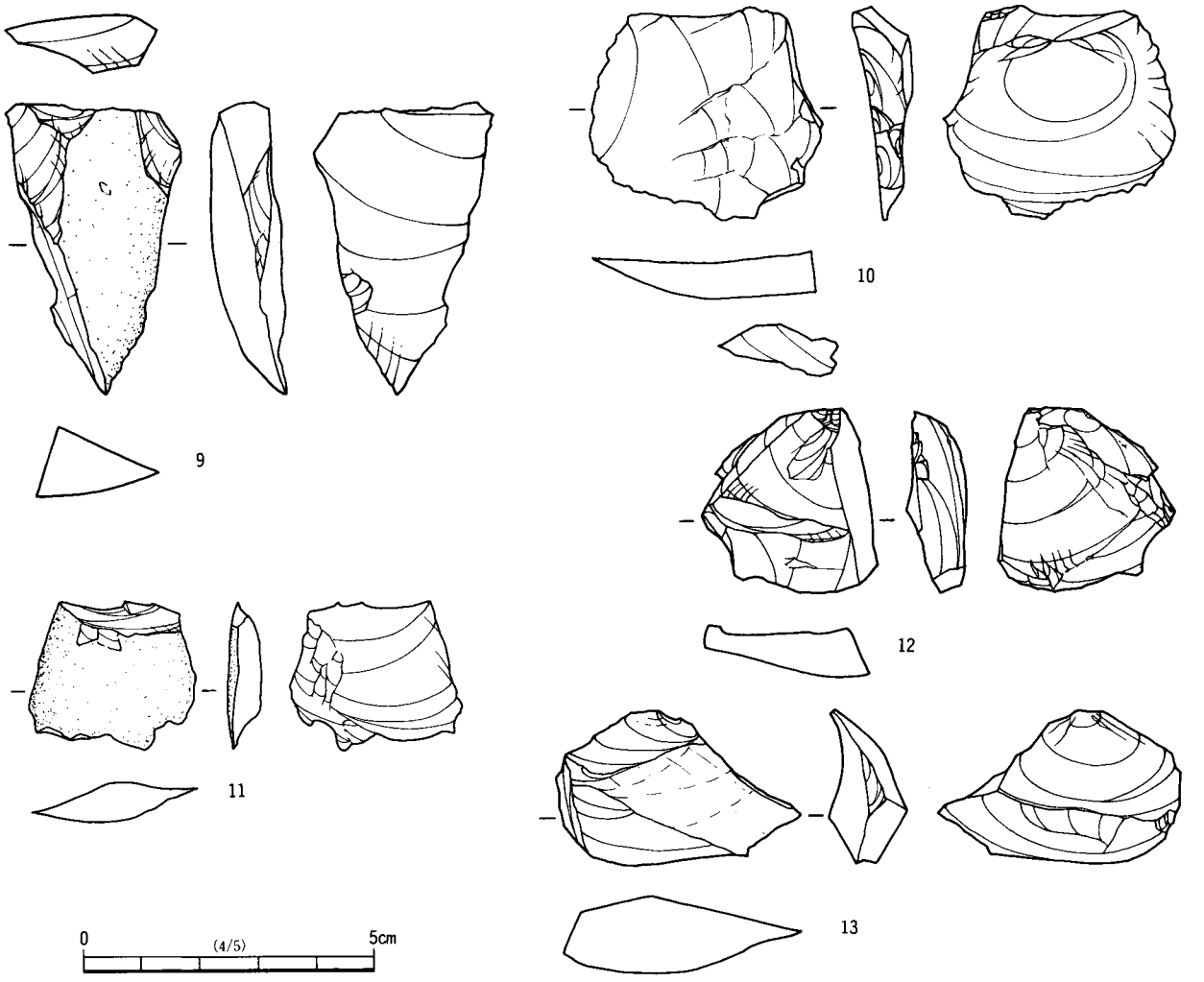


《石材別》

第27図　4C-12ブロック石器分布



第28図　4C-12ブロック出土石器（1）

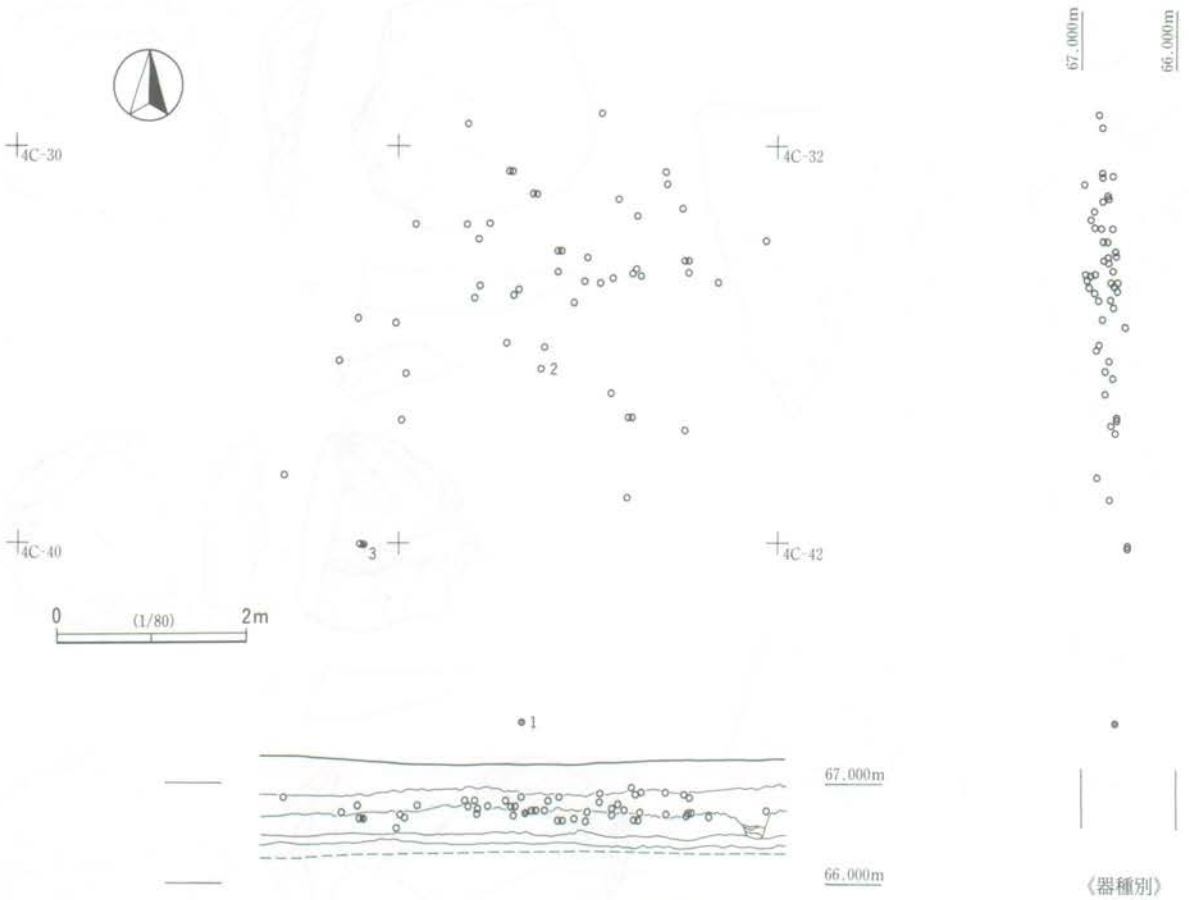


第29図　4C-12ブロック出土石器（2）

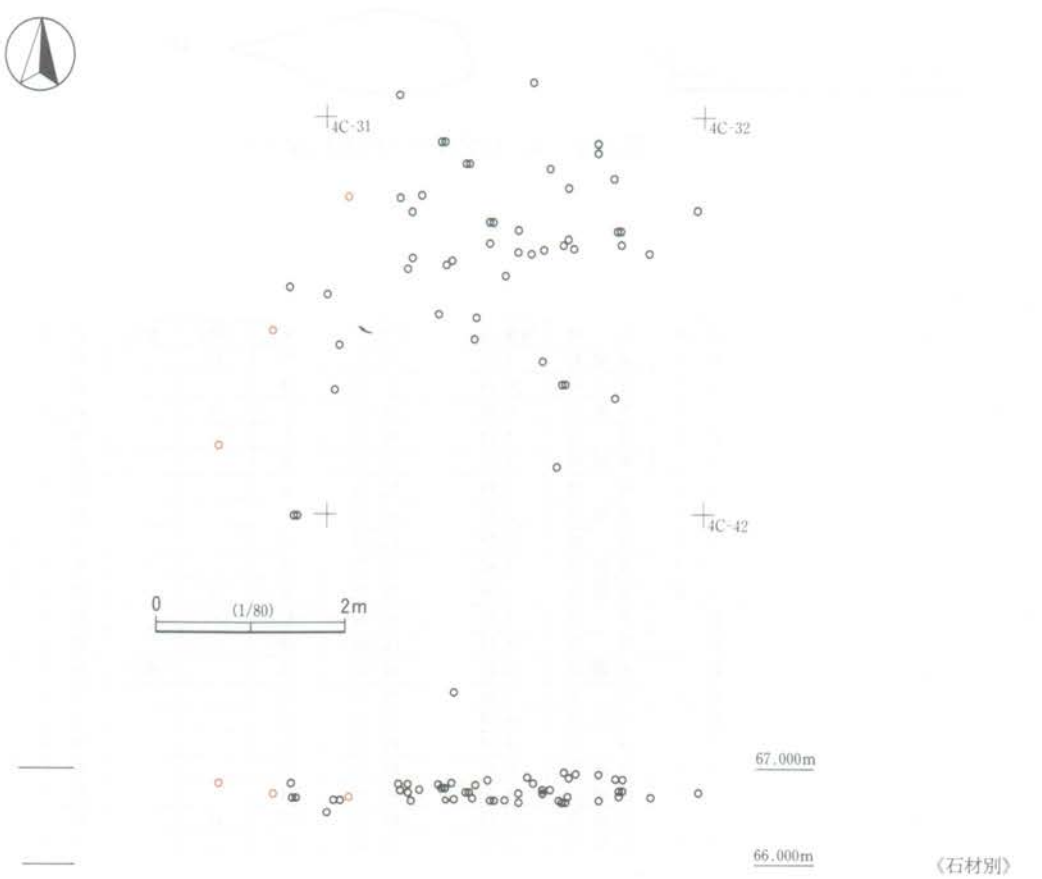
第6表　4C-12ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4C-12	5			剝片	黒曜石	1.91
4C-12	12	7		剝片	安山岩	18.15
4C-12	14	6		RF	黒曜石	0.86
4C-12	18			剝片	頁岩	4.13
4C-12	22			剝片	黒曜石	1.20
4C-12	23			剝片	砂岩	1.78
4C-12	26	1		ナイフ	黒曜石	3.85
4C-12	30	10		剝片	頁岩	10.38
4C-12	32	3		ナイフ	黒曜石	1.92
4C-12	33	4		削器	黒曜石	3.20
4C-12	40	11		剝片	頁岩	4.32
4C-12	41			剝片	頁岩	4.13
4C-12	43			剝片	黒曜石	0.46
4C-12	44			剝片	頁岩	0.46
4C-12	49	8		剝片	安山岩	48.58
4C-12	52			剝片	頁岩	4.98
4C-12	69			剝片	黒曜石	0.47
4C-12	73			剝片	黒曜石	1.73
4C-12	99	2		ナイフ	黒曜石	3.11
4C-13	17			砕片	黒曜石	0.05

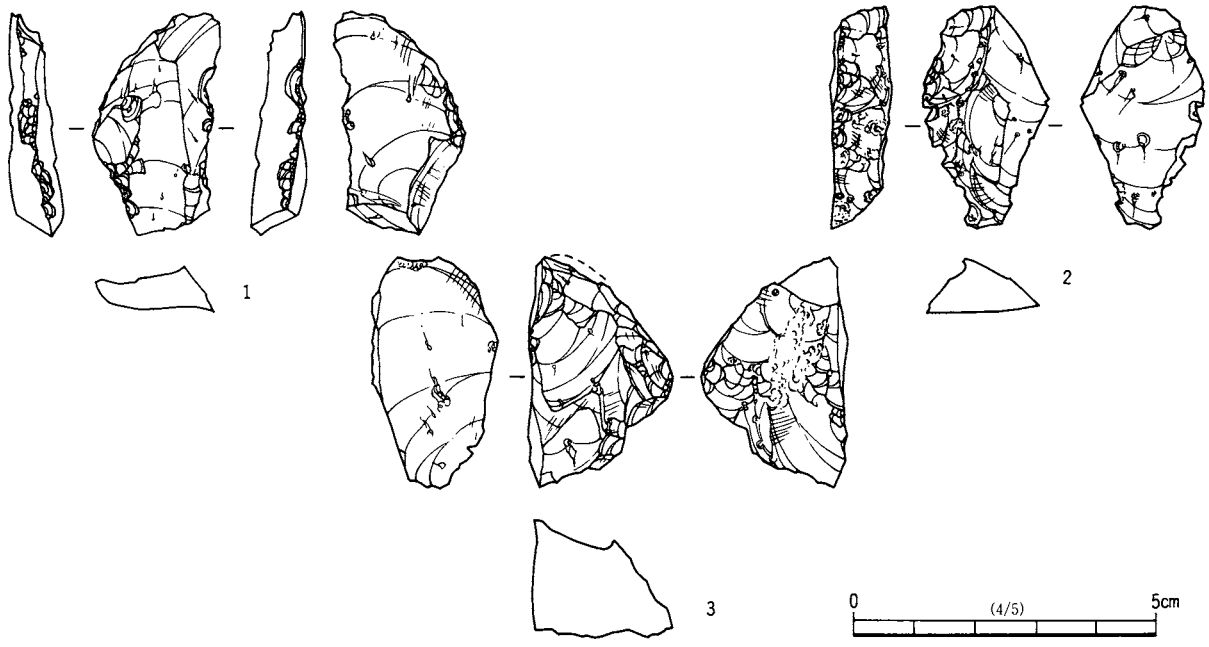
グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4C-13	22	13		剝片	頁岩	8.99
4C-13	54			剝片	安山岩	11.58
4C-21	1	9		剝片	安山岩	16.31
4C-21	2			剝片	頁岩	4.85
4C-22	3			剝片	安山岩	5.19
4C-22	6			剝片	頁岩	3.45
4C-22	7			剝片	頁岩	2.61
4C-22	25			剝片	頁岩	8.86
4C-22	27			剝片	安山岩	2.02
4C-22	46	5		礫器	砂岩	324.56
4C-22	47			剝片	頁岩	29.04
4C-22	48			剝片	黒曜石	7.20
4C-22	50		接9	剝片	頁岩	42.80
4C-22	53			剝片	頁岩	14.32
4C-22	64			砕片	黒曜石	0.33
4C-23	5			剝片	黒曜石	12.48
4C-23	23			剝片	黒曜石	9.41
4C-23	81			剝片	凝灰岩	5.41
4C-23	135	12		剝片	頁岩	8.14
4C-23	138			剝片	安山岩	41.37



第30図　4C-30ブロック石器分布（1）



第31図　4C-30ブロック石器分布（2）

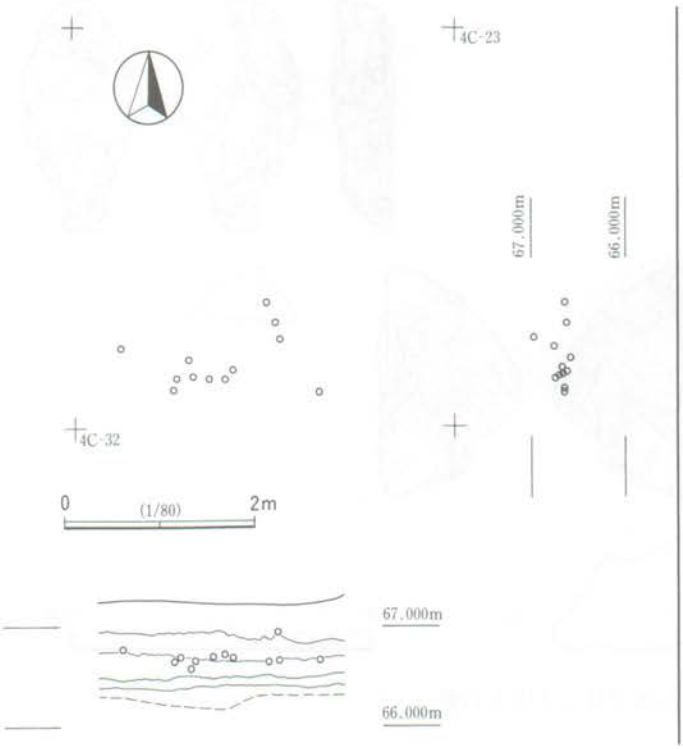


第32図　4C-30ブロック出土石器

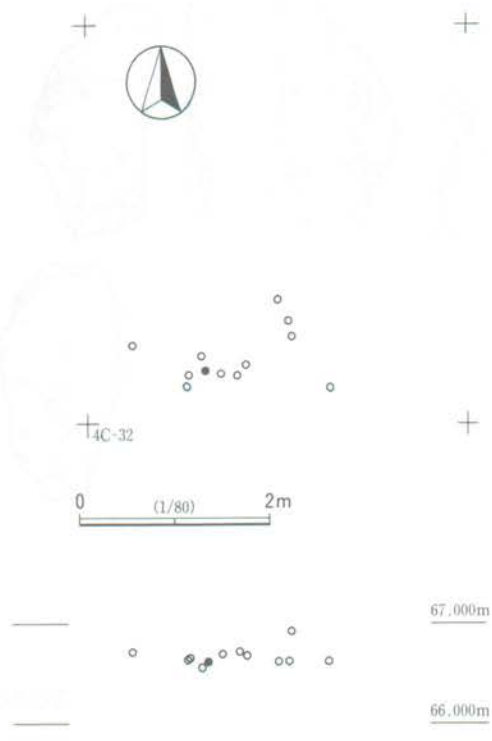
第７表　4C-30ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器　種	石　　材	質量(g)
4C-21	4			剝　片	黒 曜 石	3.58
4C-21	6			剝　片	黒 曜 石	2.10
4C-30	3			剝　片	黒 曜 石	2.35
4C-30	20			剝　片	頁　　岩	1.62
4C-30	33			剝　片	頁　　岩	0.69
4C-30	38			剝　片	黒 曜 石	0.46
4C-30	55			剝　片	黒 曜 石	1.63
4C-31	2			剝　片	黒 曜 石	0.52
4C-31	3			砕　片	黒 曜 石	0.07
4C-31	5			剝　片	黒 曜 石	1.50
4C-31	6			砕　片	黒 曜 石	0.21
4C-31	7			剝　片	黒 曜 石	1.88
4C-31	7			砕　片	黒 曜 石	0.39
4C-31	8			砕　片	黒 曜 石	0.13
4C-31	8			砕　片	黒 曜 石	0.24
4C-31	11			剝　片	頁　　岩	0.79
4C-31	14			剝　片	黒 曜 石	0.61
4C-31	22			剝　片	黒 曜 石	0.67
4C-31	24			砕　片	黒 曜 石	0.25
4C-31	26			剝　片	黒 曜 石	5.35
4C-31	27			剝　片	黒 曜 石	1.34
4C-31	28			砕　片	黒 曜 石	0.42
4C-31	29			剝　片	黒 曜 石	2.38
4C-31	31			剝　片	黒 曜 石	13.92
4C-31	32			砕　片	黒 曜 石	0.03
4C-31	33			剝　片	黒 曜 石	4.33
4C-31	34			砕　片	黒 曜 石	0.14
4C-31	35			剝　片	黒 曜 石	2.35

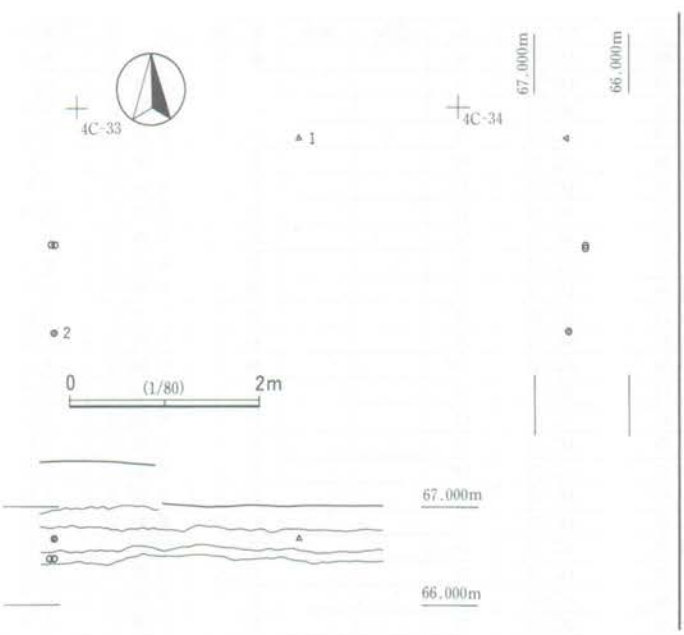
グリッド	No.	図No.	接合	器　種	石　　材	質量(g)
4C-31	36			砕　片	黒 曜 石	0.20
4C-31	37			剝　片	黒 曜 石	0.67
4C-31	38			砕　片	黒 曜 石	0.16
4C-31	39	2		R　F	黒 曜 石	5.16
4C-31	40			砕　片	黒 曜 石	0.17
4C-31	45			剝　片	黒 曜 石	0.60
4C-31	47			剝　片	黒 曜 石	14.06
4C-31	53			剝　片	黒 曜 石	0.51
4C-31	55			剝　片	黒 曜 石	6.47
4C-31	55			剝　片	黒 曜 石	0.44
4C-31	58			剝　片	黒 曜 石	0.51
4C-31	58			剝　片	黒 曜 石	1.05
4C-31	59			剝　片	黒 曜 石	0.31
4C-31	60			砕　片	黒 曜 石	0.07
4C-31	61			砕　片	黒 曜 石	0.04
4C-31	63			砕　片	黒 曜 石	0.12
4C-31	64			剝　片	黒 曜 石	1.17
4C-31	65			剝　片	黒 曜 石	1.43
4C-31	65			砕　片	黒 曜 石	1.17
4C-31	66			砕　片	黒 曜 石	0.43
4C-31	69			剝　片	黒 曜 石	16.75
4C-31	70			剝　片	黒 曜 石	0.77
4C-31	79			剝　片	黒 曜 石	0.16
4C-31	80			剝　片	黒 曜 石	0.22
4C-40	1			砕　片	黒 曜 石	0.48
4C-40	1	3		R　F	黒 曜 石	15.64
4C-41	22	1		R　F	黒 曜 石	5.20



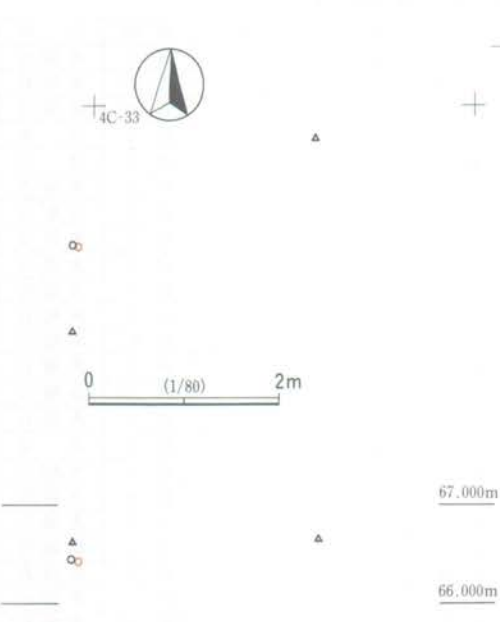
《4C-22ブロック器種別》



《4C-22ブロック石材別》



《4C-32ブロック器種別》



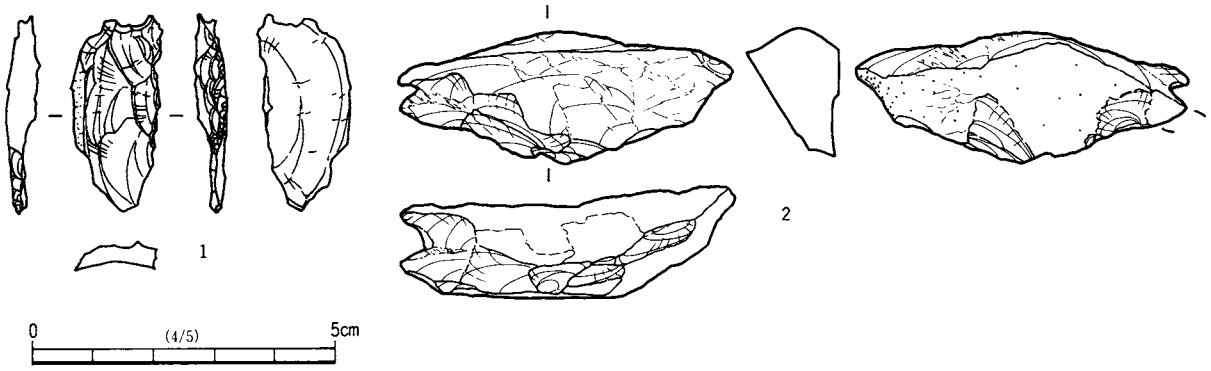
《4C-32ブロック石材別》

第33図　4C-22・4C-32ブロック石器分布

第8表　4C-32ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器　種	石　材	質量(g)
4C-32	21			剥　片	黒曜石	1.02
4C-32	21			剥　片	頁　岩	2.11

グリッド	No.	図No.	接合	器　種	石　材	質量(g)
4C-32	22	2		R　F	チャート	15.95
4C-33	1	1		ナイフ	チャート	1.70



第34図　4C-32ブロック出土石器

（9）4C-42ブロック（第35～40図）

本ブロックは，4C-32・4C-41～42グリッドに位置し，南北5m，東西4mの範囲にナイフ形石器5点，掻器1点，削器1点，礫器1点，石核4点，加工痕を有する剥片2点，使用痕を有する剥片2点，剥片・砕片77点が固まって分布している。垂直分布は，標高66.553m～66.894mの約0.3m，Ⅳ～Ⅴ層の間に分布する。

石材は，黒曜石30点，頁岩30点，安山岩13点，チャート14点，砂岩5点，凝灰岩1点であり，黒曜石・頁岩が全体の半数以上を占める。

出土石器（第36～40図）　1～5は，ナイフ形石器である。横長剥片を素材として，先端部と打面側にブランティングを施した2側縁加工のもの（1～4）と，打面側だけにブランティングを施したもの（5）が認められる。6は，掻器である。縦長剥片の先端部から側縁の一部にかけて刃部を作り出している。7は，削器である。縦長剥片の腹面側打面部よりに刃部を作り出している。8は，礫器である。扁平礫を素材として，長軸の一端に刃部を作り出している。9～12は，石核である。円礫を分割して，その分割面を打面として剥片剥離を行っている。13・14は，加工痕を有する剥片である。15・16は，使用痕を有する剥片である。17～24は，剥片である。

（10）5C-01ブロック（第41～43図）

本ブロックは，5C-02～03・5C-11～13ブロックに位置し，南北7m，東西9mの範囲に，剥片9点が散在する。垂直分布は，標高66.622m～66.793mの約0.2m，Ⅳ～Ⅴ層の間に分布する。

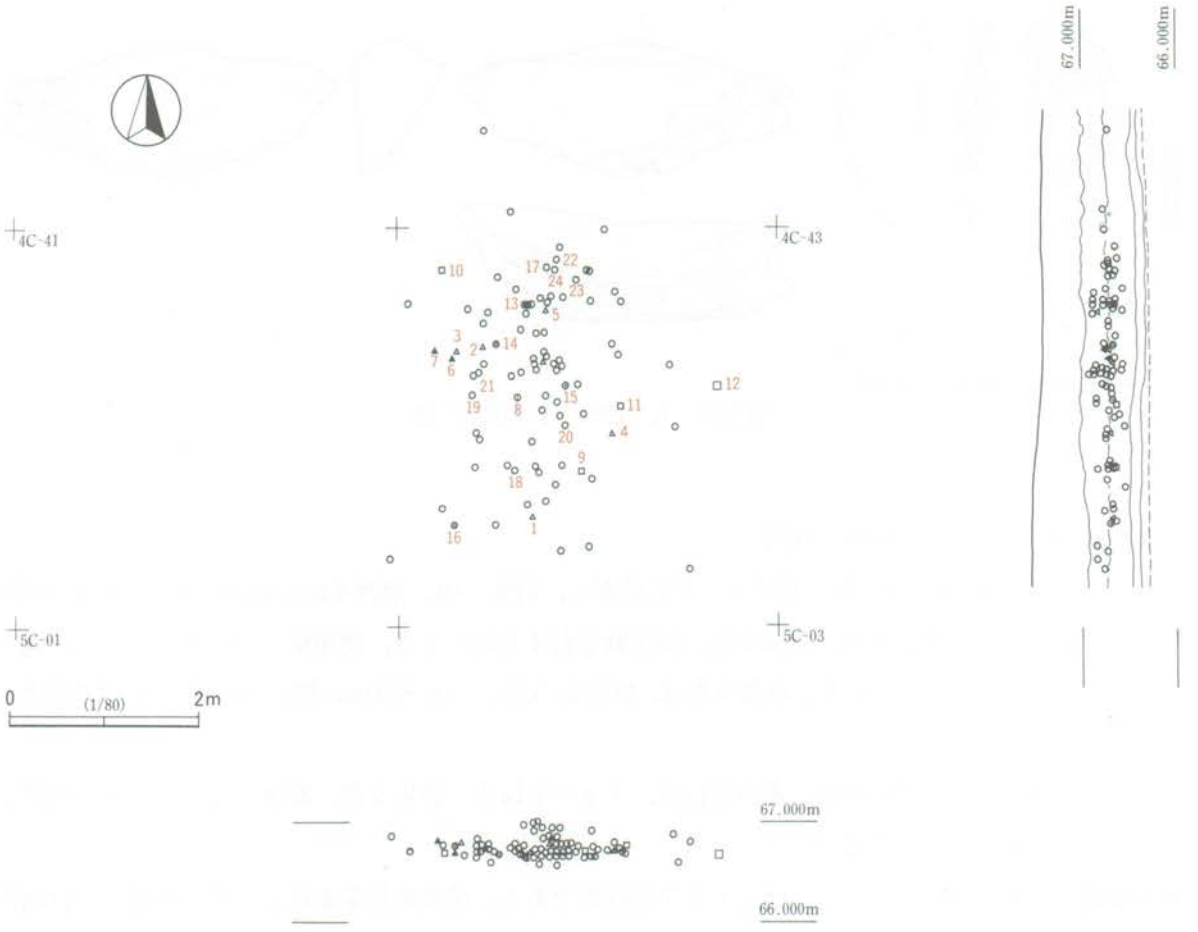
石材は，頁岩4点，安山岩2点，チャート2点，黒曜石1点である。

出土石器（第43図）　1・2は，剥片である。幅広の縦長剥片で，一部に自然面を残すもの（1）と，背面が自然面に覆われるもの（2）がある。

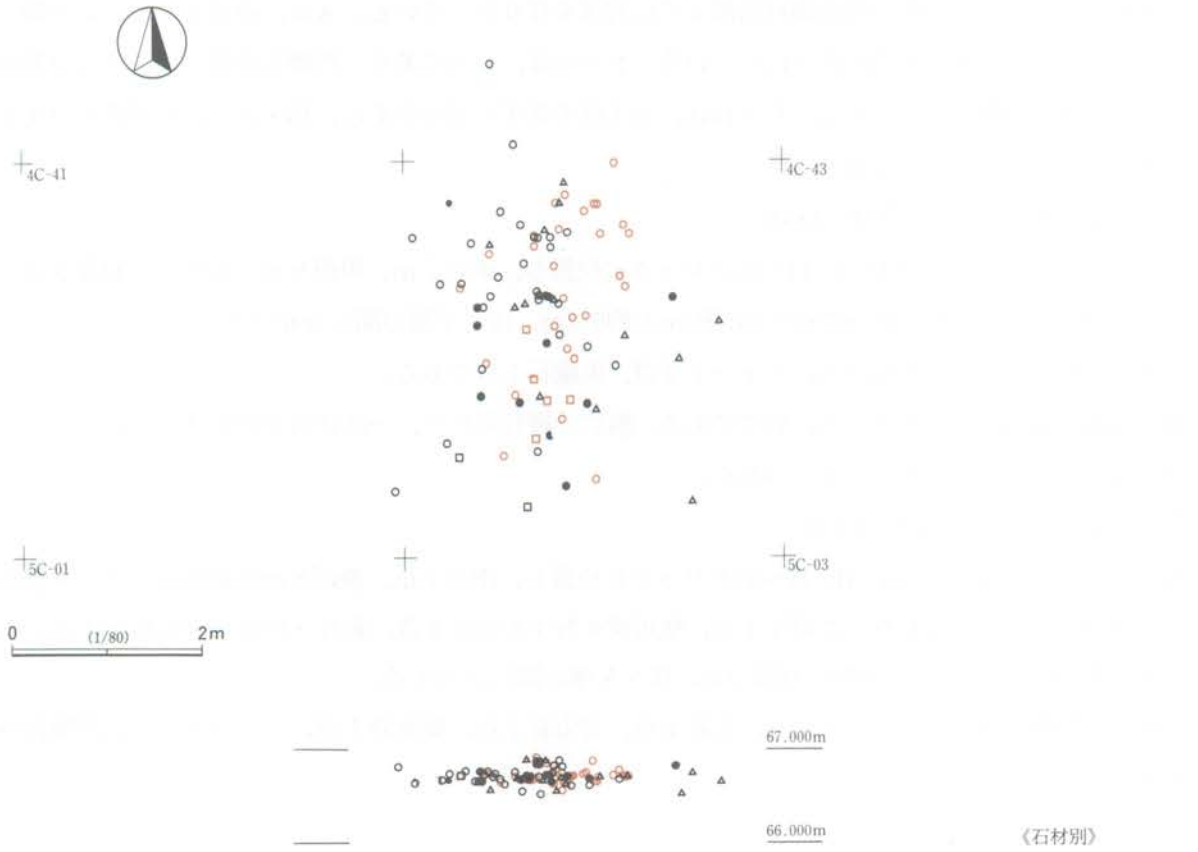
（11）4Eブロック（第44～47図）

本ブロックは，4E-31～33・4E-41～43グリッドに位置し，南北7m，東西8mの範囲に，ナイフ形石器3点，削器1点，加工痕を有する剥片1点，使用痕を有する剥片1点，剥片・砕片49点が散在する。垂直分布は，標高67.202m～67.891mの約0.7m，Ⅳ～Ⅴ層の間に分布する。

石材は，黒曜石39点，チャート8点，頁岩4点，安山岩2点，凝灰岩1点，メノウ1点で，黒曜石が大半を占める。

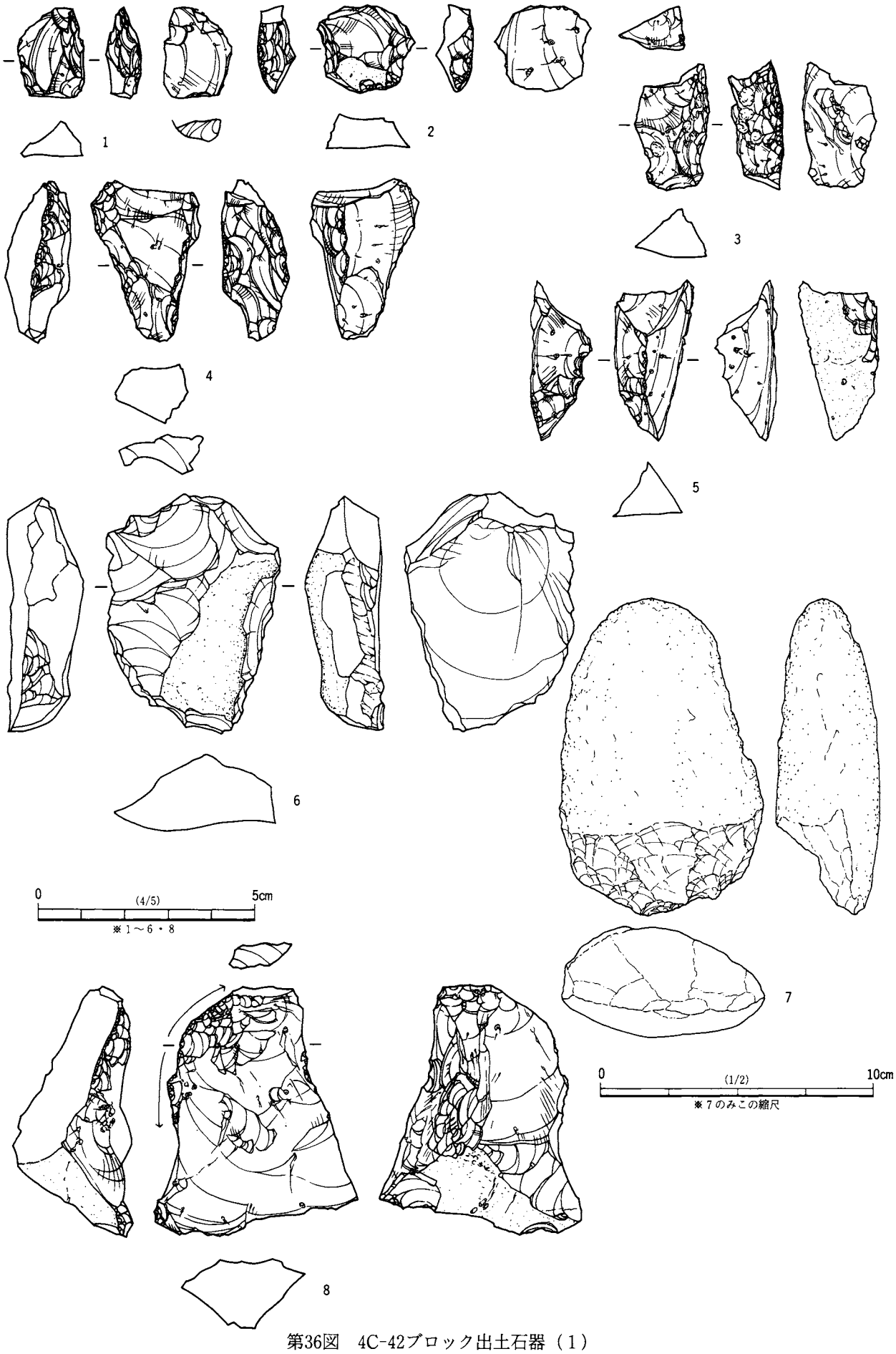


《器種別》

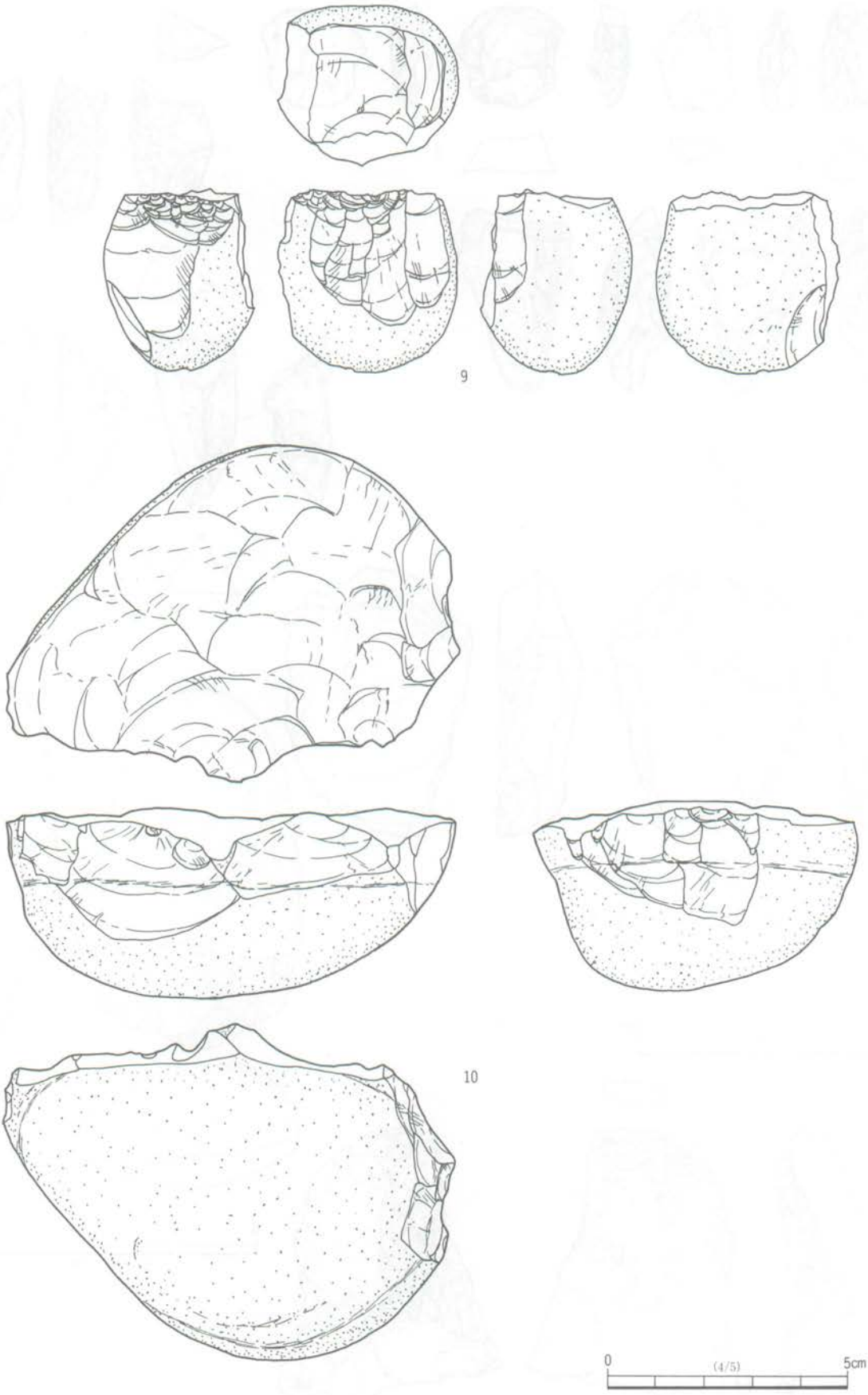


《石材別》

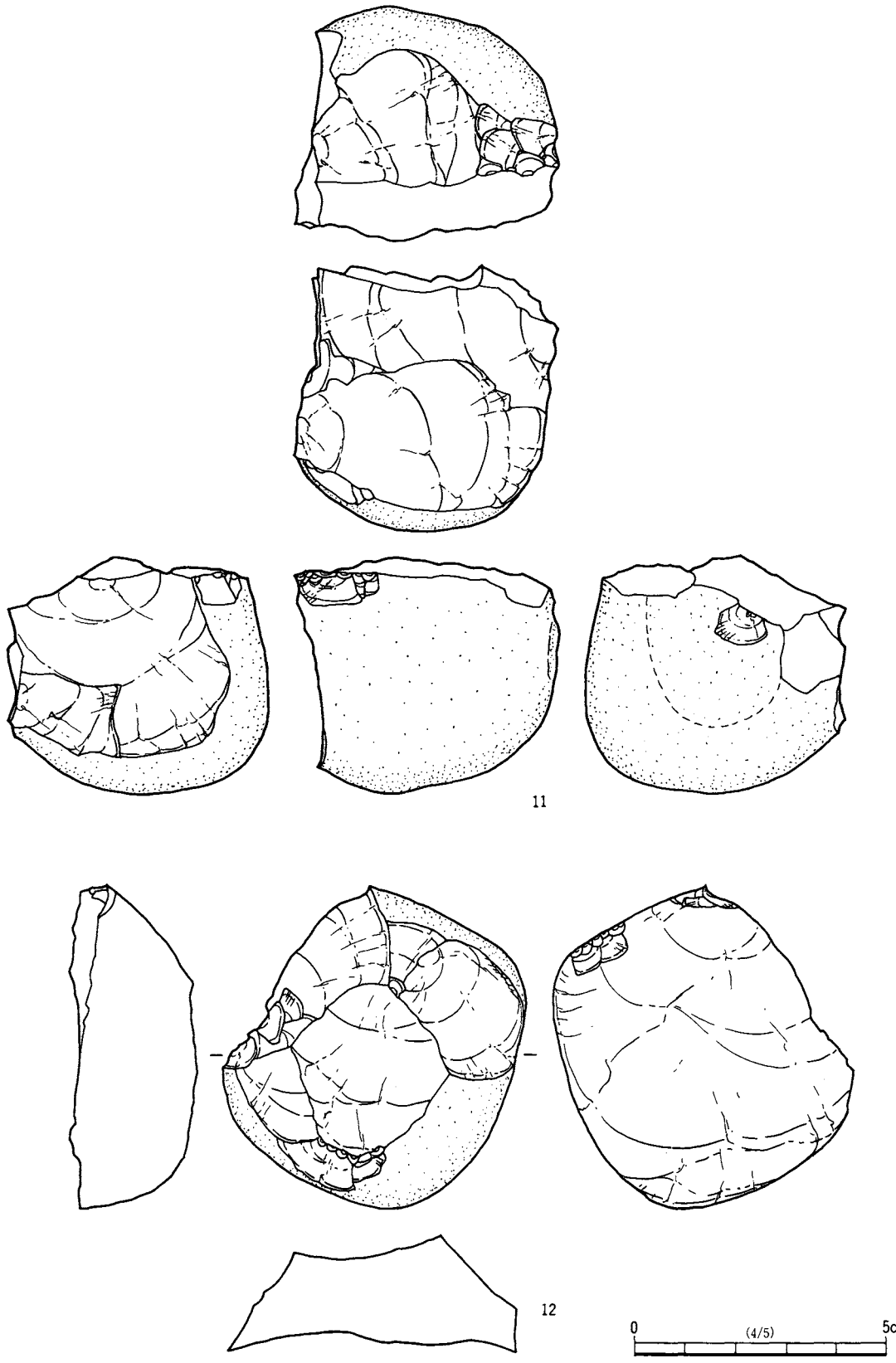
第35図　4C-42ブロック石器分布



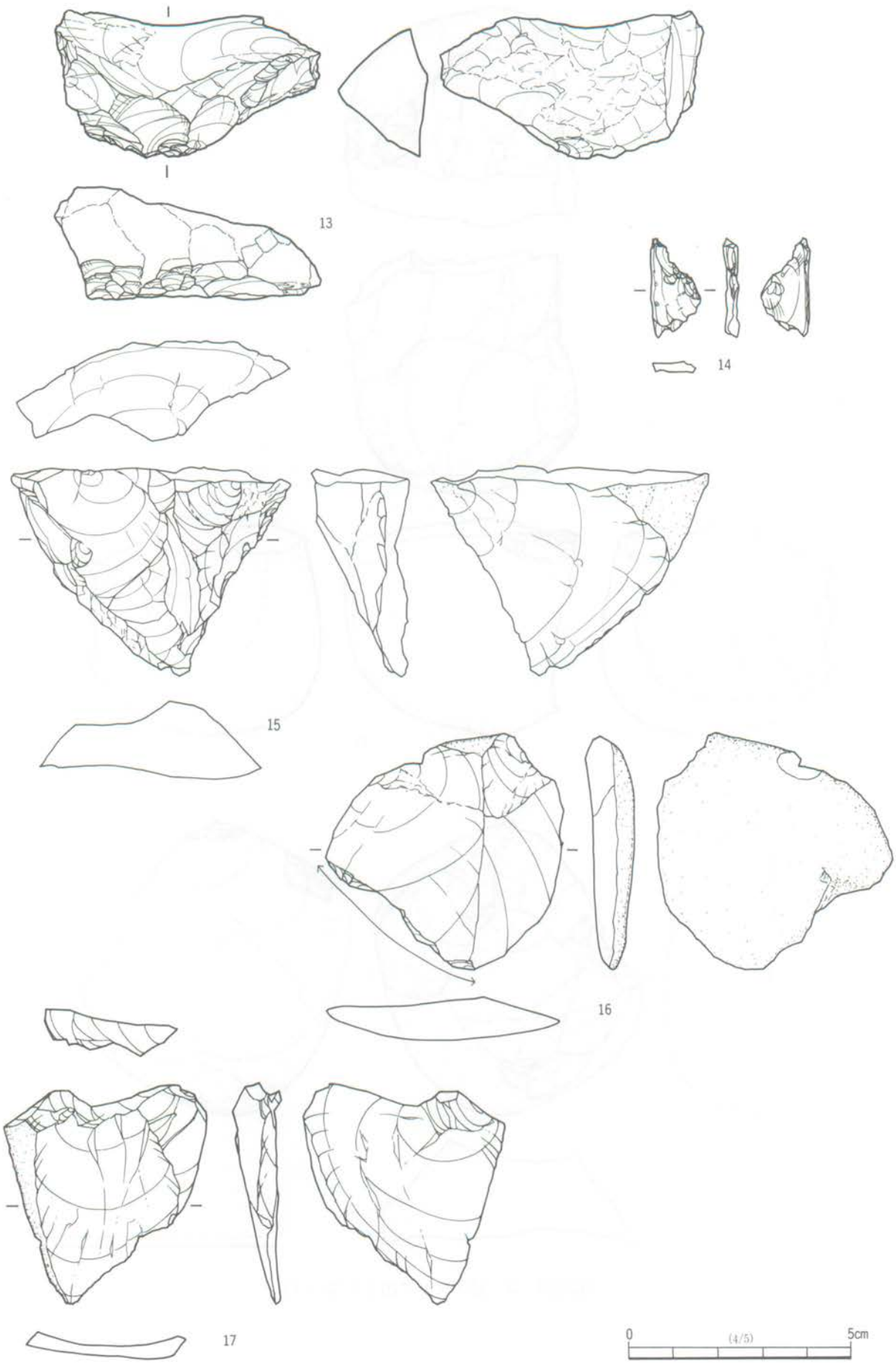
第36図　4C-42ブロック出土石器（1）



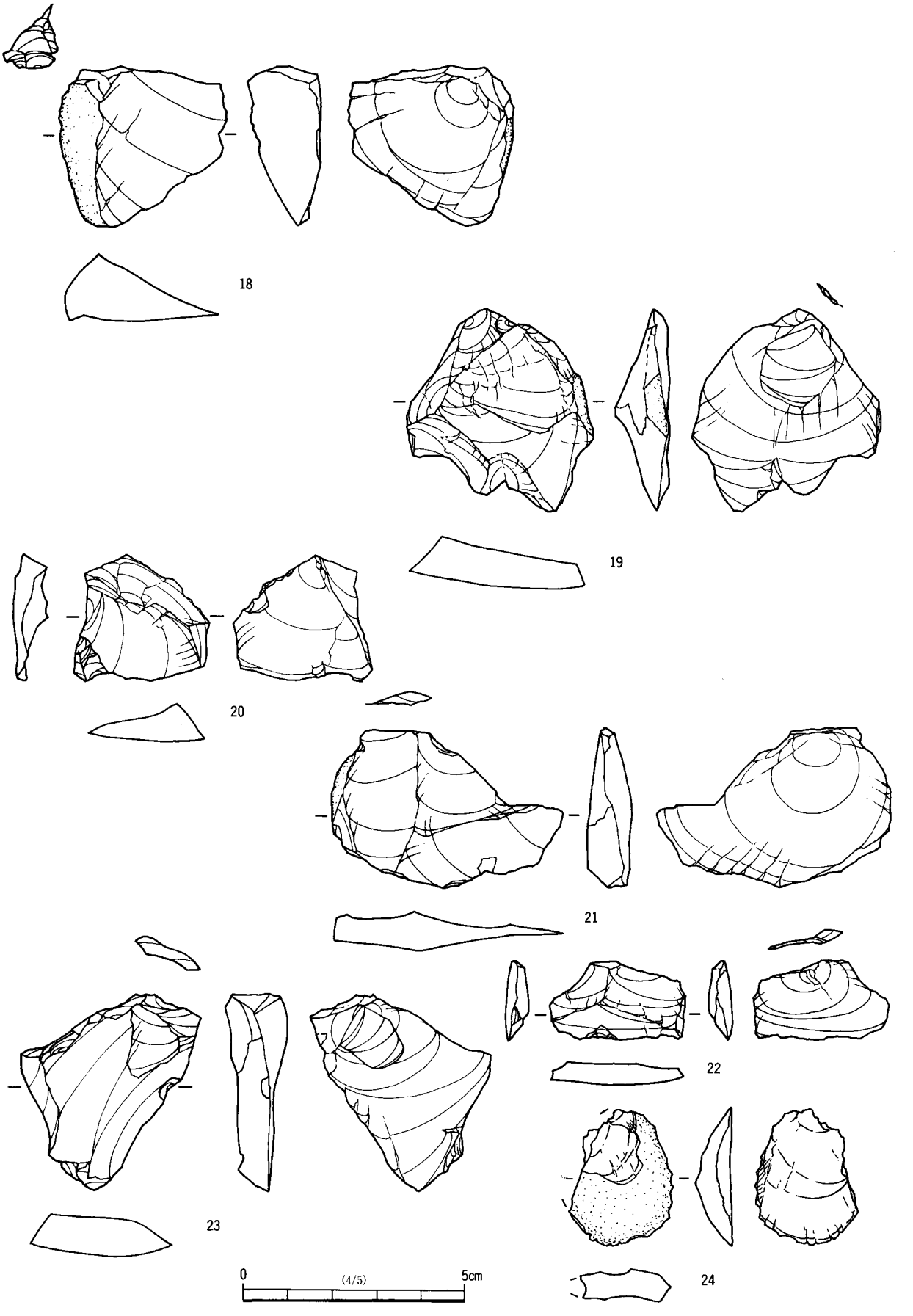
第37図　4C-42ブロック出土石器（2）



第38図　4C-42ブロック出土石器（3）



第39図　4C-42ブロック出土石器（4）



第40図　4C-42ブロック出土石器（5）

第9表　4C-42ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4C-32	11			剥片	黒曜石	1.45
4C-32	20			剥片	黒曜石	0.73
4C-41	14			剥片	黒曜石	0.55
4C-42	8	16		UF	凝灰岩	25.93
4C-42	9			剥片	黒曜石	2.41
4C-42	25			剥片	砂岩	
4C-42	29			剥片	黒曜石	0.42
4C-42	30			剥片	頁岩	4.60
4C-42	39			剥片	頁岩	1.76
4C-42	43			剥片	チャート	4.63
4C-42	49			剥片	チャート	0.80
4C-42	69			剥片	安山岩	11.62
4C-42	84			剥片	安山岩	11.95
4C-42	85	1		ナイフ	黒曜石	2.28
4C-42	87			剥片	頁岩	11.16
4C-42	92			剥片	砂岩	33.34
4C-42	97			剥片	頁岩	12.25
4C-42	103		接9	剥片	頁岩	16.02
4C-42	118			剥片	砂岩	18.94
4C-42	122	20		剥片	頁岩	4.90
4C-42	153	9		石核	安山岩	56.43
4C-42	166	18		剥片	安山岩	17.09
4C-42	167			剥片	安山岩	12.21
4C-42	189			剥片	砂岩	
4C-42	191			剥片	チャート	4.53
4C-42	194	4		ナイフ	黒曜石	10.16
4C-42	203			剥片	チャート	0.50
4C-42	252			剥片	頁岩	0.67
4C-42	279			剥片	チャート	2.60
4C-42	283	5		ナイフ	黒曜石	5.39
4C-42	284			剥片	黒曜石	0.63
4C-42	284			剥片	黒曜石	1.01
4C-42	285			剥片	頁岩	9.39
4C-42	302	10	接2	石核	安山岩	274.63
4C-42	317	24	接4	剥片	チャート	4.83
4C-42	318			砕片	チャート	0.13
4C-42	322			剥片	頁岩	4.62
4C-42	326	7		削器	黒曜石	45.33
4C-42	328	3		ナイフ	黒曜石	7.02
4C-42	329	2		ナイフ	黒曜石	3.43
4C-42	337			剥片	頁岩	7.53
4C-42	340			剥片	頁岩	17.99
4C-42	341			剥片	頁岩	6.27
4C-42	361			剥片	黒曜石	0.48
4C-42	367			剥片	黒曜石	2.15
4C-42	371			剥片	黒曜石	7.29
4C-42	372			剥片	黒曜石	6.52
4C-42	373			剥片	チャート	61.96
4C-42	382			剥片	頁岩	1.97
4C-42	383			剥片	安山岩	83.54
4C-42	390			剥片	黒曜石	1.61
4C-42	393			剥片	黒曜石	1.02
4C-42	400			剥片	黒曜石	2.72
4C-42	404			剥片	頁岩	3.33
4C-42	419	23		剥片	頁岩	16.27
4C-42	421	17		剥片	頁岩	12.78
4C-42	422	22		剥片	頁岩	2.43
4C-42	428			剥片	頁岩	0.31
4C-42	429			剥片	黒曜石	0.84
4C-42	444			剥片	頁岩	1.31
4C-42	444			剥片	頁岩	0.92
4C-42	448			剥片	頁岩	2.86
4C-42	452			剥片	黒曜石	1.52
4C-42	454			砕片	黒曜石	0.17
4C-42	455			剥片	頁岩	4.97
4C-42	458	6		掻器	頁岩	33.66
4C-42	474			剥片	安山岩	
4C-42	478	11	接4	石核	チャート	172.98
4C-42	484			剥片	頁岩	2.42
4C-42	496	12	接4	石核	チャート	94.66
4C-42	501	13		RF	頁岩	30.76
4C-42	503			剥片	チャート	1.27
4C-42	509			剥片	黒曜石	0.60
4C-42	512	21		剥片	安山岩	14.05
4C-42	526			剥片	黒曜石	3.89
4C-42	529			剥片	頁岩	34.45
4C-42	531	19		剥片	安山岩	13.92
4C-42	536	14		RF	黒曜石	0.49
4C-42	537			剥片	黒曜石	0.36
4C-42	546			剥片	黒曜石	0.38
4C-42	557			剥片	頁岩	1.96
4C-42	564			剥片	黒曜石	4.83
4C-42	599			剥片	頁岩	1.28
4C-42	605			剥片	安山岩	
4C-42	606			剥片	安山岩	
4C-42	607			剥片	頁岩	9.01
4C-42	611	15		UF	頁岩	36.24
4C-42	676			剥片	チャート	0.14
4C-42	685			砕片	チャート	0.40
4C-42	686			剥片	安山岩	
4C-42	688			砕片	チャート	0.21
4C-42	717	8		礫器	砂岩	60.78
4C-42	734			砕片	黒曜石	0.13

出土石器（第46・47図）

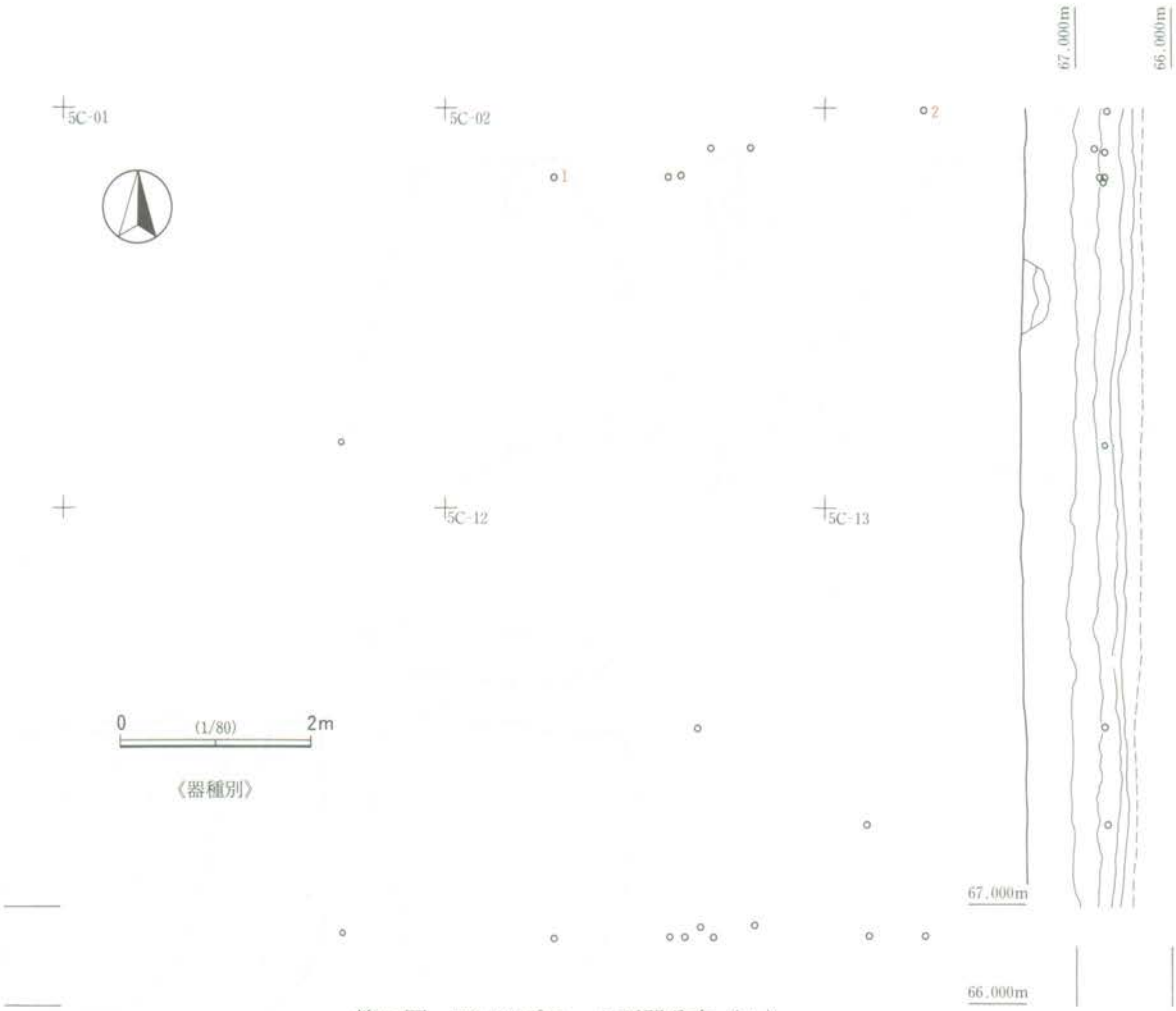
1～3は，ナイフ形石器である。4は，削器である。5は，加工痕を有する剥片である。6は，使用痕を有する剥片である。7～22は，剥片である。

（12）5Gブロック（第48・49図）

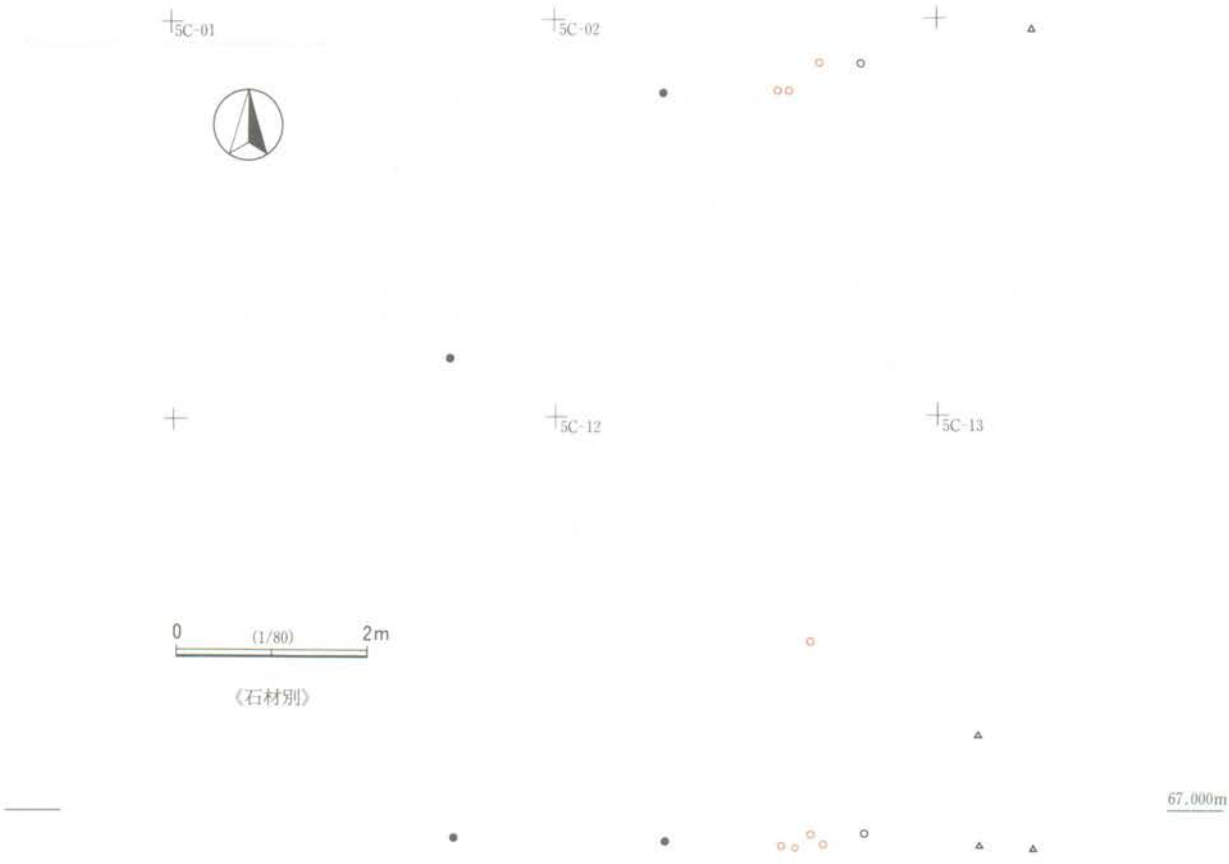
本ブロックは5G-10・5G-20グリッドに位置し，南北4m，東西4mの範囲に，ナイフ形石器1点，加工痕を有する剥片2点，石核2点，剥片・砕片16点が散在する。

石材は，頁岩7点，チャート5点，黒曜石4点，メノウ4点，凝灰岩1点である。

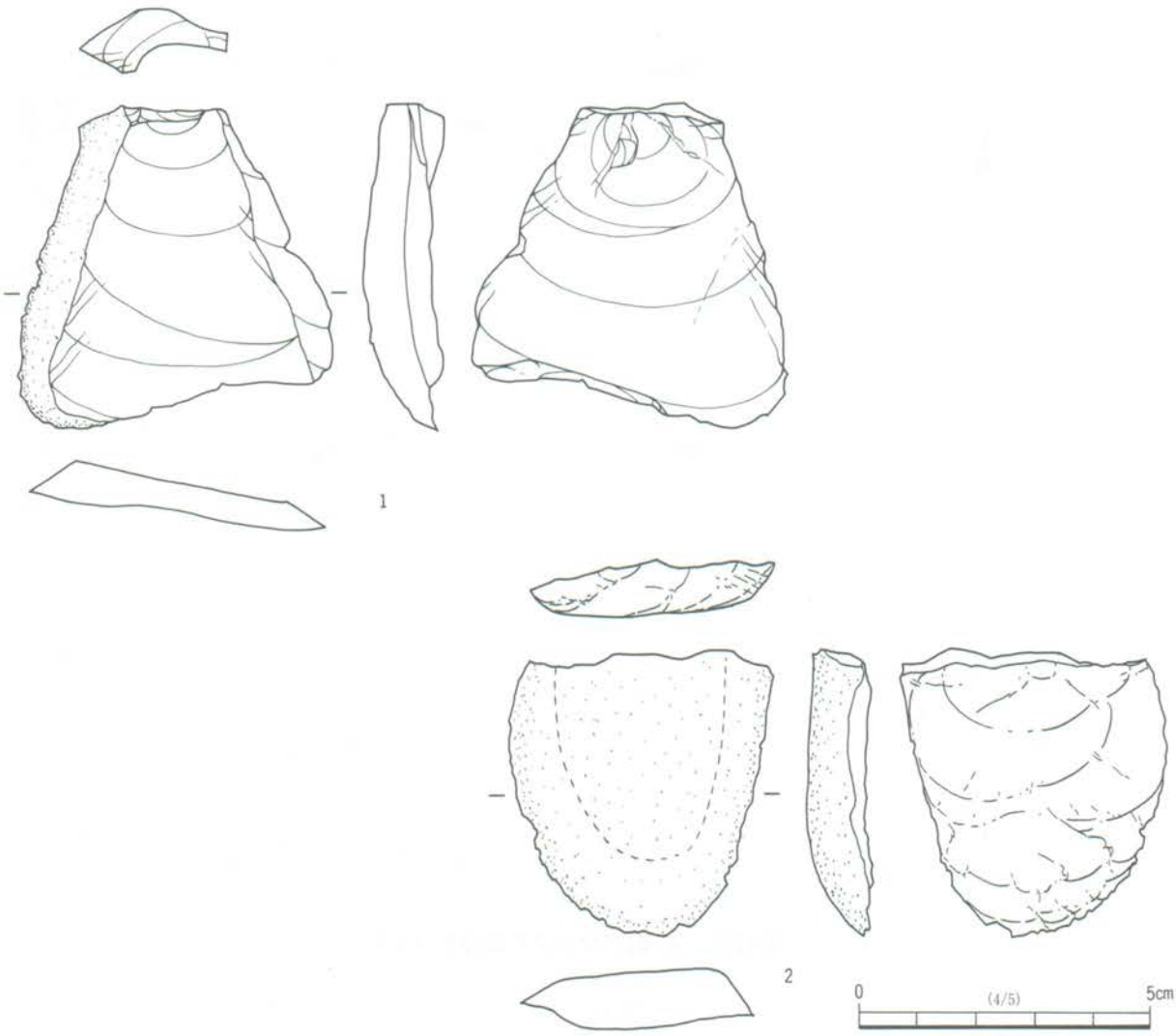
出土石器（第49図）　1は，ナイフ形石器である。2～3は，加工痕を有する剥片である。4～5は，石核である。6～10は，剥片である。



第41図　5C-01ブロック石器分布（1）



第42図　5C-01ブロック石器分布（2）

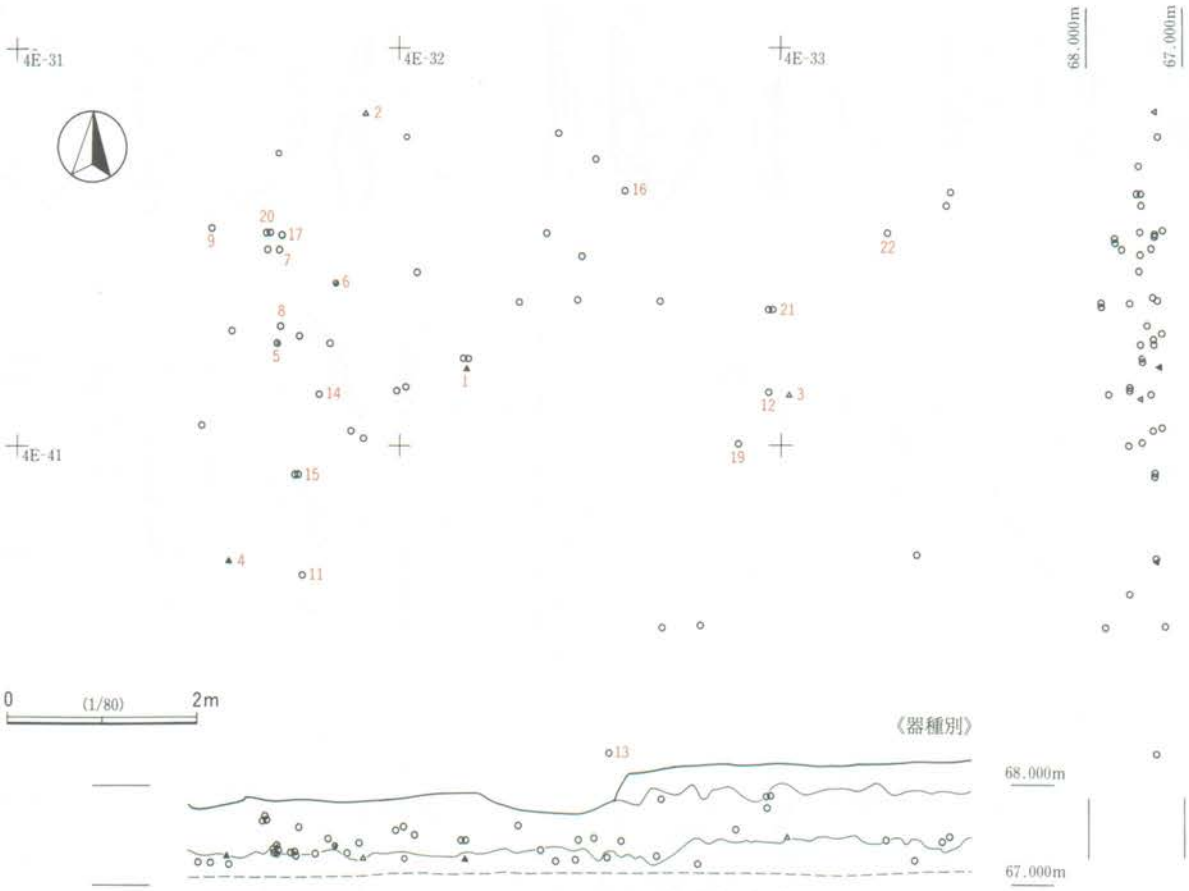


第43図　5C-01ブロック出土石器

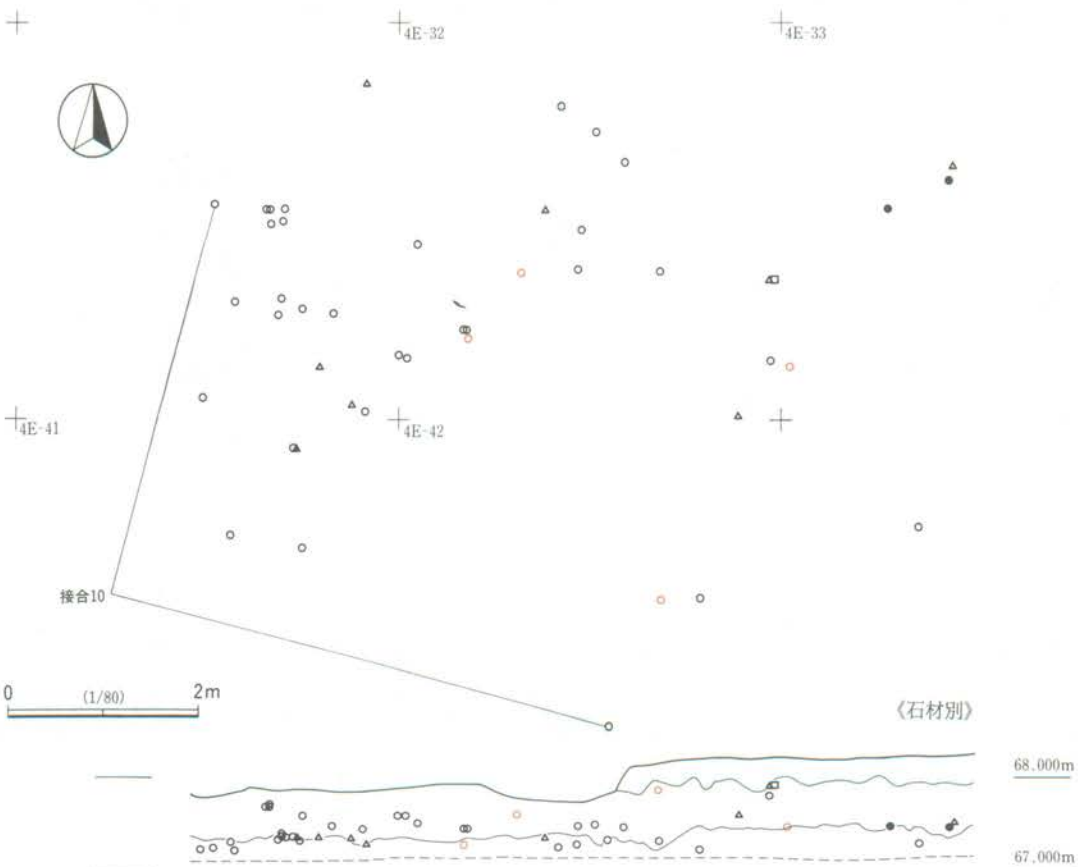
第10表　5C-01ブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器　種	石　　材	質量(g)
5C-01	1			剝　片	安 山 岩	46.28
5C-02	36			剝　片	黒 曜 石	6.70
5C-02	38			剝　片	頁　　岩	11.82
5C-02	54			剝　片	頁　　岩	17.54
5C-02	58		接9	剝　片	頁　　岩	36.56

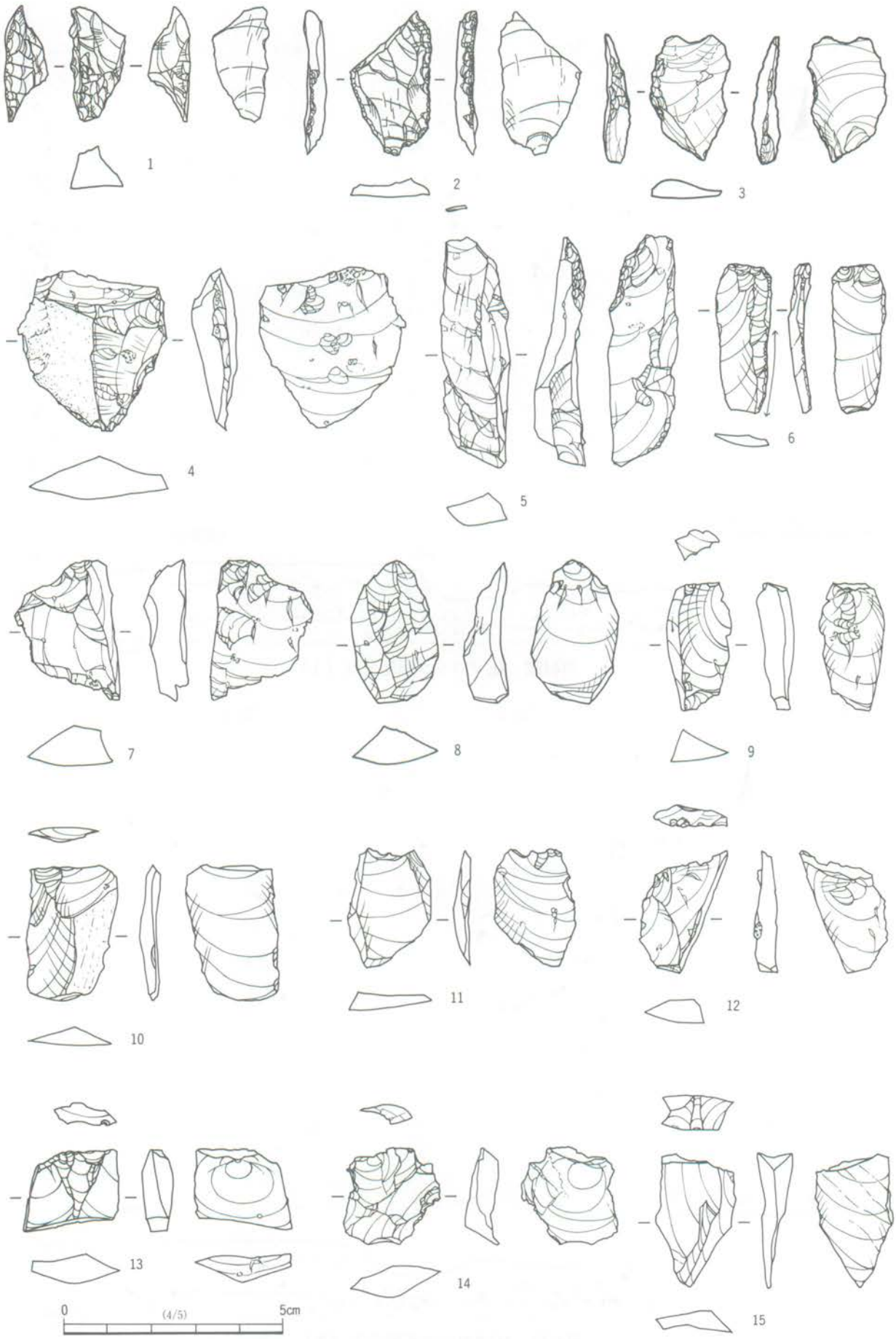
グリッド	No.	図No.	接合	器　種	石　　材	質量(g)
5C-02	62	1		剝　片	安 山 岩	18.68
5C-03	7	2	接4	剝　片	チャート	26.72
5C-12	1			剝　片	頁　　岩	4.10
5C-13	1			剝　片	チャート	1.60



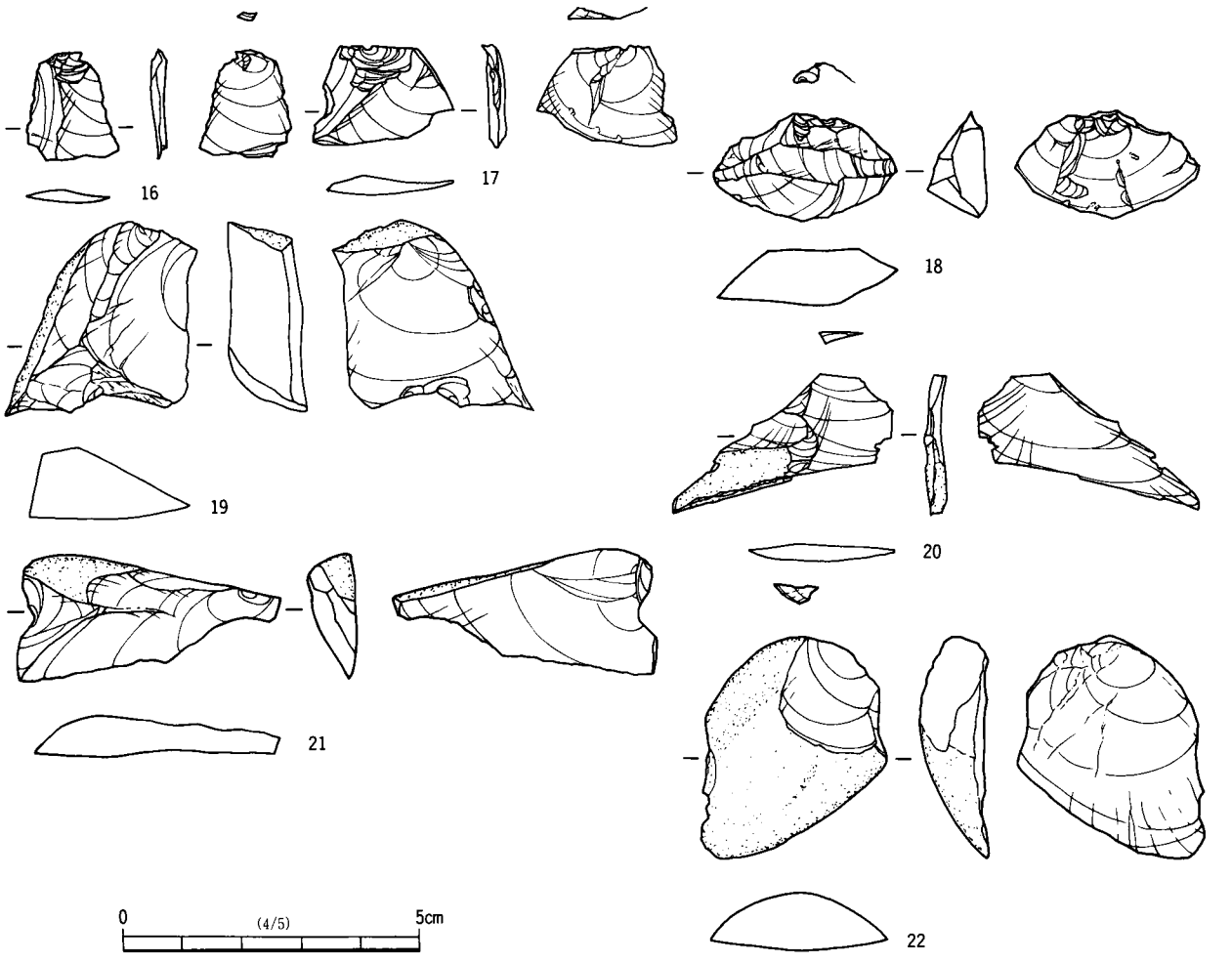
第44図　4Eブロック石器分布（1）



第45図　4Eブロック石器分布（2）



第46図　4Eブロック出土石器（1）

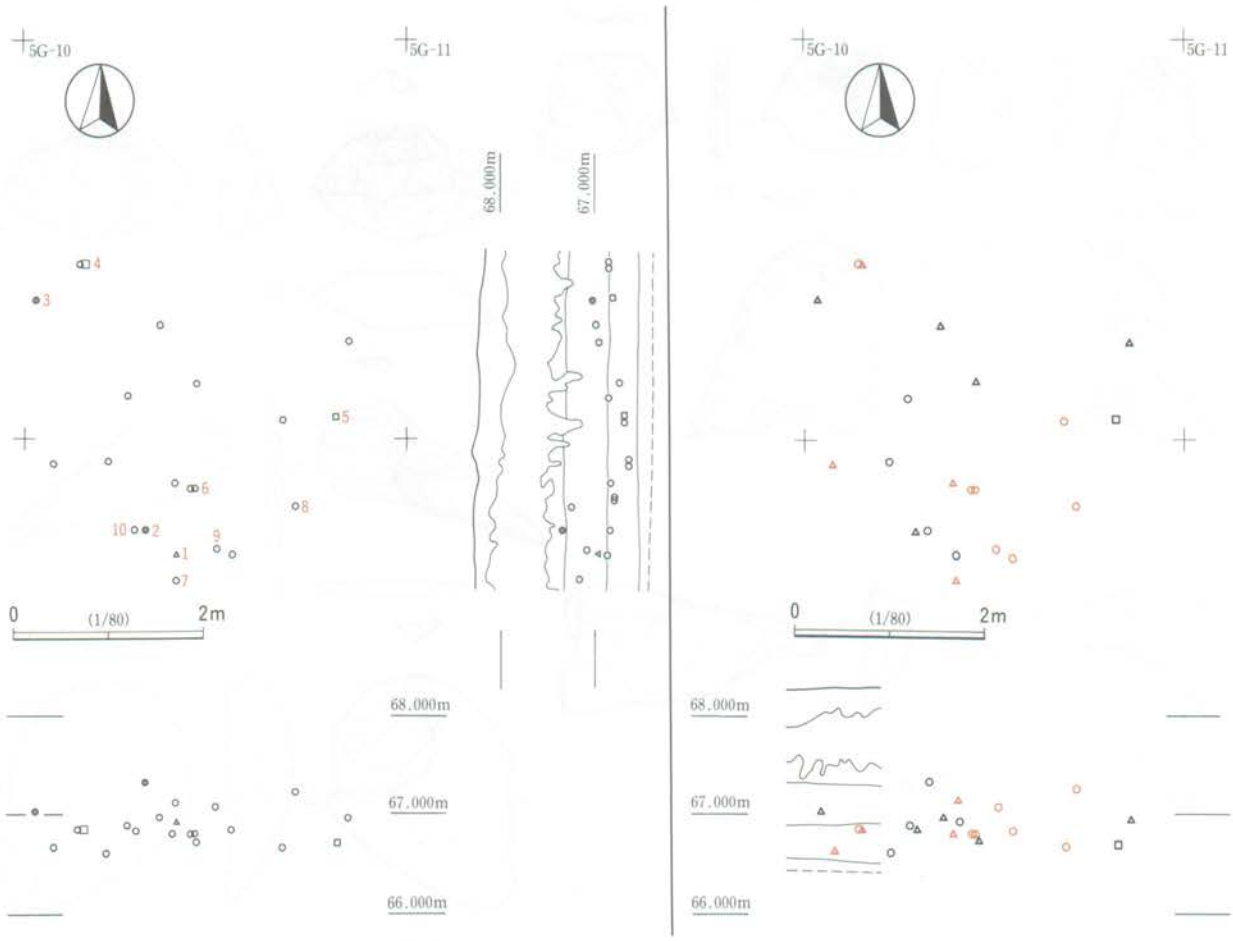


第47図　4Eブロック出土石器（2）

第11表　4Eブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4E-42	1	4		削器	黒曜石	8.29
4E-42	2	11		剝片	黒曜石	1.70
4E-42	8			剝片	黒曜石	5.33
4E-42	10			剝片	チャート	1.82
4E-42	12	15		剝片	チャート	2.80
4E-42	12			砕片	黒曜石	0.38
4E-42	14			剝片	黒曜石	1.33
4E-42	22			剝片	黒曜石	0.63
4E-42	23			剝片	黒曜石	0.47
4E-42	24	5		R F	黒曜石	5.82
4E-42	25	8		剝片	黒曜石	4.22
4E-42	26			剝片	黒曜石	0.76
4E-42	27	9	接10	剝片	黒曜石	2.21
4E-42	28			剝片	黒曜石	0.61
4E-42	29	20		剝片	黒曜石	1.53
4E-42	29			砕片	黒曜石	0.01
4E-42	30	7		剝片	黒曜石	4.83
4E-42	31	17		剝片	黒曜石	1.12
4E-42	32	6		U F	黒曜石	1.35
4E-42	33			砕片	黒曜石	0.43
4E-42	36	18		剝片	黒曜石	4.43
4E-42	37			砕片	黒曜石	0.16
4E-42	38	2		ナイフ	チャート	2.53
4E-42	39			剝片	黒曜石	1.38
4E-42	40	10		剝片	黒曜石	2.34
4E-42	42			砕片	黒曜石	0.45
4E-42	43			砕片	黒曜石	0.24
4E-42	44			砕片	黒曜石	0.14

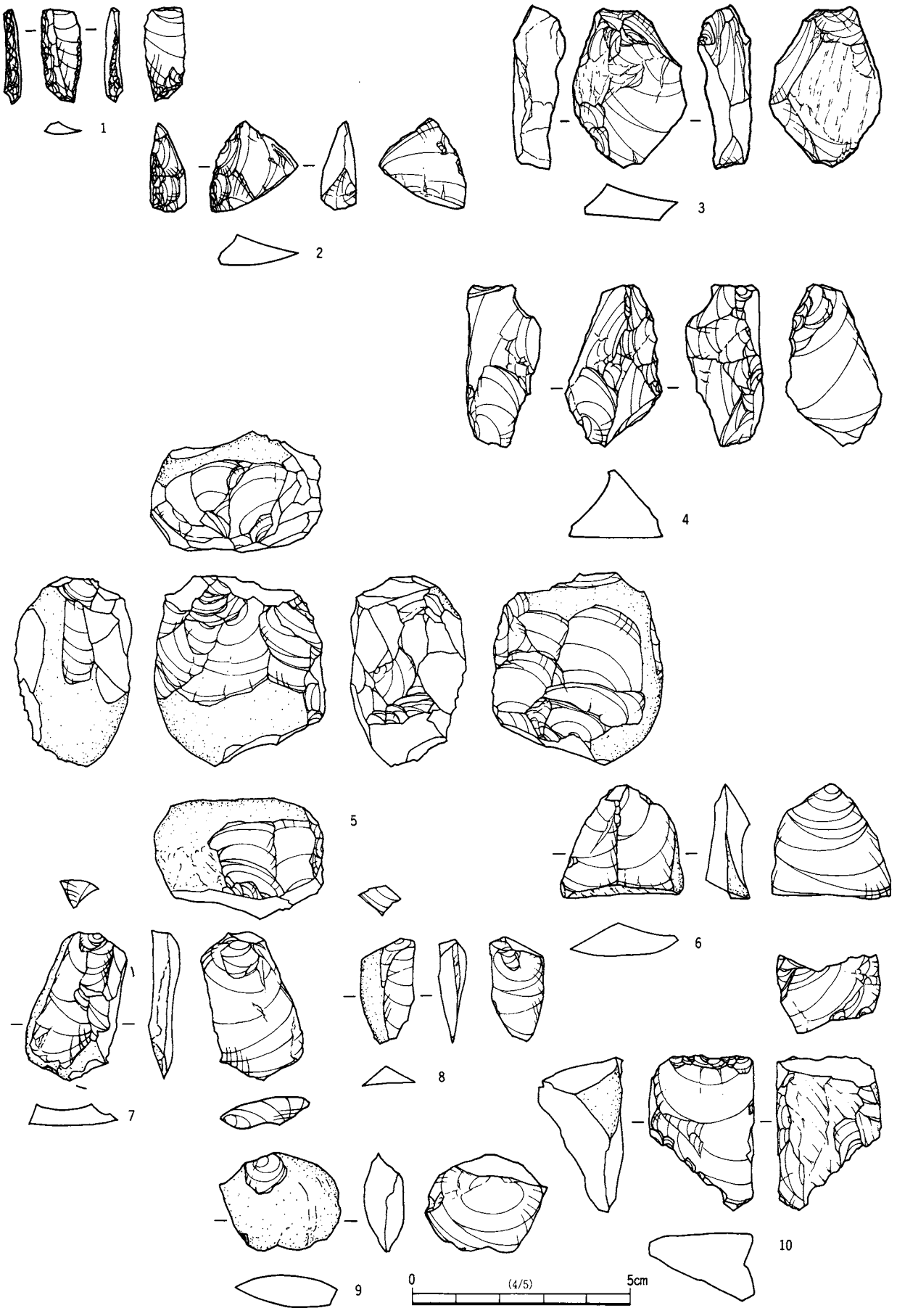
グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
4E-42	49			剝片	黒曜石	1.75
4E-42	50			砕片	黒曜石	0.26
4E-42	51			砕片	黒曜石	0.30
4E-42	51			剝片	黒曜石	0.92
4E-42	52	1		ナイフ	頁岩	2.30
4E-42	55			剝片	頁岩	1.81
4E-42	58			砕片	黒曜石	0.28
4E-42	60			砕片	黒曜石	0.06
4E-42	61			剝片	チャート	6.71
4E-42	63			砕片	黒曜石	0.28
4E-42	64			剝片	黒曜石	3.30
4E-42	65	16		剝片	黒曜石	0.44
4E-42	67			剝片	黒曜石	0.70
4E-42	68	21		剝片	凝灰岩	4.90
4E-42	68			剝片	チャート	1.18
4E-42	69	12		剝片	黒曜石	2.12
4E-42	70	3		ナイフ	頁岩	2.06
4E-42	71	19		剝片	チャート	11.99
4E-42	73	22		剝片	安山岩	11.87
4E-42	74			剝片	チャート	1.54
4E-42	75			剝片	安山岩	2.17
4E-42	78			砕片	黒曜石	0.24
4E-42	80			剝片	頁岩	0.87
4E-42	82	13	接10	剝片	黒曜石	2.60
4E-42	83	14		剝片	チャート	2.54
4E-42	91			剝片	黒曜石	1.12
4E-42	447			剝片	メノウ	1.27



第48図　5Gブロック石器分布

第12表　5Gブロック

グリッド	No.	図No.	接合	器種	石材	質量(g)
5G-20	1	3		R F	チャート	8.52
5G-20	2			剝片	チャート	1.57
5G-20	3			砕片	黒曜石	0.23
5G-20	4			剝片	チャート	4.62
5G-20	6			砕片	チャート	0.19
5G-20	7	5		石核	凝灰岩	54.82
5G-20	8			剝片	頁岩	1.28
5G-20	10	8		剝片	頁岩	1.42
5G-20	12	6		剝片	頁岩	5.74
5G-20	12			剝片	頁岩	1.66
5G-20	15			剝片	メノウ	2.97
5G-20	16			砕片	黒曜石	0.49
5G-20	17			剝片	メノウ	6.23
5G-20	18	2		R F	黒曜石	2.13
5G-20	19	1		ナイフ	黒曜石	0.72
5G-20	20			剝片	メノウ	1.53
5G-20	21	9		剝片	頁岩	4.89
5G-20	22			剝片	頁岩	1.28
5G-20	23	7		剝片	頁岩	4.32
5G-20	24	10		剝片	チャート	10.97
5G-20	25	4		石核	メノウ	10.03



第49図　5Gブロック出土石器

2　接合資料（第50～52図）

本遺跡において，32点12個体の接合関係が認められた。このうち４点２例については，破損によるものと判断し，残り10例については，剥片剥離によるものと捉えた。同一ブロック内による接合例が多いが，ブロック間にわたって接合するものも認められる。

接合資料１　3B-44ブロックにおいて認められた，石核１点と剥片１点の接合するものである。石材は凝灰岩を用いており，3B-44の11を石核として，その短軸方向に向かって打撃を加え，3B-44の23を剥離している。

接合資料２　4B-02ブロックの剥片１点と，4C-42ブロックの石核１点の接合するものである。石材は安山岩を用いており，4C-42の10を石核として，その短軸方向に向かって打撃を加え，4B-02の43を剥離している。

接合資料３　3B-44ブロックにおいて認められた，石核２点の接合するものである。石材は安山岩を用いており，円礫を２点に分離して，その分離面を打面として3B-44の12と13，それぞれで剥片剥離を行っている。

接合資料４　4C-42ブロックの石核２点と剥片１点，5C-01ブロックの剥片１点の接合するものである。石材はチャートを用いており，円礫を２点に分離して，その分離面を打面として4C-42の11から5C-01の２を剥離している。4C-42の12においては，分離面から剥片剥離をおこなった後，その剥離面を打面として4C-42の24を剥離している。

接合資料５　4B-34ブロックにおいて認められた，石核１点と剥片３点の接合するものである。石材は頁岩を用いており，円礫を輪切り状に分割したものを石核として，短軸方向に向かって打撃を加えて剥片剥離を行った後，4B-34の12が剥離し，次いで作業面を打面として，打面調整として4B-34の９を剥離し，その剥離面を打面として4B-34の11を剥離して，最後に4B-34の３が残核となった。

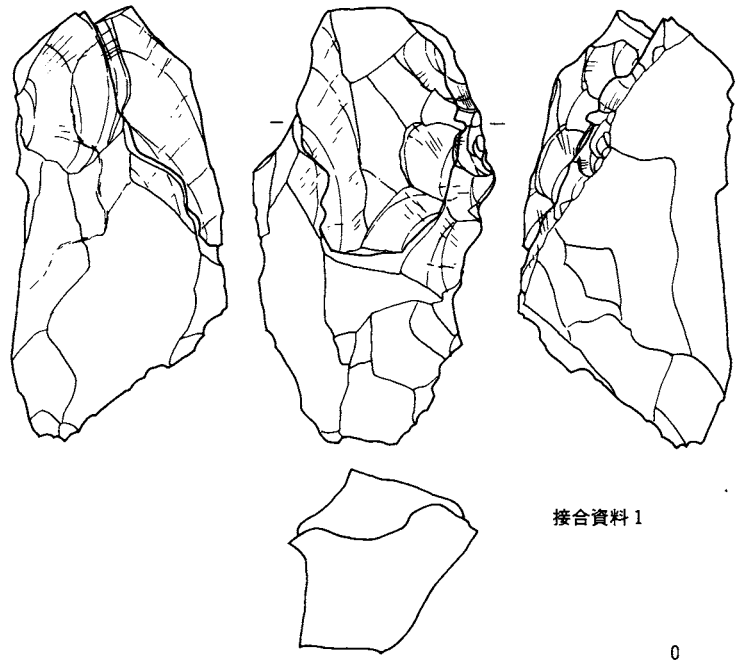
接合資料６　3B-44ブロックにおいて認められた，石核１点と剥片３点の接合するものである。石材は頁岩を用いており，3B-44の10を石核として，3B-44の20を剥離した後，その剥離面を打面として3B-44の17を剥離し，打面を180度転移して，3B-44の18を剥離している。

接合資料７　4B-02ブロックにおいて認められた，石核１点と剥片２点の接合するものである。石材は頁岩を用いており，4B-02の19を石核として，4B-02の45を剥離した後，4B-02の46を剥離している。

接合資料８　3B-44ブロックの剥片１点と，4B-34ブロックの剥片１点の接合するものである。石材は頁岩を用いており，4B-34の13が3B-44の26から分離している。

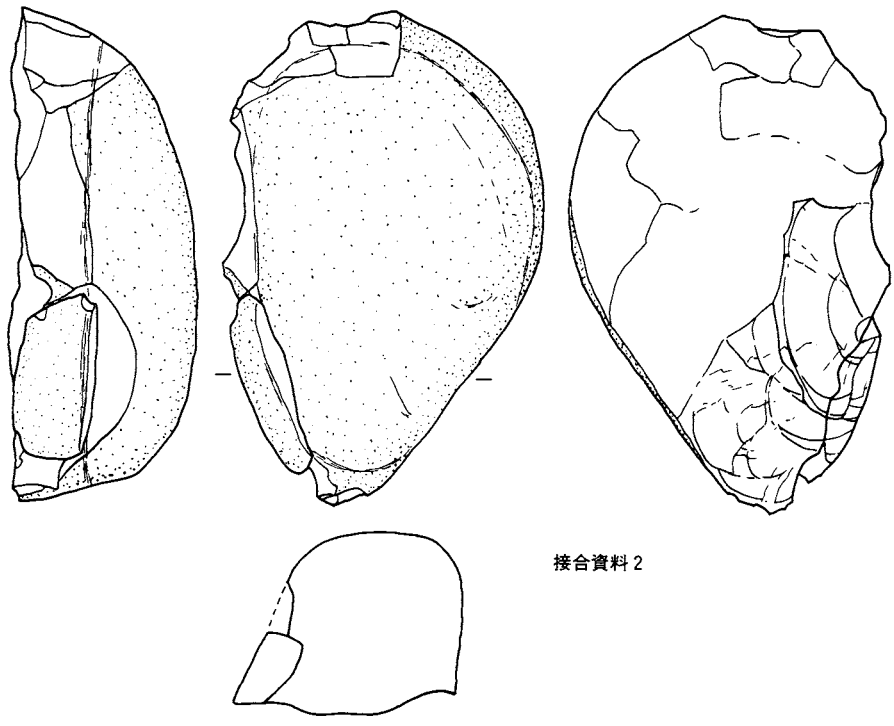
接合資料９　4C-12ブロックの剥片１点と，4C-42ブロックの剥片１点，5C-01ブロックの剥片１点が接合するものである。石材は頁岩を用いており，大き目の剥片が分割されている。

接合資料10　4Eブロックにおいて認められた，剥片２点の接合するものである。石材は黒曜石を用いており，同一打面から4Eの13，９の順で縦長剥片が剥離されている。残核は持ち出されている。

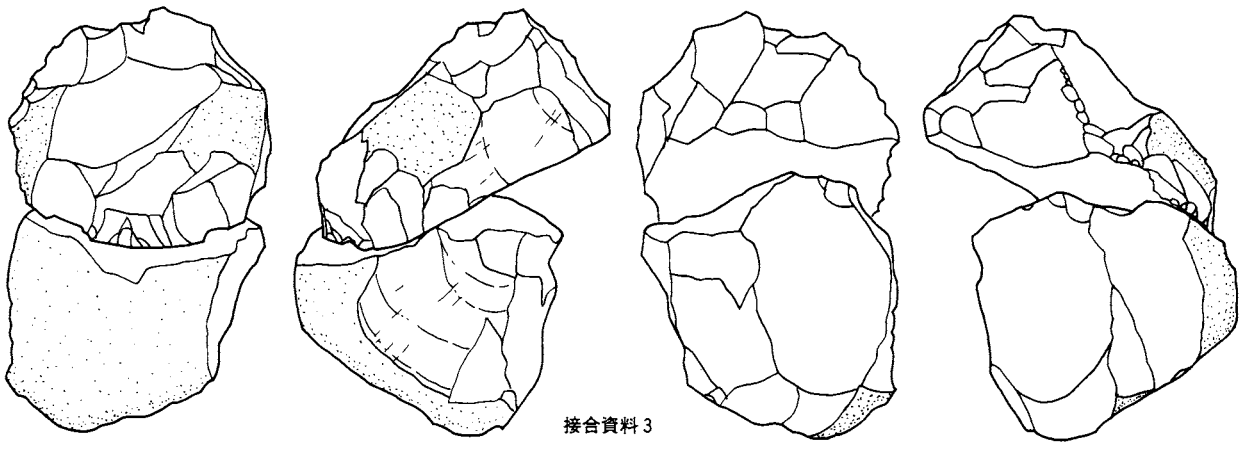


接合資料 1

0 (2/3) 5cm

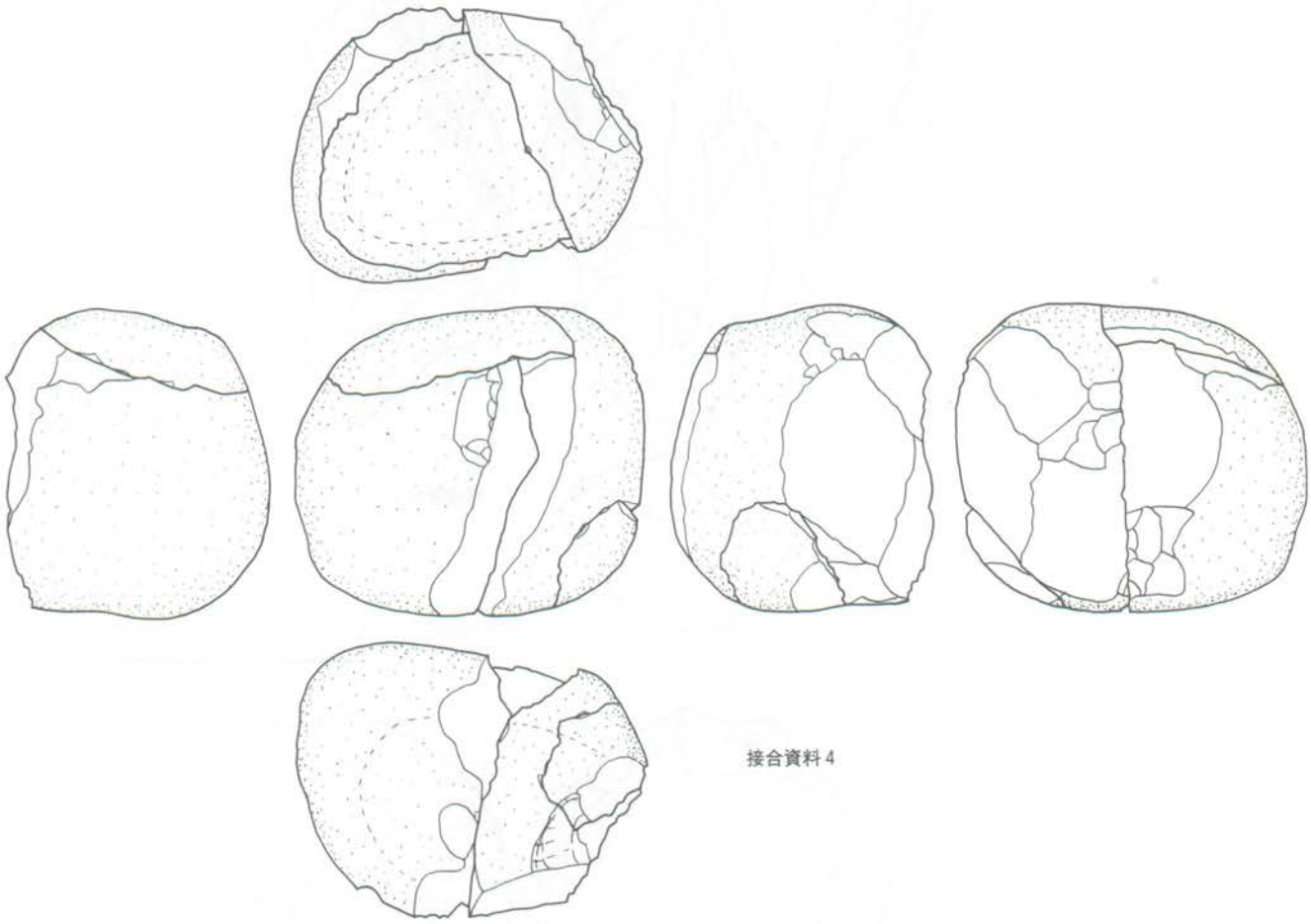


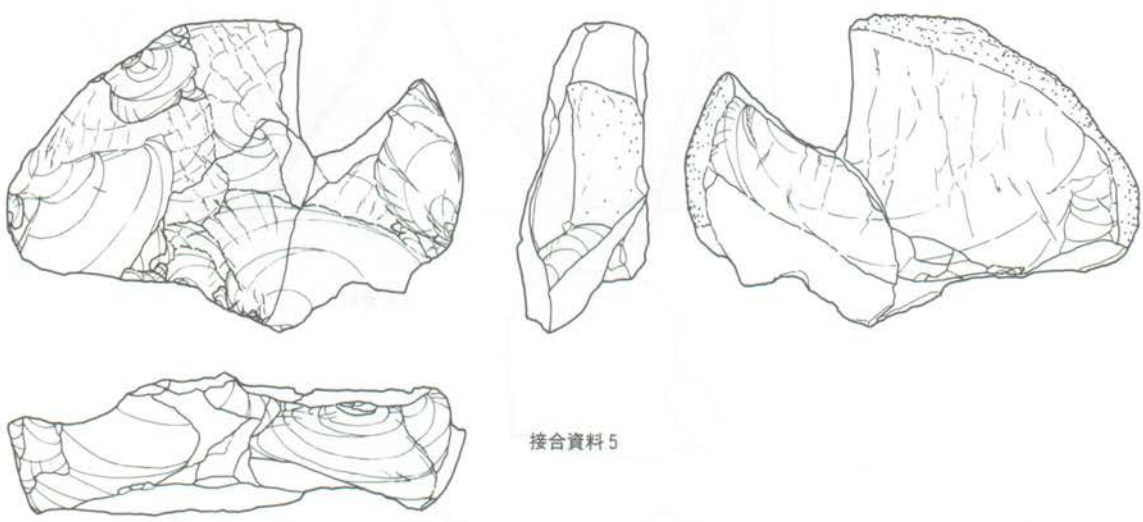
接合資料 2

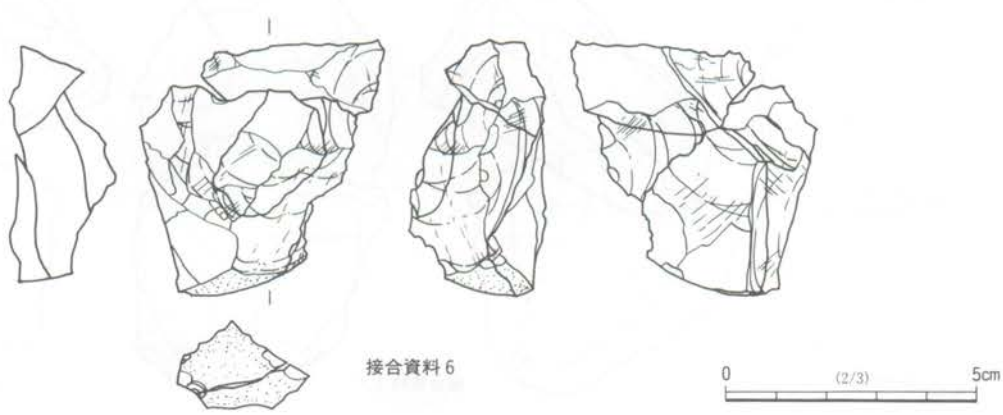


接合資料 3

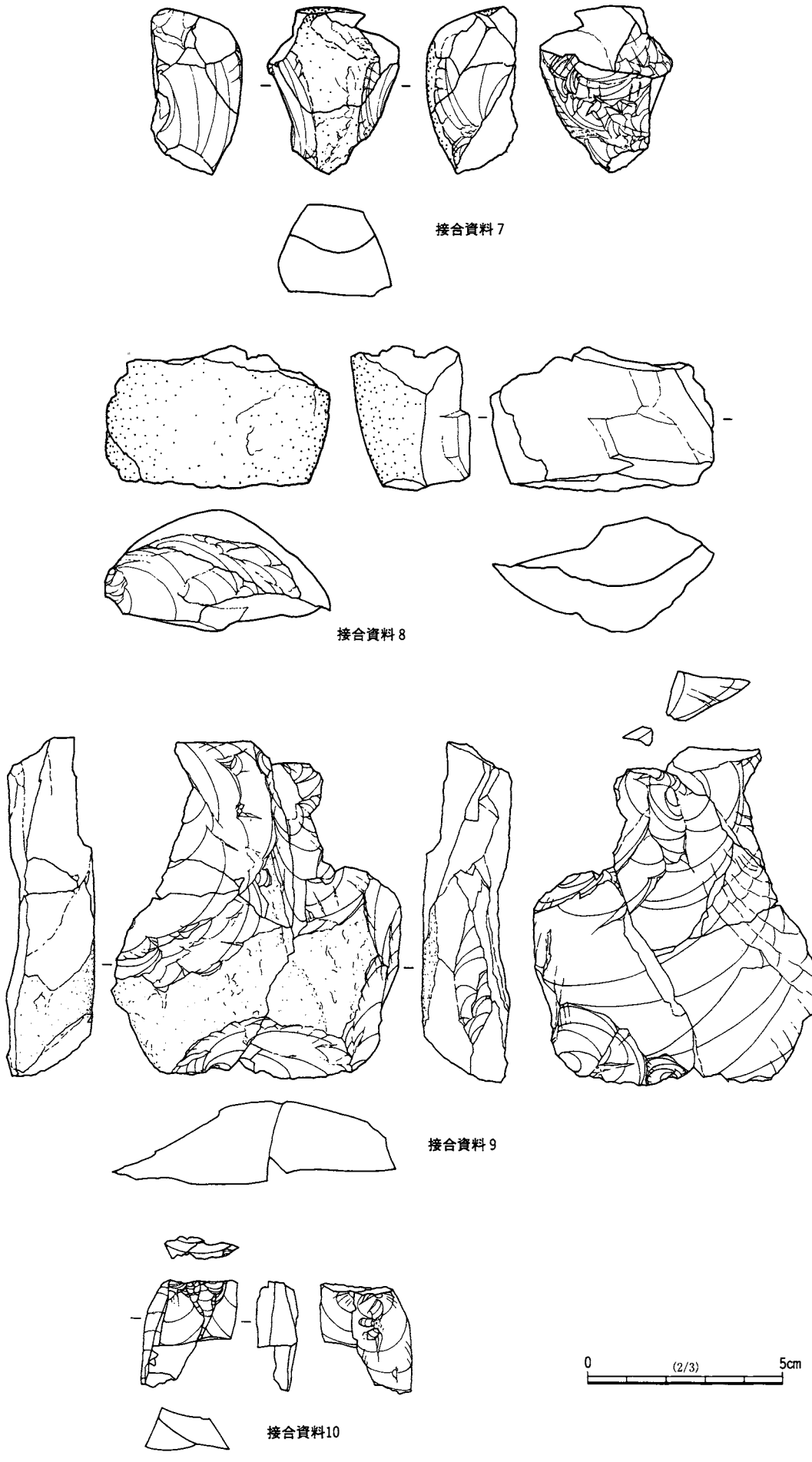
第50図　接合状態（1）







第51図　接合状態（2）



第52図　接合状態（3）

第３節　縄文時代（第53～73図，第13～15表，図版５・６・22～32）

先に記したように，縄文時代の遺構は，炉穴４基及び集石遺構３基を検出した。また，調査区全体から土器，石器及び礫を検出した。

１　炉穴（第54図，図版５・30）

007

5A-03グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形，長軸方向はＮ－57°－Ｅである。下層確認グリッドを調査中，焼土及び掘込みを検出し，調査を行った。規模は，長軸（推定）1.5m，短軸0.7mほどである。燃焼部は北東側に位置する。なお，遺物は検出されなかった。

008・009

5A-04グリッド付近に位置する。北側部分が重複して検出された。007と同様，下層確認グリッドを調査中に，009号跡の掘込みを検出し，調査を行った。008は，平面形が隅丸長方形，長軸方向がＮ－15°－Ｗである。規模は，長軸1.35m，短軸0.8mほどである。燃焼部は南側に位置する。遺物は検出されなかった。009号跡は，平面形が隅丸長方形，長軸方向がＮ－67°－Ｗである。規模は，長軸が不明，短軸が0.65mほどである。燃焼部は，南東側に位置し，焼土が厚く堆積している。遺物は，黒曜石製の剝片１点を検出した（第14表）。

012

4A-33グリッドに位置する。平面形は隅丸長方形，長軸方向はＮ－41°－Ｗである。わずかに燃焼部の掘込み及び遺構の範囲を確認した程度である。推定規模は，長軸0.85m，短軸0.5mほどである。燃焼部には焼土が堆積し，床面は被熱により硬化している。なお，遺物は検出されなかった。

２　集石遺構（第55～58図，図版５・６・30）

001（第55図，図版５・６・30）

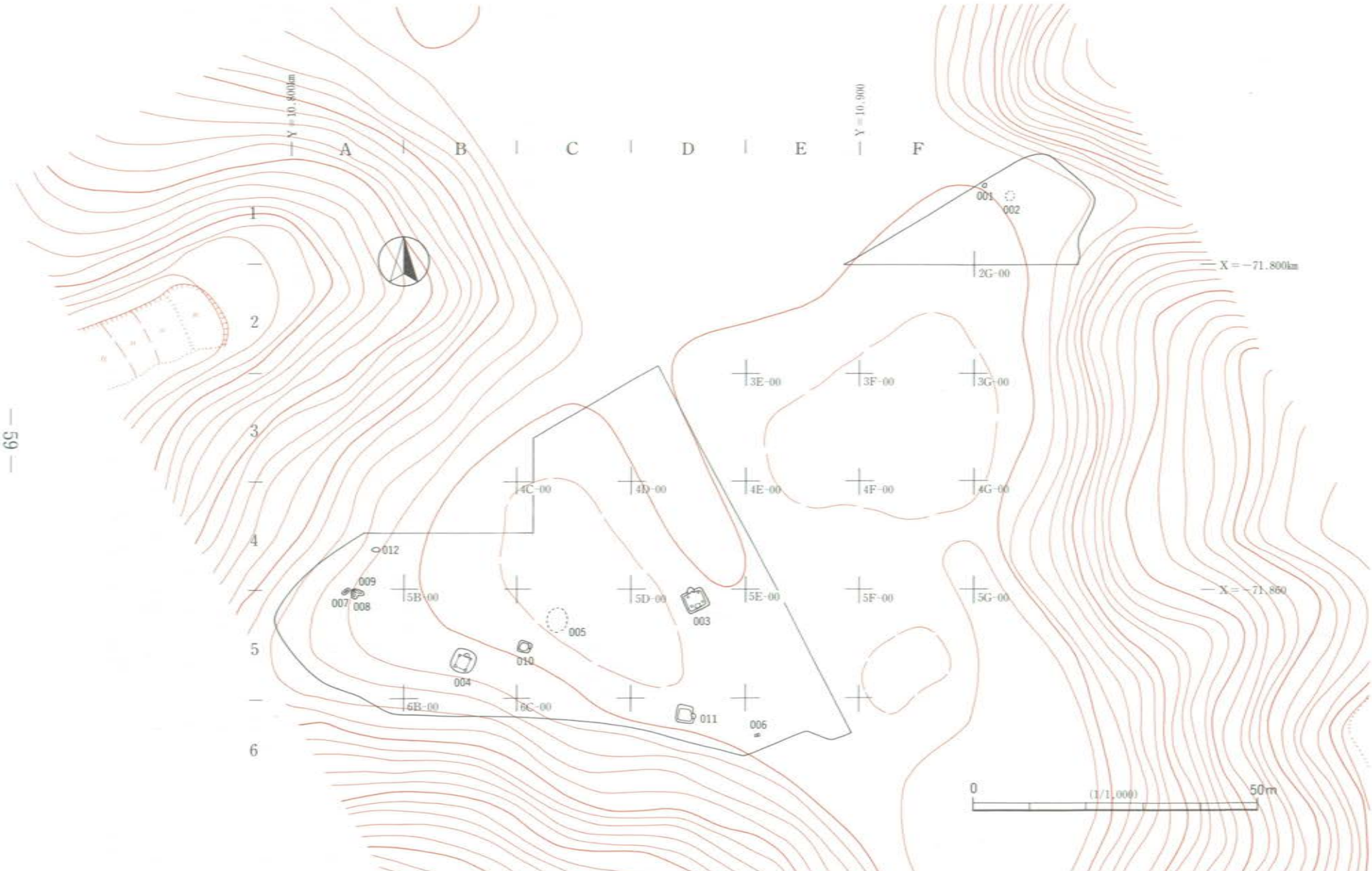
1G-11グリッド付近に位置する。平面形が円形に近い土坑を伴う。規模は長軸1.3m，短軸1.2mほどである。底面は北側に向かって傾斜し，最も深いところで0.4mほどである。礫は37点検出された。石材を見ると，チャートが半数以上を占め，砂岩，凝灰岩がこれに次ぐ。平均質量は，150.7ｇであり，石材の違いによって大差はない。赤化率は76％，破損率は56％である。赤化率の高さ及び堆積土に少量ながら炭化物が含まれていることから，加熱行為の遺構と考えられる。なお，破損礫の赤化率は，86％（19点）と非常に高い数値を示し，本遺構の礫は，この二属性が強い相関を示している。さらに，これらのうち６点が接合し，３点の完形礫となることも，その裏付けとなると思われる。

遺物は，敲石１点及び石鏃１点が検出された。１は，流紋岩製の敲石である。図下部に激しい敲打痕が見られる。敲打部も含めて，全体に赤化している。質量は177.22ｇである。２は，メノウ製石鏃の破損品である。明確な抉りのある脚部のみの残存であるが，入念な調整が観察される。なお，赤化はしておらず，器表面の荒れなど被熱の痕跡も見られない。質量は0.78ｇである。

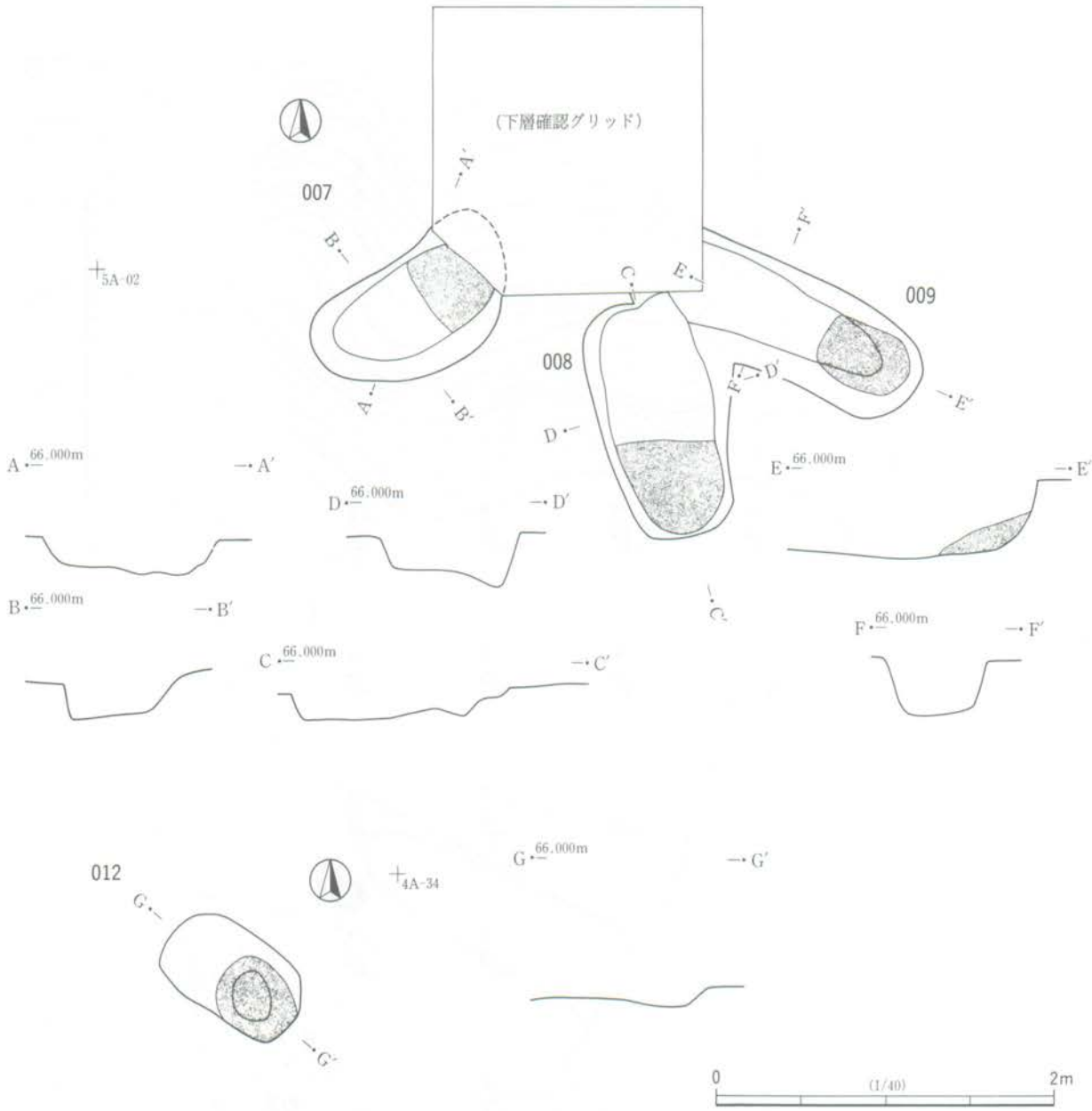
帰属時期については，土器が検出されず，不明確である。

002（第56図，図版６・30）

1G-12グリッド付近に位置する。001号のように，掘込みは検出されず，礫が狭い範囲ではあるが，散漫に分布している。しかし，北側の部分には10点の礫が，径60cmの範囲に標高をほぼ同じくして集中してい



第53図　上層検出遺構配置



第54図　炉穴

る。この部分が本来の中心であり，他の礫は何らかの要因で流失したものと考えることもできる。標高がややばらつくことも，その考えを補強するであろう。礫は周辺のものを含めて，37点検出された。砂岩が主体となり，チャートがこれに次ぐ。平均質量は，93.75gであるが，質量分布にはばらつきが見られ，50g以下のものが最も多い。主体となる砂岩及びチャートの平均質量は，それぞれ101.11g，73.11gである。赤化率は74%，破損率は83%といずれも高い数値を示している。なお，破損礫の赤化率は，76%（22点）であり，本遺構の礫については，この2属性が強い相関を持つ。

遺物は，メノウ製の剥片1点が検出された（第14表）。横断面が三角形である縦長の小型剥片であるが，主剥離面の打点は見られず，剥離時の衝撃で弾けてしまったものと考えられる。質量は1.10gである。

帰属時期については，明確に伴う土器が検出されず，不明である。

005（第57・58図，図版６・30）

5C-12・22グリッドに位置する。明確な掘込みは検出されなかったが，5C-22杭の南側約１ｍの地点を中心として，径２ｍの範囲内に約800点の礫が集中する。第57図に図示した範囲も含めると，礫939点，石器類４点，縄文土器片９点が検出された。礫及び遺物の垂直分布は，10cm～15cmの範囲に集中し，皿状堆積の様相が読みとれる。

礫は，チャート及び砂岩が主体を占め，頁岩及び凝灰岩等がこれに次ぐ。石材不明分51点を除いた赤化率及び破損率は，それぞれ42％，68％である。つまり，本遺構では，礫の赤化と破損の相関が，さほど強くないことが読みとれる。また，赤化礫が全体の半数を割る点は，001号及び002号と大きく異なる。質量を見ると，１ｇ～50ｇの小礫が全体の70％を占める。平均質量は36.77ｇであるが，１ｇ～10ｇの極小礫が群を抜いて多い。

遺物は，土器片３点及び石器類２点を図示した（第58図１～５）。１～３は早期の無文土器である。同一個体の可能性がある。厚さは７㎜前後であり，薄手の製作と判断できる。外面は，ケズリの後にナデ調整され，平滑である。内面はナデ調整されるが，やや器表面が荒れるため，詳細は不明である。胎土は，砂粒を多く含む。白色粒子（径0.5㎜）及び骨針状物質も少量含んでいる。色調は，外面が暗褐色～暗黄灰褐色，内面が暗褐色～極暗褐色である。型式比定については，無文土器のため困難であるが，記した製作的特徴から，いわゆる撚糸文土器終末期（稲荷台式以降）の資料と考えられる。なお，図示しなかった資料についても同様である。４は，敲石ないし切目石錘である。図上部中央に敲打によって，凹みが形成されている。対して，下部には敲打痕が数か所見られる程度である。果たして石錘のように，上下の切目を形成しようと意図したものか，不明である。敲打の結果として形成された凹みの可能性も考えられる。質量は98.19ｇである。５は磨石・敲石である。図背面側の敲打は，一か所に集中的に行われ，円形に近い凹みが形成される。腹面側にも，敲打が認められるが，さほど顕著なものではない。また，側面に磨痕も認められる。質量は323.16ｇである。また，図示しなかったが，黒曜石製及び凝灰岩製の剝片が，各１点検出された（第14表）。

本遺構の時期は，出土土器から早期初頭（稲荷台式以降のいわゆる撚糸文土器期）と考えられる。

３　遺構外出土遺物（第59～73図，第13・15表，図版22～29・31・32）

（１）土器（第59～66図，第13表，図版22～29）

本遺跡では，早期初頭から晩期後半にかけての土器が検出された。時期が複数期にわたることから，本報告では，時期別に以下のような「群」を設定した。

第Ⅰ群　早期の撚糸文土器（稲荷台式）

第Ⅱ群　早期の三戸式及び田戸下層式土器

第Ⅲ群　胎土に繊維を含む早期後半期の土器（田戸上層式終末期～子母口式）

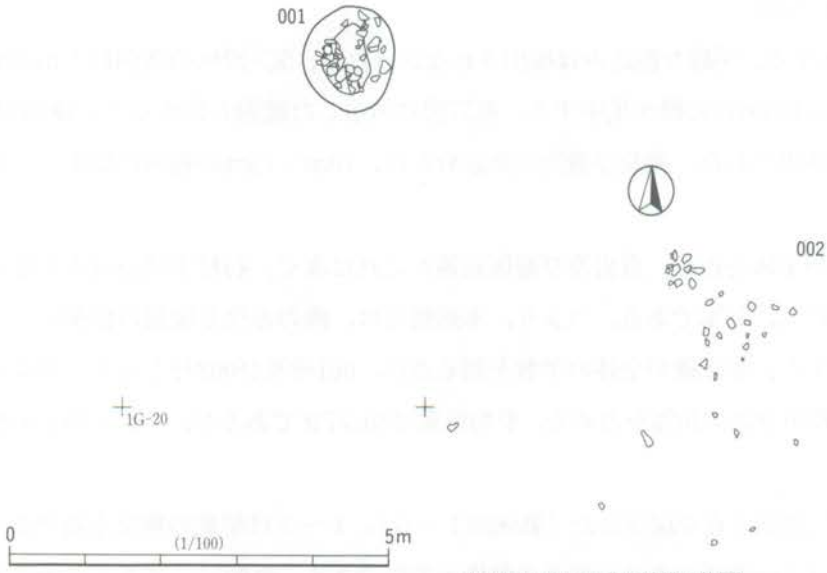
第Ⅳ群　前期後半期の土器（浮島式・興津式・諸磯式等）

第Ⅴ群　中期前半期の土器（阿玉台式・新道式）

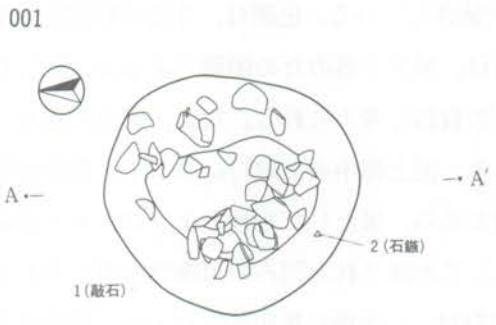
第Ⅵ群　中期後半期の土器（加曽利Ｅ式）

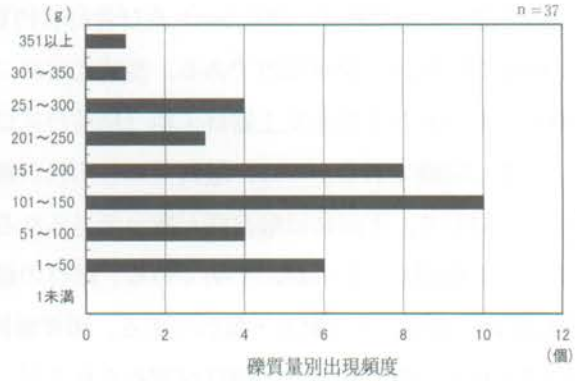
第Ⅶ群　晩期後半期の土器（荒海式併行）

なお，各群内において，文様等が多様な場合は，さらに「類」及び「種」を設定した。

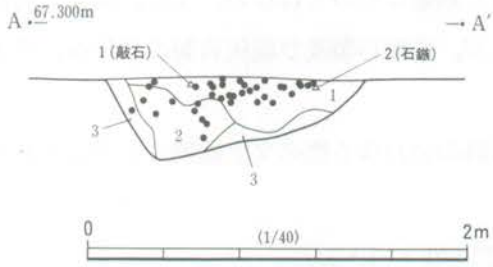


(001号及び002号集石遺構の位置)

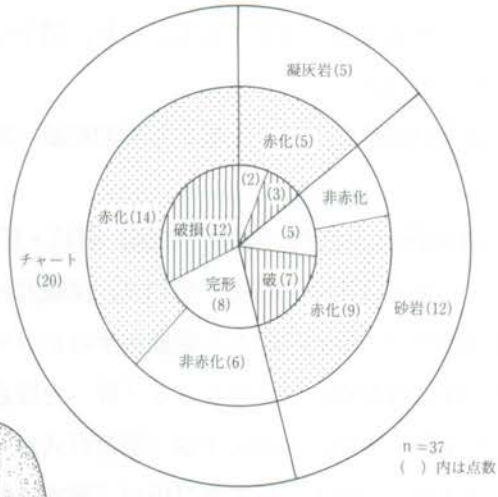




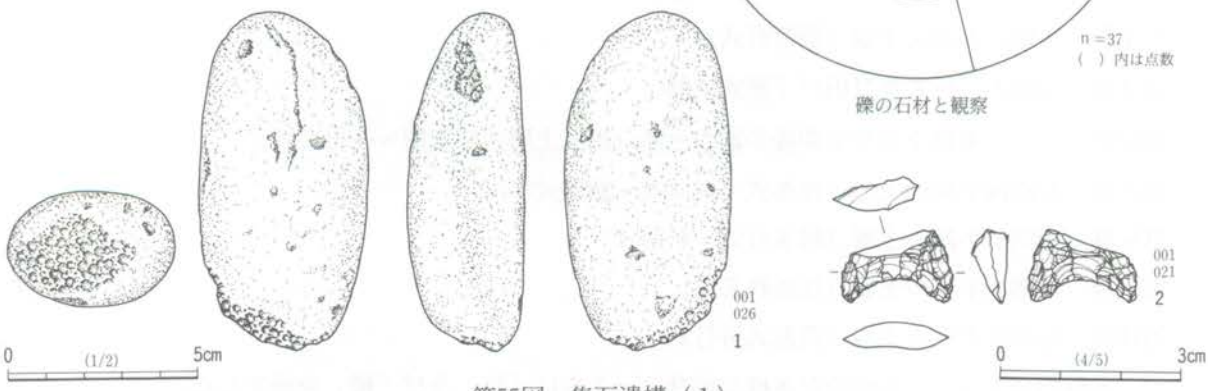
礫質量別出現頻度



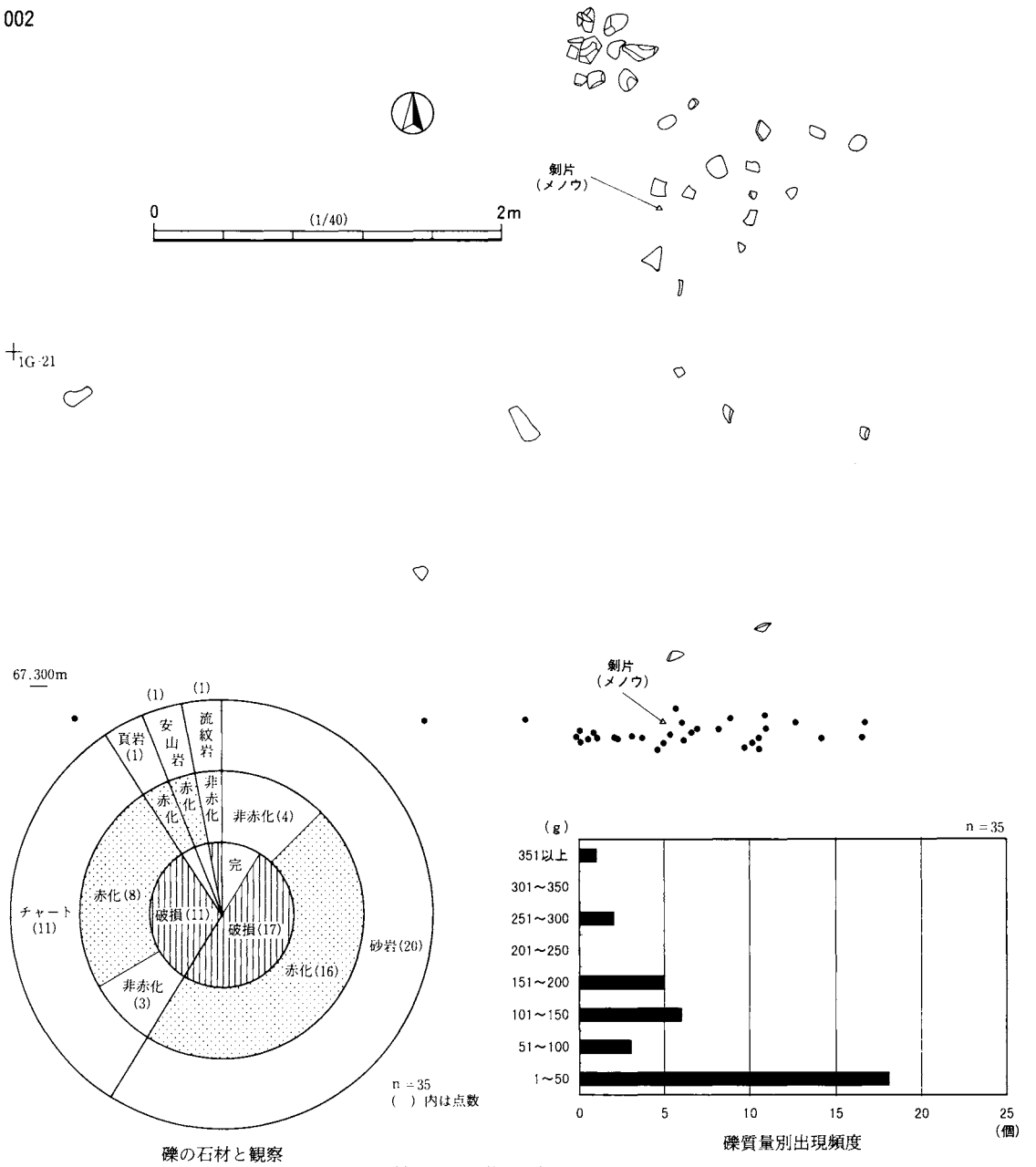
1．暗褐色土　ごく微粒の炭化粒子を含む。しまり・粘性なし。
2．暗褐色土　1層と3層の中間層。1層よりもソフトローム粒を多く含み、色調はやや明るい。1層同様若干の炭化物粒を含む。
3．明褐色土　ソフトロームを基本とし，上部の暗褐色土粒を含む。ソフトロームは斑点状。炭化物粒は見られない。



礫の石材と観察



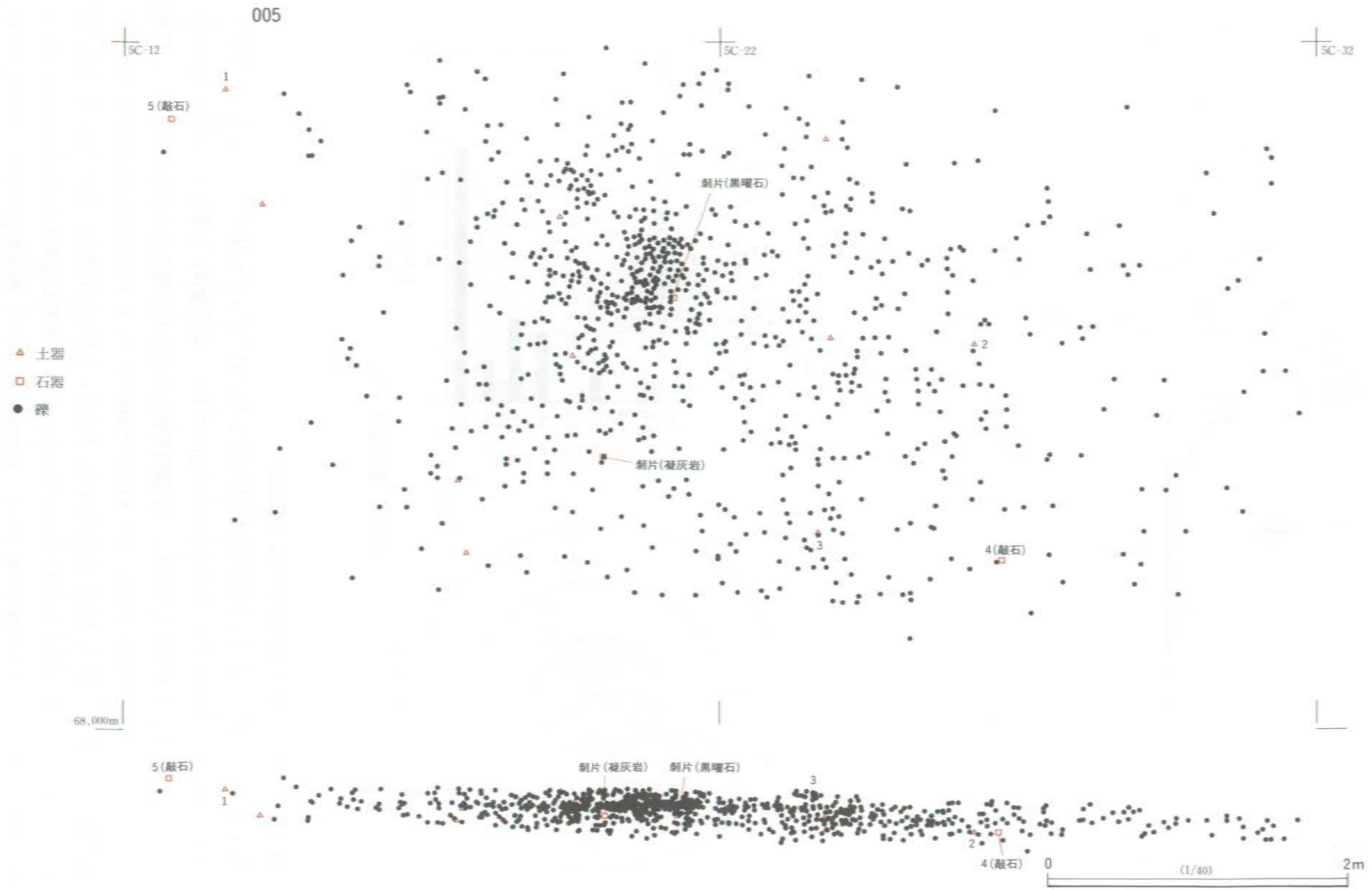
第55図　集石遺構（1）



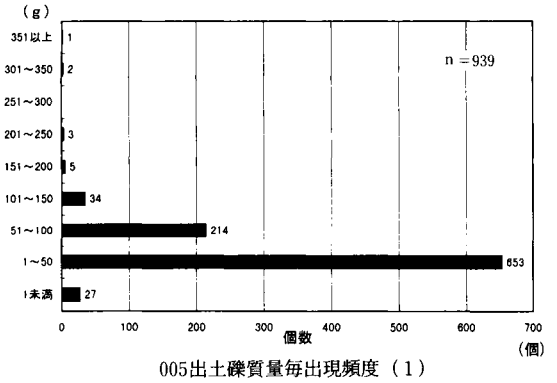
第56図　集石遺構（2）

第Ⅰ群土器（撚糸文土器：第59図1～26，図版22）

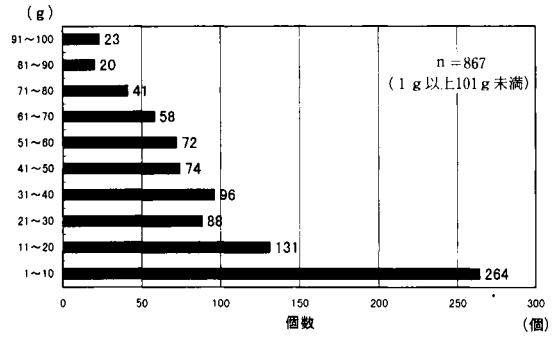
第Ⅰ群土器は，97点検出された。調査区全体に分布するが，4Bグリッド～5Bグリッドにかけて集中する傾向がある（第13表）。本報告では，26点を図示した。いずれも，器表面は，丁寧なナデ調整が施され平滑である。また，口唇部は丁寧なケズリの後，ナデ調整が施されている。胎土には砂粒を多く含み，焼成は良好である。1～8は口縁部破片である。1～4は同一個体である。わずかに肥厚する口縁部の付近から，やや条の間隔のあく撚糸文Rが，縦位に施文される。さらに，口縁部から胴部にかけては，施文後に部分的なナデが加えられ，一部の撚糸文が磨り消されている。5は，口唇部にも撚糸文Rが施されている。6・7は同一個体である。撚糸文Rが施文されている。口縁部は肥厚せず，断面形状が単純な丸棒状である。しかし，7を見ると口縁部内面に指頭による押圧が施されており，やや尖唇気味になる部分もある。8は，


005
5C-12
5C-22
5C-32
1
5(敲石)
剝片(黒曜石)
2
剝片(凝灰岩)
3
4(敲石)
土器
石器
礫
68.000m
5(敲石)
1
剝片(凝灰岩)
剝片(黒曜石)
3
2
4(敲石)
0
(1/40)
2m

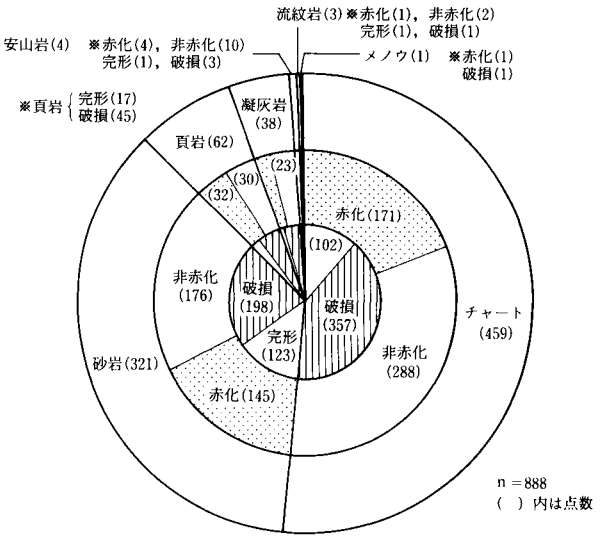
第57図　集石遺構（3）



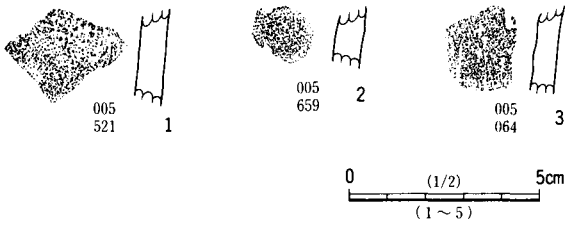
005出土礫質量毎出現頻度（1）

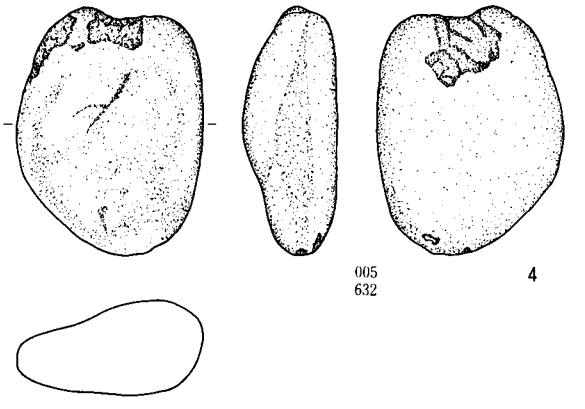


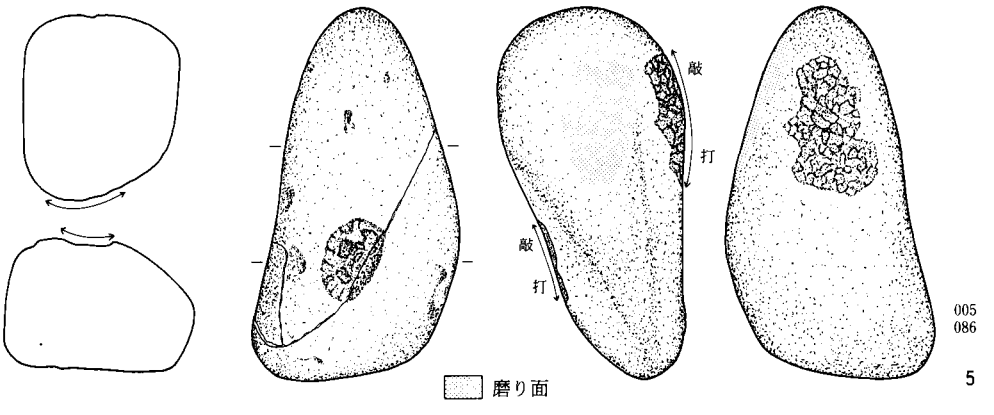
005出土礫質量毎出現頻度（2）



005出土礫の石材と観察
※石材不明分51点を除く







第58図　集石遺構（4）※005出土礫及び遺物

比較的密な条の撚糸文Rが施文されている。だが，やはり施文後にナデが加えられ，破片の右側部分の撚糸文は，ほぼ完全に磨り消されている。9・10・12～24は，撚糸文Rが施文される胴部破片である。9・10・13は同一個体である。条が深く施文される。使用のためか，内面は黒褐色である。12・14・20・21・24・25は同一個体である。施文後の磨り消しも確認でき，先に記した1～4と同一個体の可能性もある。16・23は同一個体である。撚糸文の節は大きめで，回転も重なっているなど，全体に施文が粗い。11は撚糸文1が施文される胴部破片である。26はいわゆる砲弾形の底部である。

以上の資料の特徴は，5の口唇部施文は異質であるが，おおむね稲荷台式に比定されるものである。

第II群土器（三戸式及び田戸下層式土器：第59図27～29・43・44，図版22）

第II群土器は5点出土し，本報告では全点を図示した。28・29は三戸式土器であり，同一個体の可能性がある。外面には横位の浅い条痕が施される。内面には非常に丁寧なナデ調整が加えられ，器表面は平滑で光沢を持つ。胎土は，白色粒及び砂粒を多く含む。焼成は良好で，色調は黄灰褐色～明褐色である。27は田戸下層式土器である。横位の集合太沈線文が，施文される。器面には，ススタール状物質）の付着が見られる。なお，胎土及び付着部が類似することから，44の尖底部が同一個体である可能性もある。43は，外底面を欠損しているが，44とほぼ同一の形態であると思われる。外面は。縦方向のケズリが施された後，ナデ調整が加えられる。

第III群土器（胎土に繊維を含む早期後半期の土器：第59図30～42・45，図版22）

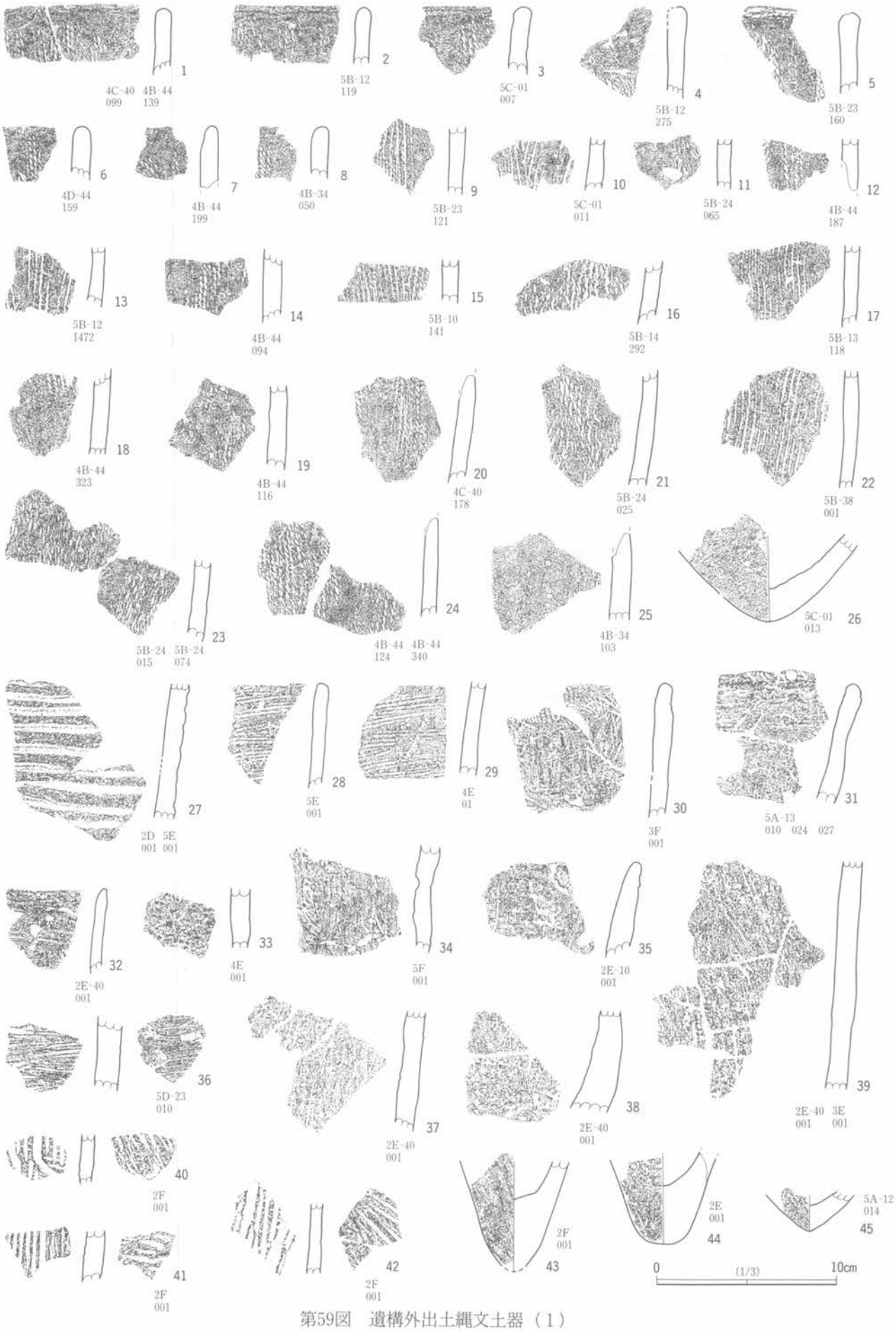
第III群土器は，135点検出された。調査区全体に分布するが，2E-40グリッドから集中して検出されている（第13表）。本報告では，14点を図示した。

30～39・45は，文様に乏しく，擦痕を主とする器面調整が施されるもので，田戸上層式終末期から子母口式にかけての資料と考えられる。30は口縁部に，放射肋のある貝殻の殻頂部を利用した，いわゆる「貝殻背圧痕」が施文される。器面には，内外面とも粗い擦痕が施されている。31・32は無文の口縁部破片である。31の口唇部には，図左側から順に，幅4㎜程度のヘラ状工具による横位の刻み，同工具による擦痕状のケズリ，丸棒状工具腹面による縦位の押圧，ヘラ状工具による斜位の刻みが，いずれも浅く施されている。32は口縁部付近に，径5㎜ほどの凹みが見られる。深さは1.5㎜ほどで，断面形は皿状である。文様を意図したものかは不明である。33の胎土中の繊維は微量である。焼成は良好で，色調はにぶい黄燈色である。34は胎土に繊維を大量に含み，特に内面の荒れが著しい。35・37～39は同一個体である。調整は，口縁部付近がナデ，胴部以下は縦方向の擦痕が施される。口縁部内面は，丁寧なナデが施され，平滑である。胴部以下の内面は，やや荒れている。焼成は良好で，色調は外面が暗褐色～褐色，内面が暗褐色である。36は外面に横位の浅い条痕，内面に横位の擦痕が施される。焼成は非常に良好で，堅致である。45は底部破片である。やや尖底状になる。

40～42は同一個体である。縦方向の集合沈線が施された後に，太沈線による曲線状の文様が施文される。内面には，条痕が施された後に，軽いナデが加えられる。なお，41は器壁の厚さから，底部に近い破片と思われる。文様から野島式に比定できる。なお，この文様は，関東地方南西部及び東海地方に分布する野島式の特徴に類似する。

第IV群土器（前期後半の土器：第60～65図46～233，図版23～28）

第IV群土器は1007点出土した。調査区全体に分布するが，特に5Dグリッド付近にまとまる傾向が見られる（第13表）。本遺跡の縄文土器の主体を占めるもので，時期的に前期後半の諸磯式土器併行期にまとまっ



第59図　遺構外出土縄文土器（1）

ている。型式的には，利根川流域を中心に分布する浮島式及び興津式系統の土器並びに関東南西部域を中心に分布する諸磯b式系統の土器が，混在する様相となっている。このような状況では，研究史上からも，明確な型式分別は困難であるといわざるを得ない。従って，本報告では文様要素を主とする分類を行うことで，本格的な型式検討の基礎資料としたい[1)]。

1類（第60・61図46～103）変形爪形文及び爪形文が，主要な文様要素となるものである。

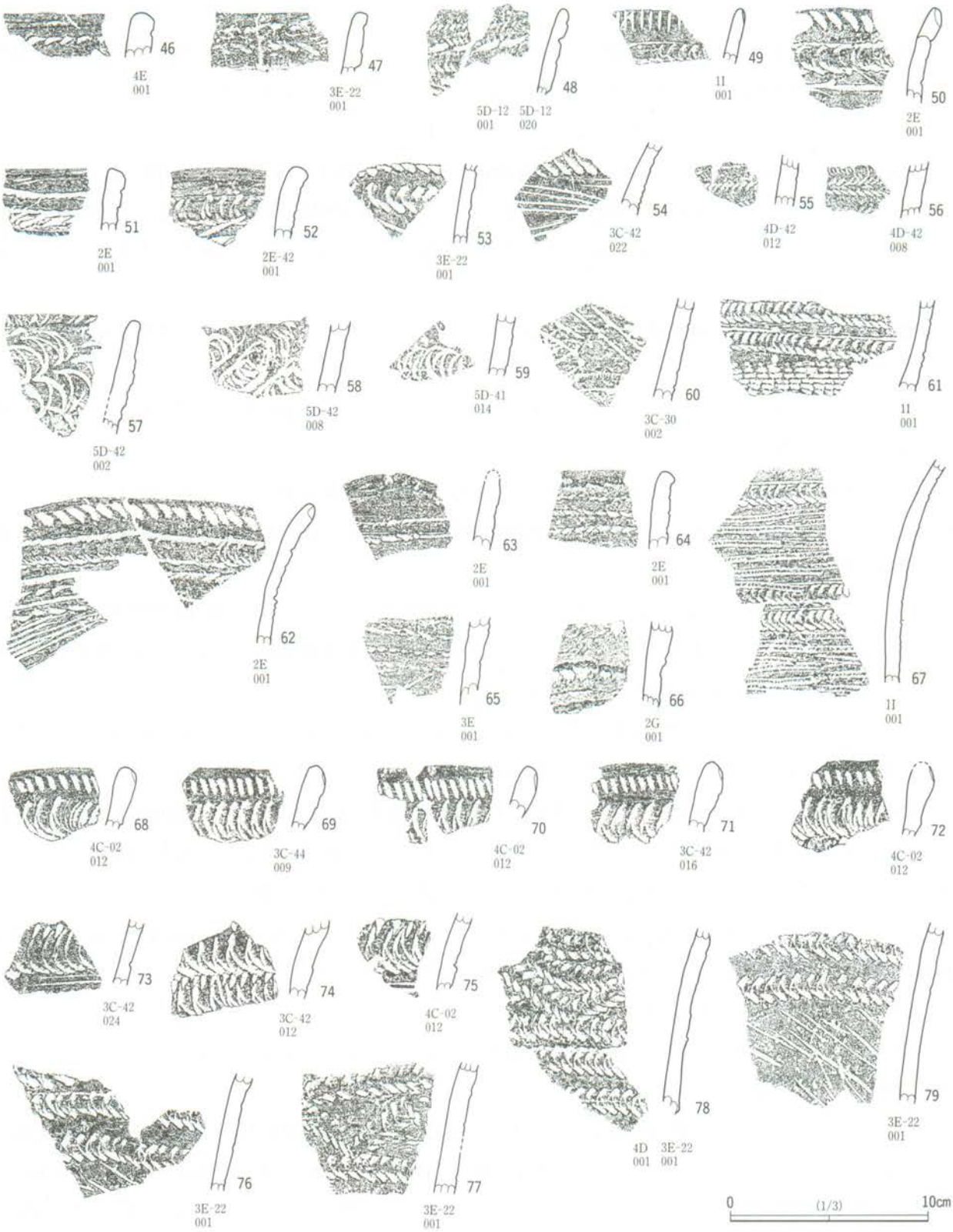
a種　46・47・55～59は変形爪形文のみで文様が構成される。47・66は，同一個体である。肥厚する口縁部に変形爪形文が施文される。また，輪積みの製作痕が残され，輪積み部に円形刺突が加えられる。55・56は同一個体である。上下で施文方向を違えた変形爪形文がみられる。57～59は同一個体である。幅広（20㎜前後）の変形爪形文で意匠が描出される。また，口唇部には斜位の刻みが施されている。

b種　48・51・52・60・61・63～65・67・80～82・89・94・99は，平行線文及び単沈線文が組合わさり，文様が構成される。48・51・52は，やや幅狭な変形爪形文が2段にわたって施文され，段間に斜位の単沈線文が見られる。48は変形爪形文の施文後に，ヘラ状工具による単沈線文が施され，破片の下端には斜位の平行線文も見られる。51・52は，最初に横位の平行線文が2段にわたって施文された後，段間に斜位の単沈線が施されてから，平行線文間に変形爪形文が充填される。60は，幾何学状構成の平行沈線文が，変形爪形文で横位区画される。61は2段の変形爪形文が施文された後に，一条の横位沈線が加えられる。また，貝殻腹縁圧痕文が，器面を充填するように施文される。63～65は同一個体，ゆるい波状口縁の個体である。口縁部付近に，数段の変形爪形文が施文されるようである。変形爪形文は，先に施した平行線文に沿って施文されるが，63の右側部分は平行線文がそのまま残されている。80～82・89は同一個体である。ゆるい波状口縁であり，口縁部は肥厚する。口縁部直下に連続爪形文が2段にわたり施文されていることが確認できる。さらに，段間には斜位の短沈線文が施文される。83・84は同一個体で，ほぼ同様の文様構成である。99は突起を有する浅鉢形土器である。口縁部は無文となり，変形爪形文が口縁部直下及び胴部に横位区画文的に配置され，間に集合沈線文による鋸歯状文様が充填される。また，さほど明確なものではないが，口縁部及び胴部の変形爪形文の上下に，帯状の朱塗を施した痕跡が認められる。胴部のものは，幅15㎜～18㎜ほどである。内面には，口縁部に沿って幅20㎜前後のものが施され，さらに底部に向かって縦位の帯状のものが幅15㎜～20㎜で施されるようである。

c種　49・50・62・68～75は，口縁部に条線帯が形成される。49は口縁部断面が尖状であり，条線帯は細い棒状工具を用いて縦位に施文される。変形爪形文は，平行沈線による区画内に施文される。50・62は同一個体である。口縁部の条線帯は，傾斜し粗雑なものである。また，変形爪形文は，平行沈線及び集合沈線の施文後に施されている。54・68～75は同一個体である。条線帯が形成される口縁部は，外削ぎ状になる。条線は，やや傾斜し，49に比すと粗雑な施文である。変形爪形文は，幅が20㎜ほどの比較的大形のものである。口縁部直下から2段にわたって施され，2段目の下端に平行沈線が施文されている。

d種　53・76～79は同一個体である。胴上半に，変形爪形文による意匠文が描出される。胴下半には，斜位の沈線文が施されている。

e種　85～88・90～93・97・98・100～103は同一個体である。上方に向かって大きく開く，波状口縁の深鉢である。変形爪形文が二段一組となり，口縁部と胴部に横位区画文的に配置される。段間には，斜位の単沈線文が加えられる。胴上半は，集合沈線文で幾何学的な構成が描出される。胴下半は，結節縄文（LR＋LR）が施文される。なお，86・88の口縁部変形爪形文をみると，下段で頂部から左側では，同工具によ



第60図　遺構外出土縄文土器（2）

る連続爪形文となっている。

f種　95は，大きく外反する口縁部に二条の平行沈線が見られ，平行沈線の間に加えられている爪形文は，器面に対して垂直に近い角度で施文されたもので，いわゆる爪形文Cである。

2類（第61図108～113）波状貝殻文が，主要な文様要素となるものである。

108は，波状の小突起を有する個体である。幅15㎜ほどの波状貝殻文が施文される。109～113は，放射肋のある貝殻を原体とした波状貝殻文が施文される。109～112は同一個体の可能性がある。貝殻腹縁の圧痕に近い形の施文である。112は，貝殻を押引き気味にして施文が行われる。また，破片の上部に三角文が見られるが，文様構成は不明である。

3類（第61・62図104～107・114～160）沈線文，平行有節線文及び平行線文が，主要な文様要素となるものである。

a種　104・105は同一個体である。撚糸文Rを地文として，横位の連続爪形文及びその上下に三本一単位の鋸歯状沈線が施文される。

b種　106・107は同一個体である。口縁部直下及び胴部中央に二条一単位の平行有節線文が施文され，胴部が上半と下半に区画される。上半には，幾何学状構成となる平行線文が充填される。下半には，まばらな撚糸文Rが施文されている。

c種　114は，浅い矢羽状の沈線が施文されているが，明確なものでなく，詳細は不明である。115は，細い棒状工具による沈線が4本から5本集合し，円形及び鋸歯状の文様構成が描出される。施文は，極めて粗雑なものであり，沈線間の幅も一定ではない。

d種　116～120はまばらな沈線文が，横位，縦位及び斜位に施文されるものである。116・118は半截竹管，120は三本一単位の工具を用いている。117・119は棒状工具で，一本ずつ施文される。

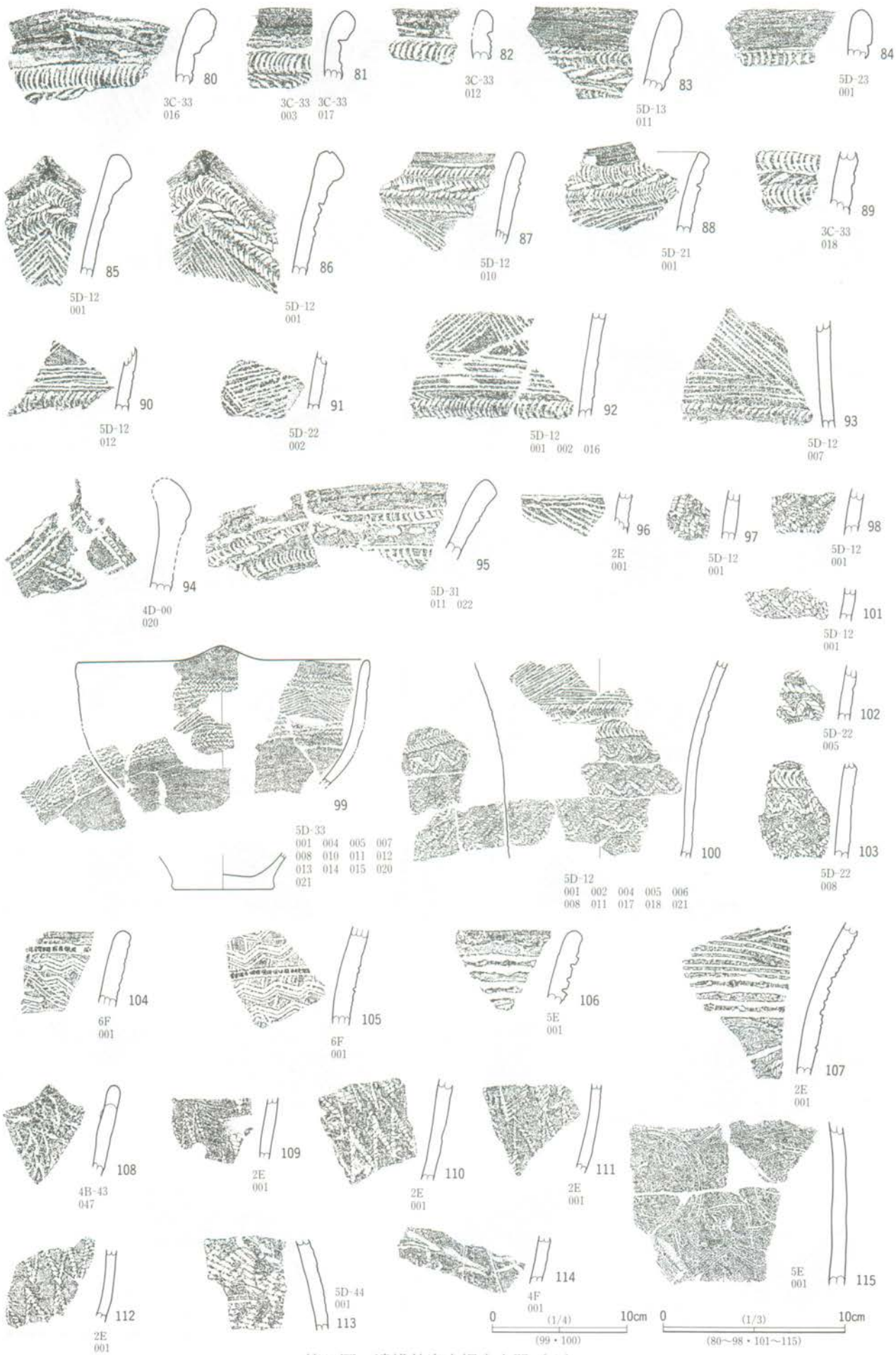
e種　121～130は，地文が無文で，平行線文により文様が構成されるものである。126のみ3本一単位の工具が用いられ，他は半截竹管によるものである。121・122は同一個体である。区画内に曲線状の文様が施文される。127は製作時の指頭圧痕が顕著に残り，平行沈線の下は隆線が施される。また，尖状の口唇部には刻みが施される。128は，口縁部に輪積みの痕跡が一段残されている。段の上部は隆線状に盛り上がり，刺突がまばらに加えられている。129・130は，平行線文が幾何学状に施文される。さらに，129には円形刺突，130には変形爪形文が加えられている。

f種　131～140は，地文に撚糸文が施文され，平行線文により文様が構成されるものである。132～137は，曲線状の文様が施文されている。

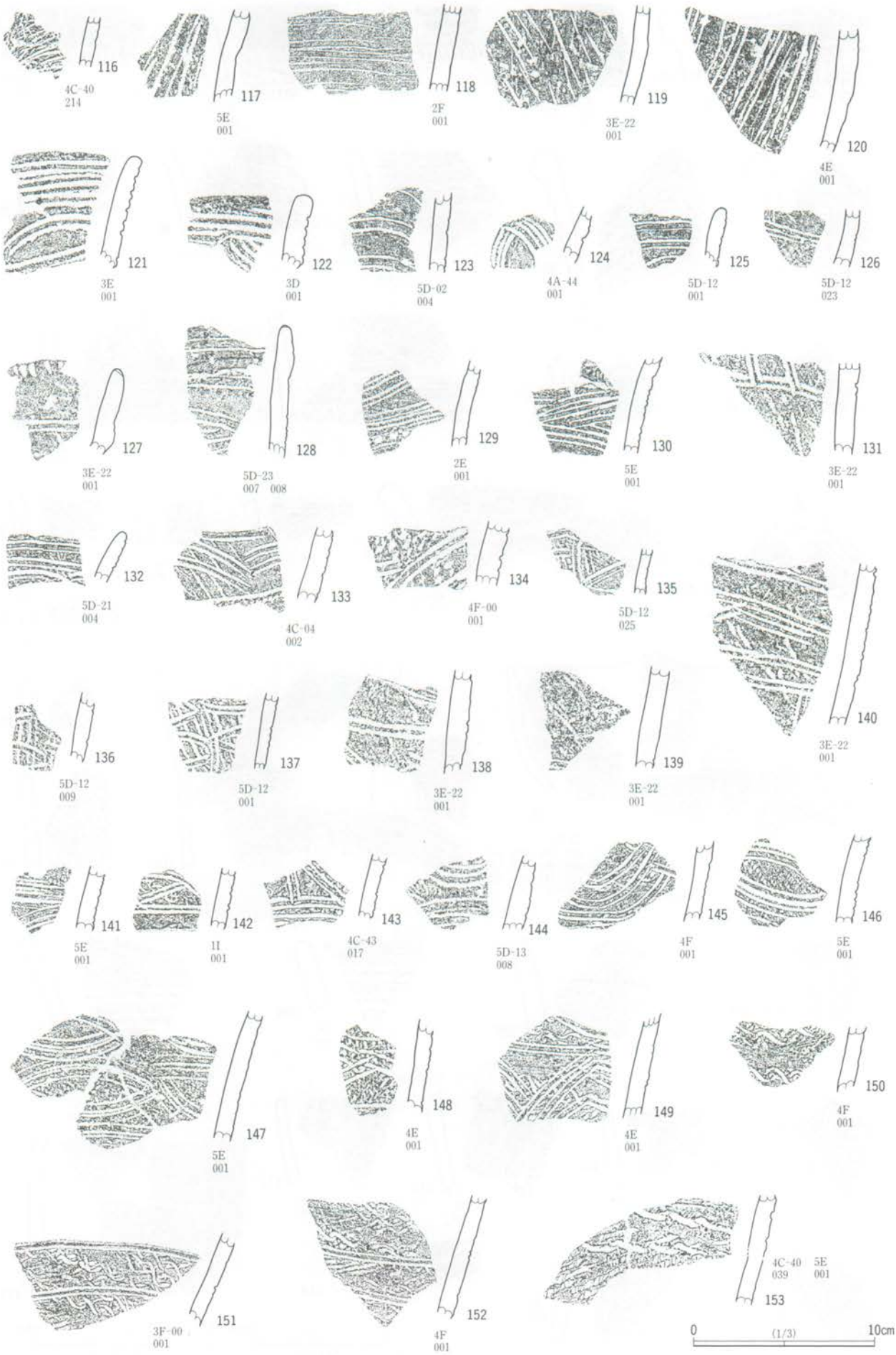
g種　141～160は，地文に縄文が施文され，平行線文により文様が構成される。いずれも平行線文は，半截竹管を用いたものである。141～143・148は，幾何学状の文様が施文される。144～147・154～160は，曲線状の文様が施文される。146・147は，いわゆる木の葉状文が描出されている。154～160は同一個体である。胴上半が大きく開く深鉢形土器であると思われる。口縁部及び胴部中央が横位平行線文で区画され，間に木の葉状文が施文される。胴部中央の平行線文上には，部分的に爪形文が施文されている。胴部下半は地文の縄文RLのみで，無文である。149～153は，地文に結節縄文が施文される。149は鋸歯状，151・152は横位の平行線文が，施文されている。

4類（第63図161～169）爪形文が，主要な文様要素となるものである。

161～163・168は同一個体である。曲線状の連続爪形文が，器面全面に施文される。連続爪形文の間には，



第61図　遺構外出土縄文土器（3）



第62図　遺構外出土縄文土器（4）

凹面状の円形刺突文が規則的に施文される。164は，半截竹管による平行線文を施文後，同工具による連続爪形文が加えられる。爪形文は原体をやや傾けて施文されるため，三角文状になる部分が見られる。166は半截竹管による平行線文に，爪形文が加えられる。口唇部には，半截竹管の背面で抉るように施された，凹凸文が施文されている。

5類（第63図170）コンパス文が，主要な文様要素となるものである。

170は，幅広（17㎜前後）の原体により，コンパス文が施文される。胎土には砂粒を多く含む。焼成が悪く，器表面は風化が激しい。そのため，文様も痕跡程度である。

6類（第63図171～173）浮線文が，主要な文様要素となるものである。

171・173の浮線文上には縄文，172には斜位の刻みがそれぞれ施される。胎土は砂粒を多く含むが，長石粒（径2㎜～5㎜）が多く見られる点が特徴的である。

7類（第64図174～193）波状の櫛歯文が，主要な文様要素となるものである。

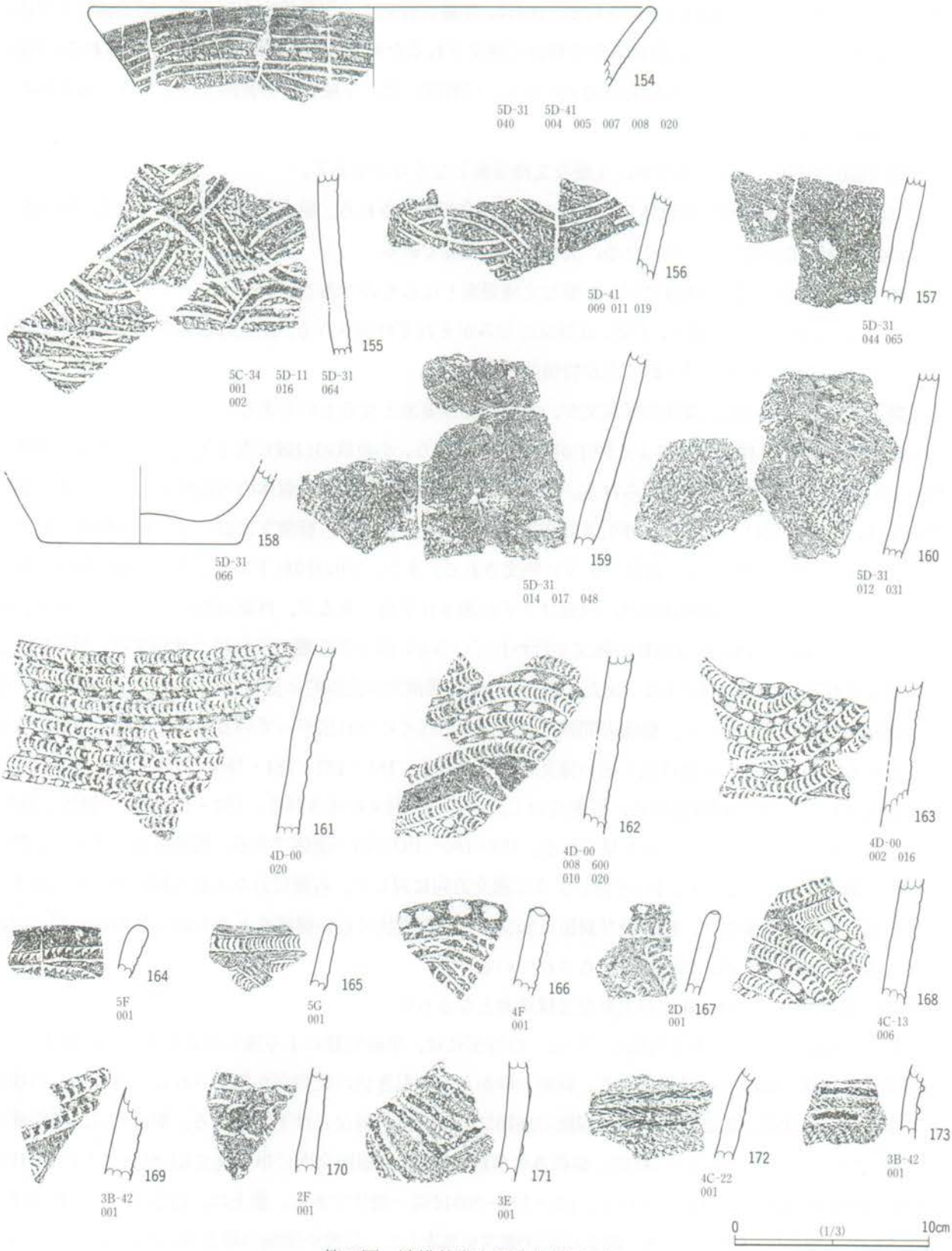
174は，口唇部に丸棒状工具による押圧が加えられており，小波状の口縁になるものと思われる。波状の櫛歯文の他に，斜位の単沈線が見られる。175・177・179・180は，同一個体の可能性がある。四本一組の櫛歯文は，小さく波打つように，押引き気味に施文される。さらに，櫛歯文に沿って，細い棒状工具による有節沈線文が，やはり小さく波打つように施文される。また，180の図右下には，さらに細い棒状工具による押引文が見られる。器面調整は，内面はナデが施され平滑であるが，外面は粗いナデのみであり，器面には凹凸が残る。176もほぼ同様の施文が行われているが，図上部の櫛歯文に沿う沈線文は，弧を描くように施文される点が特徴的である。また，図下部には，櫛歯文が曲線的に施文されている。178は五本一単位の櫛歯文が用いられている。櫛歯の間隔は，図の右に行くにつれ広がっている。施文の際，右側により力を入れる傾向があり，左側は浅く細い施文となっている。181・182・184・185は波状の櫛歯文のみで文様が構成される。181の口縁部には，櫛歯文の工具による押引文が施される。184・185は同一個体である。櫛歯文は，縦位に施文されるものも見られる。183・186～193は同一個体である。櫛歯文は七本組で，押引き気味に施文される。しかし，176と同じように施文方向に対して，右側に力を入れる傾向があり，深さにむらが見られる。櫛歯文は，横位及び斜位に施文され，鋸歯状に近い構成をとるものと思われるが，口縁部に二本～三本集合する，単沈線が巡らされている。

8類（第64図194～204）縄文が主要な文様要素となるもの

194は，外面口端部の大半を欠損している。口唇部には，半截竹管による浅い刻みがまばらに施される。口縁部には，幅7㎜ほどの竹管による，斜め方向からの押引き状の刺突文が施文される。さらに，口端部より垂下する短沈線が確認できるが，器面の破損により原体の幅などは不明である。胴部には，単節縄文LRが施文されている。195は，口縁部に輪積みの痕跡が残され，器面全面に単節縄文RLが施文される。196・197は，単節縄文LRのみが施文される。198・199・203は同一個体である。胎土は，白色スコリア粒（径3㎜～5㎜）を特徴的に含んでいる。縄文は羽状構成を基本とし，結節や閉端の環部分の回転などが見られ，数種類の原体を用いていると思われる。200は，単節縄文RLのみが施文される。201は，単節縄文LR及び無節縄文Rを組み合わせることで，羽状構成が描出される。202は単節縄文LRが全面に施され，円状の刺突文が施文されている。204は結節縄文が施文される。

9類（第64図205～215）無文のものを一括した。

205～211は，外面がナデ及びケズリにより丁寧に調整される。内面は，いずれも丁寧なナデにより平滑



第63図　遺構外出土縄文土器（5）

である。209～211は，ケズリの際の砂粒移動が激しく，擦痕状の器面となる。212～215の外面は，ナデ調整される。213の内面は縦方向の擦痕が施される。216は，外面に縦方向の浅い擦痕が施される。内面には，丁寧なケズリ及びナデが施され，器面は平滑で光沢を持つ。

10類（第64図216～218）底部を一括した。

217は底面との接合部で，破損している。底面付近が，やや外側へ張り出す器形である。218は，縄文RLが施される。底面付近は，やや外側へ張り出している。219の外面は，丁寧にナデ調整され，器面は平滑で光沢を持つ。内面は，粗いナデが施される。

11類（第65図219～233）諸磯ｃ式（新段階）以降の前期末葉の土器を一括した。なお，本類のみ第II群中で，時期差を考慮した分類を行った。本来は，独立した群を設けるべきものであるが，７類～10類との明確な分別ができないため，第II群に含めることとした。

ａ種　219～221は口縁部付近に三角形の彫込み状の文様が施される。219は，粘土の貼付けによって口縁部を肥厚させ，鋸歯状に粘土を取り除くことによって，三角形状の彫込み文様を描出する。彫込みの内部から胴部にかけては，縦位の条線が施文されている。220は，口縁部の輪積み痕が残される。口縁部の残存はごく一部であるが，輪積み痕から波状口縁と推定される。二段目の輪積み痕の部分には，三角形の彫込み状の文様が施される。221は，口縁部の下部が肥厚し，下端に三角形の彫込み状の文様が施される。施文に際しては，ヘラ状の工具で深く切り込むように作出している。この下には，櫛歯文及び棒状工具による押引文による，波状文様が施文される。この文様は第II群７類のものによく類似する。口唇部は尖状となり，半截竹管による刻みが施される。

ｂ種　222は縄文の原体圧痕が施文される。口縁部付近には，横位の波状貝殻文（幅20㎜前後）が施される。他にも凹凸が多く見られるが，器表面が荒れているため，これらの詳細は不明である。また，口縁部は，図中央部のみが残存し，両側が波状に欠損している。割れ面の状態から，この欠損は人為的な打欠の可能性もある。

ｃ種　223は大きく屈曲する部分の破片であり，平行沈線文が施されている。平行沈線文は，横位及び曲線状に施文されるが，全体の文様は不明である。また，器面は，使用に伴う二次焼成のため，激しく荒れている。胎土は，白色スコリア粒を多く含んでいる。

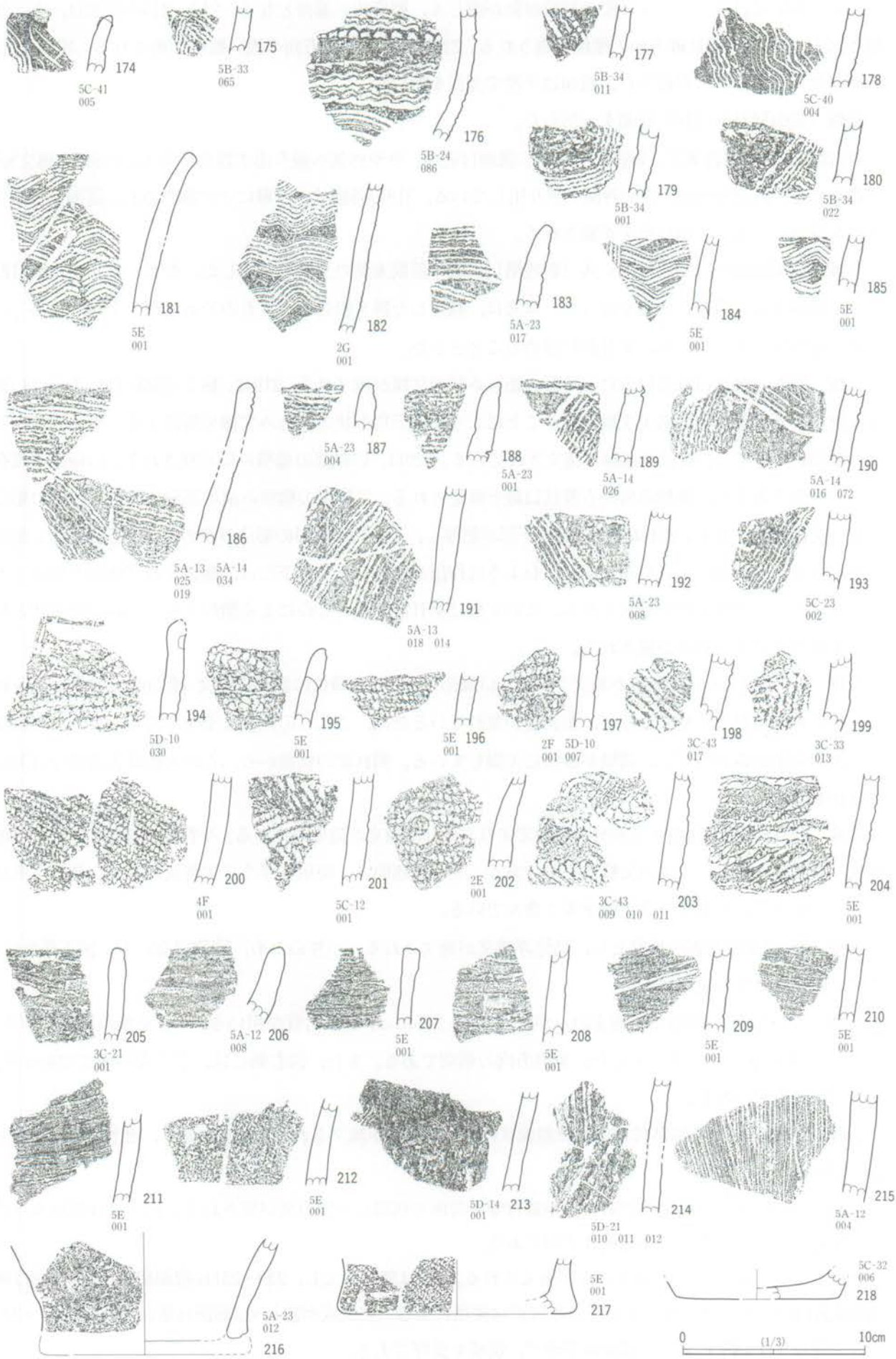
ｄ種　224は集合沈線を地文とし，結節浮線文が施文される。小片のため，明確でないが，図下端には，ボタン状貼付け文も見られる。

ｅ種　225・233は，器面に爪形文のみが見られる。225には，細い竹管が用いられ，ごく浅い施文である。対して，233は深くしっかりとした，垂直方向の刺突である。また，図右側には，ごく浅い施文であるが，波状貝殻文も見られる。

ｆ種　226は，ボタン状貼付け文及び曲線状の平行沈線文が施文される。地文は無く，胎土は砂粒を多く含んでいる。

ｇ種　228・229は同一個体である。半裁竹管の背面を利用した押引文が施される。押引文は横位及び斜位に施文されているが，全体構成は不明である。

ｈ種　227・230～232は，縄文のみが施文される。227は無節縄文Ｌ，230・231は複節縄文LRL，232は複節縄文RLRが，それぞれ施文されている。227は使用による二次焼成が激しく，器面は荒れている。230～232は，丁寧なナデ調整によって器面は平滑で，焼成も良好である。



第64図　遺構外出土縄文土器（6）

第Ⅴ群土器（中期前半の土器：第65図234～256）

第Ⅴ群土器は129点出土した。5Bグリッド付近を中心に分布し，他群土器とは分布域を異にしている。

1類（第65図234～243・251～256）阿玉台式土器を一括した。いずれも胎土に金雲母を含む。

234は口縁部が隆帯で区画され，隆帯に沿って竹管による一条の押引文が施文される。区画内には，同工具による縦位沈線が充塡される。235は肥厚する口唇部外端に刻みを施し，それに沿って一条の結節沈線が施文される。その下には，波状の結節沈線が二条施されている。236は内削ぎ状の口縁部断面形態をなし，先端に刻みを施す。口縁部には曲線状の結節沈線が二条見られる。237は一条の結節沈線で，口縁部が区画され，内部に斜位の結節沈線が二条一組となって施文される。238は隆線で口縁部を区画し，一条の結節沈線が区画に沿って施文される。239は結節沈線で，意匠文が描出される。240は把手部分の破片である。尖状の口唇部に刻みが施され，口縁部に二条の結節沈線が施文される。また，屈曲の下にも波状の結節沈線が見られる。241は胴部の爪形文部分の破片である。242は，胴部の横位隆帯に沿って，一条の結節沈線が施されている。243は，胴部の横位隆帯の上部に結節沈線，下部に爪形文が施文されている。251・252は同一個体である。垂下する隆線及び横位の爪形文が施文されている。255は，口縁部付近の復元個体である。平坦な口唇部には，刻みが施される。隆帯による窓条の区画によって，器面は二分割される。さらに，双方の区画中央部には，橋状の把手が取り付けられる。把手の部分の口縁部には，小突起が見られる。区画隆帯及び把手上には，刻みが施されている。区画内部は，隆帯に沿って押引文が施文され，さらに区画内を充塡するように，対になる「く」の字状の文様が，押引文によって描出されている。胴部には，円形刺突文が地文のように施文される。また，押引文の施文も認められる。胎土は，白色スコリア粒を多く含む。256は波状口縁となり，波頂部の下に橋状把手が取り付けられる。口縁部は隆線によって横位区画される。口縁部内は，二条一組の結節沈線によって区画されている。隆線の下部には，横位の爪形文列及び波状の単沈線が施文されている。胎土は，白色スコリア粒を多く含む。

以上の資料は，おおむね阿玉台Ⅰb式に比定できる。

2類（第65図244～250）西関東～中部地方を中心に分布する新道式土器を一括した。

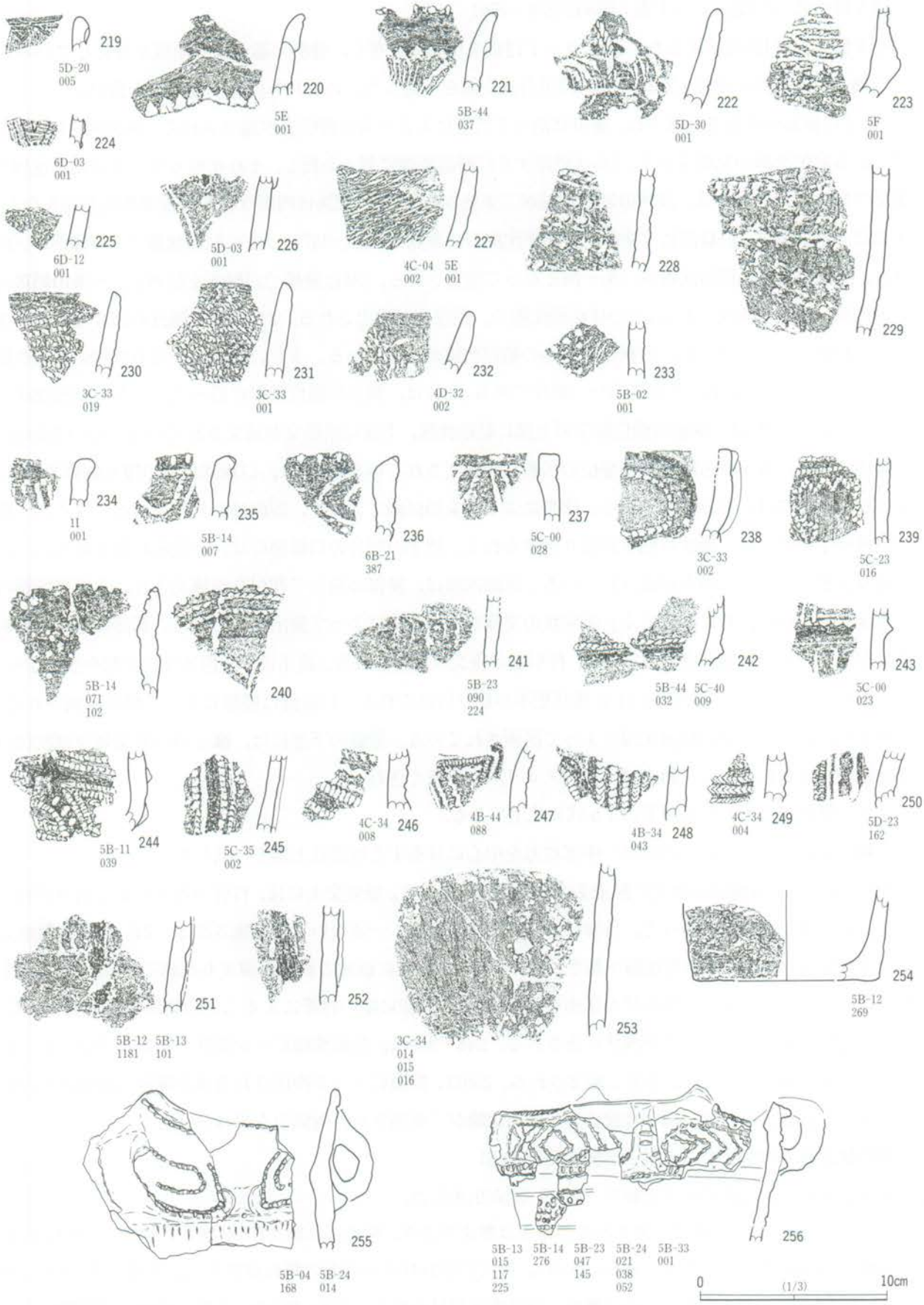
244は隆線による横位区画文と懸垂文の一部が確認できる。懸垂文上には，竹管の押圧による刻みが施されている。また，隆線に沿って，竹管による結節沈線文が，一条ないし二条施される。245・246は懸垂文の一部が見られ，同様に結節沈線が施される。また，部分的に波状の結節沈線文も確認できる。247は，半截竹管による平行沈線で三角形状の区画を作出し，その内側に細い竹管による二条の結節沈線が施される。なお，内側の結節沈線は，やや波状に施される。248・249は，結節沈線にペン先状の工具が用いられ，器面の空白部を埋めるように，多条に施文される。250は，指頭によって押圧される垂下隆線の両側に平行沈線が施文される。さらに，細い竹管による結節沈線が二条施され，内側のものは波状となる。

第Ⅵ群土器（中期後半の土器：第66図257～266）

第4群土器は，加曽利E式土器を一括し，22点出土した。

257・258は，一条の沈線で区画される口縁部は無文であり，胴部には縄文RLが施文される。259は，口縁部文様の区画が対峙する部分である。260は，無文と思われるが器面の荒れが激しく，明確ではない。261～266は胴部片で，261・262・266は磨消しの懸垂文が見られる。263・264は，文様が沈線及び隆線によって曲線的に描出される部分である。

以上の資料は，文様の特徴から，加曽利E3式土器に比定できる。



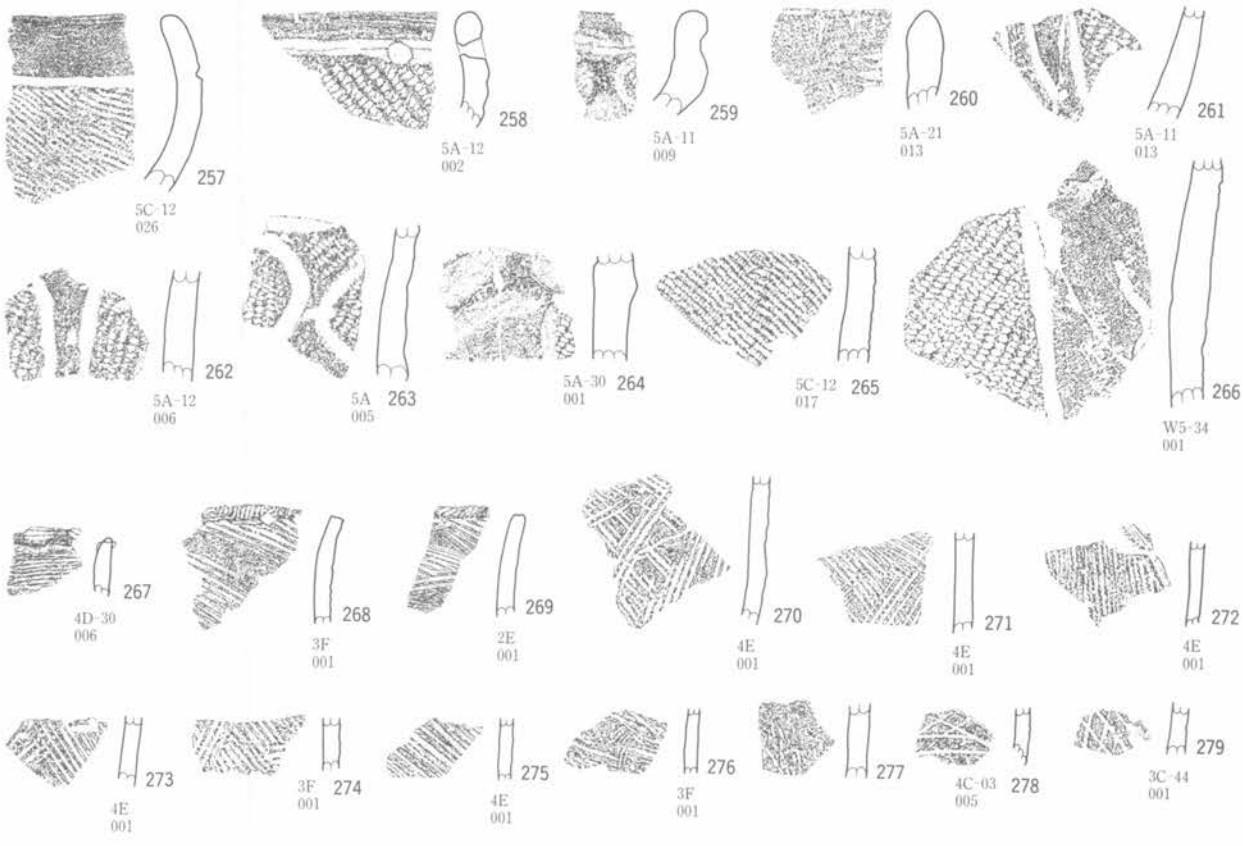
第65図　遺構外出土縄文土器（7）

第Ⅶ群土器（晩期後半の土器：第66図267～279）

晩期後半に属する土器は，14点出土した。いずれも小片ではあるが，本報告では13点を図示した。

267は，口縁部がわずかに肥厚し，横位の細かな撚糸文Rが施文される。口唇部には，絡条体の押圧が施され，連続する小波状口縁となる。なお，絡条体は押し引くように施文されるため，口唇部の押圧部分は条痕状の痕跡が残る。268～276は条痕のみが施されるものである。条痕は，斜位を基本し，270・271・273・276は，格子目状に施文されている。また，268・269の口唇部にも，条痕が施されている。277・278は，格子目状の撚糸文が施文されるものである。

以上の資料は，荒海式に伴う粗製土器と考えられる。



第66図　遺構外出土縄文土器（８）

（２）石器（第67～70図，第15表，図版31～32）

有舌尖頭器（第67図１）

１は凝灰岩製の有舌尖頭器である。先端部のみを欠損する。全体が入念に調整され，両側面は鋸歯状の形態となる。基部は，図左側には明確な抉りが作出されているが，右側は直線状となっている。

石鏃（第67図２～８）

２・３は黒曜石製で，基部の抉りが深く入り，側辺がやや丸みを帯びる。また，３の側辺は，鋸歯状となっている。４はチャート製であり，先端部及び片脚部の先端を欠損する。抉りはやや丸みを帯びるが，

第13表　調査区出土縄文土器集計表

グリッド	第Ⅰ群	第Ⅱ・Ⅲ群	第Ⅳ群	第Ⅴ群	第Ⅵ群	第Ⅶ群	合計
1G-11			1				1
1G-12			1				1
1I			13	1			14
2D-01		2					2
2D			4				4
2E-01		3				1	4
2E-10		2					2
2E-40		53					53
2E-42			2				2
2E			37				37
2F-01		8					8
2F-40		1					1
2F			8				8
2G-01				1			1
2G			6				6
3B-42			3				3
3B-44			1				1
3C-21			2				2
3C-22			1				1
3C-23			2				2
3C-30			5				5
3C-33			27	1			28
3C-34			7	2			9
3C-42			40				40
3C-43			13				13
3C-44	3		3			1	7
3D			4				4
3E-00			3				3
3E-01		1					1
3E-11		1					1
3E-22			32				32
3E-32				1			1
3E			10				10
3F-00			3				3
3F-01		4					4
3F-20			1				1
3F			1			3	4
4A-32			3				3
4A-44			2				2
4A					1		1
4B-24			1				1
4B-34	12		6	1			19
4B-42	1						1
4B-43	1		5				6
4B-44	29		3	1			33
4B			1				1
4C-00			1				1
4C-02			36				36
4C-03	3			1		1	5
4C-04			4				4
4C-13			2				2
4C-14				1			1
4C-22			2				2
4C-23				1			1
4C-24				1			1
4C-30	1			6			7
4C-32				1			1
4C-33			1	6			7
4C-34				4			4
4C-40	4		4				8
4C-41			2				2
4C-42				2			2
4C-43			2				2
4C-44				1			1
4D-00			41				41
4D-11			2				2
4D-20			1				1
4D-21			1				1
4D-30			2			2	4
4D-32			3				3
4D-41			1				1
4D-42			9				9
4D-44	1						1
4D			6				6
4E-01		11				5	16
4E			18				18
4F-00			2				2
4F-20		2					2
4F			20				20
5A-01			1				1
5A-03			1	3			4
5A-04				2			2
5A-05			1		2		3
5A-08				1			1
5A-10			2	1			3
5A-11			4	2	4		10
5A-12		1	8	2	2		13
5A-13		3	9				12
5A-14			24				24
5A-20			2				2
5A-21			3		1		4

グリッド	第Ⅰ群	第Ⅱ・Ⅲ群	第Ⅳ群	第Ⅴ群	第Ⅵ群	第Ⅶ群	合計
5A-22			2				2
5A-23			15				15
5A-24			6				6
5A-30					1		1
5A-32			1				1
5A-33			3				3
5B-02			1				1
5B-03			2				2
5B-04				1			1
5B-10	2		1	2			5
5B-11	2			1	1		4
5B-12	7		4	1	1		13
5B-13	3			9			12
5B-14	2			11			13
5B-20			4	1			5
5B-21				2			2
5B-22	1			2			3
5B-23	4		1	9			14
5B-24	9		3	8			20
5B-32	1			1			2
5B-33	1		3	2		1	7
5B-34			6	2			8
5B-38	1						1
5B-42				1			1
5B-43			1				1
5B-44	3		2	1			6
5C-00				2			2
5C-01	6			1			7
5C-03				2			2
5C-12			2	2	5		9
5C-13				3			3
5C-14			1	1			2
5C-20				1			1
5C-23			1	6			7
5C-30				2			2
5C-31				1			1
5C-32			2				2
5C-33				1			1
5C-34			4				4
5C-40			2	3			5
5C-41			2				2
5D-01			2				2
5D-02			8				8
5D-03			2				2
5D-10			26				26
5D-11			3				3
5D-12			74				74
5D-13			8				8
5D-14			5				5
5D-20			6				6
5D-21			14				14
5D-22			8				8
5D-23		2	6	1			9
5D-24			2				2
5D-30			4				4
5D-31			80				80
5D-32			1				1
5D-33			37				37
5D-34			3				3
5D-40			6				6
5D-41			25				25
5D-42			7				7
5D-43			3				3
5D-44			3				3
5E-01		4					4
5E			73				73
5F-00			2				2
5F-01		4					4
5F-12		1					1
5F			2				2
5G			3				3
6D-00			1				1
6D-01			3				3
6D-02			2				2
6D-03			1				1
6D-04			1				1
6D-11			2				2
6D-12			2				2
6D-14			3				3
6D-22			1				1
6E			1				1
6F-00			2				2
6F-01		4					4
6F			6				6
8F			3				3
W5-14				3	2		5
W5-34					1		1
表採		32	23	1			56
遺構		1	8	2	1		12
合計	97	140	1007	129	22	14	1409

明瞭なものである。側辺は直線状となっている。5は黒曜石製で，幅に対する長さの比が大きいものである。側辺は，おおむね直線状であるが，先端角を鋭角にするため，上部で内側に入っている。6は安山岩製である。小型のものであるが，基部の抉りは深く入る。全体に磨滅が激しく，稜線等の観察は不可能であった。7は，透明度の高い良質な黒曜石製である。側辺はやや丸みを帯び，完全ではないが，鋸歯状を意識した調整が行われている。8は黒曜石製の未製品である。基部を除き，ほとんと片面の加工で製作が放棄されている。

楔形石器（第67図9）

9は安山岩製で，両極剥離を行った際に産出されたものと思われる。図下端には，激しい蝶番状剥離が見られる。

削器（第67図12）

12は，原礫面を残すチャート製である。主に，両側縁を調整して長方形状に仕上げている。特に背面側右側縁には，使用痕と思われる微細剥離痕が見られる。

石核（第67図11，第68図26～28，第69図29）

11は，不純物を含む黒曜石製である。上端及び側縁部に数回の剥離の痕跡が見られるが，蝶番状剥離を起こしている所が多く見られる。その後，素材自体が切断され，図示したものは，廃棄されたものと思われる。26は，原礫面を残すチャート製である。原礫面を打点とし，素材を回転しながら剥離を行い，縦長の剥片を採取している。27はオリーブ褐色の原礫面を多く残す，頁岩製である。割れ口は緑灰色を呈する。素材に節理面が入るためか，数回の剥離を行っただけである。28は凝灰岩製である。細長い原礫を分割することにより，打面を作成し，数回の剥離が行われる。29は灰白色の頁岩製である。原礫の切断後に，縦分割するように大きな剥離面を作出し，これを打面として剥離が行われる。

使用痕ないし二次加工痕のある剥片（第67図10・12～15，第68図16・21・22，第69図25）

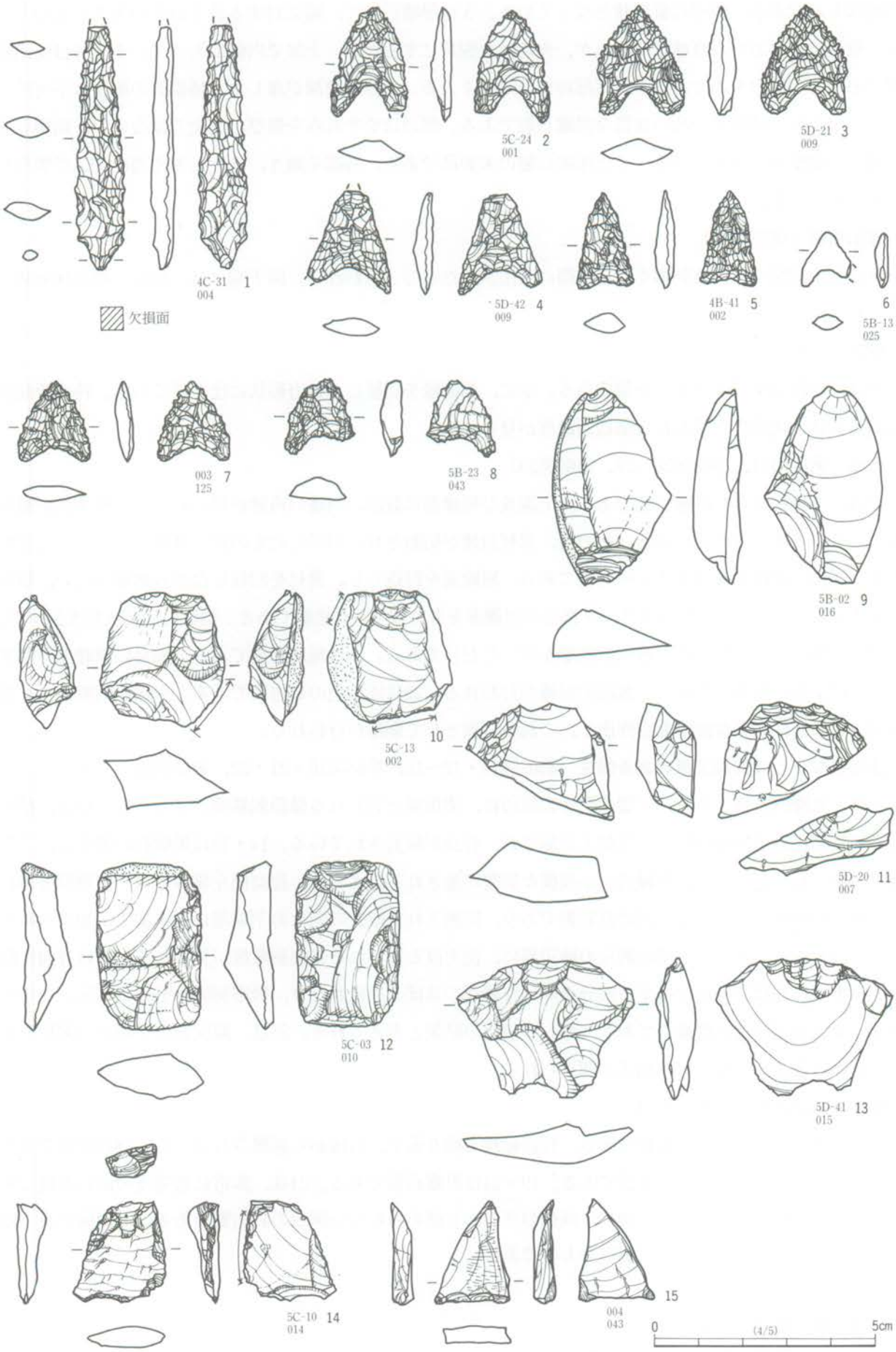
10は，原礫面を残すチャート製の剥片の縁辺に，使用痕と思われる微細剥離痕が見られる。13は，横長の砂岩製剥片の主剥離面側に二次加工が施され，打点が除去されている。14・15は黒曜石の剥片に，二次加工が施されている。14は各縁辺に小規模な剥離が施される。さらに，腹面側左側縁には，使用痕と思われる微細剥離痕が見られる。16は頁岩製であり，切断された縦長の剥片の下端部に二次加工が加えられている。21・22は，チャート製の剥片の縁辺部に，使用痕と思われる微細剥離痕が見られる。21は背面左側縁部上半に，22は原礫面に接する部分を除いた縁辺のほぼ全周にわたり，微細剥離が形成される。さらに22は，図下端部付近が磨滅しており，激しい使用の結果と考えられる。25は，凝灰岩製で縦長の剥片である。剥片の末端部付近に二次加工が認められる。

剥片（第68図17～20・23・24）

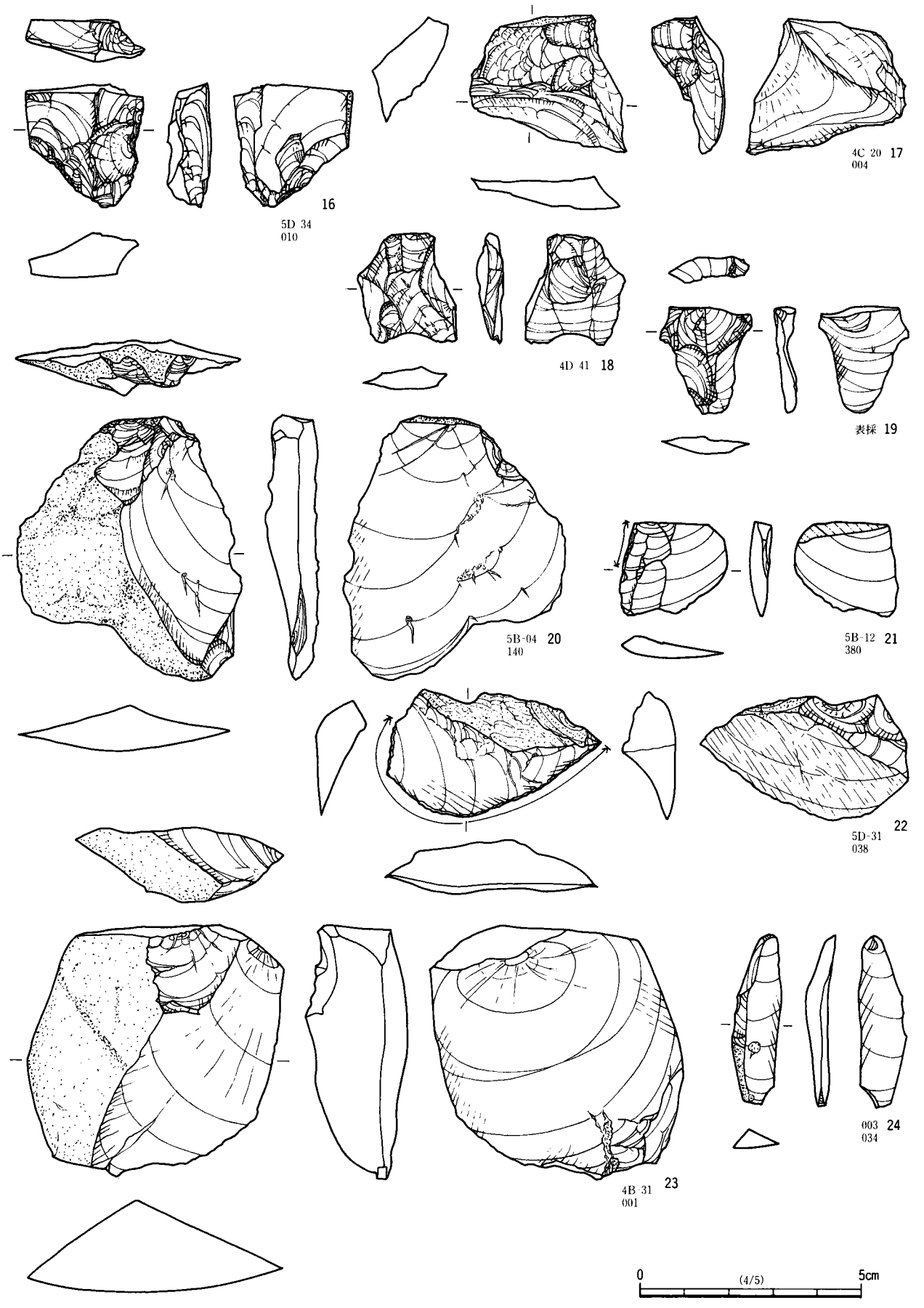
17は，灰オリーブ色の頁岩製である。打面転移を繰り返す，石核から剥離されている。18は灰色でやや透明感のある，良質なチャート製である。19・24は黒曜石製である。24は，非常に透明度の高い良質な黒曜石による，縦長剥片である。20は，珪化のほとんど認められない灰色の頁岩製である。原礫面が多く残されている。23は安山岩製で，幅広のものである。

（3）礫（第71～73図）

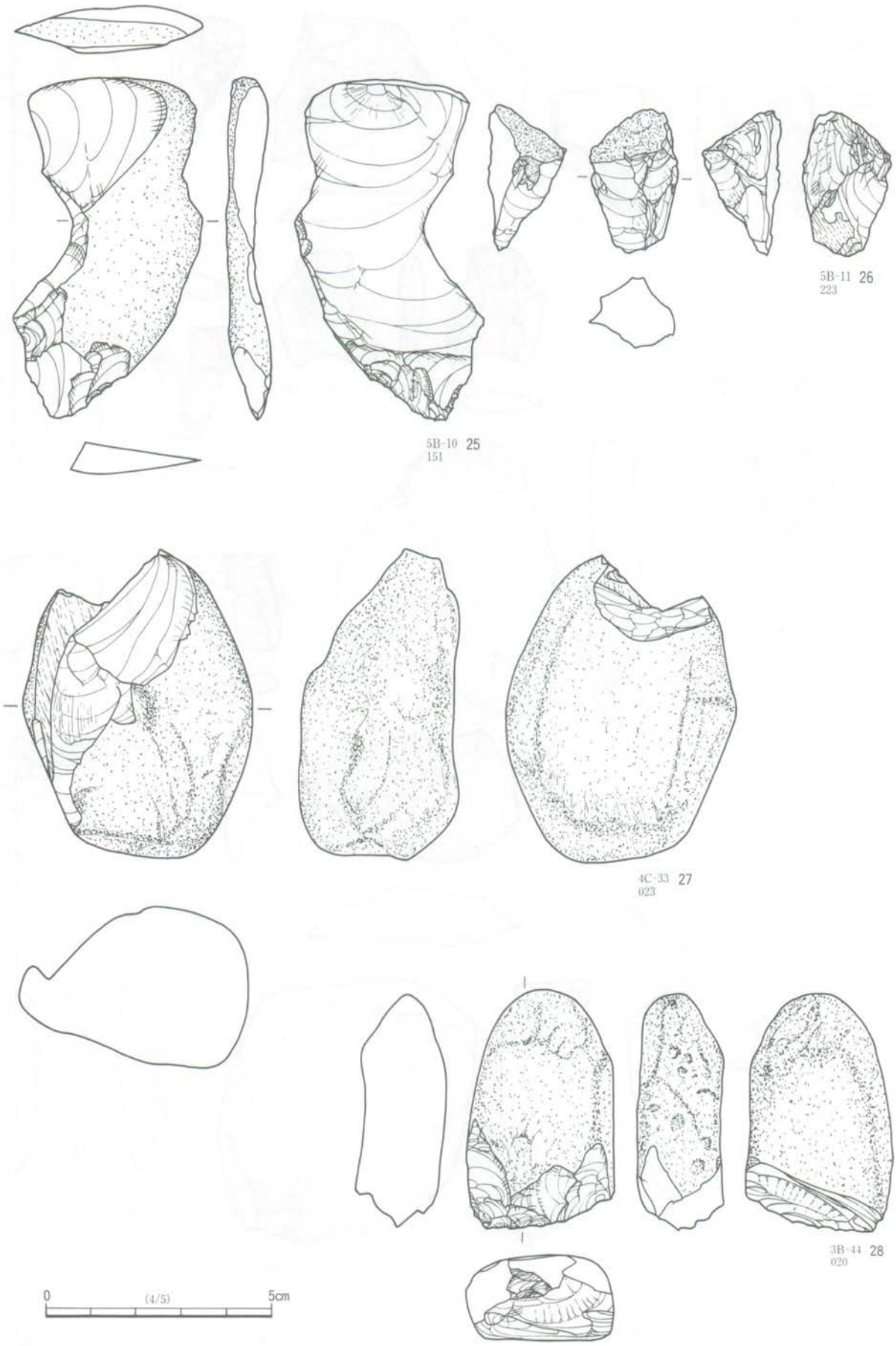
遺構外の出土礫は，南側の本調査範囲を中心として，大量に検出された。確認トレンチも含めた総出土



第67図　遺構外出土縄文時代石器（1）



第68図　遺構外出土縄文時代石器（2）



第69図　遺構外出土縄文時代石器（3）

第70図　遺構外出土縄文時代石器（4）

第14表　遺構出土縄文時代石器属性表

図No.	遺構	番号	器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	備考
1	001	026	敲石	流紋岩	88.5	44.4	31.7	177.31	
2	001	021	石鏃	メノウ	12.0	17.5	6.0	0.77	破損
4	005	632	敲石・切目石錘	流紋岩	63.9	49.5	25.6	98.19	
5	005	086	磨石・敲石	砂岩	95.8	54.8	49.3	323.16	
	005	685	剥片	黒曜石	7.1	12.2	1.8	0.14	打点あり
	005	839	剥片	凝灰岩	16.6	6.1	1.4	0.12	打点なし（折れ）

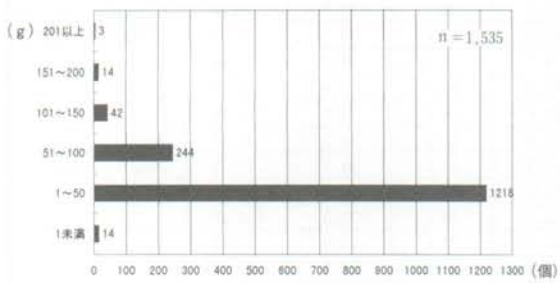
第15表　調査区出土縄文時代石器属性表

図No.	グリッド	番号		器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	備考
1	4C-31	004		有舌尖頭器	凝灰岩	51.8	11.7	6.0	2.73	
2	5C-24	001		石鏃	黒曜石	24.3	17.9	5.2	1.31	
3	5D-21	009		石鏃	黒曜石	23.5	19.5	6.4	1.93	
4	5D-42	009		石鏃	黒曜石	22.0	19.3	5.1	1.22	
5	4B-41	002		石鏃	黒曜石	20.7	13.1	4.7	0.78	
6	5B-13	025		石鏃	安山岩	11.7	11.4	3.5	0.27	
7	003	125		石鏃	黒曜石	17.6	16.9	5.0	1.15	
8	5B-23	043		石鏃	黒曜石	16.3	15.8	5.5	1.01	
9	5B-02	016		楔形石器	安山岩	42.0	26.6	11.2	11.75	
10	5C-13	002		U・R-f	頁岩	28.3	27.8	12.6	9.42	
12	5C-03	010		U・R-f	チャート	35.5	23.2	11.2		
13	5D-41	015		U・R-fl	砂岩	30.2	39.6	9.2	7.26	
14	5C-10	014		U・R-f	黒曜石	22.1	21.5	7.0	2.51	
15	004	043		U・R-f	黒曜石	23.0	17.8	5.0	0.80	
16	5D-34	010		U・R-fl	チャート	27.3	26.5	9.9	7.72	
17	4C-20	004		剥片	チャート	30.7	35.8	16.8	11.75	
18	4D-41	003		剥片	チャート	24.4	22.3	6.0	2.82	
19	表採	001	3	剥片	黒曜石	23.5	20.9	4.9	1.47	
20	5B-04	140		剥片	黒曜石	58.7	51.3	12.2	26.96	
21	5B-12	380		剥片	チャート	20.6	24.1	5.1	2.29	
22	5D-31	038		U・R-fl	チャート	28.0	48.1	12.0	9.99	
23	4B-31	001		剥片	頁岩	55.8	57.5	22.9	70.73	
24	003	034		剥片	黒曜石	37.7	11.0	6.6	1.15	
25	5B-10	151		剥片	ホルンフェルス	71.3	41.4	9.6	29.08	
26	5B-11	223		剥片	チャート	30.1	18.9	16.9	8.32	
27	4C-33	023		石核	頁岩	65.0	50.5	35.4	143.85	
28	3B-44	020		石核	頁岩	49.7	31.7	19.0	48.63	
29	5B-13	430		剥片	頁岩	52.0	48.4	21.0	53.23	
30	4C-02	003		敲石	砂岩	78.0	68.3	53.8	383.06	赤化
31	5C-31	007		敲石	砂岩	119.0	52.8	30.9	292.26	
	002	004		剥片	メノウ	16.3	11.7	8.4	1.10	
	004	069		石核	黒曜石	21.7	24.7	10.9	1.59	
	009	001		剥片	黒曜石	15.4	13.2	5.4	6.36	打点あり
	4D-00	013		剥片	チャート	25.0	19.8	15.3	5.78	
	4D-31	001		剥片	頁岩	19.4	16.9	2.9	0.99	
	5A-13	013		剥片	チャート	31.5	42.9	11.9	12.57	
	5A-13	033		剥片	頁岩	24.4	25.7	8.4	4.39	
	5B-01	006		剥片	黒曜石	20.0	11.7	7.2	1.11	
	5B-04	008		剥片	安山岩	39.6	32.3	7.7	10.77	
	5B-04	054		剥片	頁岩	34.9	35.2	7.4	5.04	
	5B-04	148		剥片	チャート	35.4	33.7	28.3	26.73	
	5B-10	133		剥片	凝灰岩	25.8	36.5	13.4	7.78	赤化
	5B-10	139		剥片	チャート	15.1	22.8	3.0	1.00	
	5B-10	191		剥片	凝灰岩	23.3	32.0	6.7	3.68	赤化
	5B-10	192		剥片	黒曜石	15.8	13.9	5.9	0.62	
	5B-10	230		剥片	チャート	51.5	25.9	16.6	21.97	
	5B-10	300		剥片	頁岩	33.6	17.7	10.5	8.82	
	5B-10	372		剥片	頁岩	14.1	33.0	10.1	3.86	
	5B-11	016		剥片	黒曜石	11.5	8.6	5.5	0.32	
	5B-11	119		剥片	チャート	41.7	16.0	11.5	4.64	
	5B-11	365		剥片	黒曜石	20.8	11.3	3.0	0.52	
	5B-11	390		剥片	チャート	39.7	33.4	17.0	17.78	
	5B-11	420		磨石	流紋岩	52.3	45.9	40.1	152.19	破損
	5B-11	666		剥片	頁岩	23.1	27.9	18.6	9.24	
	5B-12	066		U・R-fl	凝灰岩	17.1	15.7	5.4	1.64	二次加工痕
	5B-12	834		剥片	チャート	50.7	35.2	10.3	17.67	
	5B-13	027		剥片	チャート	24.8	18.6	8.5	4.19	
	5B-13	075		楔形石器	チャート	41.3	40.2	5.5	7.20	OEF
	5B-13	100		U・R-fl	チャート	21.6	27.2	18.7	4.63	二次加工痕
	5B-13	113		剥片	凝灰岩	24.1	44.0	6.7	7.54	凝灰岩質砂岩
	5B-13	240		石核	チャート	31.4	26.5	22.1	18.00	

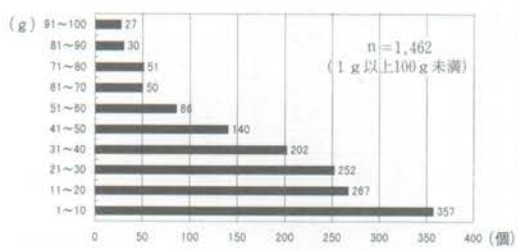
図No.	グリッド	番号		器種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	備考
	5B-13	297		剝片	チャート	32.2	30.3	18.8	15.61	
	5B-14	034		剝片	チャート	49.4	27.8	8.9	11.24	
	5B-14	042		剝片	チャート	41.6	37.0	21.3	30.96	
	5B-14	097		剝片	砂岩	40.3	43.4	12.7	15.38	
	5B-14	193		剝片	チャート	18.1	16.9	3.1	1.09	
	5B-14	195		剝片	チャート	39.8	28.8	14.4	16.03	
	5B-14	208		剝片	チャート	39.9	27.6	22.8	26.63	
	5B-14	262		砕片	黒曜石	4.7	6.4	1.2	0.04	
	5B-20	067		剝片	チャート	27.7	18.5	20.2	11.46	
	5B-21	014		剝片	頁岩	10.5	36.3	10.0	3.50	
	5B-21	172		剝片	頁岩	21.6	17.0	17.1	4.65	
	5B-21	188		剝片	頁岩	42.8	28.2	29.1	31.06	
	5B-21	205		剝片	頁岩	23.4	18.8	7.0	3.05	
	5B-21	225		剝片	頁岩	29.2	13.7	10.4	4.09	
	5B-21	448		剝片	頁岩	14.3	22.5	6.2	1.46	
	5B-22	044		剝片	チャート	31.5	29.6	21.8	8.76	
	5B-22	049		剝片	チャート	31.7	32.1	17.3	22.35	
	5B-22	113		剝片	チャート	18.7	21.4	4.7	1.96	
	5B-22	256		剝片	チャート	30.6	25.8	21.0	18.02	
	5B-22	429		剝片	チャート	26.4	18.6	8.2	3.41	
	5B-23	003		砕片	黒曜石	2.3	3.6	1.4	0.01	
	5B-23	004		砕片	黒曜石	3.2	4.3	0.8	0.02	
	5B-23	005		剝片	黒曜石	18.9	6.6	1.2	0.17	
	5B-23	139		剝片	チャート	43.0	39.6	21.1	44.52	
	5B-23	149		石核	チャート	50.8	74.0	45.9	152.28	
	5B-24	003		剝片	チャート	23.1	26.1	11.1	6.19	
	5B-24	011		U・R-fl	黒曜石	18.1	13.4	4.3	0.98	二次加工痕・使用痕
	5B-24	032		砕片	黒曜石	8.7	7.0	2.4	0.07	
	5B-24	041		砕片	黒曜石	10.4	10.2	3.6	0.18	
	5B-24	064		剝片	チャート	18.8	35.4	14.5	8.16	
	5B-31	007		敲石	流紋岩	51.0	30.8	14.5	33.51	赤化
	5B-31	031		敲石	流紋岩	49.3	54.2	24.2	75.38	赤化
	5B-33	001	1	石核	チャート	81.3	52.5	46.0	247.62	赤化
	5B-33	001	2	石核	チャート	51.1	48.1	33.5	122.79	
	5B-33	001	3	剝片	チャート	43.3	37.8	13.9	25.41	赤化
	5B-33	001	4	剝片	チャート	42.8	28.4	15.5	17.24	
	5B-33	001	5	剝片	チャート	28.8	32.5	9.8	10.19	
	5B-33	001	6	剝片	チャート	11.9	13.5	5.1	0.63	赤化
	5B-33	024		剝片	黒曜石	14.4	7.8	2.3	0.16	
	5B-33	046		石核	チャート	52.5	45.9	13.8	36.69	赤化
	5B-34	001		石核	凝灰岩	59.5	54.1	25.7	95.46	
	5B-34	018		剝片	頁岩	17.3	17.0	17.2	1.65	赤化
	5B-34	019		剝片	黒曜石	11.1	19.4	3.0	0.48	
	5B-34	023		剝片	チャート	36.1	31.0	17.2	15.10	
	5B-41	001		U・R-fl	チャート	18.4	30.0	6.0	3.55	使用痕
	5B-44	006		敲石	砂岩	73.9	35.2	27.0	81.02	赤化
	5B-44	012		剝片	頁岩	32.6	23.1	9.3	5.77	
	5B-44	026		石鏃未製品	チャート	26.4	23.0	6.0	3.99	片面に原礫面残す
	5C-12	032		剝片	チャート	25.1	31.8	14.6	9.83	
	5C-20	006		砕片	黒曜石	9.0	7.0	1.3	0.15	
	5C-20	104		剝片	黒曜石	12.4	7.1	4.9	0.57	
	5C-31	023		砕片	黒曜石	7.0	9.4	2.2	0.10	
	5C-41	004		石鏃	黒曜石	17.0	14.6	3.3	0.56	
	5D-00	001		剝片	黒曜石	16.7	15.0	4.1	0.76	
	5D-00	002		敲石	流紋岩	94.1	63.9	39.0	303.38	赤化
	5D-20	003		楔形石器	黒曜石	16.4	21.7	5.8	1.71	OEF
	5D-20	007		剝片	黒曜石	22.7	33.7	11.6	8.54	
	5D-24	007		敲石	流紋岩	70.5	59.2	28.2	150.26	破損
	5D-30	013		掻器	チャート	33.7	36.9	20.8	32.80	
	5D-34	001		剝片	頁岩	14.5	21.1	7.2	1.43	
	5D-34	020		礫	頁岩	78.7	46.8	30.5	188.69	石器製作用？
	6D-04	002		剝片	凝灰岩	21.8	11.5	4.8	1.09	
	6D-04	003		剝片	凝灰岩	19.4	1.9	4.2	0.75	
	W5区-24	001		磨石	チャート	74.0	80.7	53.6	425.66	
	表採	001	1	剝片	黒曜石	25.3	25.0	17.1	17.40	
	表採	001	2	U・R-fl	黒曜石	24.7	18.3	8.5	3.39	
	表採	001	4	U・R-fl	黒曜石	15.4	19.8	6.6	1.66	
	表採	001	5	剝片	黒曜石	15.4	12.9	6.2	1.22	
	表採	001	6	剝片	黒曜石	12.7	14.6	7.7	1.95	
	表採	001	7	U・R-fl	黒曜石	20.4	13.7	4.6	0.94	
	表採	001	8	剝片	黒曜石	15.0	11.1	2.2	0.32	
	表採	001	9	剝片	黒曜石	14.4	12.7	3.1	0.54	

量は，8,647個（305,136ｇ）である。このうち，赤化しているものは4,493個（184,351ｇ）であり，破損しているものは5,871個（147,235ｇ）である。また，完形礫で赤化しているものは1,688個（98,312ｇ）であり，破損礫で赤化しているものは2,805個（86,039ｇ）である。全体の集計値を見る限り，礫の完形ないし破損と赤化については，強い相関を認めることはできない（第72・73図）。

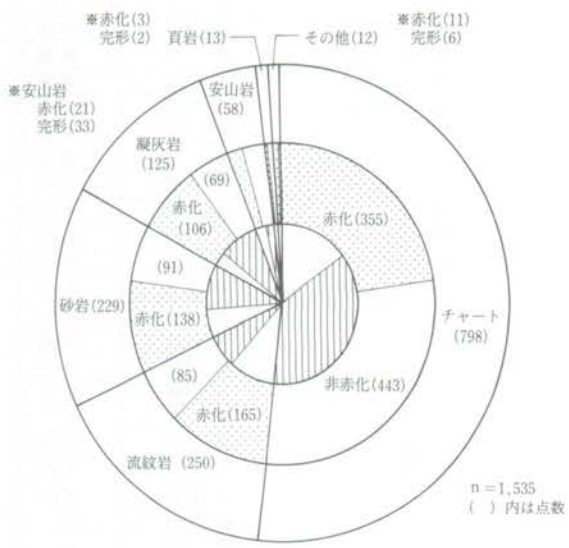
今回は，礫の出土が大量であるため，石材及び各個体の質量計測については，一つのグリッド出土のもののみを対象とした。グリッドの選定に当たっては，最も多く出土している所とした。そして，5B-12グリッド出土の礫のみを個体別の観察及び計測を行った（第71図）。礫の質量平均は，35.2ｇであるが，質量毎の出現頻度を見ると，10ｇ以下の小礫が最も多いことがわかる。石材は，チャートが最も多く，約半数を占めている。そして，流紋岩，砂岩，凝灰岩がこれに次ぐ。また，チャートの特徴として，赤化しているものが約45％であるのに対し，破損しているものは約71％にものぼることが指摘できる。赤化率については，他の石材と比しても低い。従って，チャートという石材については，他の石材とは違った利用性を持っていたことが推察される。



5B-12グリッド出土礫質量毎出現頻度（1）

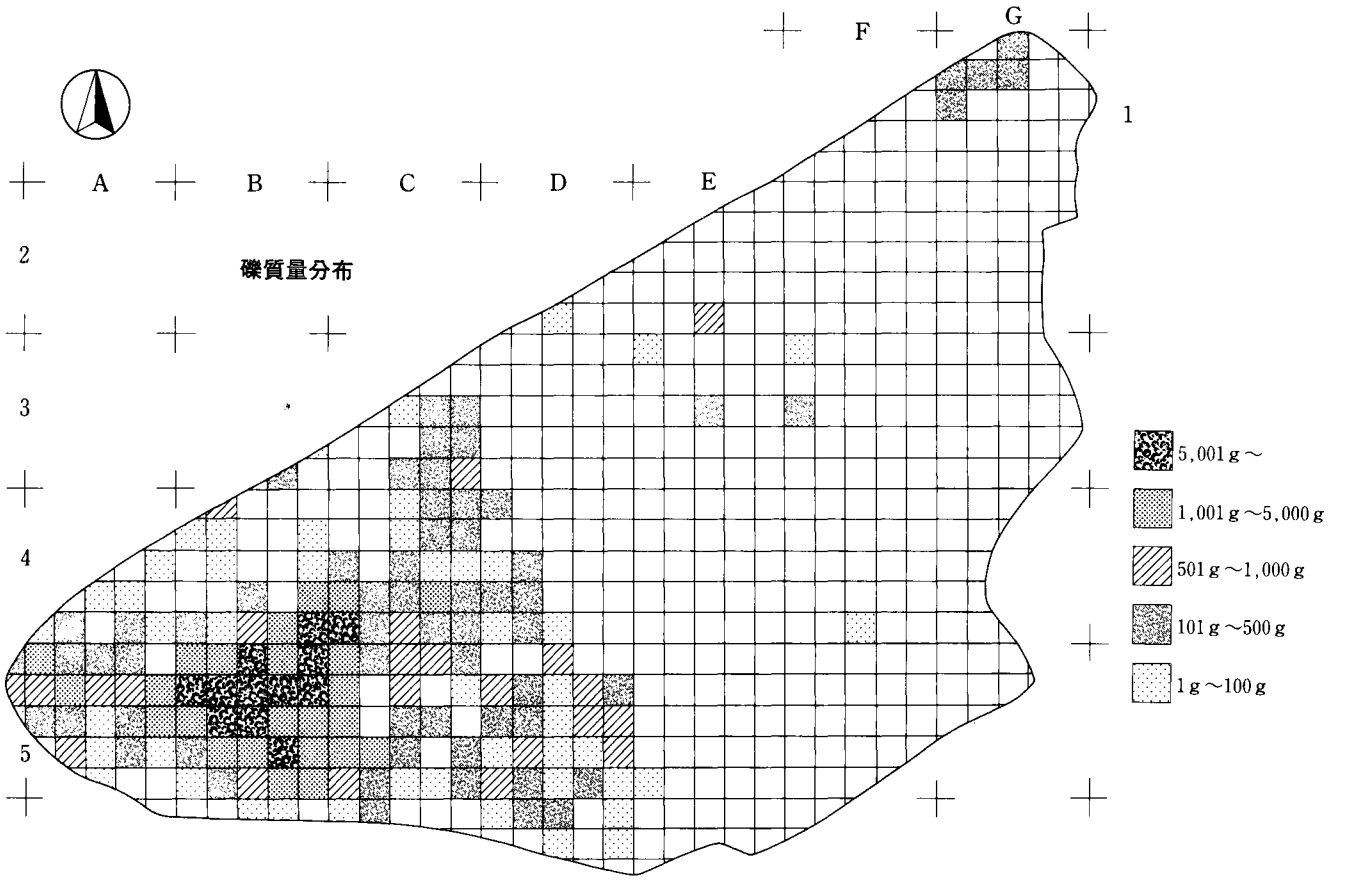


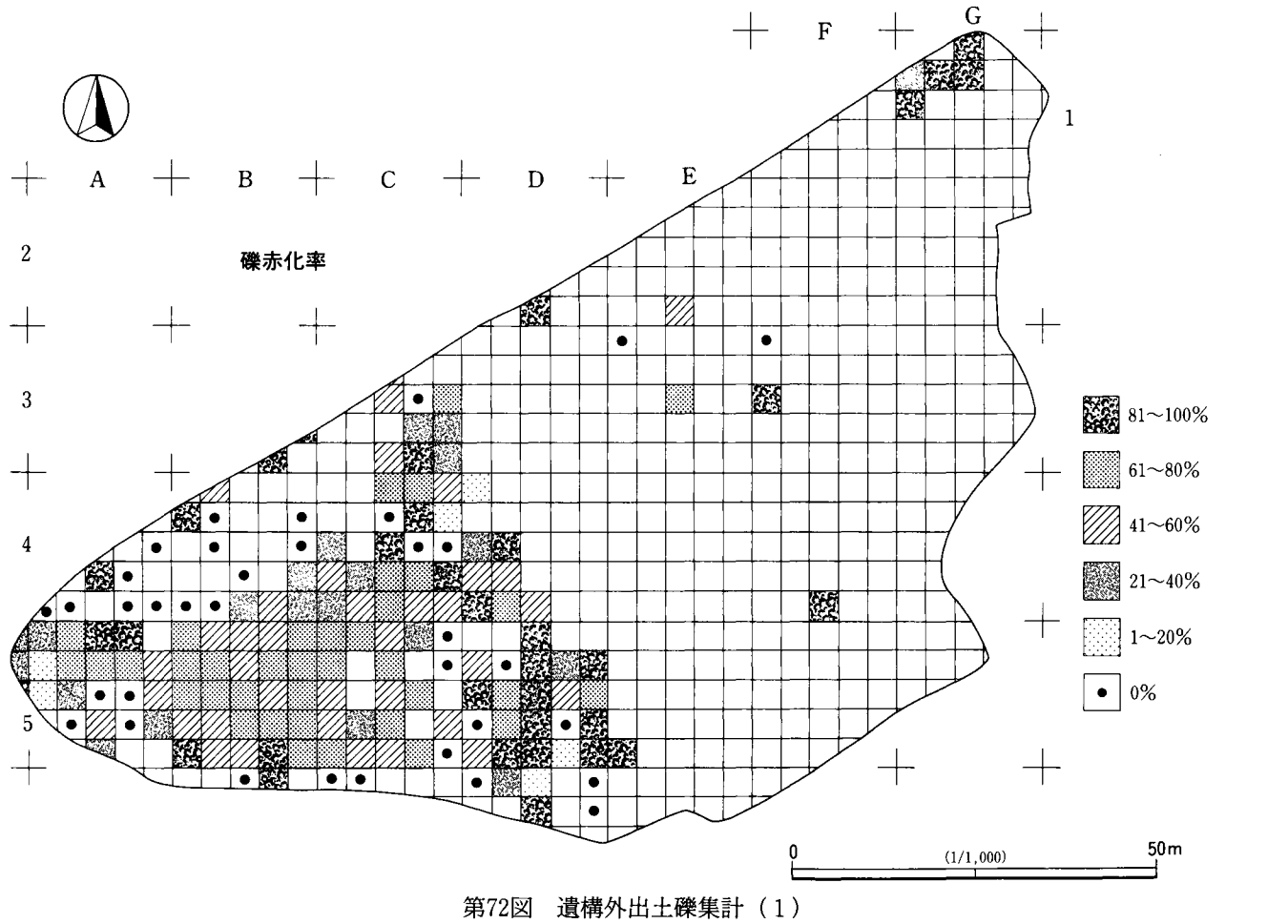
5B-12グリッド出土礫質量毎出現頻度（2）



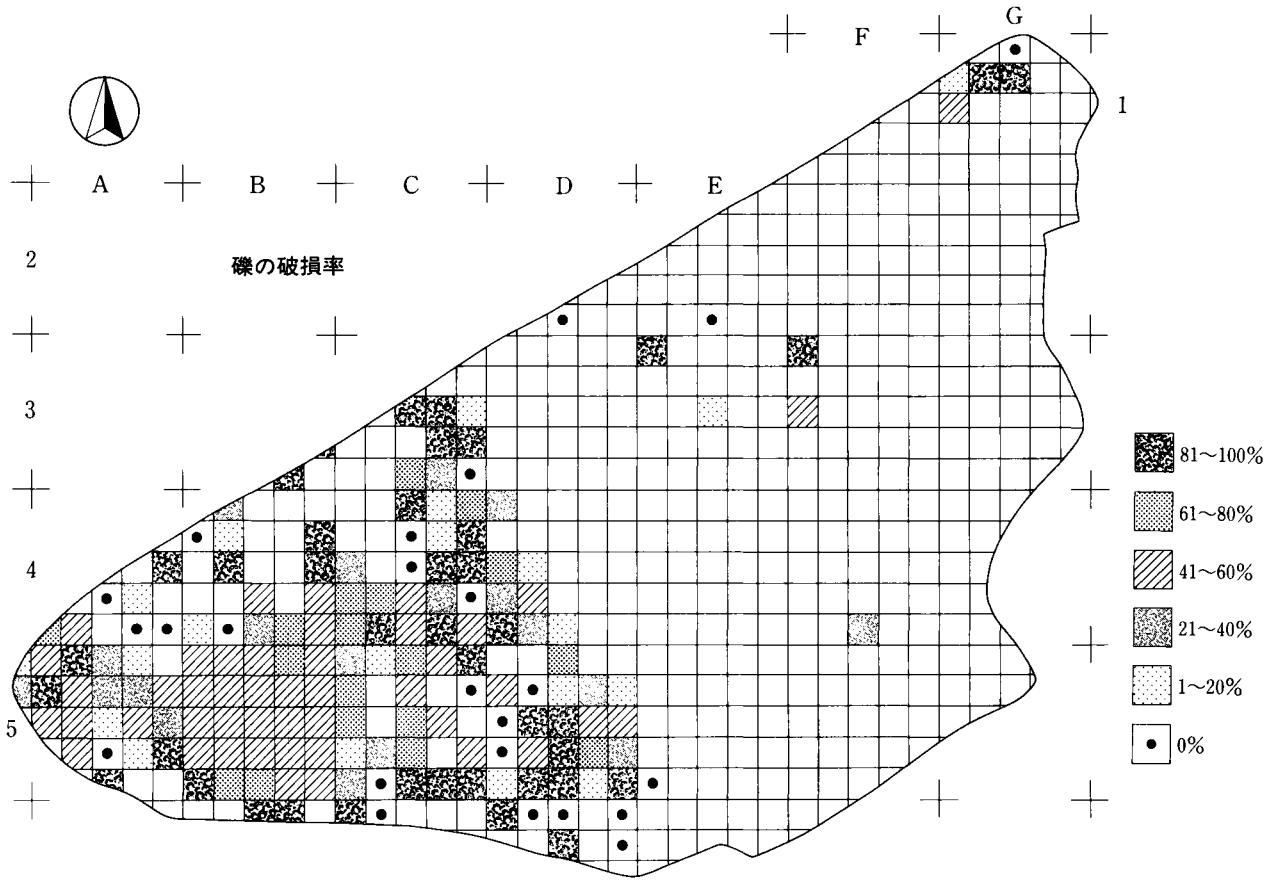
5B-12グリッド出土礫の石材と観察

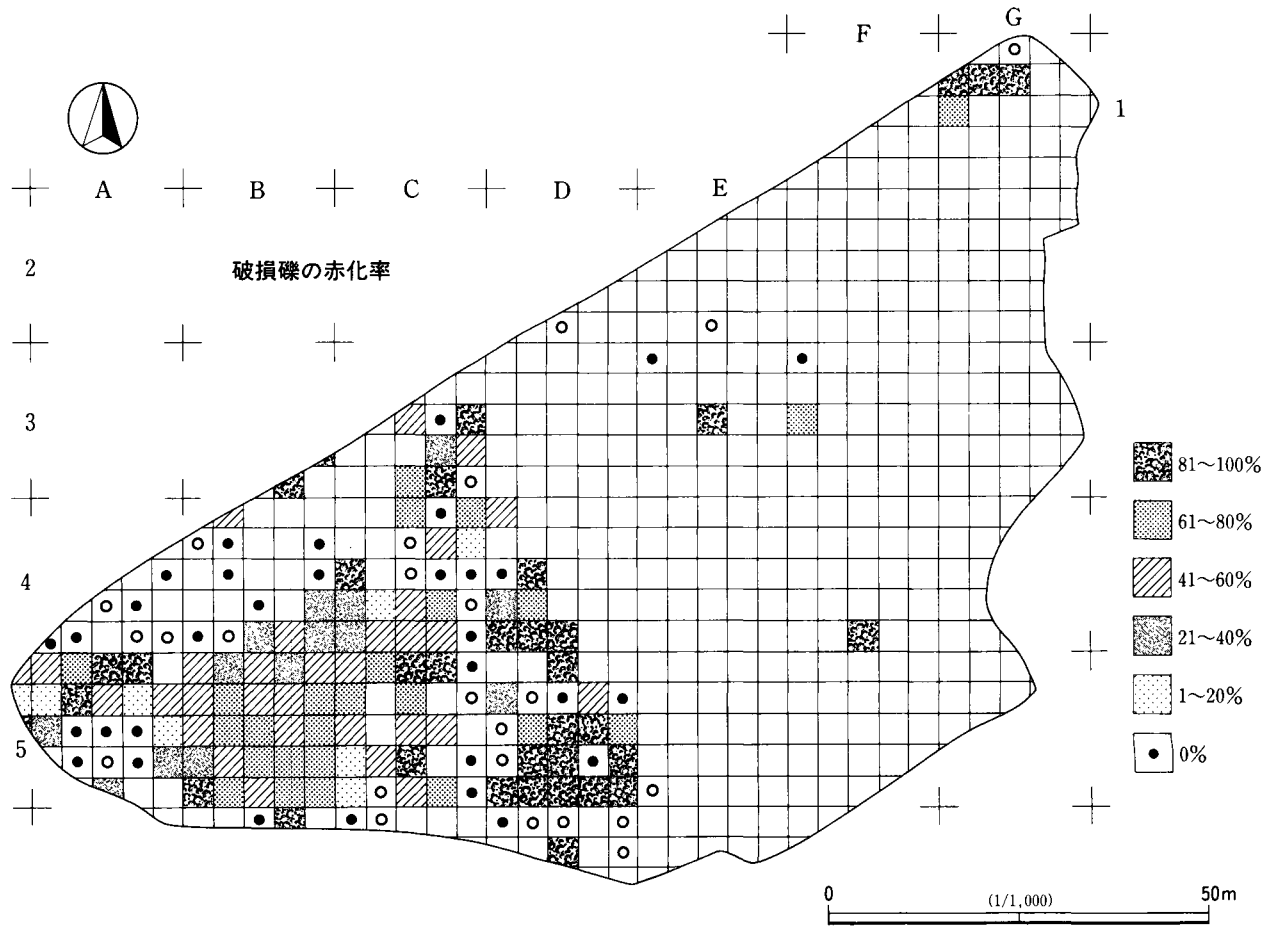
第71図　5B-12グリッド出土礫集計





第72図　遺構外出土礫集計（1）





第73図　遺構外出土礫集計（2）

第4節　奈良・平安時代（第74～84図，図版6～11・33～36）

奈良・平安時代の遺構は，竪穴住居跡4軒，石櫃2基が検出された。

1　竪穴住居跡

竪穴住居跡4軒は調査区南部に検出され，重複関係はない。規模は，小型の一辺2mのものが1軒，3.3mのものが1軒，やや大型の4m前後のものが2軒である。主軸（カマド方向）は北方向のものが2軒，東方向のものが2軒である。

003（第74～76図，第16表，図版7・33・36）

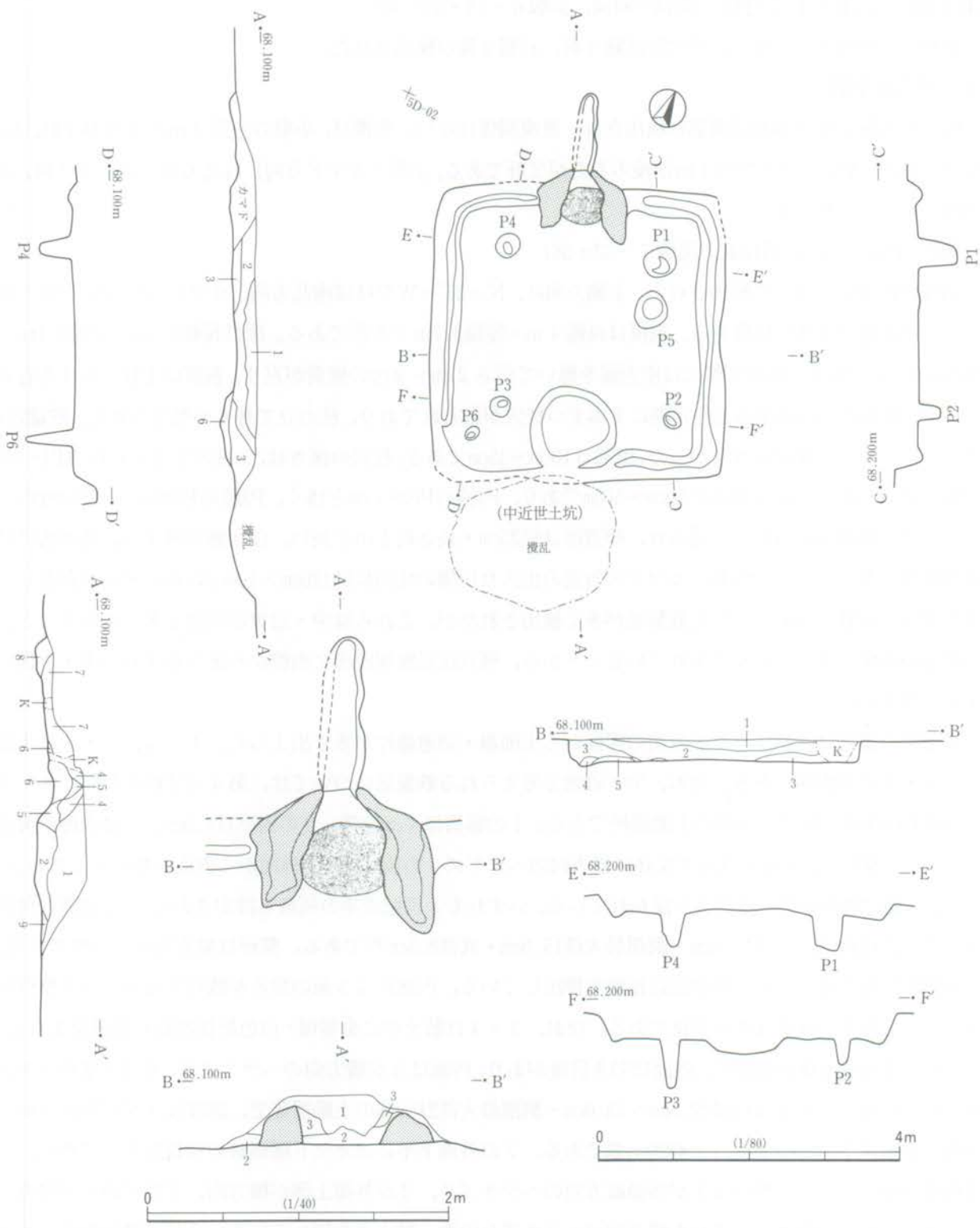
調査区南部中央寄りで検出された。主軸方向は，N－25°－Wでほぼ南北方向，カマド方位はN－20°－Wで，ほぼ北側中央部に位置する。規模は長軸4m・短軸3.7mで方形である。床は長軸3.3m・短軸3.1mで面積は9.7m²である。床面壁際には南西部を除いて深さ2cm～9cmの壁溝が巡り，各隅に主柱穴が4本存在するが，北東部と南西部の主柱穴際に1本ずつ柱穴が掘られており，柱の立て替えが想定される。貯蔵穴・出入り口ピットは検出されなかった。壁高は10cm～35cmである。柱穴の深さは，主柱穴と考えられるP1～P4が順に50cm・30cm・35cm・42cmと30cm～50cmであり，P1脇のP5が7cmと浅く，P3脇のP6が62cmとやや深い。カマドは，袖部が砂質粘土で造られ，煙道部は幅25cm・長さ約1mと長い。住居跡の覆土は，基本的には自然埋没と考えられる。なお，カマドの対面の出入り口側の床面には120cm×100cmの浅い窪みが存在し，覆土中からは鉄釘を始めとした鉄製品が多く検出されたが，これらは中・近世の所産と考えられること，住居跡の南側に攪乱が掘り込まれていることから，竪穴住居跡埋没後に南側から掘り込まれた中・近世の土坑と考えられる。

覆土中の遺物は，特にカマド手前の床面から土師器・須恵器片が多く出土した。1～4，7・8は土師器，5・6は須恵器である。なお，中・近世と考えられる鉄製品については，第4節で触れたい。1～3は口径13cm前後・底径10cm弱の土師器杯である。1の器高は4cm前後，2の器高は4.5cm，3は底部が欠損している。整形は，底部も含めて全体に横方向のヘラケズリの後，口辺部外面から内面を横ナデしている。3は，内面に黒色の格子状暗文が描かれている。いずれも8世紀後半の所産と推定される[2)]。4は高台付杯または高台付鉢で，口径12.8cm・胴部最大径15.0cm・底径8.5cm程である。整形は縦方向のヘラケズリ後，口辺部内外面を横ナデし，高台部は指頭で押圧している。内面には3条の刻みが残存するが，ヘラ整形の傷と考えられる。焼成はやや不良である。なお，3・4は胎土中に金雲母・白色針状物質が微量含まれる。5・6は須恵器大甕の胴部で，外面は叩き目痕があり，内面は5が横方向のヘラケズリ，6は丁寧なナデが施されている。7・8は口径22.5cm～23.0cm・胴部最大径21cm強の土師器甕で，底径は1が7.7cm，2が5cm強，器高は1が27cm前後，2が29cm強である。7の外面下半にはカマド構築材の砂質粘土が付着し，二次焼成を受けている。整形は1が外面縦方向のヘラケズリ，2が外面上部が横方向，下部が斜め方向のヘラケズリである。内面はいずれも横方向のヘラケズリの後，横ナデを施している。7は8世紀後半，8は武蔵型甕で8世紀末の所産と推定される。

遺物群から推定される住居跡の年代は，8世紀後半と考えられる。

004（第77・78図，第16表，図版8・34・36）

調査区南西部で検出された。主軸方向は，N－21°－Eでほぼ南北方向，カマド方位はN－10°－Eでほぼ北方向で東寄りに位置する。全体形状は円に近い隅丸方形で，規模は長軸・短軸共4.2mである。深さ28cm～78cmの壁は傾斜しており，床は方形で，長軸2.3m・短軸2.1m，面積は4.8m²である。壁溝は深さ2cm～7



(003－カマド)

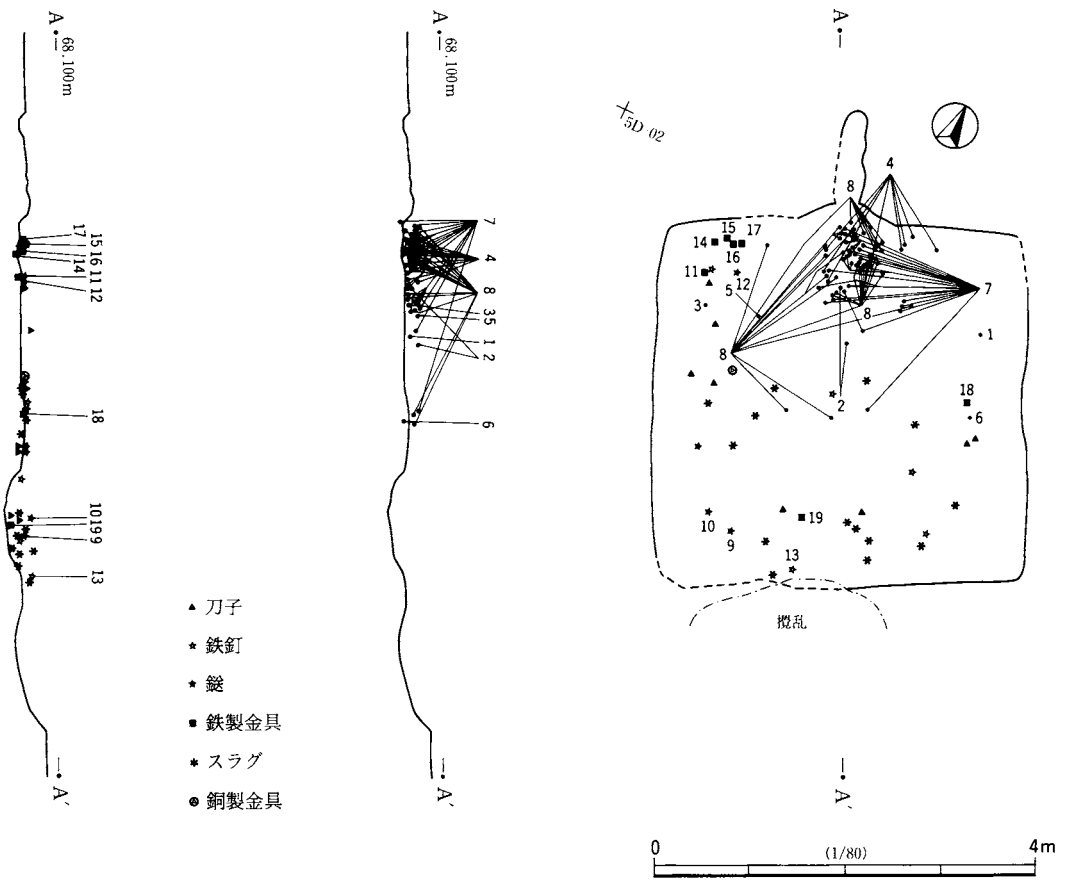
1．暗褐色土　ソフトロームブロック・焼土粒・山砂ブロックを少量含む。しまり・粘性なし。
2．褐色土　焼土・山砂を多く含む。しまり・粘性なし。
3．白黄色砂質土　山砂を主体として褐色土・焼土を含む。袖部の崩落土。
4．赤褐色土　カマド天井部の崩落と思われる。かなり被熱している。
5．暗褐色土　1層に準ずるがややしまりあり。
6．褐色土　白黄色砂を混入したもの。著しく硬化し障壁状を呈する。
7．暗褐色土　焼土を多量に含む。天井部の崩落土。
8．暗褐色土　山砂を含みしまりなく，焼土は少ない。
9．黒色土　炭化物を主体とする層。しまり・粘性なし。

(003)（竪穴住居跡）

1．黒色土　炭化物粒・焼土粒を含む。しまり・粘性ともなし。
2．褐色土　新期テフラを多く含む。
3．暗褐色土　2層に比べ，新期テフラが少なく，暗い。
4．暗黄褐色土　ソフトロームブロックを含む。2層よりも明るい。
5．暗黄褐色土　ソフトロームを主体的に含み，4層よりも更に明るい。
6．暗褐色土　新期テフラ・炭化物粒を含む。

(003－P1・P3～P6)
暗褐色土　新期テフラ・ソフトロームを含む。黒色土を少量含む。
(003－P2)
黒色土　ソフトロームを含む。

第74図　003（竪穴住居跡）

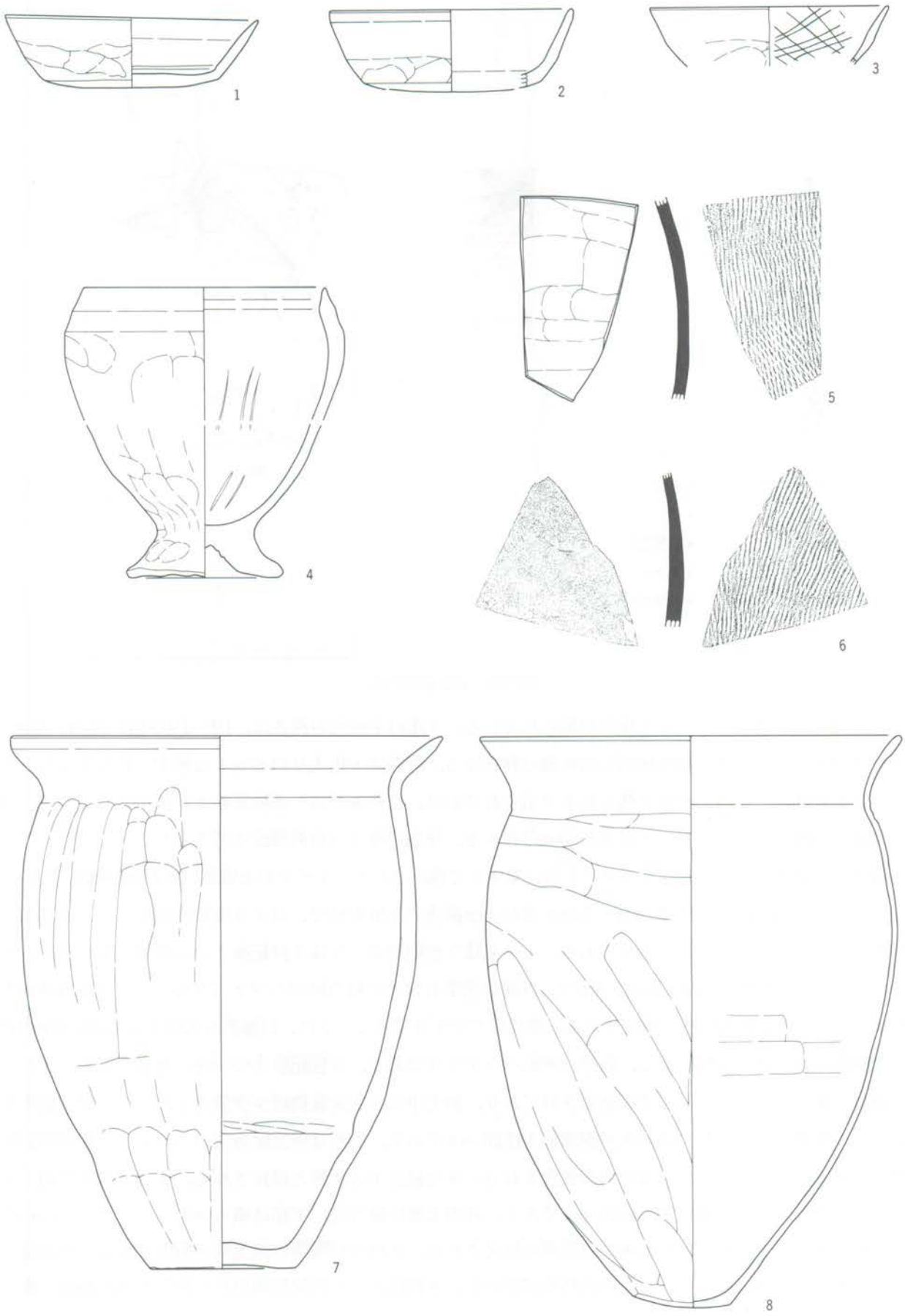


第75図　003遺物分布

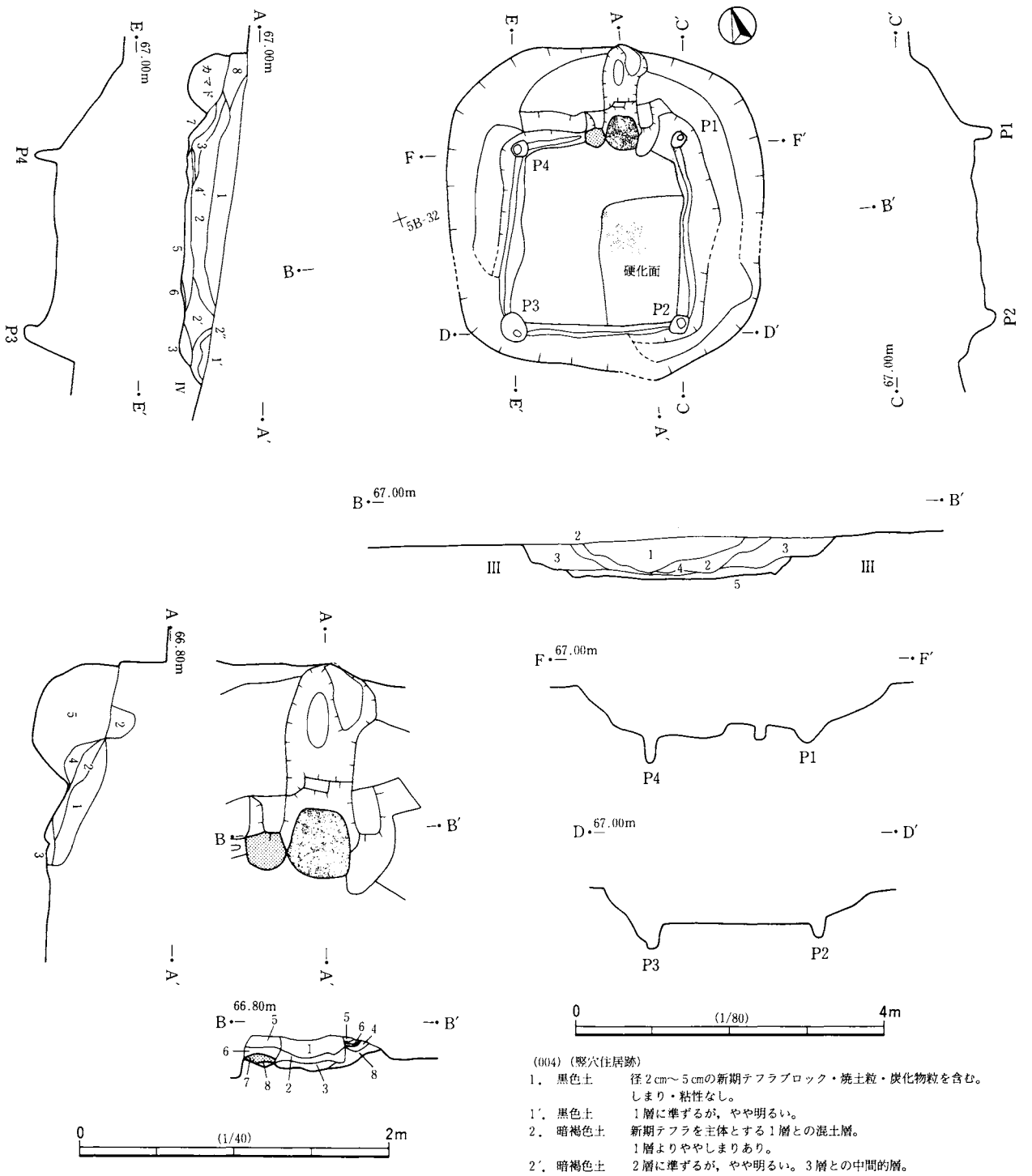
cmで全周し，各隅の壁溝内に主柱穴が掘られている。4本の主柱穴の深さは，P1～P4が順に26cm・22cm・32cm・33cmである。硬化面は床面の南東側に存在する。貯蔵穴・出入り口ピットは検出されなかった。カマドは北東隅近くに地山の掘り残しにより造られており，左側袖部に一部砂質粘土が使用されている。煙道部は壁斜面に沿って幅45cm・長さ約80cm存在する。住居の覆土は自然埋没と考えられる。

覆土中の遺物は，カマド内とカマド手前に集中して検出された。1～7が土師器，8が灰釉陶器である。1～3は口径13cm前後・底径6cm～7cm・器高4cm前後の土師器杯で，ロクロ成形後横ナデし，底部は1がナデ，2・3が回転ヘラケズリである。1・2は9世紀初頭，3は9世紀後半の所産に推定される。4は口径16.2cm・底径11.4cm・器高5.5cmで，外面は底部も含めて縦方向のヘラケズリの後，口辺部内外面を横ナデしており，相模型杯に推定される。焼成はやや不良である。5は，口縁部を欠損する底径6.8cmの杯で，外面ロクロ成形後横ナデし，底部は回転ヘラケズリであり，9世紀前半の所産に推定される。また，内面見込部と外面に「止」の字が墨書されており，胎土中に白色針状物質が少量含まれる。6は下部を欠損する小型甕で，口径は21cm前後・胴部最大径20.8cmである。整形は外面縦方向のヘラケズリ後内外面を横ナデしている。胎土中に金雲母が微量含まれる。9世紀前半の所産と推定される。7は底部を欠損する甕で，口径21cm前後・胴部最大径20.8cmである。外面上部は縦方向，下部は横方向のヘラケズリで口辺部内外面は横ナデである。8世紀後半の所産に推定される。8は灰釉陶器の長頸瓶の胴部である。外面はにぶい赤褐色で上部に灰オリーブ色の自然釉が掛かる。8世紀末～9世紀初頭の井ヶ谷78号窯の製品に推定される。

遺物群から推定される住居跡の年代は，9世紀前半と考えられる。



第76図　003出土土器



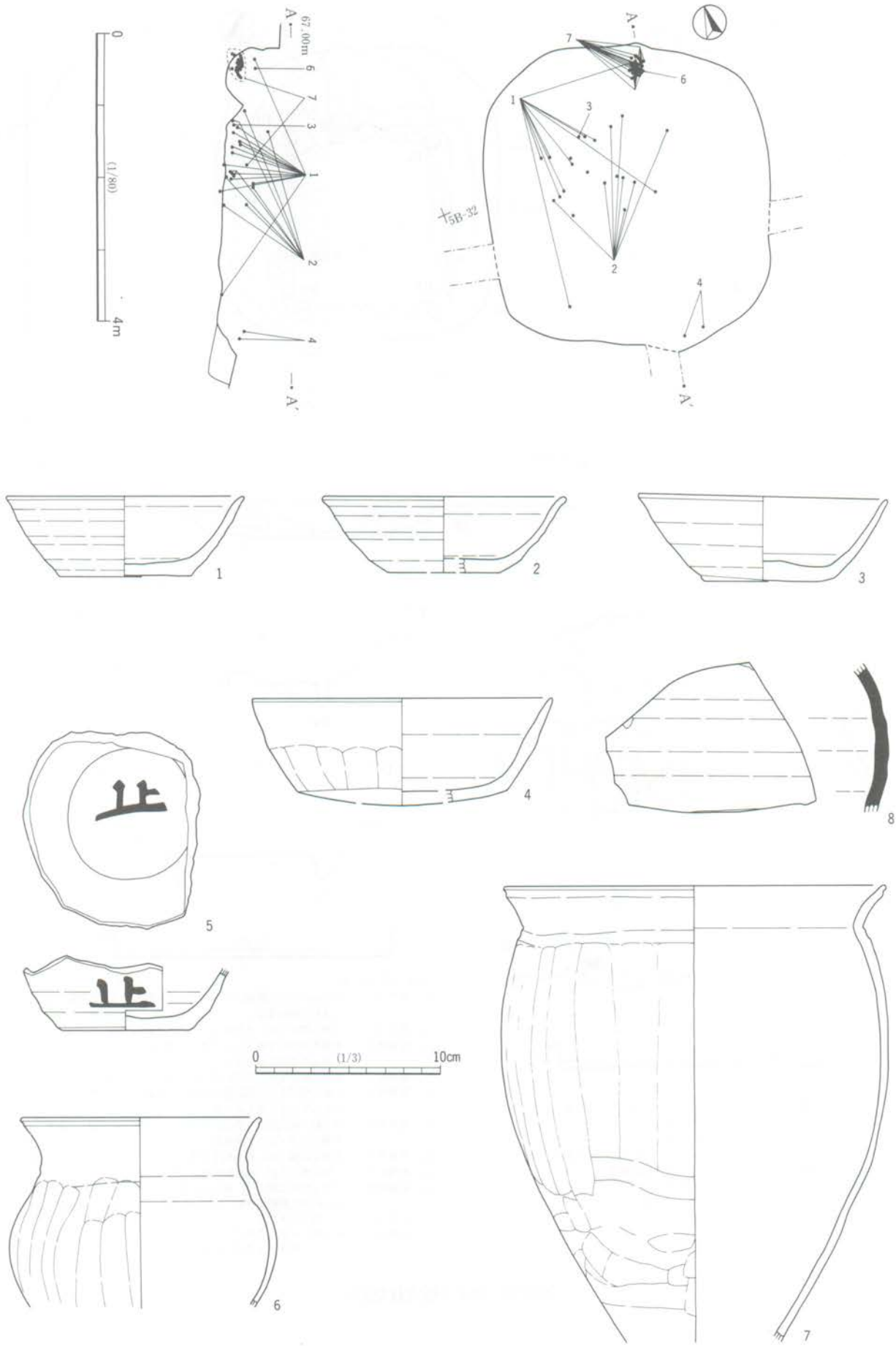
(004－カマド)

1．赤褐色土　カマド天井部の崩落と思われる焼土層。
2．暗褐色土　炭化物粒・焼土粒を含む。
3．黒色炭化物層　焼土を僅かに含む。
4．褐色土　少量の山砂を含む。以上はカマド内覆土。
5．暗褐色土　焼土を含む。以下は袖部構成土。
6．褐色土　焼土・山砂を含む。
7．白黄色砂質土　山砂を主体とする層。
8．褐色土　山砂をやや多く含む。

(004)（竪穴住居跡）

1．黒色土　径2cm～5cmの新期テフラブロック・焼土粒・炭化物粒を含む。しまり・粘性なし。
1′．黒色土　1層に準ずるが，やや明るい。
2．暗褐色土　新期テフラを主体とする1層との混土層。1層よりややしまりあり。
2′．暗褐色土　2層に準ずるが，やや明るい。3層との中間的層。
2″．暗褐色土　2層に準ずるが，更に赤く明るい。新期テフラが多く含まれていると考えられる。
3．暗黄褐色土　焼土粒・炭化物粒を含む。ソフトローム中に径2cm～3cmの新期テフラブロックを含む。
4．赤褐色土　2層と同様だが，焼土粒を主体とする。
4′．赤褐色土　4層に準ずるが，炭化物が多く，やや赤色が弱い。
5．暗黄褐色土　3層より更に明るく，径1cm～2cmのハードローム粒を含む。若干の炭化物粒を含む。上面が床面で，5層は貼り床と見られる。
6．黒色炭化物層　5層が混入する。
7．赤褐色土　焼土層。一部に山砂ブロックが見られ，カマドの崩落土と考えられる。

第77図　004（竪穴住居跡）



第78図　004出土遺物

010（第79図，第16表，図版９・35）

調査区南西部で004の東側に検出された。主軸方向は，Ｅ－19°－Ｓでほぼ東西方向，カマド方位はＥ－10°－Ｓでほぼ東方向の北東隅に位置する。ほぼ方形で，規模は長軸・短軸共２ｍである。床は長軸・短軸共1.6m，床面積は2.5m²である。壁高は20cm～31cmである。壁溝・貯蔵穴・出入り口ピットは検出されなかった。カマドは，住居跡の主軸方向の左側隅に造られ，袖部は砂質粘土が使用されている。住居跡の覆土は自然埋没と考えられる。

覆土中の遺物は少量であるが，カマド火床部で集中して検出された。１～３は土師器である。１は口径13.4cm・底径8.7cm・器高3.3cm～3.9cmの杯で，外面横方向のヘラケズリ後口辺部内外面を横ナデしている。胎土中に白色針状物質が多く含まれる。８世紀後半の所産に推定される。２は器高6.5cm～7.0cmの鉢であるが，歪みのある小破片で口径・底径共復元できない。整形は外面が横方向のヘラケズリ後口辺部内外面横ナデされている。胎土中に白色針状物質が微量含まれる。３は底径7.5cm前後の甕の底部で，整形は外面が縦方向のヘラケズリ，底部が不定方向のヘラケズリである。焼成は極めて良好である。

遺物群から推定される住居跡の年代は，８世紀後半と考えられる。

011（第80・81図，第16表，図版10・35・36）

調査区南部中央部で検出された。主軸方向は，Ｅ－２°－Ｓでほぼ東西方向，カマド方位はＥ－４°－Ｓで東側の右寄りに位置する。北東隅が若干突出するがほぼ方形で，規模は長軸・短軸共3.3mである。床は，長軸1.6m・短軸1.3m，面積は約２m²である。壁高は，20cm～41cmである。壁溝の深さは２cm～７cmである。主柱穴・貯蔵穴・出入り口ピットは検出されなかった。図上のカマド手前の破線はカマドの火床部の残存部である。袖部の壁際に僅かに砂質粘土が使用されている。

覆土中の遺物は，カマド手前から床面中央部で集中して検出された。１～５は土師器，６・７は須恵器である。１は口径11.5cm前後・底径8.0cm・器高3.6cm，２は口径13.8cm・底径10.6cm・器高4.6cmの杯である。整形は，いずれも外面は縦方向のヘラケズリ後口辺部内外面横ナデである。１の内面口辺部と見込み部には赤彩が残存する。１は８世紀末，２は８世紀後半の所産に推定される。３は口径10.5cm・底径6.5cm前後・器高6.1cmの高台付杯で，整形は杯部外面は縦方向のヘラケズリ後口辺部内外面横ナデ，高台部は内外面に指頭が押圧されている。また，胎土中に金雲母・白色針状物質が微量含まれる。４は小型甕の胴部下半で，底径は7.0cm，整形は外面縦方向のヘラケズリである。５は口径21.4cm・胴部最大径21.9cmの甕で底部が欠損している。整形は外面胴部上半が縦方向，下半が横方向のヘラケズリ，内面は横方向のヘラケズリで，口辺部内外面は横ナデしている。９世紀代の所産に推定される。６・７は須恵器大甕胴部の破片で，６は内外面に叩き目痕が残る。７は外面が叩き目，内面は指頭で押圧されている。

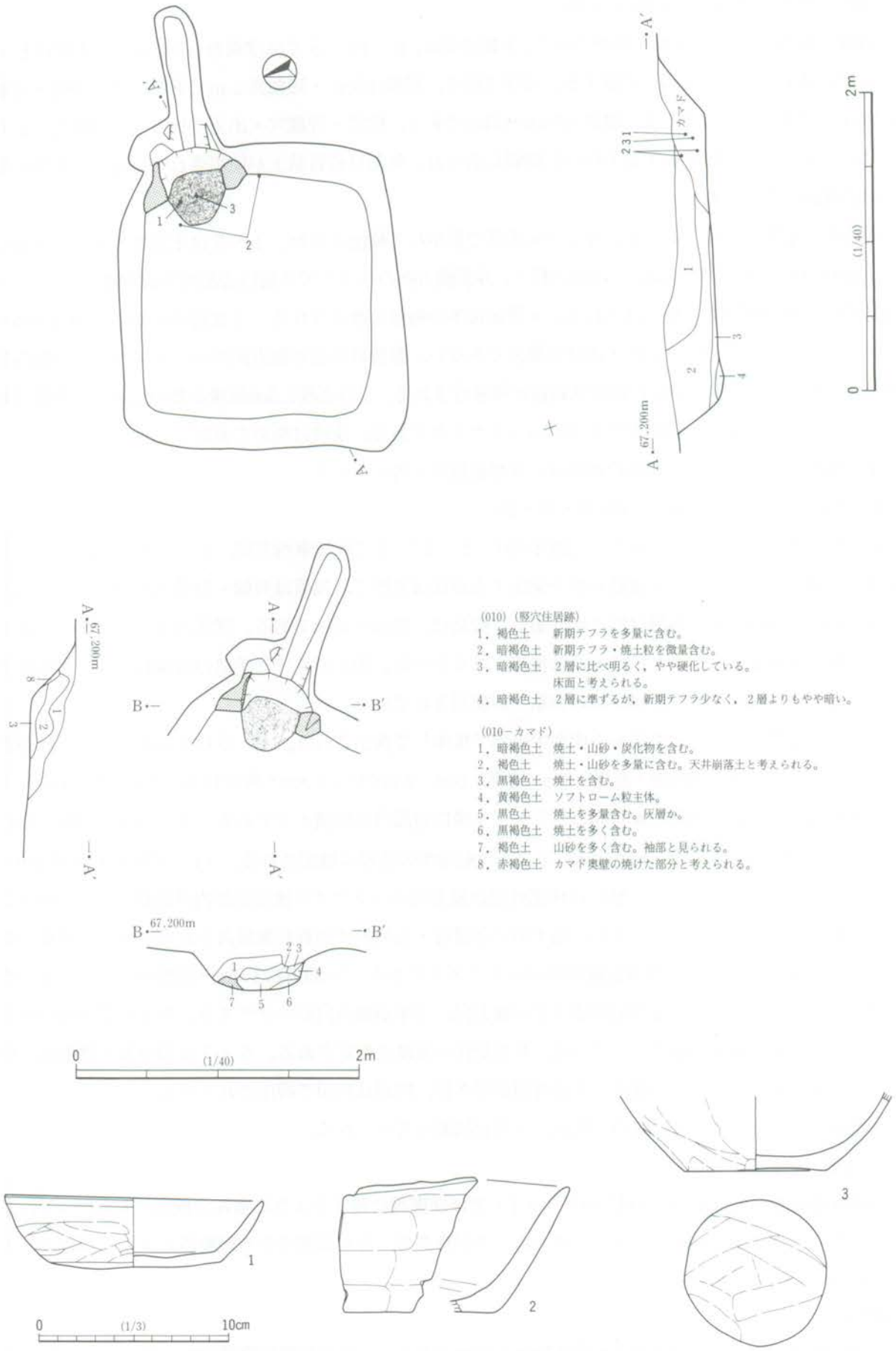
遺物群から推定される住居跡の年代は，９世紀初頭と考えられる。

２　石櫃（第82図，図版11）

調査区南端部のほぼ中央部（6E-10グリッド）でほぼ東西に接するように並んで検出された。いずれも軟質砂岩製で，一見蓋部が存在しない。或いは一方が身部で一方が蓋部である可能性もある。西側のものを006A，東側のものを006Bとする。

006A

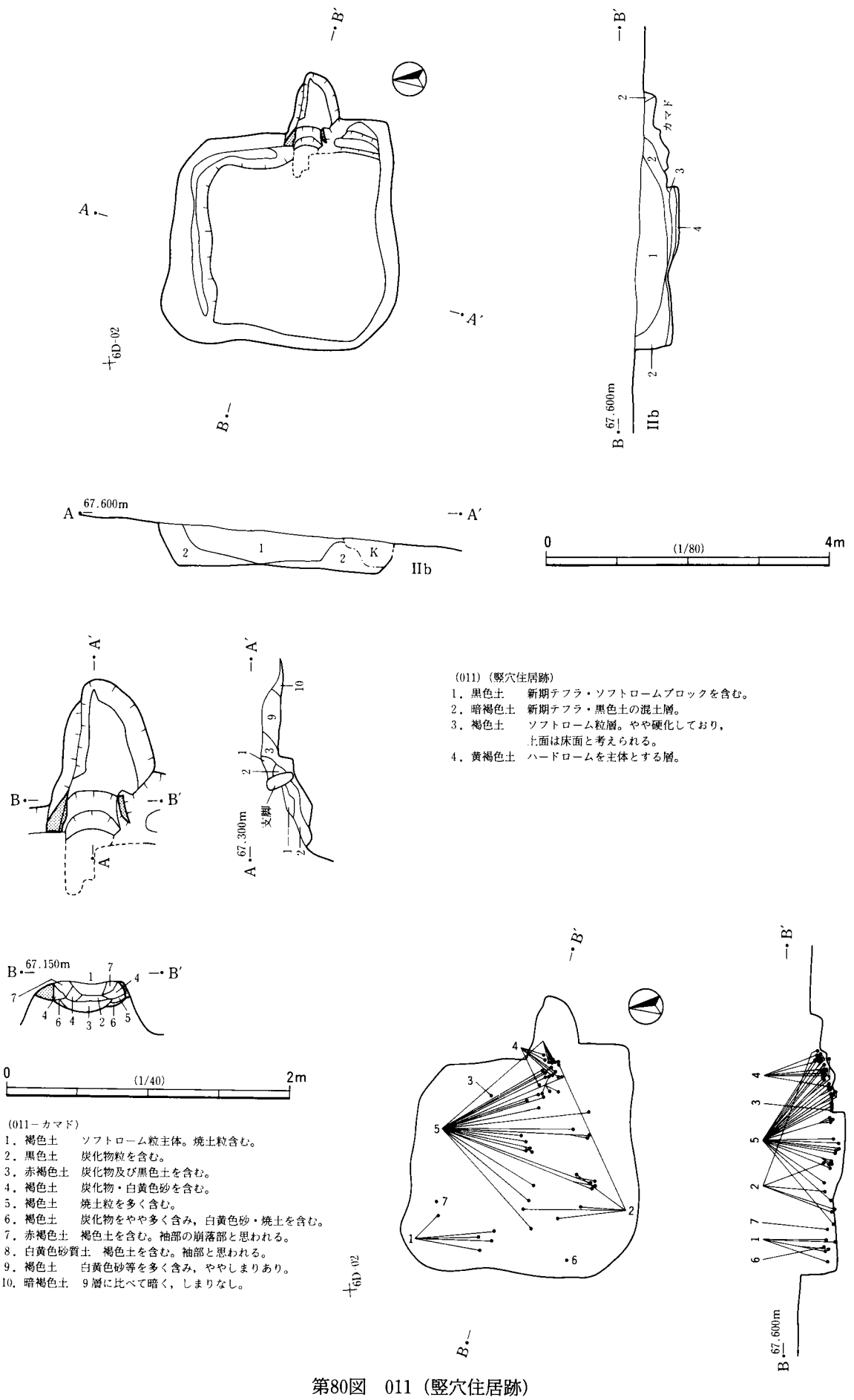
平面形態はほぼ円形で直径45cm・高さ15cm～20cmであり，上面中央部に直径20cm・深さ３cm～６cmの円形の納骨穴が掘り込まれている。



(010)（竪穴住居跡）
1．褐色土　新期テフラを多量に含む。
2．暗褐色土　新期テフラ・焼土粒を微量含む。
3．暗褐色土　2層に比べ明るく，やや硬化している。
床面と考えられる。
4．暗褐色土　2層に準ずるが，新期テフラ少なく，2層よりもやや暗い。

(010－カマド)
1．暗褐色土　焼土・山砂・炭化物を含む。
2．褐色土　焼土・山砂を多量に含む。天井崩落土と考えられる。
3．黒褐色土　焼土を含む。
4．黄褐色土　ソフトローム粒主体。
5．黒色土　焼土を多量含む。灰層か。
6．黒褐色土　焼土を多く含む。
7．褐色土　山砂を多く含む。袖部と見られる。
8．赤褐色土　カマド奥壁の焼けた部分と考えられる。

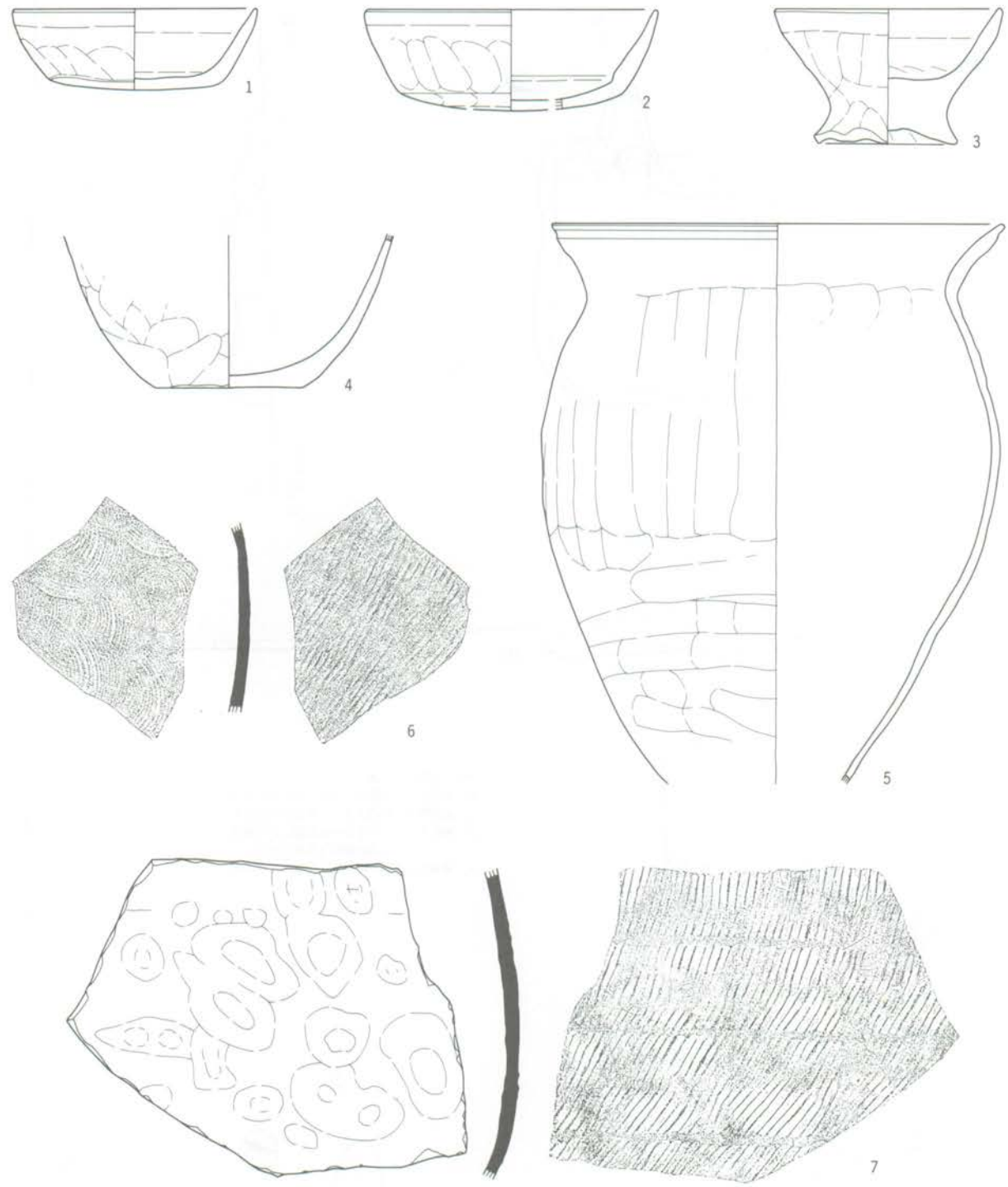
第79図　010（竪穴住居跡）及び出土遺物



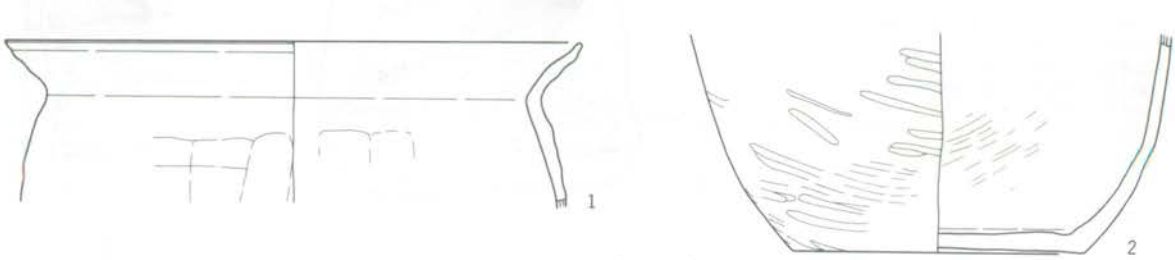
(011) (竪穴住居跡)
1．黒色土　新期テフラ・ソフトロームブロックを含む。
2．暗褐色土　新期テフラ・黒色土の混土層。
3．褐色土　ソフトローム粒層。やや硬化しており，上面は床面と考えられる。
4．黄褐色土　ハードロームを主体とする層。

(011－カマド)
1．褐色土　ソフトローム粒主体。焼土粒含む。
2．黒色土　炭化物粒を含む。
3．赤褐色土　炭化物及び黒色土を含む。
4．褐色土　炭化物・白黄色砂を含む。
5．褐色土　焼土粒を多く含む。
6．褐色土　炭化物をやや多く含み，白黄色砂・焼土を含む。
7．赤褐色土　褐色土を含む。袖部の崩落部と思われる。
8．白黄色砂質土　褐色土を含む。袖部と思われる。
9．褐色土　白黄色砂等を多く含み，ややしまりあり。
10．暗褐色土　9層に比べて暗く，しまりなし。

第80図　011（竪穴住居跡）



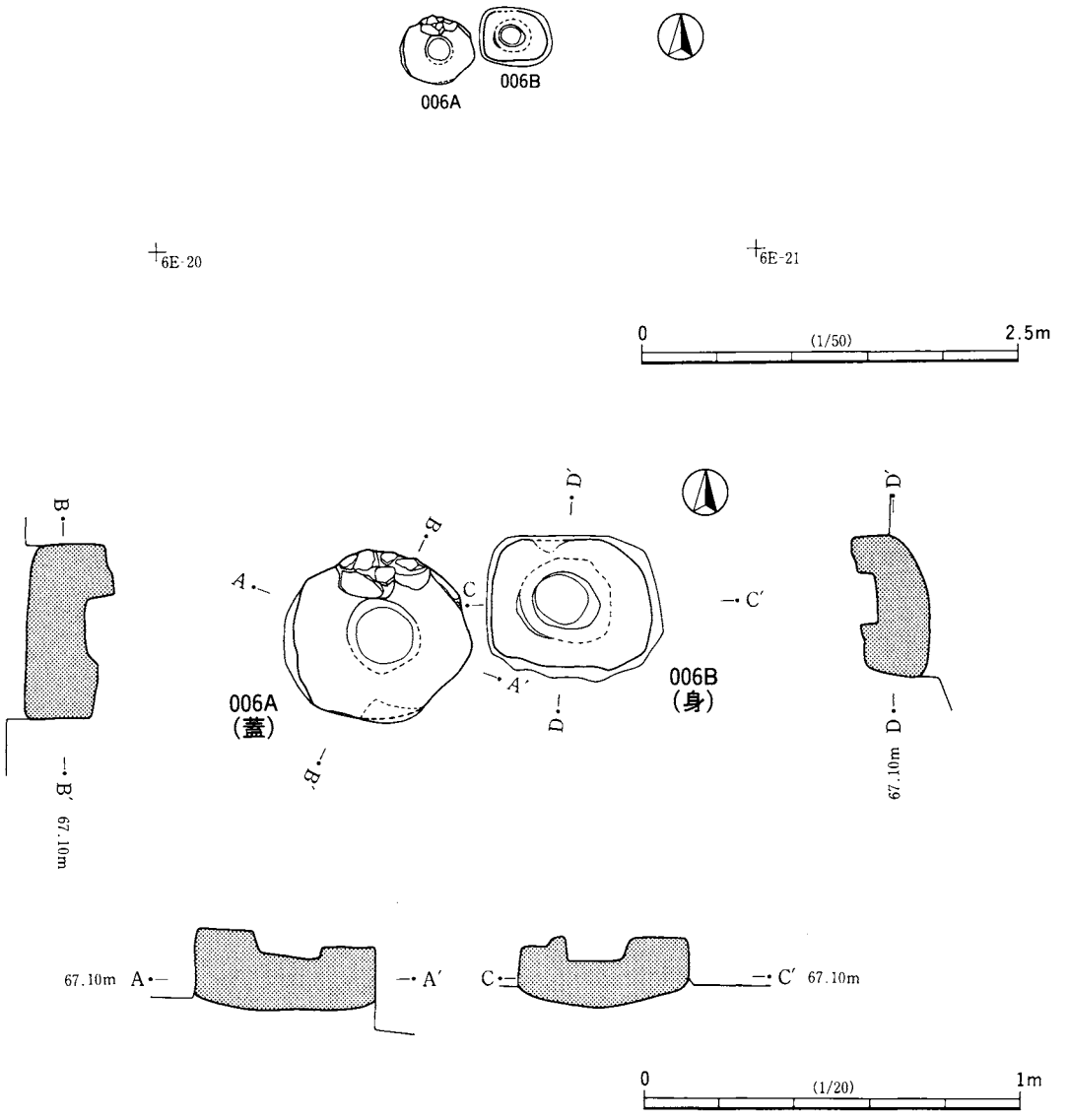
(011)



(3G-20)

第81図　011，3G-20グリッド出土遺物

0　(1/3)　10cm



第82図　006A・B

006B

平面形態は隅丸方形で長軸47cm・短軸37cm・中心部の高さ19cmであり，下部は中央部が若干膨らむ。上面中央部には，直径15cm～18cm・深さ6cmの円形納骨穴が掘り込まれ，縁に一部高さ3cmの凸帯が残存している。

両者が接して検出されたこと，006Bの納骨穴周囲の凸帯の存在，006Aの穴の方が006Bの穴より広いこと等から，006Aは蓋，006Bは身で印籠式石櫃の可能性が高い。

3　遺構外遺物（第81図，第16表，図版35）

調査区東部の3G-20グリッドで土師器の甕と鉢が出土した。1は甕の口縁部から胴部上半で，口径22.5cm，整形は外面胴部が縦方向のヘラケズリ後，口辺部内外面を横ナデしている。2は鉢の胴部下半以下で，底径は11cm，整形は外面がヘラケズリ後斜め方向のヘラ磨き，内面も斜め方向の弱いヘラ磨きである。9世紀前半の所産に推定され，或いは骨蔵器の可能性も考えられる。

第16表　奈良・平安時代土器観察表

挿図	図版	番号	遺構	種別	器種	遺存率(%)	口径(cm)	胴部最大径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整	胎土	色調	焼成	時期	備考
76	33	1	003	土師器	杯	98	13.5	—	9.2	3.4～4.3	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒やや多い	橙色(2.5YR6/6)	良好	8C後半	
76	33	2	003	土師器	杯	20	(13.0)	—	(9.6)	4.4～4.5	ヘラ削り後，内面～外面口辺部横ナデ	砂粒微粒少量	橙色(5YR6/6)	良好	8C後半	
76	33	3	003	土師器	杯	5	(12.8)	—	—	—	ヘラ削り後，内面～外面口辺部横ナデ	砂粒微粒少量，金雲母，白色針状物質微量	にぶい黄褐色(10YR5/4)～橙色(5YR6/6)	良好	8C後半	内面に格子状暗文
76	33	4	003	土師器	高台付杯	60	12.8	15	8.3～8.7	(15.0)	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ，高台部指頭押圧	砂粒やや多く，白色針状物質・金雲母微量	橙(5YR6/8～7.5YR6/6)	やや不良		
76	36	5	003	須恵器	甕		—	—	—	—	外面叩き目，内面ヘラ削り	長石微粒微量	灰白色(5Y7/1)	良好		外面拓本
76	36	6	003	須恵器	甕		—	—	—	—	内外面叩き目	長石微粒微量	灰色(5Y6/1)	良好		内外面拓本
76	33	7	003	土師器	甕	80	22.5～22.9	21.2	7.7～7.8	27.6～27.7	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒やや多い	橙色(5YR6/6)～にぶい黄橙色(10YR6/4)	普通	8C後半	外面下半カマド材付着
76	33	8	003	土師器	甕	75	22.6～23.0	22.2	5.0～5.3	29.1～29.7	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒多い	明黄褐色(10YR7/6)～橙色(5YR6/6)	普通	8C末	武蔵型甕
78	34	1	004	土師器	杯	50	(12.8)	—	7.0～7.2	4.1	ロクロ成形後，横ナデ，底部ナデ	砂粒微粒やや多い	橙色(7.5YR7/6)	良好	9C初頭	
78	34	2	004	土師器	杯	30	(13.0)	—	(6.0)	3.9	ロクロ成形後，横ナデ，底部回転ヘラ削り	砂粒微粒少量	にぶい橙色(7.5YR6/4)	良好	9C初頭	
78	34	3	004	土師器	杯	95	13.2～13.5	—	6.1～6.2	4.2～4.5	ロクロ成形後，横ナデ，底部回転ヘラ削り	砂粒微粒やや多い，白色針状物質少量	明黄褐色(10YR7/6)～橙色(5YR6/6)	良好	9C後半	
78	34	4	004	土師器	杯	35	(16.2)	—	(11.4)	(5.5)	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒やや多い	明黄褐色(10YR6/6)	やや不良		相模型杯
78	34	5	004	土師器	杯	60	—	—	6.8	—	ロクロ成形後，横ナデ，底部回転ヘラ削り	砂粒，白色針状物質少量	橙色(7.5YR6/6)	良好	9C前半	内面見込と外面に墨書「止」
78	34	6	004	土師器	小型甕	60	12.8	—	—	—	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒やや多く，金雲母微量含む	にぶい橙(7.5YR6/4)～橙(7.5YR6/6)	良好	9C前半	
78	34	7	004	土師器	甕	70	20.4～21.6	20.8	—	—	ヘラ削り後，内面～外面口辺部横ナデ	砂粒微粒多い	明黄褐色(10YR6/6)～橙(7.5YR6/6)	普通	8C後半	
78	36	8	004	陶器	長頸瓶		—	—	—	—	ロクロ成形後，外面横ナデ	長石微粒微量	外面にぶい赤褐色(5YR4/3)，自然釉灰オリーブ色(7.5YR5/2～4/2)，内面にぶい黄橙色(10YR6/3)	良好	8C末～9C初頭	井ヶ谷78号窯か
79	35	1	010	土師器	杯	80	13.4	—	8.7	3.3～3.9	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒やや少量，白色針状物質やや多い	橙色(7.5YR7/6～2.5YR6/6)	良好	8C後半	
79	—	2	010	土師器	鉢	10	—	—	—	6.5～7.0	ヘラ削り後，口縁部横ナデ	砂粒微粒少量，白色針状物質微量含む	明赤褐色(5YR5/6)	普通		
79	35	3	010	土師器	甕	10	—	—	7.4～7.7	—	ヘラ削り	砂粒微粒少量	橙色(7.5YR6/6)～赤褐色(5YR4/8)	極めて良好		
81	35	1	011	土師器	杯	80	11.4～11.6	—	8.0	3.6	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒少量	にぶい黄橙色(10YR7/4)～橙色(7.5YR7/6)	良好	8C末	内面に赤彩残存

挿図	図版	番号	遺構	種別	器種	遺存率(%)	口径(cm)	胴部最大径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	成形・調整	胎土	色調	焼成	時期	備考
81	35	2	011	土師器	杯	45	(13.8)	—	(10.6)	(4.6)	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒やや多い	橙色(7.5YR7/6)	良好	8C後半	
81	35	3	011	土師器	高台付杯	95	10.5	—	6.4～6.8	6.1	杯部ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ，高台部指頭押圧	砂粒微粒，金雲母，白色針状物質微量	橙色(7.5YR6/6)	良好		
81	35	4	011	土師器	小型甕	30	—	—	7.0	—	ヘラ削り	砂粒微粒多く含む	橙色(7.5YR6/6)	普通		
81	35	5	011	土師器	甕	80	21.4	21.9	—	—	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒やや多い	明黄褐色(10YR7/6)～明赤褐色(2.5YR5/6)	普通	9C代	
81	36	6	011	須恵器	甕		—	—	—	—	内外面叩き目	長石微粒微量	黄灰色(2.5Y5/1)	良好		内外面拓本
81	36	7	011	須恵器	甕		—	—	—	—	外面叩き目，内面指頭押圧	砂粒微粒少量	明黄褐色(2.5Y7/6)	良好		外面拓本
81	35	1	3G-20	土師器	甕	5	22.5	—	—	—	ヘラ削り後，口辺部内外面横ナデ	砂粒微粒やや多い	にぶい黄橙色(10YR7/4)～橙色(5YR6/6)	普通		
81	35	2	3G-20	土師器	鉢	40	—	—	11.1～11.4	—	ヘラ削り後，ヘラ磨き，底部ヘラナデ	砂粒微粒やや多く，白色針状物質微量	橙色(5YR6/6)	良好	9C前半	骨蔵器か

4　小結

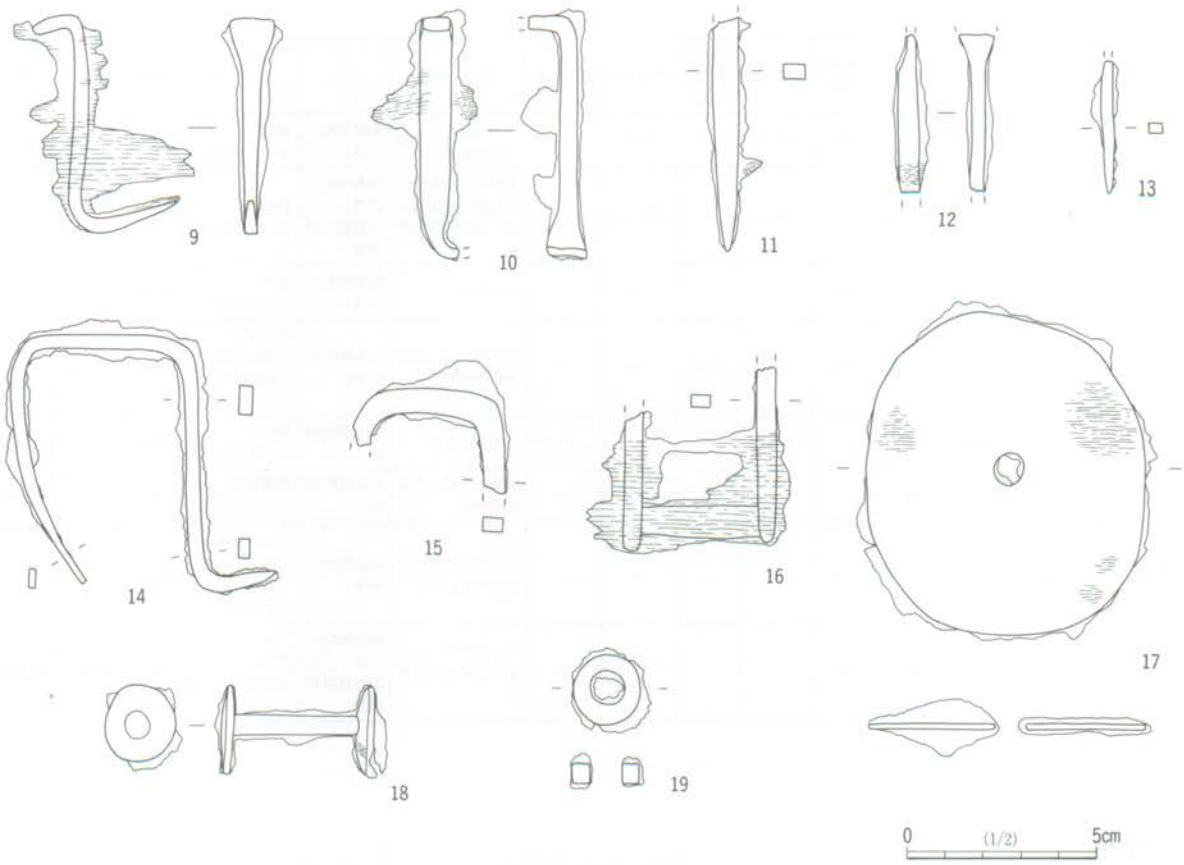
竪穴住居跡4軒の時期は出土遺物から，003と010は8世紀後半，004と011は9世紀初頭～前半が推定できる。これらは，調査区南側で検出されさらに南側は急斜面となるので，この集落は完結していると考えられるが，時期的に2軒ずつ2時期のセット関係と考えることも可能である。8世紀後半の003はやや大型で柱穴が存在しカマドは北方向だが，010は小型で柱穴がなくカマドは東方向で住居の隅に位置する。また，9世紀前半の004はやや大型で柱穴がありカマドは北方向だが，011はやや小型で柱穴がなくカマドが東方向で中心からずれている。これらは，偶然の可能性もあろうが，大型の住居が本家，小型の住居が分家或いは下人クラス，または作業小屋で，住居形態が規制されたという推測もできる。また，2基並んで検出された石櫃は身と蓋のセットで印籠型の可能性があり，周辺遺跡の事例から時期は恐らく8世紀から9世紀前半であろう。つまり，奈良・平安時代の当遺跡は，小規模ながら集落と墓域が共存していたことが窺える。

第5節　中・近世（第83・84図，図版11・36）

中世以降の遺構は，調査区中央部を南北に貫通する道路に沿って西側に上幅5m程の溝状の道路跡が存在した（図版11）が，地表面記録のみである。ほかは，奈良・平安時代の竪穴住居跡（003）覆土に掘り込まれた土坑1基のみであるが，遺物（金属製品）が出土している。

1　003出土金属製品（第83図，図版36）

003の覆土に掘り込まれた中・近世の土坑に伴う鉄製品と考えられる。9～12は鎹（かすがい），13は鉄釘に推定されるが，14～19は用途不明金具である。9～12，16～18には木質が付着していることから，これらは板材を接続または留める金具であることが推測される。17は直径7.3cm～8.3cmの円盤状で中央に直径8㎜の穴が開けられており，木質の木目から直交する板材の間に入る金具であることが推測される。18は直径18㎜・



第83図　003出土金属製品

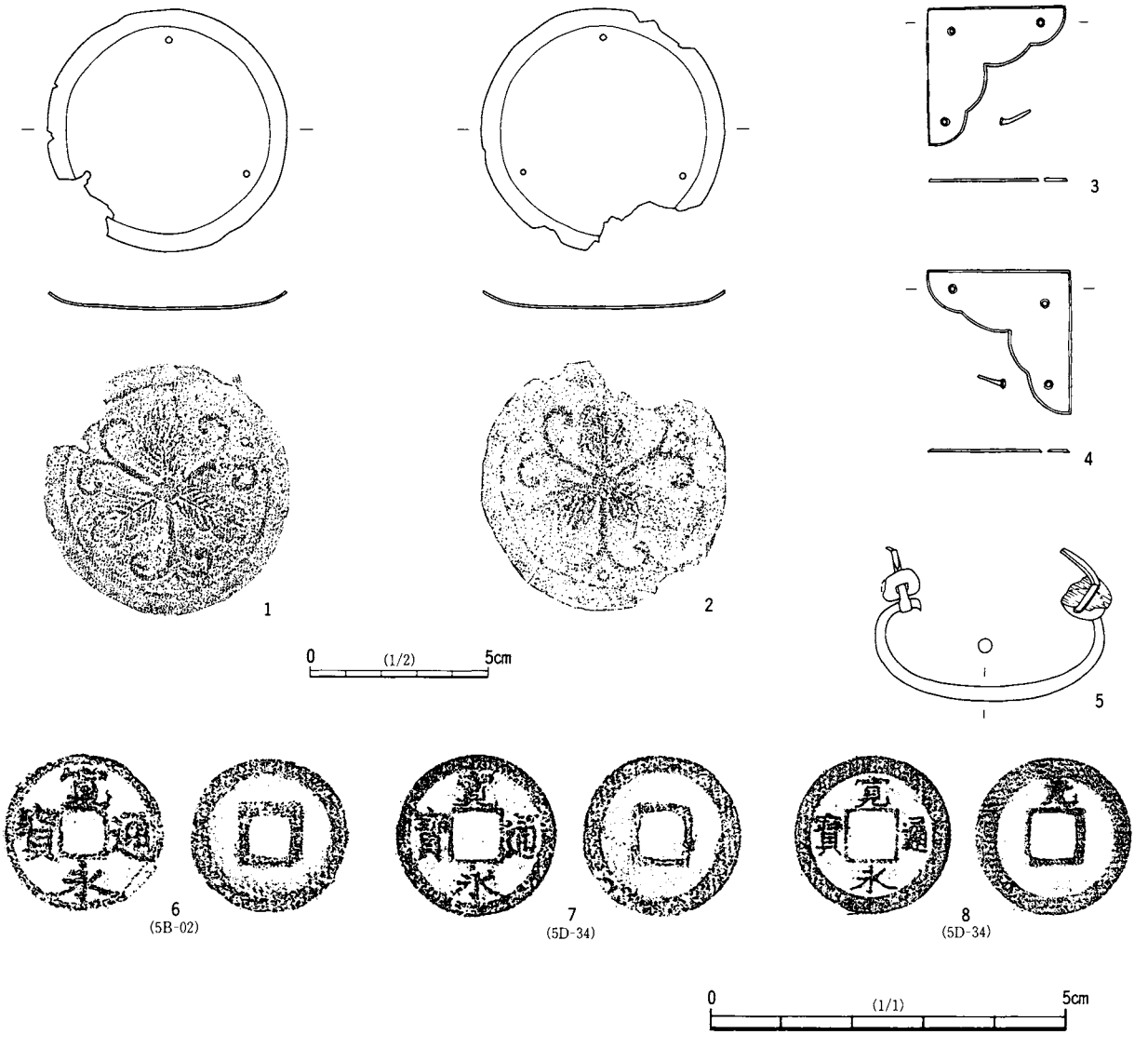
厚さ1.5㎜の円盤を径５㎜・長さ3.2cmの筒状金具の両端に留めたもので，円盤の内側に木質が付着していることから，厚さ３cmほどの材木を貫通させた金具が推定できる。19は直径18㎜・穴径８㎜のリング状の金具である。

２　天秤（第84図，図版36）

調査区南部の竪穴住居跡の南側表土中の5D-34グリッドで出土した銅製品で，皿２枚・飾り金具２枚・取っ手１個であり，近世の天秤の金具類と考えられる。１・２は直径6.8cm・厚さ0.3㎜で縁が５㎜立ち上がり，見込み部の３か所に直径２㎜弱の穴が穿たれている。下面には植物の葉と蔓が彫刻され塗金が施されている。重さは１が10.93ｇ，２が11.64ｇである。３・４は一辺3.9cm～４cm・厚さ0.5㎜の三角形状の金具で，３か所に直径２㎜ほどの穴が穿たれている。この穴に対応する長さ８㎜の銅製釘も３点出土した。恐らく天秤皿を下げる木枠の両隅に付けられて材木を固定する飾り金具と推定される。重さは３が4.02ｇ，４が4.37ｇである。５は弧状を呈する棒の両端に，薄い円盤が付いた可動する金具が付けられており，円盤には木質が付着している。重さは11.07ｇである。天秤の下部の箱状基礎に造られた引き出しの取っ手金具の可能性が考えられる[3]。

３　銭貨（第84図，第17表，図版36）

銭貨は調査区南部の表土中から３枚出土した。いずれも寛永通宝である。６は初鋳年寛永13年（1636）の古寛永銭，７は初鋳年元禄10年(1697)，８は初鋳年寛保元年（1741）の新寛永銭である[4]。７・８は天秤と同一か所から出土しており，何らかの関係がある可能性を仮定すると，天秤は18世紀中葉以降の製品であろうか。



第84図　中・近世金属製品

第17表　銭貨計測表

挿図	図版	番号	遺構	銭種	書体	読み	鋳造地	初鋳年		材質	縁外径	縁内径	郭外長	郭内長	縁厚	肌厚	重量	備考
								元号	西暦									
84	36	6	5B-02	寛永通宝	真書	対読	武蔵国江戸浅草橋場	寛永13	1636	銅	22.50	19.50	7.25	5.70	1.43	1.20	3.20	縁部欠損（江戸浅草銭）
84	36	7	5D-34	寛永通宝	真書	対読	武蔵国江戸亀戸村	元禄10	1697	銅	23.00	18.60	8.10	1.01	1.01	0.68	2.18	（江戸亀戸銭）
84	36	8	5D-34	寛永通宝	真書	対読	摂津国大坂高津新地	寛保元	1741	銅	22.53	17.00	8.30	1.06	1.06	0.65	2.08	（大坂高津銭）

4　小結

中・近世は，遺構は道路跡と土坑１基が検出された。道路跡は，明治初期の迅速図（第２図）にも描かれ，当地域の台地上を東西に伸びる主要道であったことが推測される。奈良時代の住居跡に掘り込まれた土坑中から出土した金属金具には木質が付着していることから，金属金具を多用した木製品が捨てられた穴であることが想像できる。また，陶磁器の出土がないが，付近から出土した銅製天秤金具や銭貨から17世紀前半から18世紀後半にかけての遺構と考えられる。以上より，道路跡の存在，生活痕跡のなさ等，この地点が山林であり，ゴミ捨て場的な場であったことが考えられる。

注１　文様要素を主とした分類は，西村正衛氏及び和田哲氏の成果を踏まえた上で，以下の文献を主たる参考とした。

高柳圭一　1992「第３章　調査の成果」『小見川町天神後遺跡』財団法人千葉県文化財センター

２　土師器の編年・年代観については，笹生　衛　1987「安房・上総に対するコメント」他『房総における歴史時代土器の研究』房総歴史考古学研究会　等を参考とした。

３　天秤については，小泉袈裟勝　1982『ものと人間の文化史48　秤』法政大学出版局　を参考とした。

４　銭貨の鋳造地比定・分類については，小川浩　1972『寛永通宝銭譜』日本古銭研究会，増尾書房　1976『古寛永銭志改訂版』穴銭堂，静岡いずみ会　1992『穴銭入門　寛永通宝－新寛永銭の部－』書信館出版，等を参考とした。

第３章　堀ノ内台遺跡

第１節　概要（第86・88図）

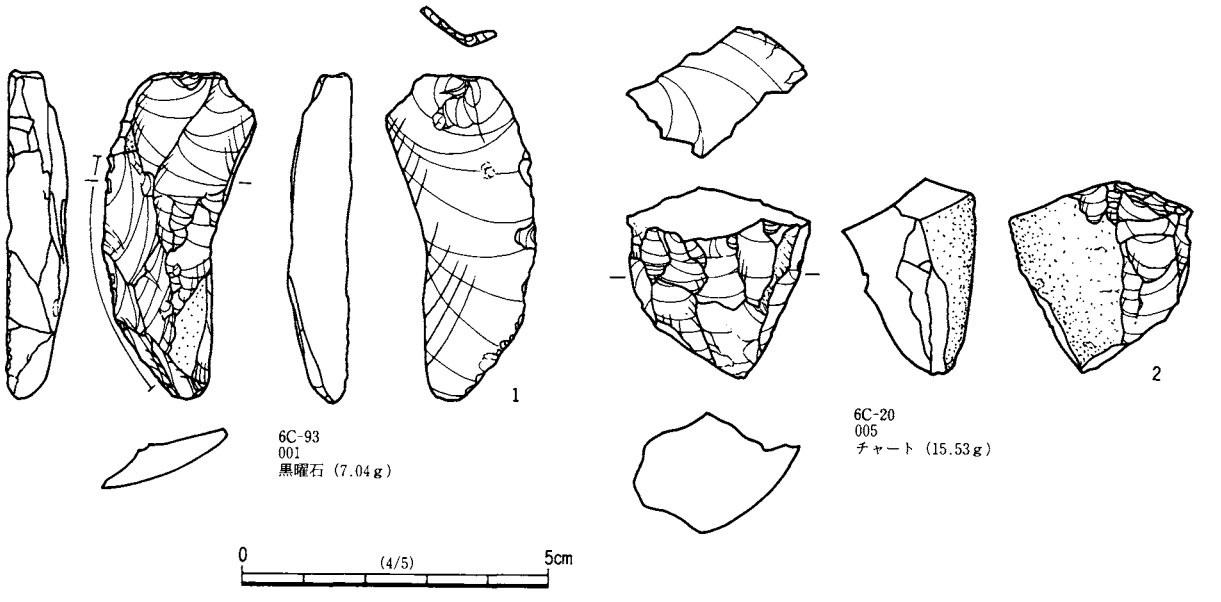
堀ノ内台遺跡は，木更津市下烏田字堀ノ内台400-1ほかに所在する。遺跡は，烏田川右岸へ注ぐ支谷に開析された，標高約64mの台地上に立地する。今回の調査区は，南側へ舌状にのびる台地の先端部である。この部分は平坦な台地上であり，標高は64mで安定している。しかし，今回調査区の東側及び南側で，谷に面する部分はすでに削平されていた。調査対象範囲の一部（100m²）もローム層まで削平されていることが，確認調査着手後に判明した。

第１章に記したとおり，調査は平成４年度に行われた。確認調査の結果，下層計50m²，上層計1,200m²を本調査範囲とした。そして，本調査の結果，旧石器時代遺物集中地点１か所，縄文時代土坑14基，奈良・平安時代方形周溝遺構３基，土坑墓１基，溝１条，石櫃２基，中・近世溝２条，土坑４基を検出した。

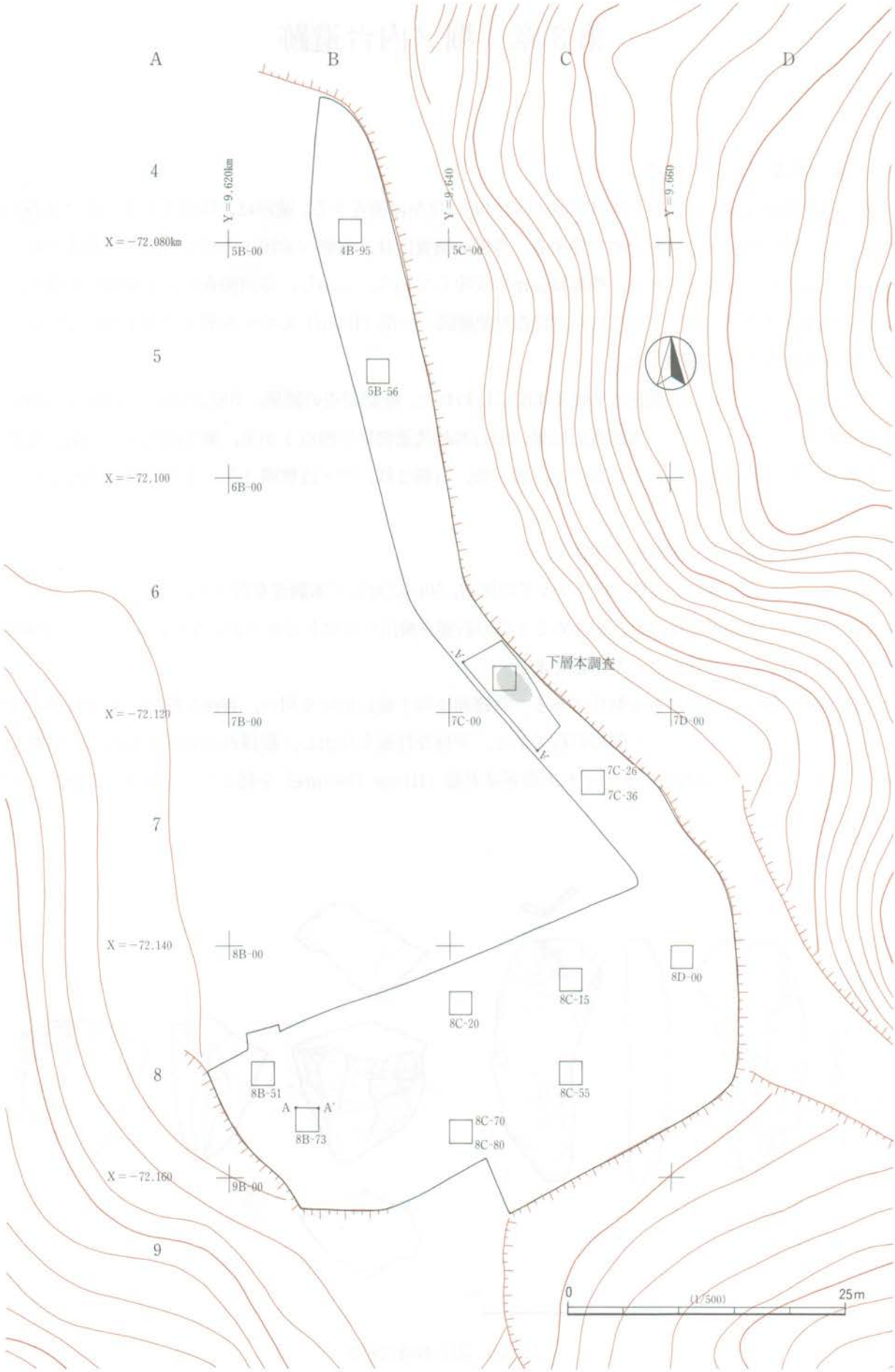
第２節　旧石器時代（第85～87図）

確認調査で石器を検出した6C-82グリッドの周辺，50m²に対して本調査を行った。しかし，まとまった出土は見られず，確認調査時のものを含めて４点の石器を検出したにとどまった。なお，表採の１点を除き，いずれもⅥ層上部から検出されたものである。

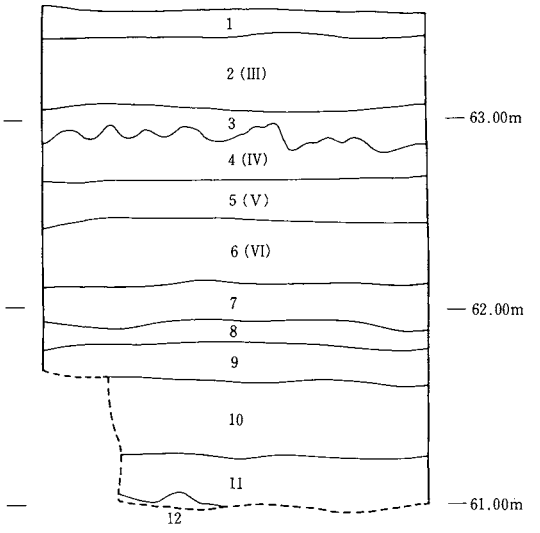
１は黒曜石製の使用痕のある剝片である。原礫面を残す縦長剝片を用い，背面左側縁に使用痕が，連続して認められる。２はチャート製の石核である。平坦な打面を作出し，縦長の小剝片を採取した形跡を認める。しかし，新しい剝離面は，いずれも蝶番状剝離（Hinge flacture）を起こし，寸詰まりな剝片しか採取されていない。



第85図　旧石器時代石器


A
B
C
D
4
5
6
7
8
9
Y=9.620km
Y=9.640
Y=9.660
X=−72.080km
X=−72.100
X=−72.120
X=−72.140
X=−72.160
5B-00
4B-95
5C-00
5B-56
6B-00
7B-00
7C-00
7D-00
下層本調査
7C-26
7C-36
8B-00
8D-00
8C-15
8C-20
8B-51
8C-55
A
A'
8B-73
8C-70
8C-80
9B-00
0
(1/500)
25m

第86図　下層調査範囲

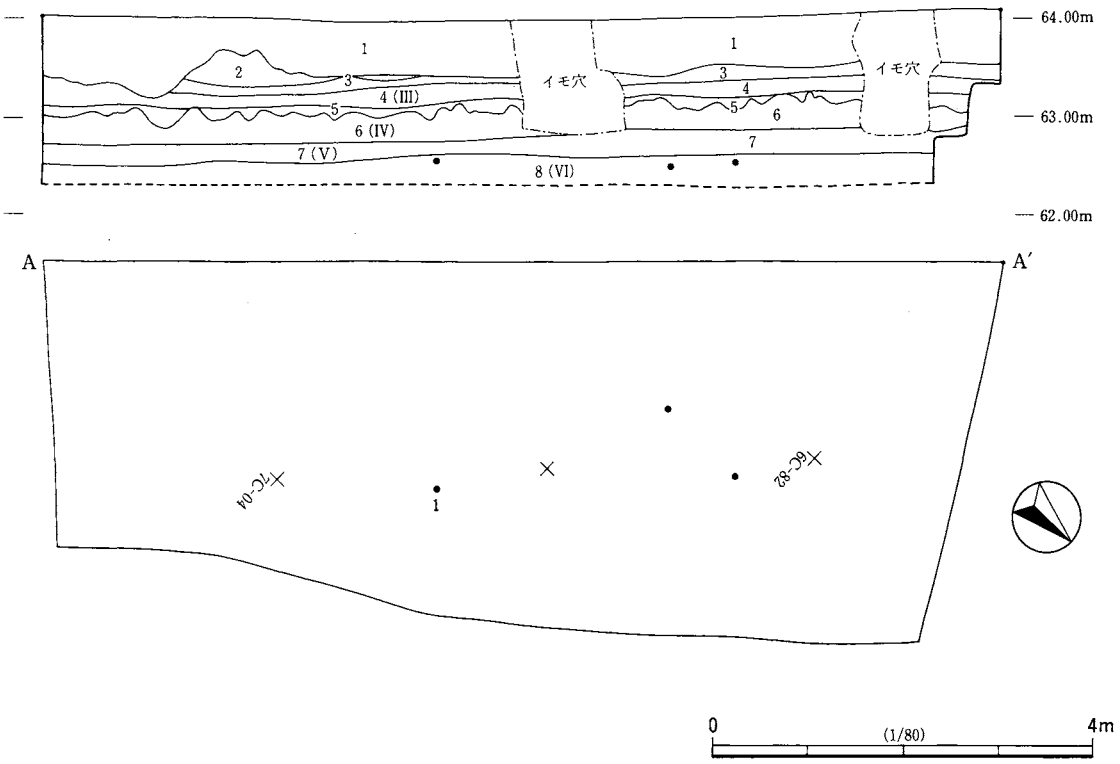


（下層グリッド土層　B8-73）
1．暗黄褐色土　ソフトローム
2．暗黄色土　ソフトローム（III層）
3．暗黄色土　ソフトローム＋ハードローム
4．暗黄色土　ややごろごろしているハードローム（IV層）
5．暗黄色土　固くしまりがあるハードローム（V層）
6．暗黄色土　非常に固くしまりのあるハードローム。色調明るく火山ガラス含む（VI層）
7～9．暗黄褐色土　黒色・赤色・青色スコリア多く含む。（第2黒色帯）8層はやや明るい。
10．暗黄色土　水気を帯びてやや軟質のハードローム。色調やや赤く，赤色・黒色スコリア少量含む。
11．暗黄色土　水気を帯びてやや軟質のハードローム。色調やや黄色く，混入物少量。
12．暗黄灰色土　やや青みを帯び，軟質。

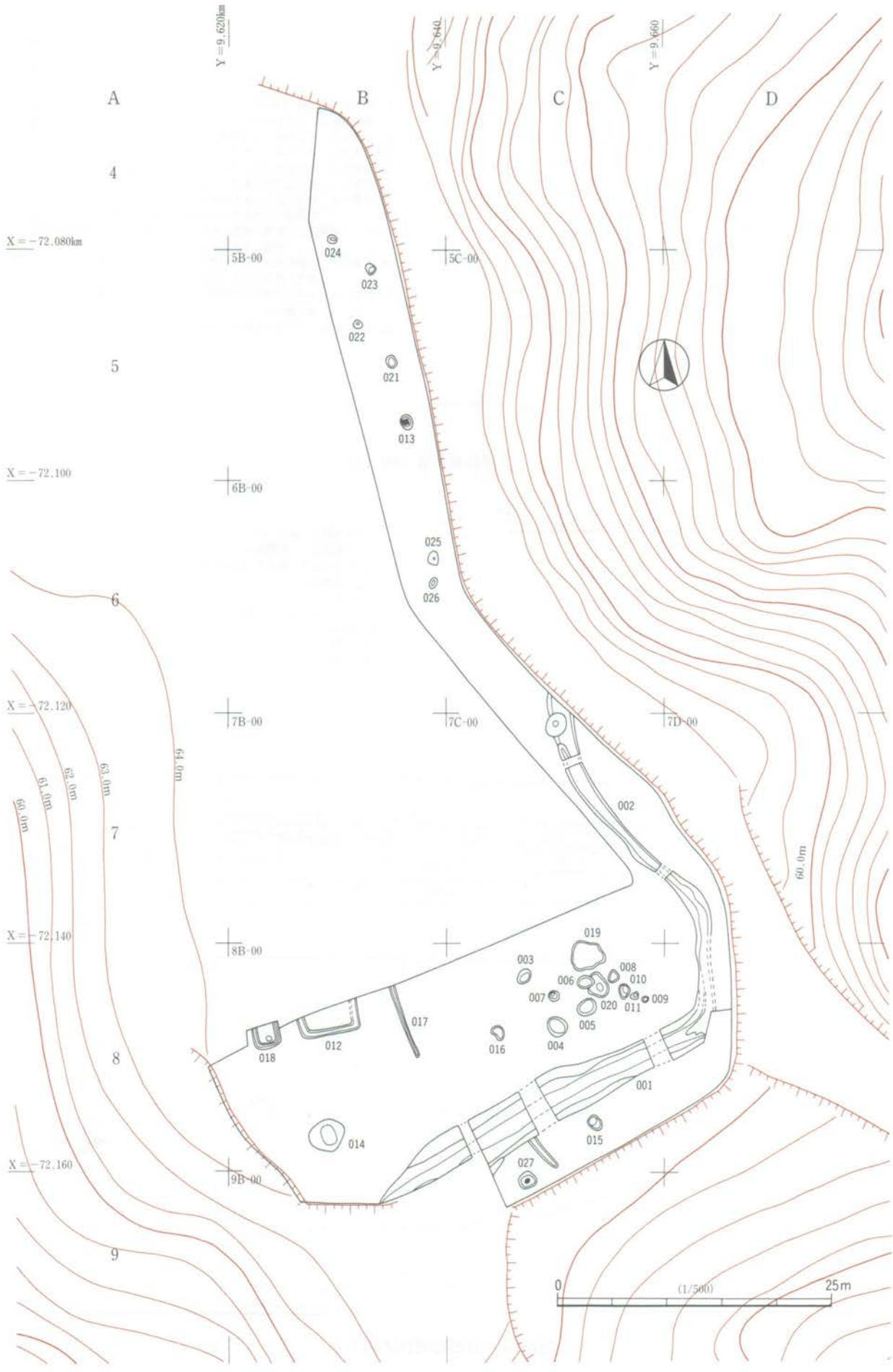
下層基本土層（8B-73）

0　(1/40)　2m

（下層本調査　SPA-A′）
1．黒褐色土　畑耕作土
2．暗黄褐色土　縄文早・前期の遺物を包含する。
3．暗茶褐色土
4．III層
5．ソフトローム＋ハードローム
6．IV層
7．V層
8．VI層



第87図　旧石器時代本調査区



第88図　上層検出遺構配置

第3節　縄文時代（第89～107図，第18・19表，図版38～40，44～47）

縄文時代の遺構は，8Cグリッドに集中して，早期初頭の撚糸文土器期と考えられる土坑14基を検出した。また，調査区全体から土器，石器及び礫を検出した。

1　土坑（第89～95図，図版38～40・44）

003（第89図，図版38・44）

5A-03グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形，長軸方向はN－42°－Eである。規模は，長軸1.5m，短軸1.1mほどである。断面形は皿状で，底面は平坦である。遺物は撚糸文土器4点，礫28点（1158.6g）を検出した。撚糸文土器は，いずれも小片であり，本報告では1点を図示した。1は底部近くの破片であり，やや器壁が厚い。器面は荒れており，詳細は不明であるが，条のまばらな撚糸文Rが施文されている。礫は，全体の75％が赤化している。個体別の質量は，35g前後のものが最も多いが，ばらつきがかなり大きい。石材は，砂岩，チャート，流紋岩が主体を占める。

004（第89図，図版38・44）

8C-35グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形，長軸方向はN－132°－Wである。規模は，長軸1.9m，短軸1.5mほどである。断面形は皿状で，底面には凹凸がある。遺物は撚糸文土器4点，礫37点（1125.2g）を検出した。撚糸文土器は，口縁部破片2点を図示した。1は，ほぼ直上する断面形態をなし，口唇部は平坦である。口縁部上端から撚糸文Rが施文されるが，施文後にナデが加えられ，磨り消される部分がある。2は口縁部付近がわずかに肥厚し，口唇部は丸みを帯びる。口唇部から内面にかけては，丁寧に調整され，器面は平滑で光沢を帯びる。口縁部から，節のやや大きい撚糸文Rが施文されるが，1と同様のナデが加えられている。礫は，全体の84％が赤化し，破損率も73％と高い数値を示している。個体別の質量は，15g前後に集中する傾向があるが，ばらつきは大きい。石材は，チャートを主体とし，砂岩，流紋岩，凝灰岩がこれに次ぐ。

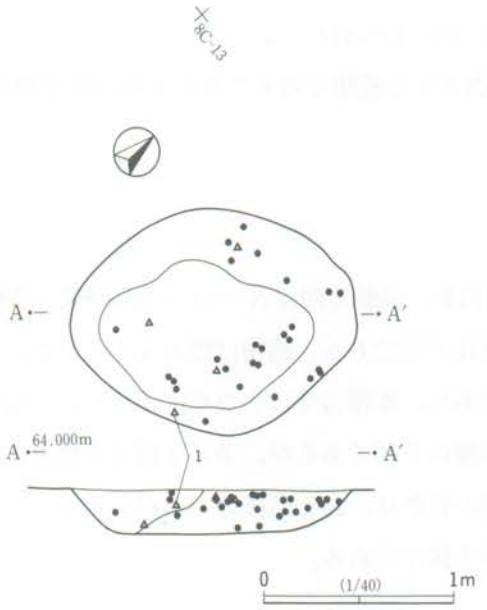
005（第90図，図版38・44）

8C-36グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形，長軸方向はN－90°－Eである。規模は，長軸1.7m，短軸1.5mほどである。断面形は皿状で，底面は東へ向かって傾斜する。遺物は撚糸文土器7点，礫129点（3578.2g）を検出した。撚糸文土器は，5点を図示した。1・2は，無文の口縁部破片である。1は，口縁部付近がやや肥厚し，口唇部は丸みを帯びる。2は口縁部付近でわずかに外反する。口唇部には，やや凹凸が見られるが，おおむね平坦に製作されている。いずれも，丁寧なナデ調整が施され，器表面は平滑である。3・5は同一個体であり，撚糸文Rが施文される。胎土は砂粒を多く含み，器表面がざらついている。また，白色スコリア粒が特徴的に含まれる。4は，撚糸文Lがやや密に施文されている。器面は，丁寧なナデ調整が施さる。礫は，全体の88％が赤化し，破損率も77％と高い数値を示している。個体別の質量は，ばらつきがかなり大きいが，5g以下の小礫が最も多い。石材は，チャートが主体を占め，砂岩，凝灰岩，流紋岩がこれに次ぐ。

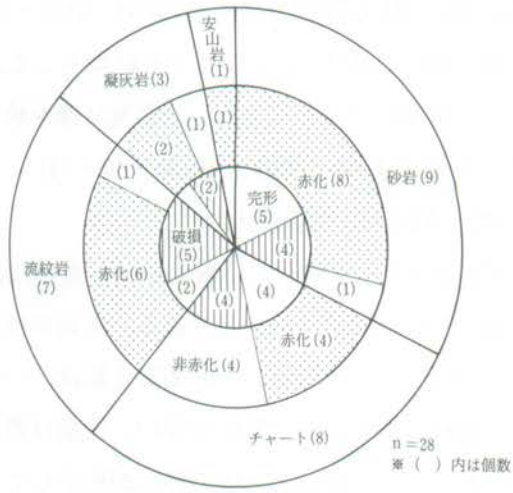
007（第90図，図版38・44）

8C-25グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある円形である。規模は，直径が0.9mほどである。断面形は擂鉢状であるが，立ち上がりには凹凸が見られる。遺物は撚糸文土器1点，礫17点（765.7g）を検出した。1は胴部の小破片であるが，湾曲の様相から底部にほど近い部分と思われる。撚糸文Rが施文されている。色調は，外面が暗灰褐色，内面が黒褐色である。胎土には砂粒を多く含む。礫は，全体の88％

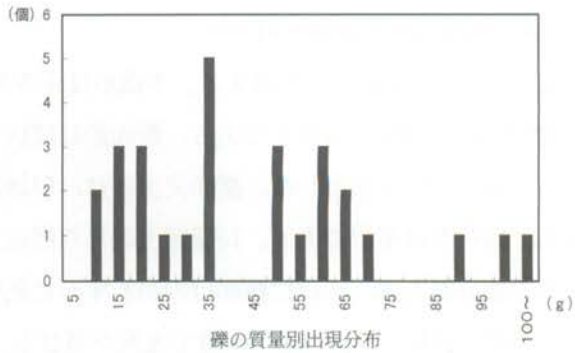
003



1．暗茶褐色土　ソフトローム粒少量含む。色調やや暗い。
2．暗茶褐色土　ソフトローム粒少量含む。焼土粒僅かに含む。

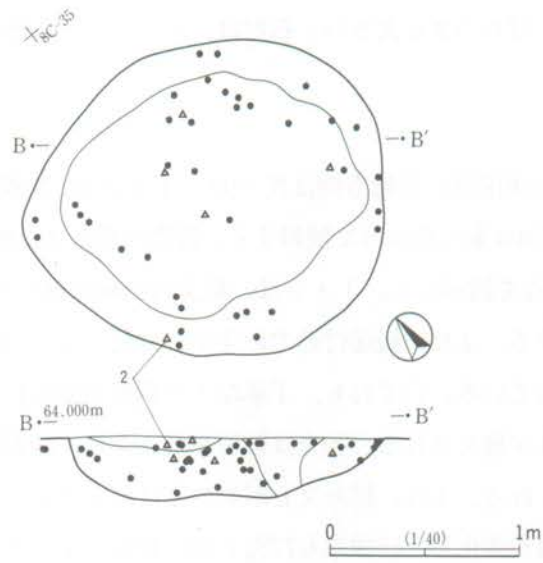


礫の石材と観察

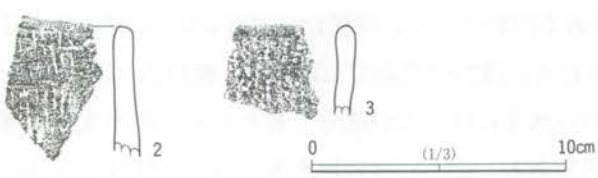


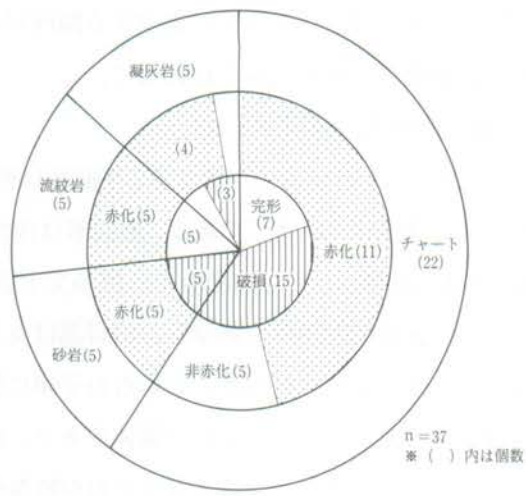
礫の質量別出現分布

004

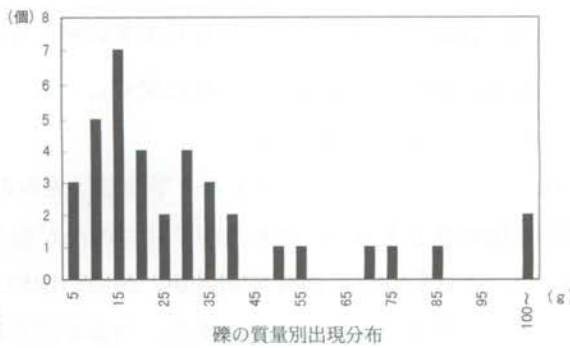


1．暗茶褐色土　黒色土粒を多く含む。
2．暗茶褐色土　黒色土粒含み，色調暗い。
3．暗茶褐色土　ソフトローム粒多く含む。





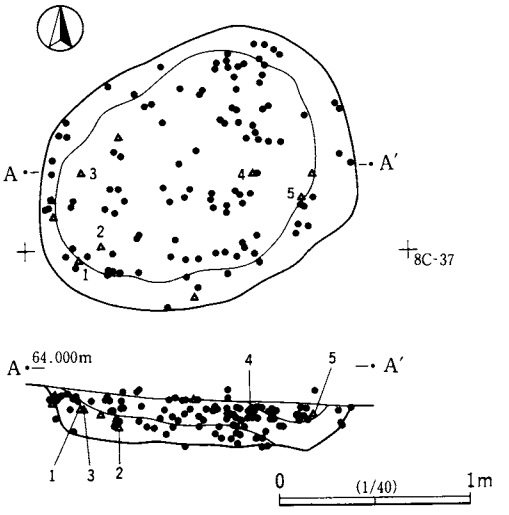
礫の石材と観察



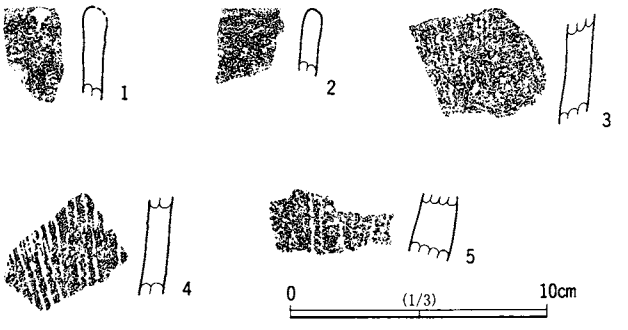
礫の質量別出現分布

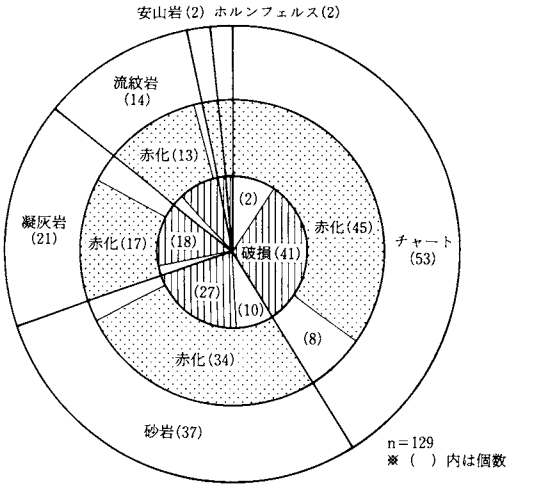
第89図　土坑（1）

005

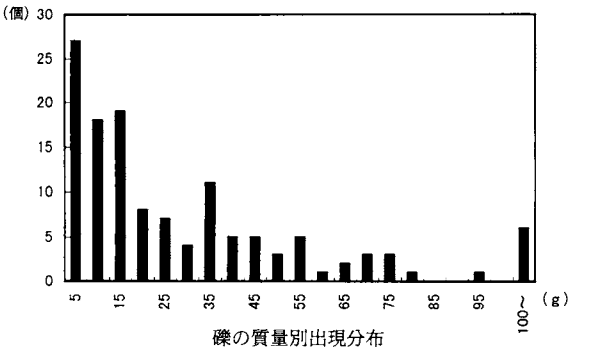


1．暗茶褐色土　黒色土粒少量含む。
2．暗茶褐色土　ソフトローム粒少量含む。
3．暗茶褐色土　黒色土粒少量含み，色調暗い。



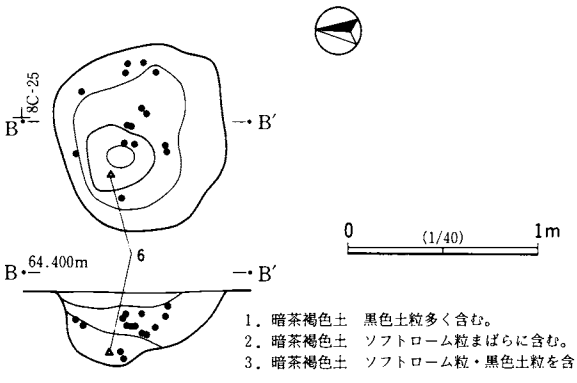


礫の石材と観察

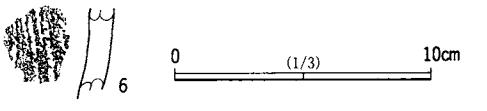


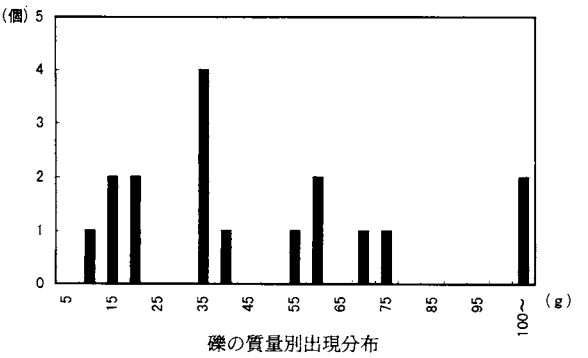
礫の質量別出現分布

007

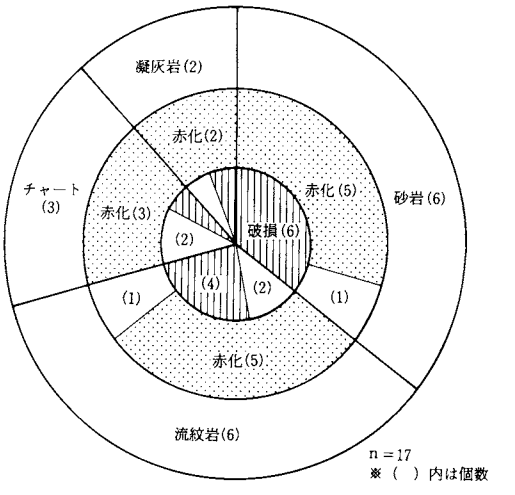


1．暗茶褐色土　黒色土粒多く含む。
2．暗茶褐色土　ソフトローム粒まばらに含む。
3．暗茶褐色土　ソフトローム粒・黒色土粒を含む。





礫の質量別出現分布



礫の石材と観察

第90図　土坑（2）

が赤化し，破損率も71％と高い数値を示している。個体別の質量は，ばらつきがかなり大きいが，35ｇほどのものが最も多い。石材は，砂岩，凝灰岩が主体を占める。

006（第91図，図版38・44　※敲石については第99図に掲載した。）

8C-16グリッド付近に位置する。020土坑の西側部分に重複して，構築されている。平面形は歪みの大きい楕円形である。規模は，長軸1.5m，短軸1.2mほどである。断面形は皿状で，底面には凹凸が見られる。遺物は撚糸文土器２点，敲石１点，礫61点（1907.8ｇ）を検出した。１は口縁部付近が肥厚し，口唇部は丸みを帯びる。まばらな撚糸文Ｒが施文された後に，丁寧なナデが加えられ，撚糸文が部分的に磨り消されている。口唇部は，ケズリ及びナデにより丁寧に調整される。胎土は砂粒を多く含むが，焼成は極めて良好である。２は撚糸文Ｌが施文される胴部片である。湾曲の様相から底部にほど近い部分と思われる。敲石（第99図３）は，流紋岩製である。磨石の破損品を敲石に転用したものと思われる。礫の赤化率は，92％と極めて高い数値を示すのに対し，破損率は69％ほどである。個体別の質量は，ばらつきがかなり大きいが，１ｇ～45ｇの範囲に集中する傾向が読みとれる。石材は，チャートが主体を占め，砂岩がこれに次ぐ。

020（第91図，図版39・44）

8C-27グリッド付近に位置する。平面形は不整形で，浅く広がる竪穴状の土坑である。規模は，長軸2.3m，短軸1.5mほどである。長軸方向は，Ｎ－38°－Ｗである。断面形は皿状で，底面は凹凸に富んでいる。遺物は撚糸文土器５点（第91図３～７），礫169点（4657.3ｇ）を検出した。３・４は同一個体である。撚糸文が施文されている痕跡が見いだせるが，大半が施文後のナデ調整により磨り消されており，詳細は不明である。外面及び口唇部のナデは，極めて丁寧で，器表面が光沢を持つ部分もある。胎土は砂粒を多く含む。５は，まばらな撚糸文Ｌが施文される。内外面とも，丁寧なナデ調整が施されている。６は比較的密な撚糸文Ｒが施文される。撚糸文は部分的に軽いナデにより，磨り消されている。７は底部付近の破片である。外面は，被熱により荒れが著しい。礫は，赤化率が94％と高い値を示しているが，破損率は66％ほどである。個体別の質量は，６ｇ～30ｇの範囲に集中して分布している。石材は，チャートを主体として，砂岩，業界が，流紋岩がこれに次ぐ。なお，完形礫の割合は，チャートが最も高い。

008（第92図，図版38）

8C-18グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある台形状である。規模は，長軸が1.1mほどである。長軸方向は，Ｎ－47°－Ｅである。断面形は皿状であり，底面には凹凸が見られる。遺物は，礫25点（491.2ｇ）を検出した。礫の赤化率は92％と高い数値を示すが，破損率は64％ほどである。個体別の質量は，ばらつきが見られるものの，６ｇ～20ｇの範囲に集中する傾向がある。石材は，チャートが主体を占め，砂岩がこれに次ぐ。なお，完形礫の割合は，チャートが最も高い。

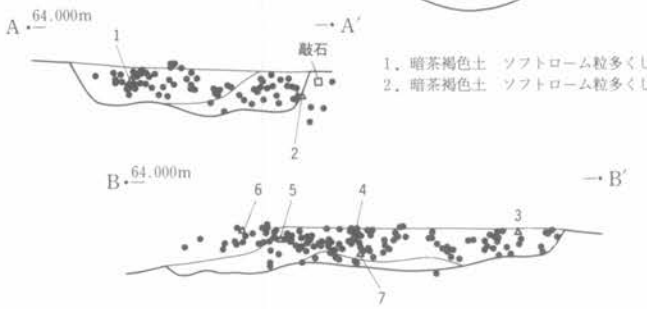
009（第92図，図版38）

8C-27グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある円形である。規模は，直径が0.5mほどである。断面形は皿状であり，底面には凹凸が見られる。遺物は，礫８点（189.2ｇ）を検出した。礫の赤化率は92％と高い数値を示すが，破損率は64％ほどである。個体別の質量は，7.9ｇ～41.0ｇの範囲内に分布している。石材は，チャートが主体を占め，凝灰岩がこれに次ぐ。

010（第92図，図版38・44）

8C-28グリッド付近に位置する。平面形は不整形である。規模は，長軸1.3m，短軸0.9mほどである。長

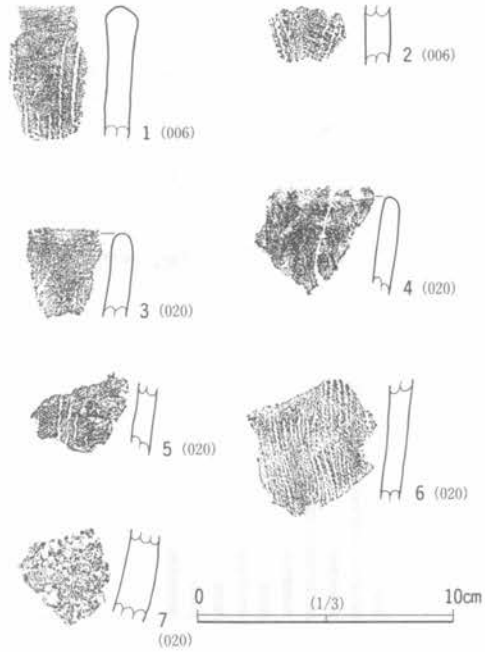
006・020

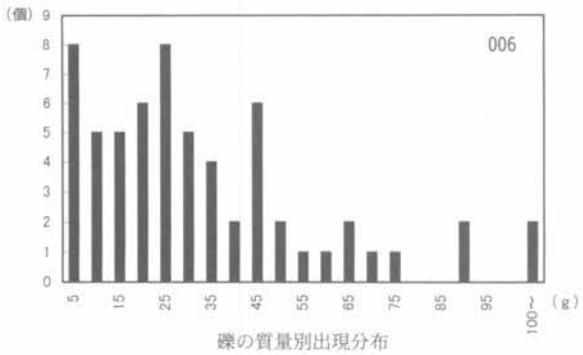


1．暗茶褐色土　ソフトローム粒多くしまり弱い。
2．暗茶褐色土　ソフトローム粒多くしまりあり。

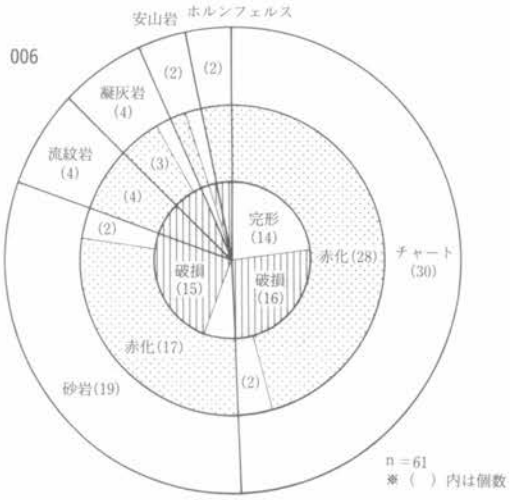
1．暗茶褐色土　ソフトローム粒をまばらに含む。
2．暗黄色土　ソフトロームを多量に含む。

0　(1/40)　1m

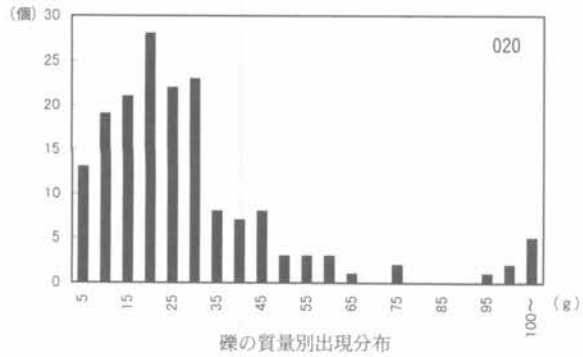




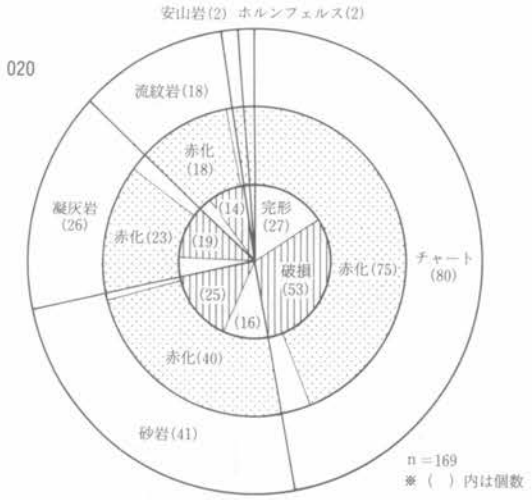
礫の質量別出現分布



礫の石材と観察



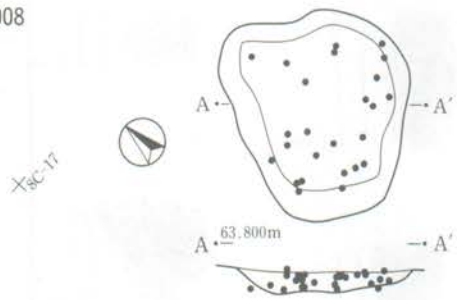
礫の質量別出現分布

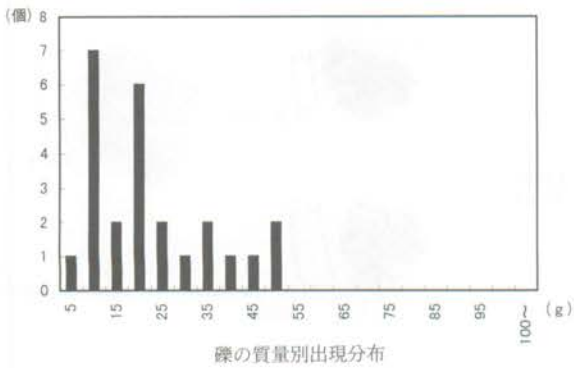


礫の石材と観察

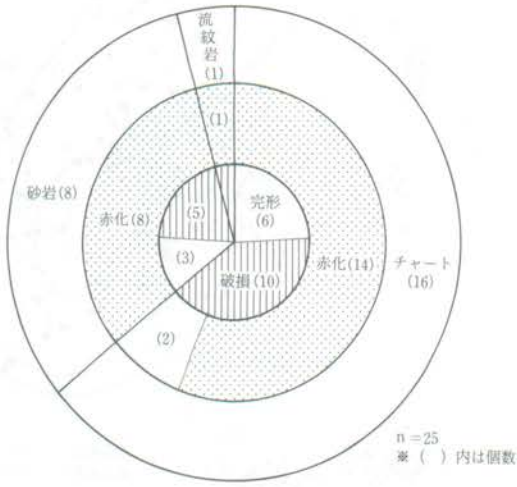
第91図　土坑（3）

008



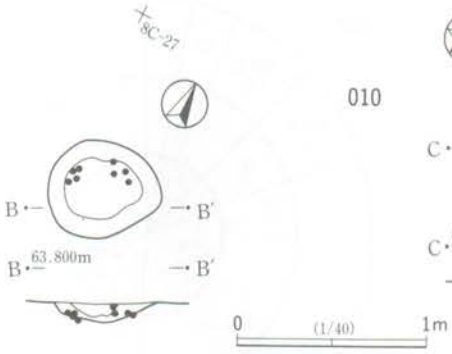


礫の質量別出現分布



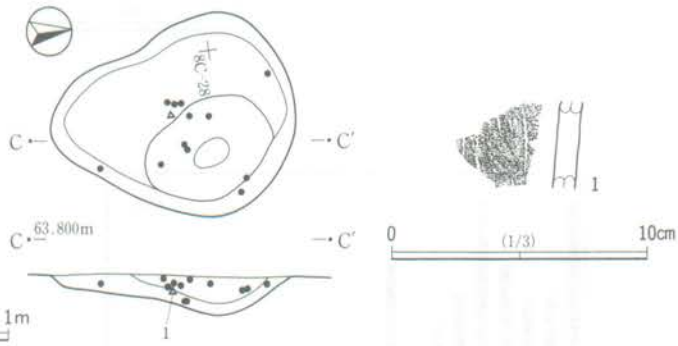
礫の石材と観察

009

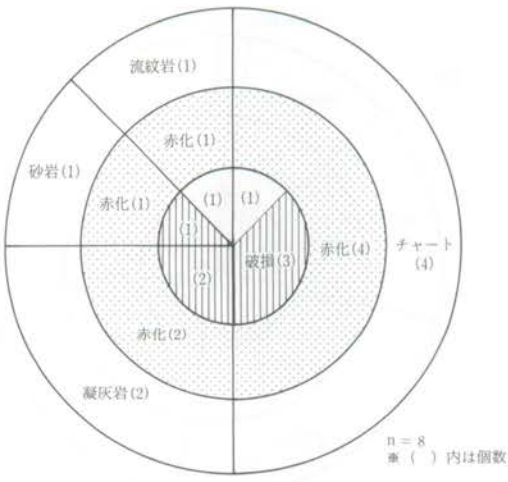


1．暗茶褐色土　ローム粒少量含む。
2．暗茶褐色土　ローム粒多く含む。

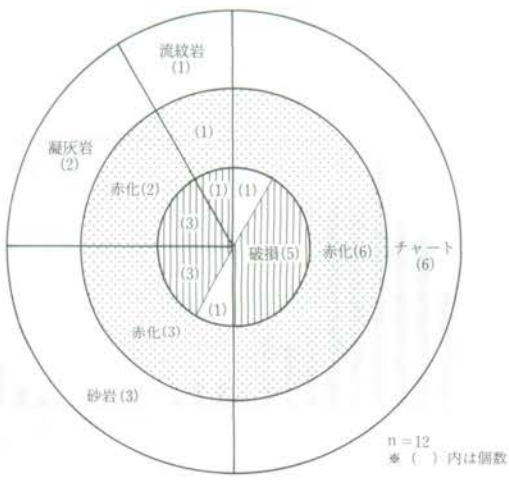
010



1．暗茶褐色土　ソフトローム粒少量含む。
2．暗黄色土　ソフトローム粒多く含む。



礫の石材と観察（009）



礫の石材と観察（010）

第92図　土坑（4）

軸方向は，N－13°－Wである。断面形は浅い擂鉢状で，底面は東側にかたよる。遺物は，撚糸文土器１点，礫12点（258.7ｇ）を検出した。１は撚糸文Ｒ施文後に，ナデが加えられ，撚糸文が部分的に磨り消されている。礫は全点が赤化するが，破損率は83％ほどである。個体別の質量は，5.2ｇ～40.6ｇの範囲内に分布している。石材は，チャートが主体を占め，砂岩がこれに次ぐ。

011（第93図，図版39）

8C-29グリッド付近に位置する。平面形は歪みのある楕円形である。規模は，長軸0.9m，短軸0.7mほどである。長軸方向は，N－71°－Ｅである。断面形は皿状であり，底面は丸みを帯びる。遺物は，礫８点（189.2ｇ）を検出した。礫の赤化率は80％，破損率は70％ほどである。個体別の質量は，2.6ｇ～71.6ｇの範囲内に分布し，かなり大きくばらついている。石材は，チャートが主体を占め，砂岩がこれに次ぐ。

015（第93図，図版39・44）

8C-87グリッド付近に位置する。平面形は不整形である。規模は，長軸1.3m，短軸1.0mほどである。長軸方向は，N－63°－Wである。断面形は擂鉢状で，底面は北西側にかたよる。遺物は，撚糸文土器１点，礫60点（1401.5ｇ）を検出した。１は，底部近くの無文の破片である。外面には，丁寧なナデ調整が施され，器表面は平滑である。胎土は砂粒を少量含む。焼成は極めて良好である。礫はほぼ全点（97％）が赤化するが，破損率は63％ほどである。個体別の質量は，11ｇ～30ｇの範囲内に集中する傾向がある。石材は，チャートが主体を占め，砂岩，凝灰岩，流紋岩がこれに次ぐ。なお，完形礫の割合は，チャートが最も高い。

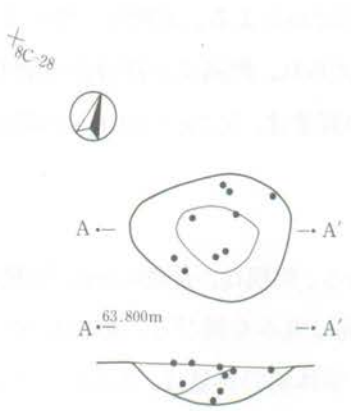
016（第93図，図版39・44）

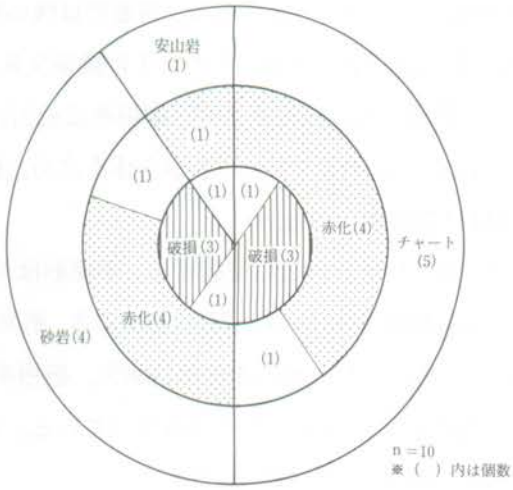
8C-32グリッド付近に位置する。平面形は不整形である。規模は，長軸1.4m，短軸0.9mほどである。長軸方向は，N－35°－Wである。断面形は皿状で，底面はほぼ平坦である。遺物は，撚糸文土器２点，礫11点（411.2ｇ）を検出した。２は，撚糸文Ｒがやや密に施文される胴部片である。底部近くの無文の破片である。内外面とも，丁寧なナデ調整が施され，器表面は平滑である。胎土は砂粒を少量含む。３は撚糸文Ｒが施される胴部片であるが，施文は図右端部分にしか見られない。施文後に丁寧なナデを加え，磨り消している様相が観察される。礫は，１点を除き赤化しているが，破損率は54％ほどである。個体別の質量は，2.1ｇ～172.8ｇの範囲内に分布し，かなりのばらつきが見られる。石材は，チャート（６点），砂岩（５点）である。

019（第94図，図版39・44）

8C-06グリッド付近に位置する。平面形は不整形で，浅く広がる竪穴状の土坑である。規模は，長軸3.0m，短軸2.4mほどである。長軸方向は，N－83°－Wである。断面形は皿状で，底面はほぼ平坦である。遺物は，撚糸文土器７点，礫82点（2246.5ｇ）を検出した。１～６はいずれも胴部片である。１・４・６は撚糸文Ｒが施文されるものである。６は施文後に，ナデ調整が加えられ，部分的に撚糸文が磨り消されている。２・５は撚糸文Ｌが施文される。５は底部近くの破片である。３は器表面が荒れているため，詳細は不明であるが，絡条体を回転させずに，引くことにより，条痕施文が行われている。なお，湾曲の度合いから，底部近くの破片と思われる。礫は，赤化率が95％と高い数値を示しているが，破損率は81％ほどである。個体別の質量は，６ｇ～20ｇの範囲に集中して分布している。石材は，チャートを主体として，砂岩，流紋岩，凝灰岩がこれに次ぐ。

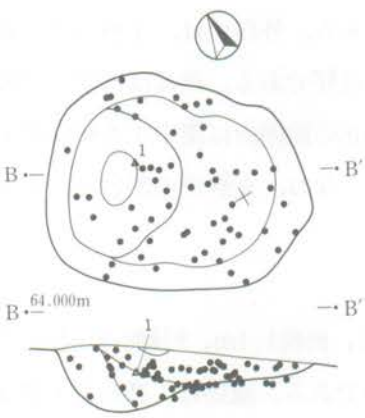
011

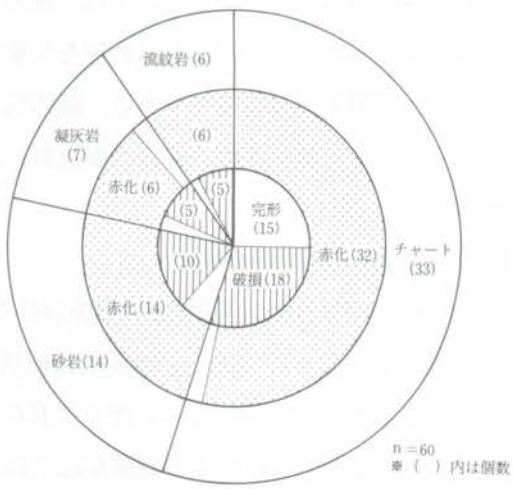




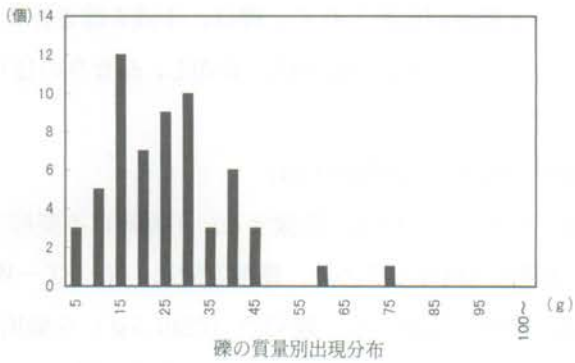
礫の石材と観察

015



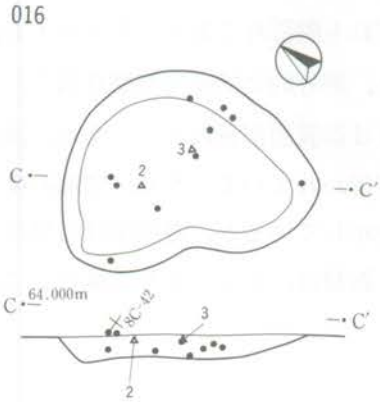


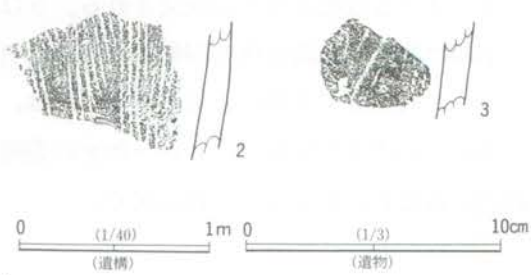
礫の石材と観察



礫の質量別出現分布

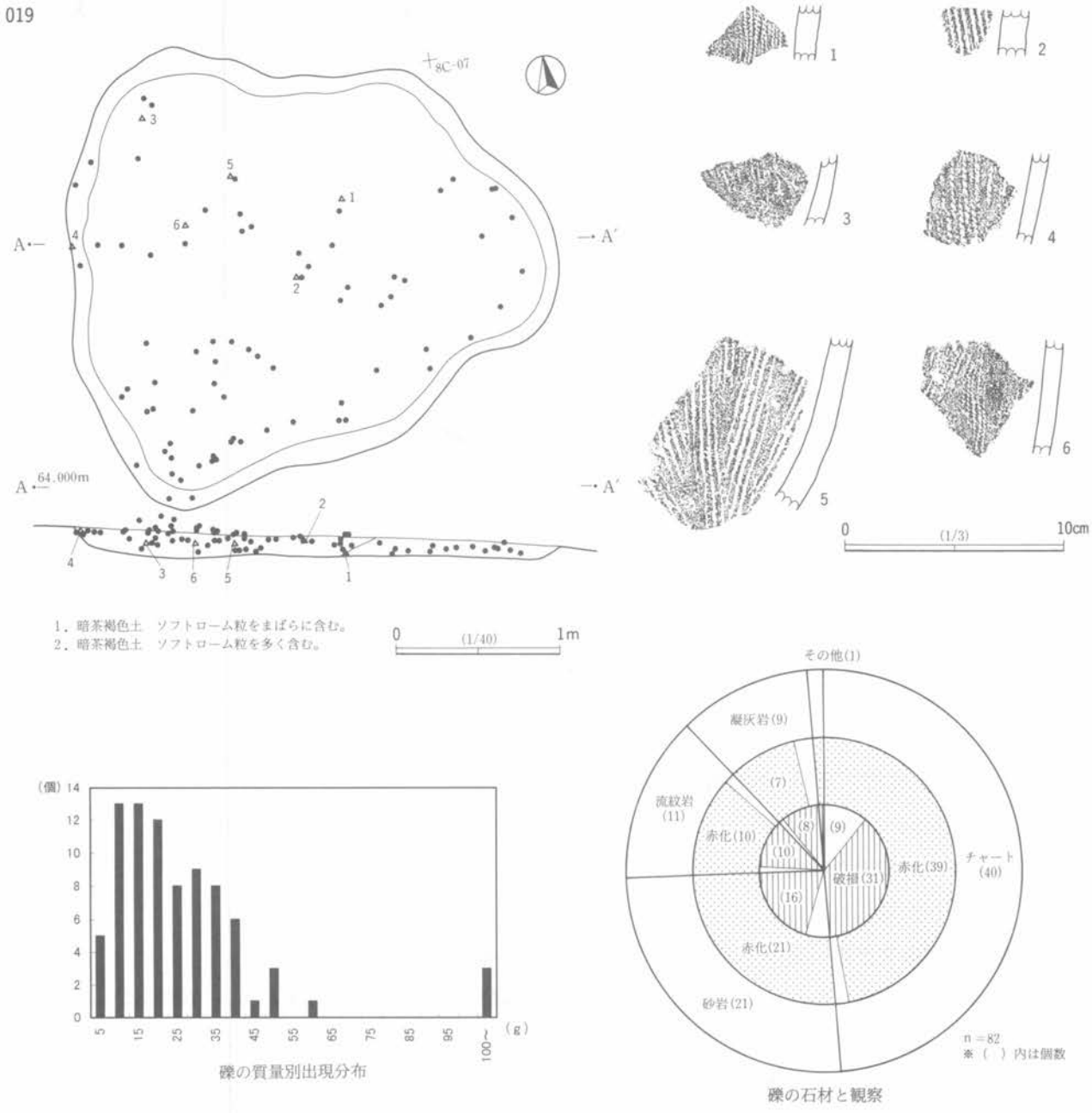
016





第93図　土坑（5）

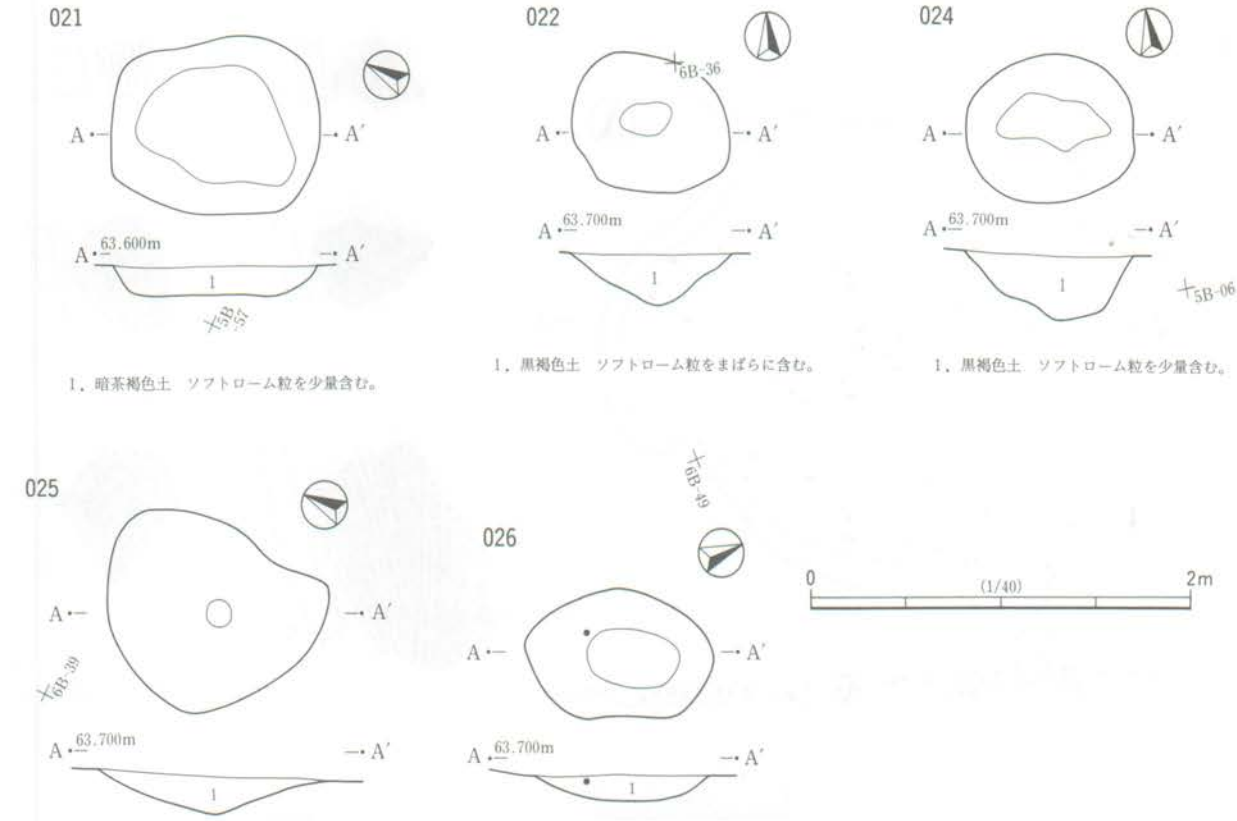
019



第94図　土坑（6）

021・022・024・025・026（第95図，図版39・40）

これらの土坑は，5Bグリッド及び6Bグリッドから検出された。平面形は，021及び025が不整形，022，024及び026が歪みのある楕円形である。規模は，長軸0.8m～1.1m，短軸0.7m～0.9mほどである。断面形は，021及び026が皿状であり，021の底面は平坦である。022及び025は，擂鉢状である。いずれも覆土は，ソフトローム粒を少量含む暗褐色土である。なお，遺物は検出されなかった。



第95図　土坑（7）

2　遺構外出土遺物（第96～107図，図版45～48）

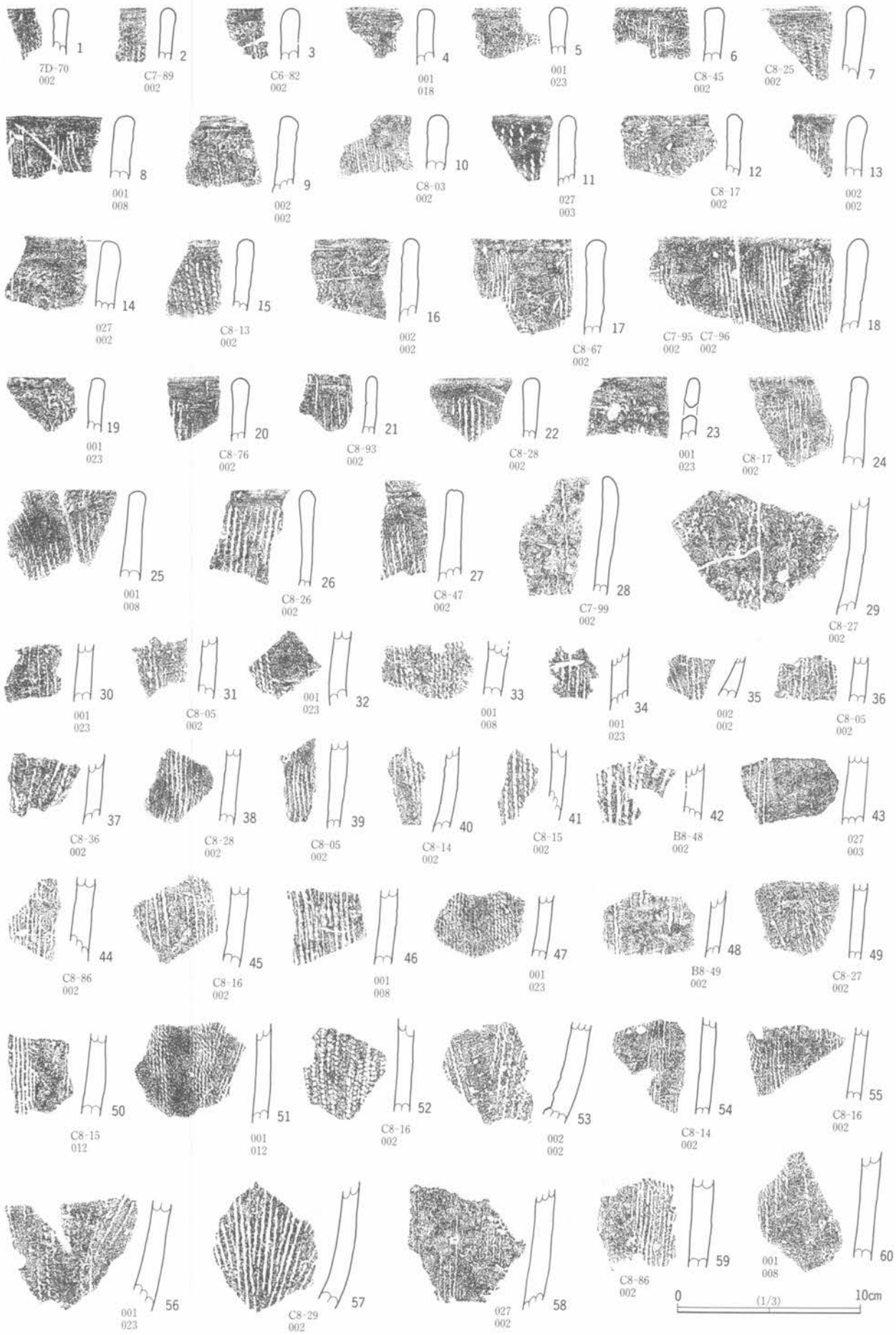
（1）土器（第96～98図，図版45～47）

調査区全体から検出されたものの，早期の撚糸文土器については，遺構の集中する8Cグリッド周辺から，まとまった散布が見られた。

早期初頭の撚糸文土器（第96・97図1～112，図版45・46）

1～79は撚糸文が施文されるものである。1～28は口縁部破片である。いずれも，口唇部はケズリ及びナデによって，丁寧に調整される。また，施文後のナデにより，撚糸文が磨り消されている部分が見られる。1～18は撚糸文Rが施文される。いずれも口縁部付近で，わずかに肥厚するが，明確なくびれは見られない。このうち，1～16は条の間隔がまばらで，17・18は比較的密な条の間隔である。20・21・23～28は撚糸文Lが施文されるものである。21・23・28を除いて，口縁部はわずかに肥厚する。28は，外削ぎ状の口縁部付近において，やや内傾する器形である。19・23については，撚糸文施文後のナデによる磨り消しが著しく，原体の詳細は不明である。29～61は，撚糸文Rが施文される胴部破片である。41を除き，施文後のナデにより，撚糸文が磨り消されている部分が見られる。なかでも，47・50・51は帯状の磨消しが見られる。器面調整はおおむね丁寧である。特に，32・43・46～48・50・51は，器面が平滑で，光沢が見られるほど丁寧である。56・57は，湾曲の具合から底部近くの破片であると考えられる。62～79は，撚糸文Lが施文される胴部破片である。いずれの破片にも，撚糸文の磨消しが見られる。なお，72～74及び78・79は，それぞれ同一個体である。また，器面調整はおおむね丁寧である。特に，66・69は，器表面に光沢が見られるほど丁寧である。

80は，縄文が施文されるものである。単節縄文RLが方向を違えて施文されている。内面は，丁寧なナデ



第96図　遺構外出土縄文土器（1）

が施され平滑である。

81～107は，無文のものである。いずれも丁寧なナデにより，器表面は平滑である。81・83・87・88・90・91・94は，口縁部が外側へ向かって，やや肥厚する。また，92・96・99は，内側に向かって肥厚している。86・98は，湾曲の様相から小型の土器であると思われる。106は，かなり底部に近い部分の胴部片である。

108～112は，絡条体を回転させずに，器面に押しつけたまま引くことにより，縦方向の集合沈線を描出したものである。108は，器表面の荒れており，詳細は不明であるが，破片の右側に縦方向の集合沈線が観察される。口唇部は丸みを帯び，口縁部は外側へ肥厚する。109は，口縁部は肥厚せず，口唇部の上面には平坦面が形成されている。110と111は同一個体である。口唇部は丸みを帯び，外側へ肥厚する口縁部との境には，わずかではあるが稜を形成している。112は胴部破片である。胎土は砂粒を多く含み，器表面はざらついている。

早期の田戸下層式土器（第98図113・114，図版47）

113・114は，横位方向の細沈線文のみで文様が構成される。胎土には砂粒を多く含む。焼成は良好で，色調は褐色～暗灰褐色である。

前期後半の土器（第98図115～130，図版47）

115は，波状口縁の波頂部破片である。波頂部から垂下する刻みのある隆線，口縁に沿って配される二条の連続爪形文が，施文されている。116は，波状文及び平行線文によって文様が構成される。なお，波状沈線文は，三本一組の櫛歯状工具を用いられる。117・122は同一個体である。撚糸文が施文されている。118は，口縁部に平行有節線文，その下に波状文が施文される。いずれも半截竹管が用いられている。119は，平行沈線文のみで文様が構成される。120は，連続爪形文を密に施文し，幾何学状の文様を構成する。121は，平行沈線文の中に半截竹管による刺突列を施している。117・122～129は，地文に撚糸文が施文され，平行沈線文によって文様が構成されるものである。胎土は，赤色スコリア粒を特徴的に含んでいる。130は口縁部の突起部分の破片である。突起は，円盤状の粘土を円周に対し縦方向に貼り付けている。口縁部には連続爪形文が施文されている。

後期の土器（第98図131～134，図版47）

131は，大きく外反する器形であり，口唇部及び口縁部に一条の沈線が施される。また，口縁部には，刻みを持つ細隆線が施文されている。132は，胴部の屈曲部分に刻みを持つ隆線が施されている。また，隆線の上下には沈線が施文される。134は，粗大な単節縄文LRが施文されている。粗製土器と思われる。134は無文の胴部破片である。

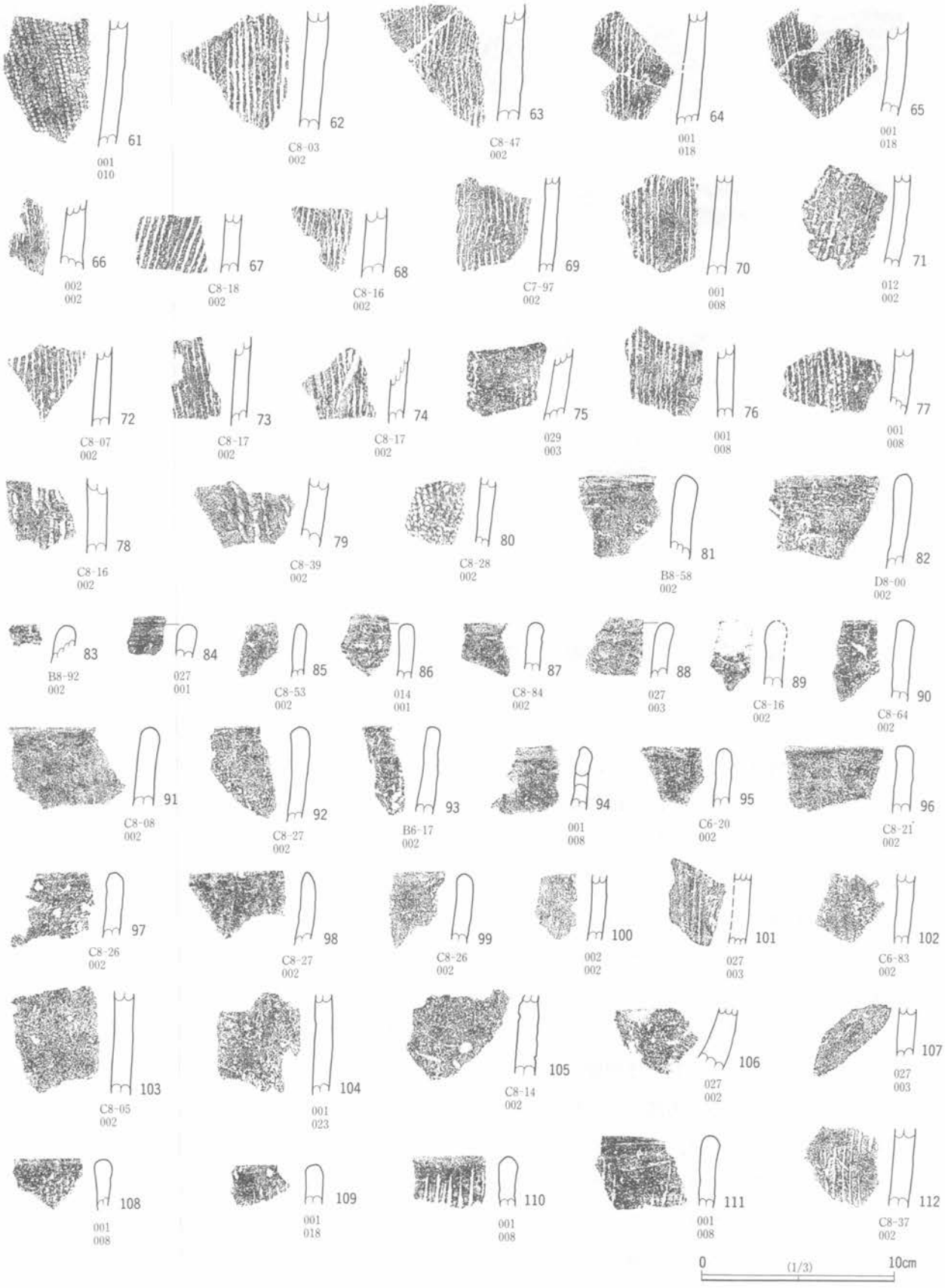
（2）石器（第99～102図，第18表，図版48）

石器は，23点が出土した（第18表）。縄文時代の遺構に伴うものは，このうち1点のみであり（第99図3），他は遺構外もしくは奈良・平安時代以降の遺構から検出されたものである。本報告では16点を図示した。

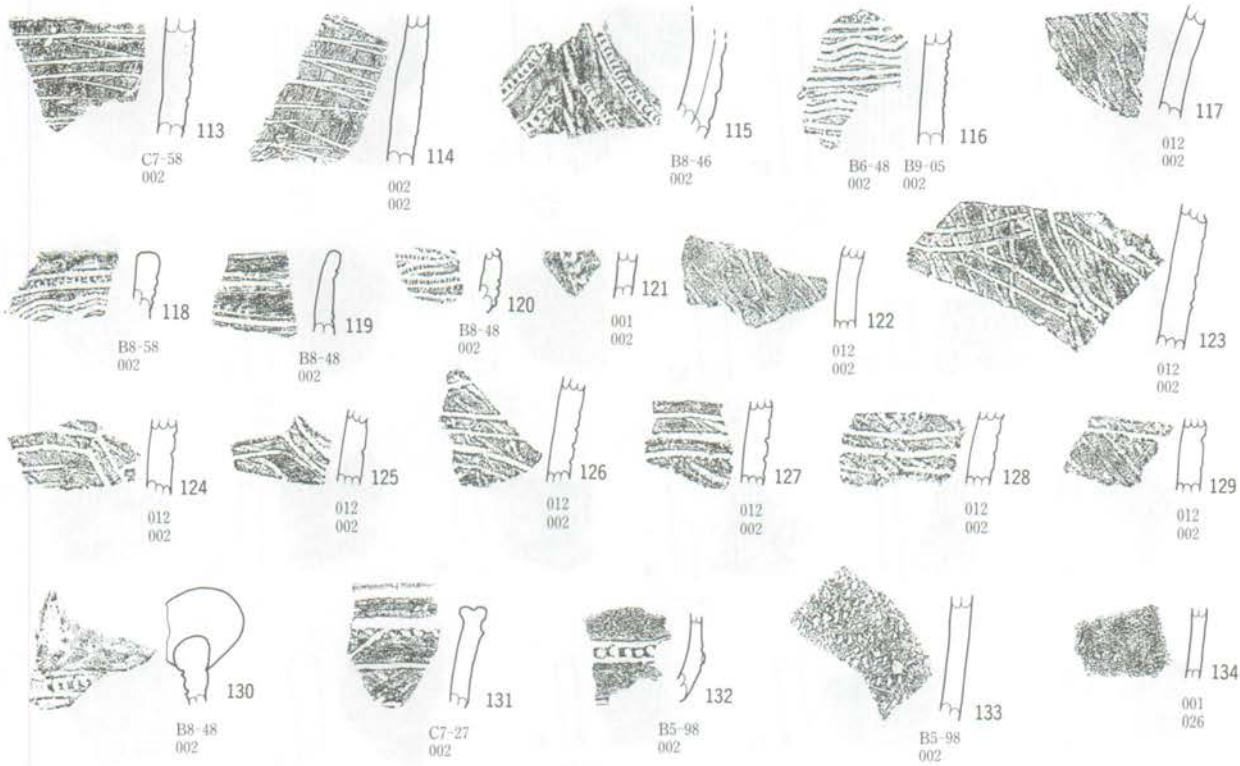
※第99図3については，本節の006号土坑の部分に記載を行っている。

1は敲石である。1は，赤化の著しい砂岩の扁平な礫を用い，ほぼ全周縁にわたり敲打痕が認められる。敲打は，平面形が変形するほど激しく行われている。

4・5はスタンプ形石器である。4は凝灰岩礫を用い，腹面側には原礫面をほぼ完全に残すのに対し，背面側では完全に除去している。下面は，礫を分割するような打撃によって，平坦に作出されている。ま



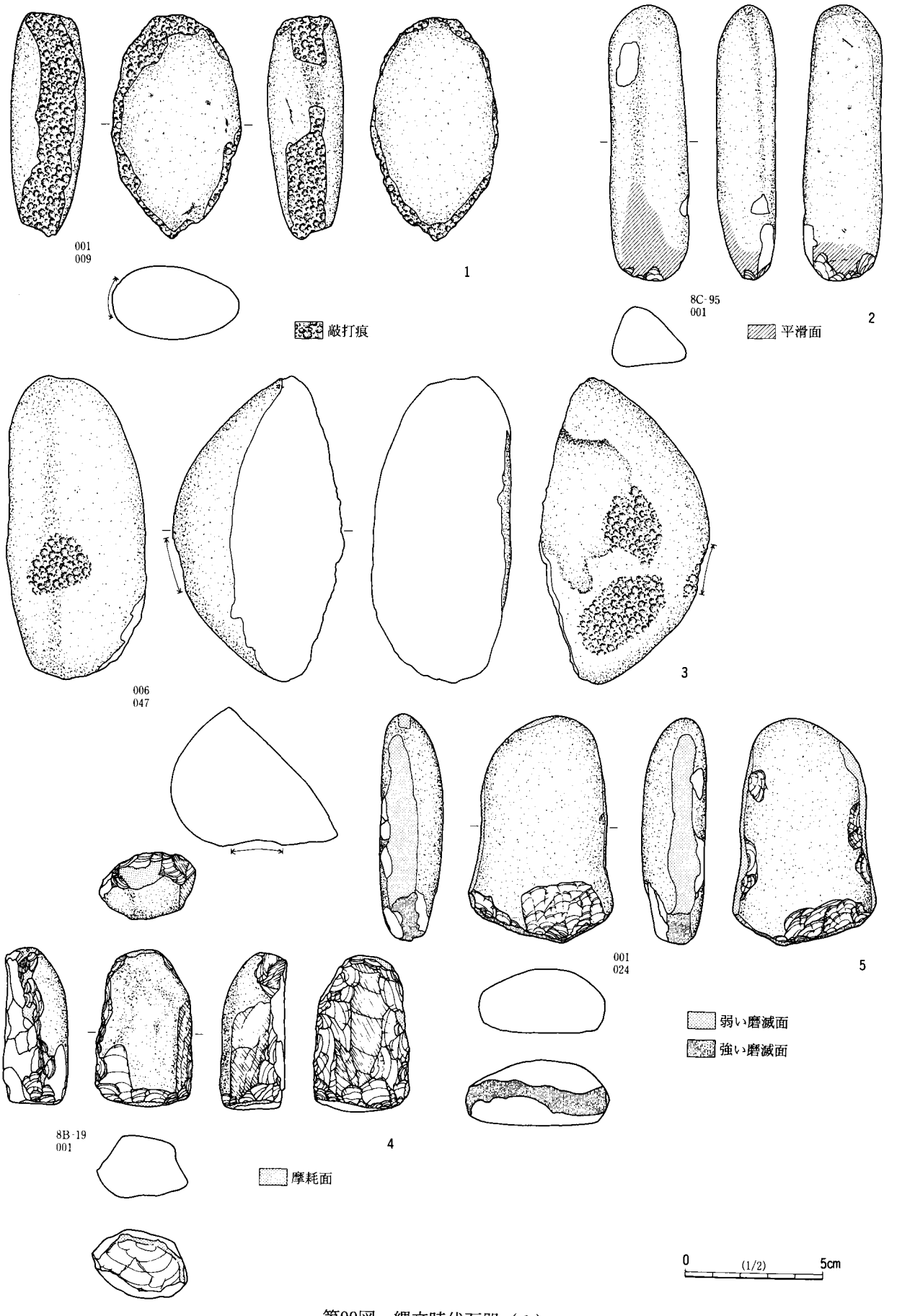
第97図　遺構外出土縄文土器（2）



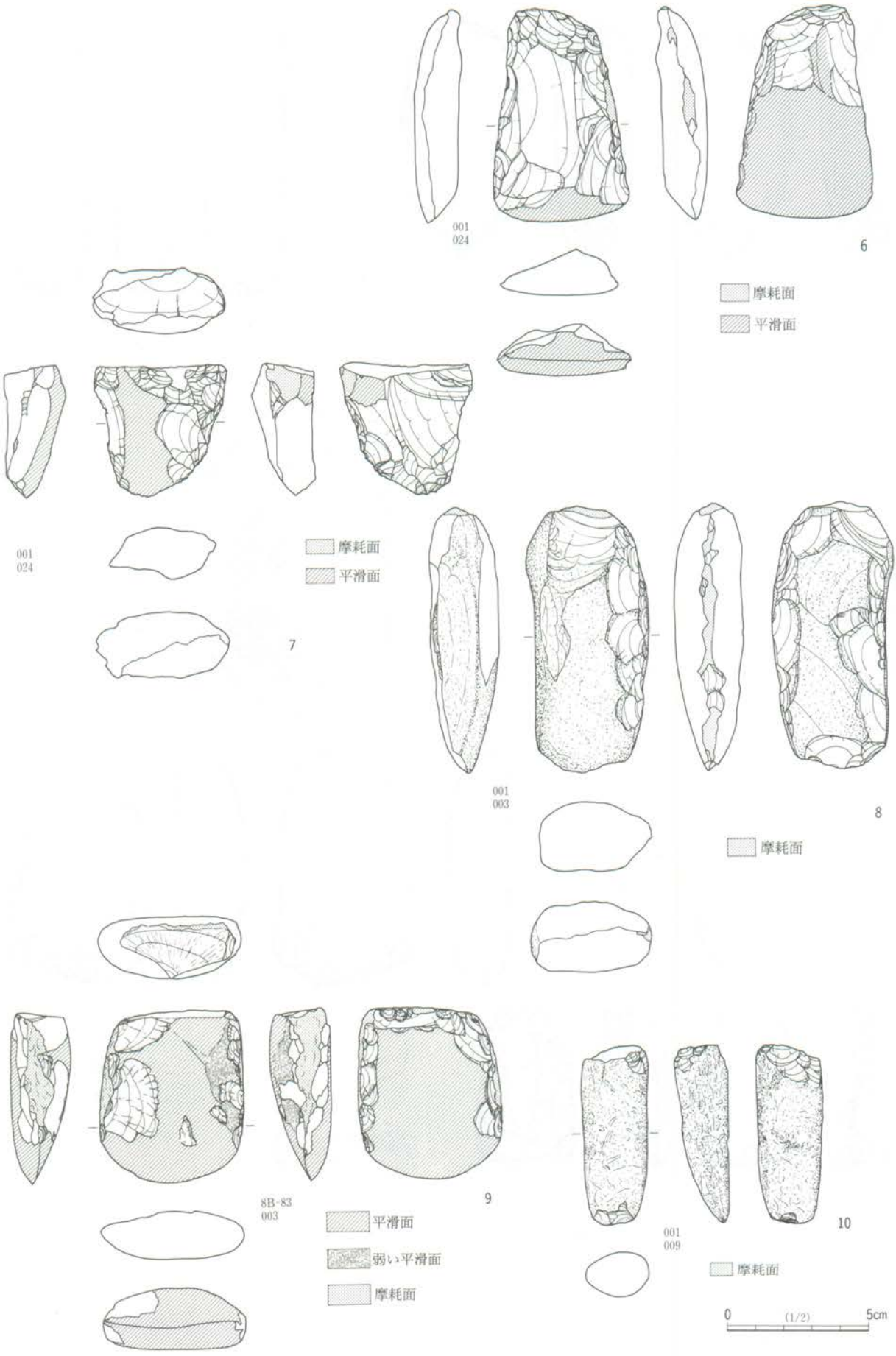
第98図　遺構外出土縄文土器（3）

た，側辺及び下面周縁に対し，比較的細かな調整剥離が加えられる。使用に伴うと思われる摩耗が上面，腹面左側縁及び腹面下端に認められる。だが，場所によって摩耗の状態は異なる。上面及び腹面左側縁部の摩耗は，擦れによって形成されたように多少のざらつきが残る。これに対し，腹面下端の摩耗は，直接のこすりつけを何度も行ったように，平滑に形成されている。なお，原礫面もかなり平滑であるが，二次的に形成されたものかどうか，明確でない。5は，凝灰岩の扁平礫を用いる。調整剥離が，腹面下端側，背面両側縁及び背面下端側に見られるが，あまり大規模なものはなく，原礫面は多く残されている。下面には，幅1cm程度の強い磨滅面が形成されている。また，弱い磨滅面の形成が両側面及び上面に認められる。いずれの磨滅面もざらついている。

2・6～12は石斧である。2・10は，細長の棒状礫を利用したものである。2は砂岩礫を用い，下端部に剥離及び平滑面の形成が見られる。背面側の平滑面には，わずかではあるが，稜の形成が見られることから，刃部の作出を研磨によって行ったと考えられる。剥離は研磨後の微調整のものと，使用に伴うものがあると思われるが，その判別は明確でない。10は黒色で気泡に富む安山岩礫を用いる。刃部及び上面端部に調整剥離が見られる。刃部には，摩耗も見られるが，剥離面上にあることから，使用に伴うものと考えられる。上端部の調整は，礫の切断後に行われている。6は荒割りした安山岩を用い，研磨によって刃部を作出した後，側縁及び上端から調整剥離を行っている。刃部は，蛤刃状に作出される。側面及び背面の剥離部分の一部に，摩耗が見られる。平滑面と違いややざらつくことから，装着部分の擦れによって形成されたものと思われる。7は凝灰岩製であり，上面が切断面となる。上端部には切断後に調整剥離が行われている。両面に平滑面が見られるが，原礫面か研磨面なのかどうかは不明である。また，腹面右側面の上部及び刃部の一部に摩耗が見られるが，装着及び使用によるものと思われる。なお，刃部の摩耗は弱いものである。8はホルンフェルスを用いた短冊形の石斧である。全体に風化しており，腹面側の中央部



第99図　縄文時代石器（1）



第100図　縄文時代石器（2）

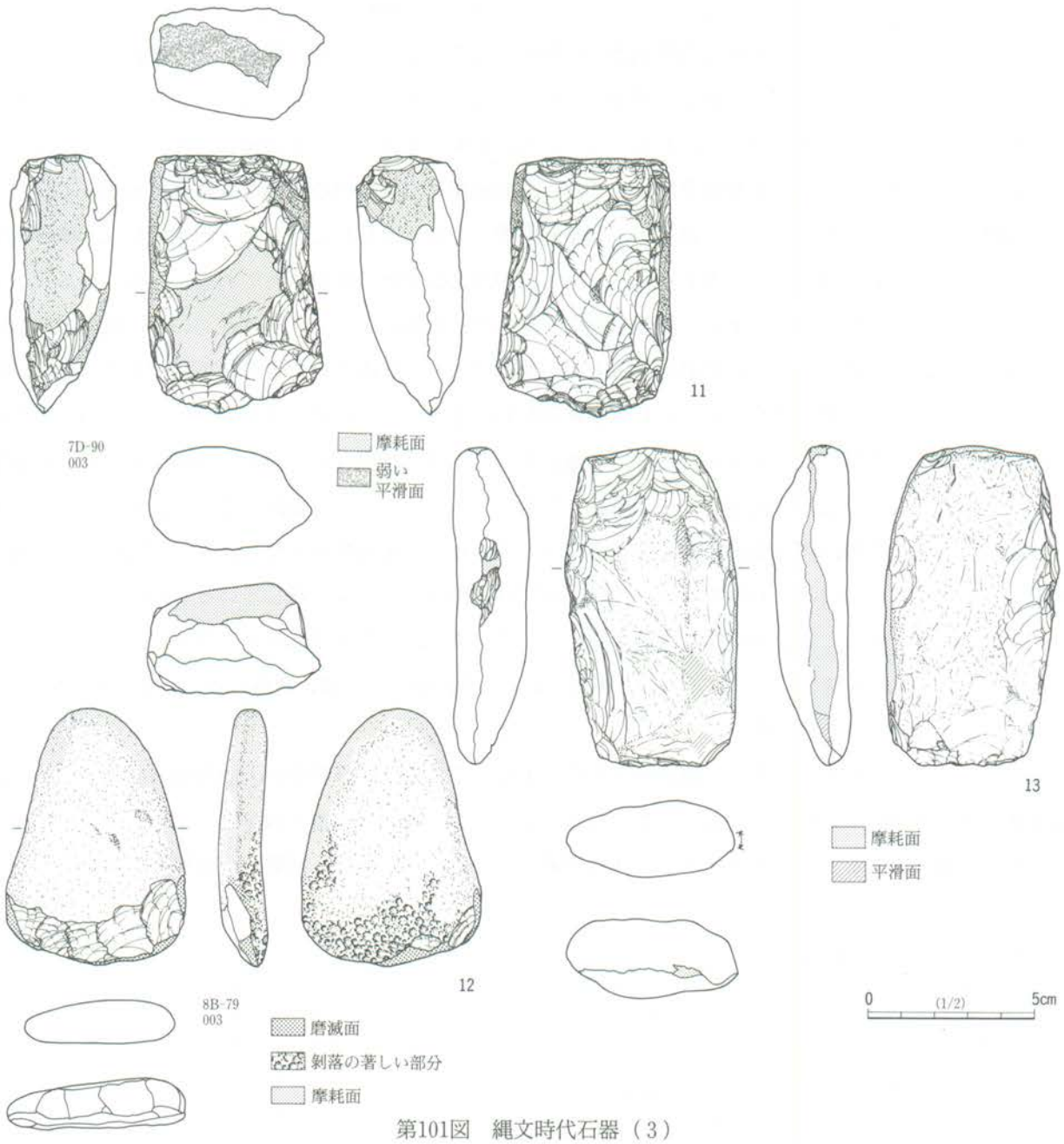
から刃部にいたる剝離の認められない部分については，果たして研磨を施しているかどうかは不明である。だが，腹面刃部付近には，小規模な調整剝離の痕跡が認められることから，使用に伴う摩耗もあると思われる。顕著な摩耗は，上端部及び腹面右側縁に認められる。装着に伴うものと思われる。9は凝灰岩を用い，礫分割及び大きな剝離を行って，石斧として大方の形態を作出する。その後に，非常に丁寧な研磨を行い，刃部及び両面の平坦な平滑面を作出してから，側縁及び上端部の小規模な調整剝離を加えている。腹面右側には，弱い研磨面が認められるが，調整剝離後のものと思われる。また，両側面には，摩耗面が認められるが，装着に伴うものと考えられる。なお，刃部は蛤刃状に作出されている。11は，ホルンフェルスを用いた長方形状の石斧である。腹面中央部を除いて，剝離によって作出されている。腹面中央部には，弱い平滑面が認められるが，研磨によるものか使用によって形成されたものか不明である。また，両側面及び上面には，装着に伴うと考えられる摩耗面が形成されいる。13は，ホルンフェルスを用いた短冊形の石斧である。形状に歪みが見られるが，剝離によって丁寧に作出されている。両面中央部付近の剝離面が不明瞭となっているが，使用に伴って摩耗したものとも考えられる。腹面下部には，平滑面の形成も見られる。上面及び腹面側右側面には，装着に伴うと思われる明確な摩耗が見られる。12は扁平な砂岩礫を用いる。刃部の作出のみに剝離を行い，他の部分には原礫面をそのまま残している。両側面から上面にかけては，装着に伴うと思われる摩耗部分が認められる。また，刃部下端及びその周辺は，ほぼ完全に磨滅しており，使用の痕跡を示しているものと考えられる。背面側下部に破，剝落の著しい部分を認めるが，使用に伴うものかどうかは不明である。

14は，チャート製の石核である。縦長の小剝片を生産している。最終剝離が上面周辺の小剝離であり，蝶番状剝離（Hinge fracture）を起こしていることから，この時点で剝離を放棄したものと考えられる。

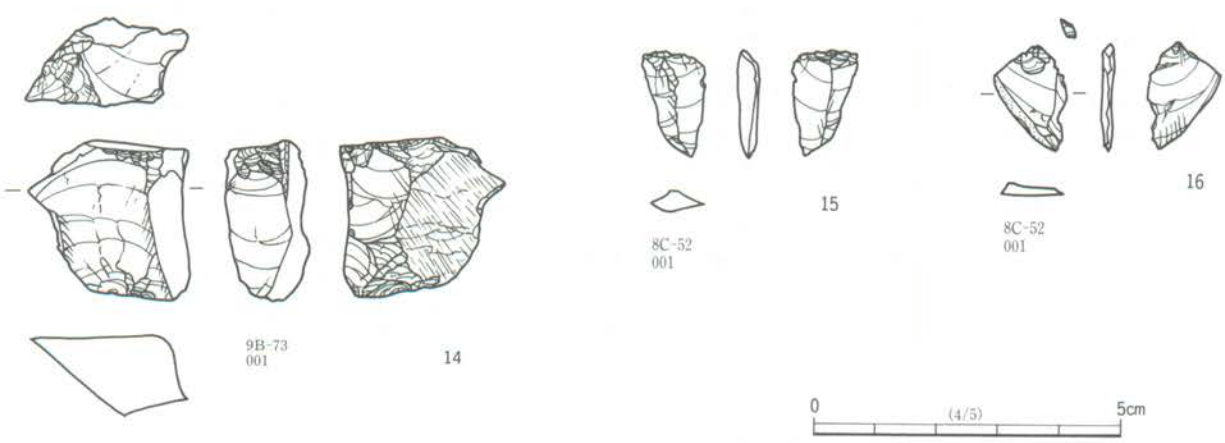
15・16は剝片である。15はチャート製，16は黒曜石製である。いずれも剝離時の衝撃で，打点が失われている。

第18表　縄文時代石器属性表

図No.	遺構	番号	器　種	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	質量(g)	備　考
1	001	009	敲　石	砂　岩	81.1	46.5	27.0	129.67	
2	8C-95	001	石　斧	砂　岩	99.7	28.8	20.9	102.23	
3	006	047	敲　石	流紋岩	109.3	62.1	51.0	316.29	
4	8B-19	001	スタンプ形石器	凝灰岩	56.2	35.1	23.5	73.30	
5	001	024 (1)	スタンプ形石器	凝灰岩	81.0	52.3	22.8	152.80	
6	001	024 (2)	石　斧	安山岩	73.0	48.4	17.4	64.73	
7	001	024 (3)	石　斧	凝灰岩	44.8	47.3	21.4	48.37	凝灰岩質流紋岩
8	001	003	石　斧	凝灰岩	91.7	43.4	24.0	138.07	凝灰岩質砂岩
9	8B-83	003	石　斧	凝灰岩	59.5	51.5	21.0	98.18	
10	001	009	石　斧	安山岩	61.0	24.0	18.3	36.01	黒色安山岩
11	7D-90	003	石　斧	凝灰岩	74.6	52.7	32.1	168.16	凝灰岩質砂岩
12	8B-79	003	石　斧	凝灰岩	75.3	54.3	14.3	72.90	凝灰岩質砂岩
13	001	009	石　斧	安山岩	92.4	52.4	23.2	154.74	
14	9B-73	001	石　核	チャート	25.7	27.1	13.0	8.71	
15	8C-52	001 (1)	剝　片	チャート	16.7	10.2	3.8	0.40	
16	8C-52	001 (2)	剝　片	黒曜石	16.8	11.6	2.2	0.28	
	001	001 (1)	剝　片	頁　岩	25.3	20.6	3.6	2.23	
	001	001 (2)	剝　片	頁　岩	48.2	26.5	19.2	27.15	
	001	002	楔形石器	砂　岩	45.4	37.9	14.4	27.83	
	001	007 (1)	敲　石	砂　岩	66.6	22.1	12.2	29.12	
	001	007 (2)	剝　片	メノウ	27.7	21.1	13.2	9.60	
	001	009	剝　片	凝灰岩	52.0	42.9	11.5	34.39	凝灰岩質砂岩
	8C-87	001	剝　片	砂　岩	39.3	25.8	11.8	16.03	



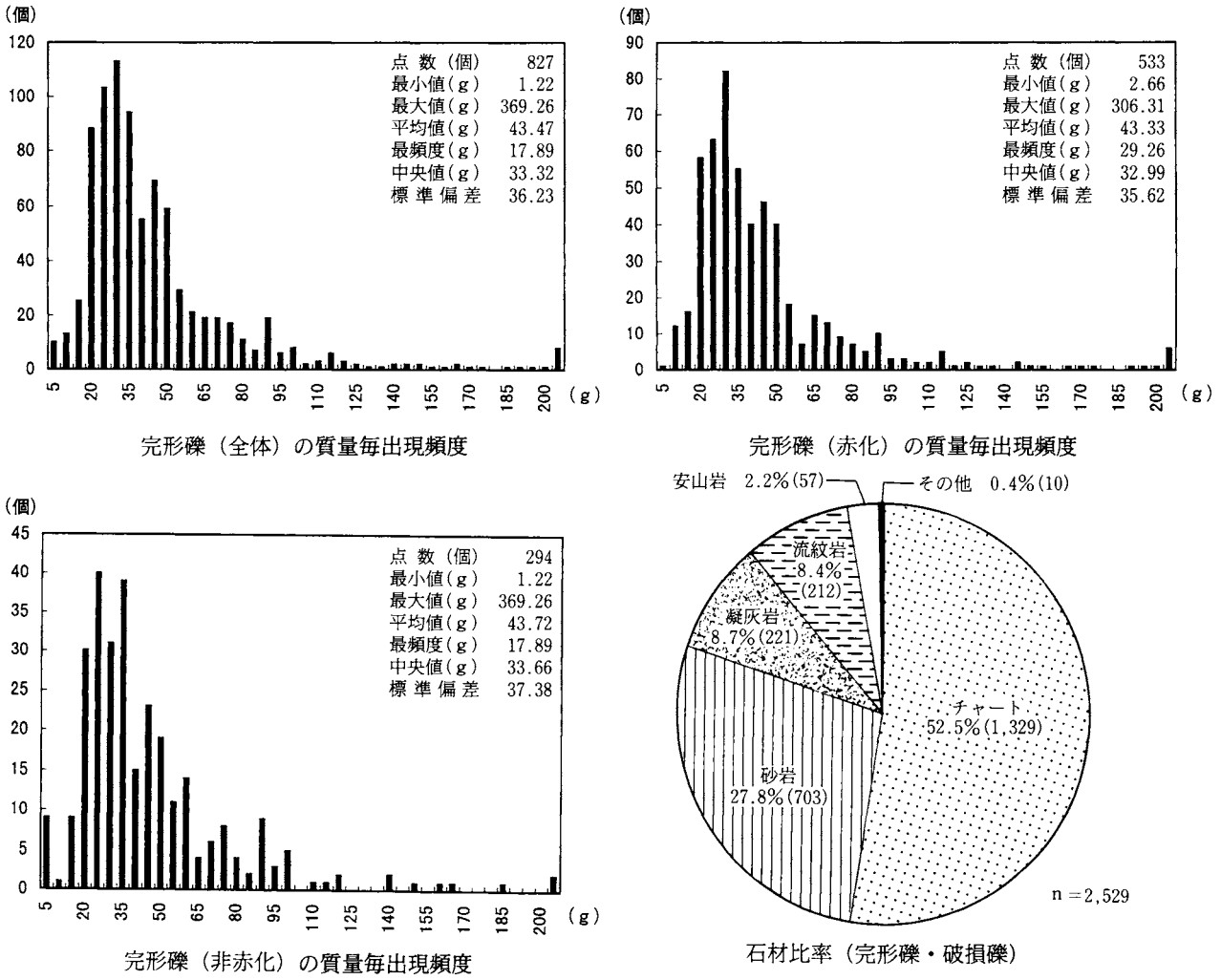
第101図　縄文時代石器（3）



第102図　縄文時代石器（4）

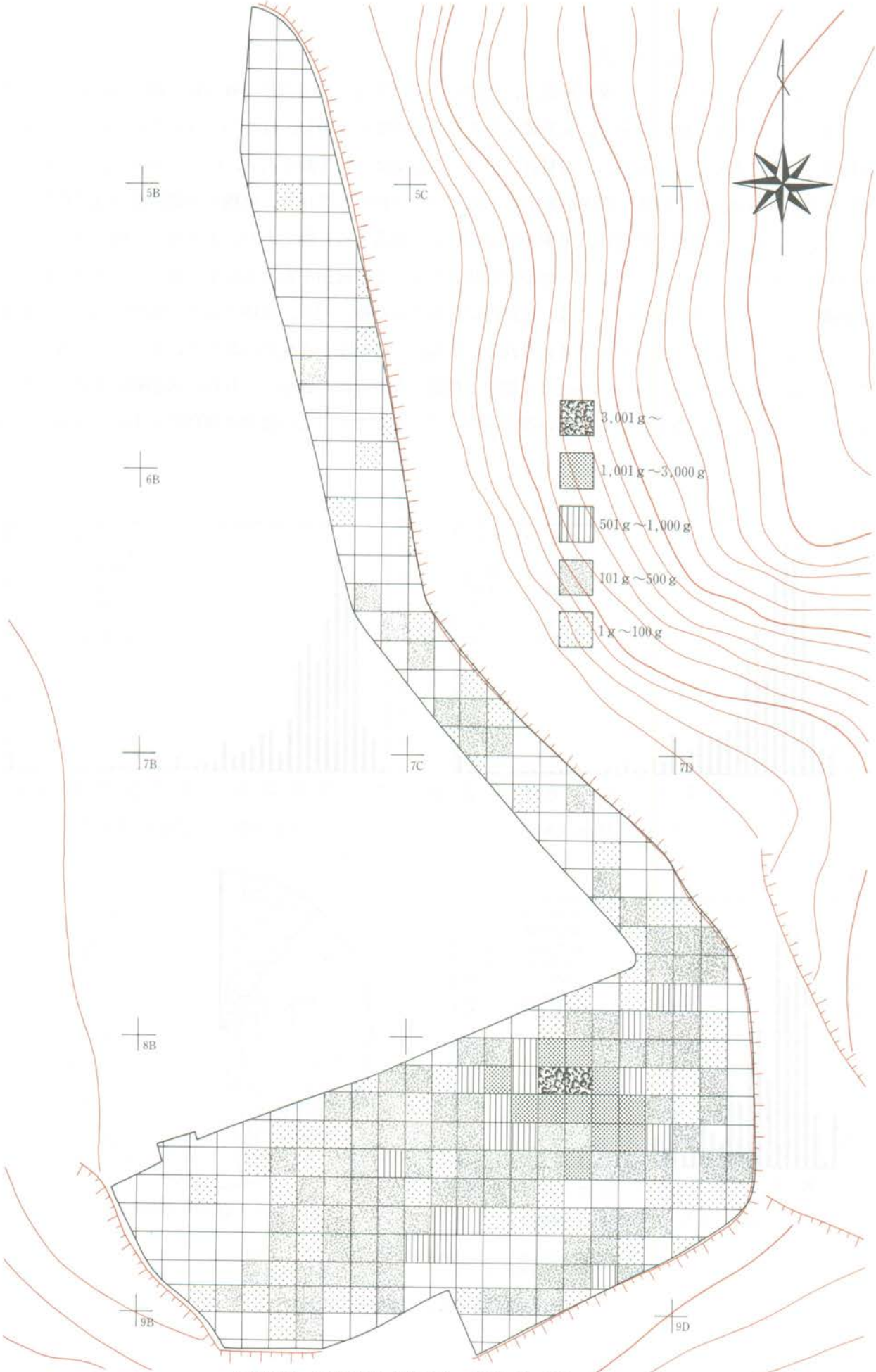
（3）礫（第103～107図，第19表）

遺構外の調査区から出土した礫の総数は，2,529点（72,219ｇ）にも及ぶ。礫全体の破損率は67.3%，赤化率は59.5%である。礫の質量は，完形礫を見ても35ｇ前後に集中し，ばらつきは大きいものの，大半がいわゆる小礫であることがわかる。石材は，チャートが全体の約半数を占め，砂岩，凝灰岩，流紋岩がこれに次ぐ。分布は，縄文時代の遺構が集中する8Cグリッド付近に集中し，遺構との関連性を強く指摘できる。なお，これらの遺構の時期は，早期の撚糸文土器（稲荷台式）期であり，本遺跡出土礫の大半もこの期のものと考えたい。また，グリッド毎の礫の状態を見ると，破損率及び赤化率の高いところは，必ずしも遺構の分布とは一致しない。これは，遺跡内に持ち込んだ礫に対し，遺構とは別の場所で何らかの手を加えていることを示しているものと考えられる。さらに，破損率と赤化率の高さが，必ずしも一致しないことは，破損及び赤化が，別の行為による結果と推測できるものである。これは，破損礫の平均質量が，赤化していないものの方が，むしろ低い数値を示していることも，この推測を裏付けるものとなる。



※破損礫　出土数　1,702個（赤化　971個，非赤化　731個）
平均重量 21.31ｇ（赤化 22.81ｇ，非赤化 19.32ｇ）

第103図　遺構外出土礫の質量と石材



第104図　遺構外出土礫グリッド毎質量分布 (1/400)

第105図　遺構外出土礫集計（1）　※礫の破損率（1/400）

第106図　遺構外出土礫集計（2）　※礫の石化率（1/400）

第107図　遺構外出土礫集計（3）　※破損礫の赤化率（1/400）

第19表　調査区出土（上層）礫集計表

グリッド	完形質量(g)		破損質量(g)		総質量(g)	完形数		破損数		個数合計
	非赤化	赤化	非赤化	赤化		非赤	赤化	非赤	赤化	
A9-9		15.32	12.74		28.06		1	1		2
B5-5		21.75			21.75		1			1
B5-38	67.17				67.17	1				1
B5-58				15.79	15.79				1	1
B5-89		23.91			23.91		1			1
B5-66	369.26				369.26	1				1
B5-98		13.96			13.96		2			2
B6-17		55.07			55.07		1			1
B6-48	258.33				258.33	3			2	5
B6-59	177.67	144.78			322.45	3	2			5
B8-18				67.28	67.28				2	2
B8-19		210.04	23.25	82.19	315.48		5	2	3	10
B8-27			29.51	72.32	101.83			1	5	6
B8-28	88.33	200.57	39.90	35.33	364.13	1	5	2	1	9
B8-29		262.21	40.59	190.57	493.37		5	3	5	13
B8-35				19.36	19.36				1	1
B8-36		42.26		8.30	50.56		1		1	2
B8-37			3.72	2.29	6.01			1	1	2
B8-38	82.72		109.71	83.58	276.01	2		4	4	10
B8-39	39.76	323.68	83.95	43.03	490.42	1	3	1	4	9
B8-44		24.53		8.52	33.05		1		1	2
B8-45	103.28			16.43	119.71	3			1	4
B8-46			26.80	53.76	80.56			2	2	4
B8-47	4.50	50.38	34.20	60.57	149.65	1	2	1	6	10
B8-48	53.36	92.35	158.19	74.67	378.57	2	2	3	4	11
B8-49	100.20	320.06	40.30	265.38	725.94	5	8	2	6	21
B8-52				73.71	73.71				1	1
B8-55	45.97			48.83	94.80	1			2	3
B8-56	51.37	50.50	52.14	76.95	230.96	2	1	3	4	10
B8-57		107.02	22.32	110.68	240.02		3	2	3	8
B8-58	197.69		35.97	109.60	343.26	5		5	5	15
B8-59	17.75	30.98	46.73	94.90	190.36	1	1	4	3	9
B8-65	38.45		40.24	120.88	199.57	1		1	3	5
B8-66		38.29			38.29		1			1
B8-67	28.51	80.41	49.58	39.03	197.53	1	2	3	5	11
B8-68	45.36	161.78	51.48	123.87	382.49	2	4	2	5	13
B8-69	58.96	180.12	71.77	79.27	390.12	2	5	3	6	16
B8-75		112.37		13.41	125.78		2		1	3
B8-76		28.66			28.66		1			1
B8-77		89.63	6.67	13.27	109.57		2	1	1	4
B8-78	22.06	157.38	36.21	18.80	234.45	1	4	2	2	9
B8-79	1.22	189.77	56.01	103.45	350.45	1	6	4	10	21
B8-84		80.22	23.23		103.45		1	1		2
B8-85			45.33	2.05	47.38			4	1	5
B8-86		170.80		70.46	241.26		1		2	3
B8-87		128.35		39.24	167.59		3		5	8
B8-88	19.34	107.38	56.74	111.43	294.89	1	3	4	6	14
B8-89		213.27	65.00	11.84	290.11		8	5	2	15
B8-92	2.83				2.83	1				1

グリッド	完形質量(g)		破損質量(g)		総質量(g)	完形数		破損数		個数合計
	非赤化	赤化	非赤化	赤化		非赤	赤化	非赤	赤化	
B8-93	9.54	288.39		35.74	333.67	1	3		1	5
B8-94		40.89			40.89		1			1
B8-95		47.14	30.45	94.49	172.08		1	1	3	5
B8-96	56.60	86.01		92.77	235.38	2	1		3	6
B8-97		30.72	15.14	48.02	93.88		1	2	3	6
B8-98		61.49	9.55	27.82	98.86		2	1	3	6
B8-99		13.81	81.28	6.20	101.29		1	2	1	4
B9-5			66.50	6.20	72.70			2	1	3
B9-6			121.58		121.58			4		4
B9-73	219.77	441.04	29.65	38.66	729.12	4	4	1	1	10
C6-20			7.53		7.53			1		1
C6-50				22.38	22.38				1	1
C6-60	27.38	91.56	74.76	79.69	273.39	1	2	2	2	7
C6-72	33.41	24.16			57.57	1	1			2
C6-81		49.26	30.44	149.26	228.96		1	1	1	3
C6-82	81.46	130.60	6.94	169.69	388.69	2	4	2	6	14
C6-83				15.83	15.83				1	1
C6-91	22.58				22.58	1				1
C6-92	59.21	64.56			123.77	1	2			3
C6-93		306.37			306.37		3			3
C7-2	21.50				21.50	1				1
C7-14	69.61		12.31		81.92	1		1		2
C7-16	23.57	210.24		36.23	270.04	1	1		1	3
C7-34				13.50	13.50				1	1
C7-37	34.84				34.84	1				1
C7-48		143.20			143.20		1			1
C7-54	34.32				34.32	1				1
C7-57			21.62		21.62			3		3
C7-58	243.96				243.96	2				2
C7-59				76.71	76.71				2	2
C7-68	48.81			20.75	69.56	3			1	4
C7-69	77.52	58.39	100.38	88.40	324.69	2	2	3	4	11
C7-78				30.29	30.29			1		1
C7-79		141.86	28.53	201.57	371.96		4	2	6	12
C7-86		76.73			76.73		1			1
C7-88	24.52			37.09	61.61	1			4	5
C7-89	406.86	174.80	151.31	174.58	907.55	4	4	4	7	19
C7-95			40.58		40.58			3		3
C7-96	14.24		20.76	89.08	124.08	1		1	1	3
C7-97	22.31	72.16	107.38		201.85	1	1	5		7
C7-98	269.50	132.44	83.62	73.59	559.15	7	3	5	3	18
C7-99	29.73	102.01	43.50	218.16	393.40	1	3	3	8	15
C8-2		275.82	78.72		354.54		2	3		5
C8-3	139.77	23.84	47.68	99.60	310.89	3	1	4	7	15
C8-4	53.89	63.04	312.84	183.87	613.64	2	1	12	8	23
C8-5	313.63	206.36	463.81	369.72	1353.52	6	6	19	13	44
C8-6	439.77	475.14	674.35	667.29	2256.55	14	13	32	20	79
C8-7	92.87	181.20	74.75	81.93	430.75	1	5	9	7	22
C8-8	66.92	32.31	59.54	65.98	224.75	1	1	4	7	13

グリッド	完形質量(g)		破損質量(g)		総質量(g)	完形数		破損数		個数合計
	非赤化	赤化	非赤化	赤化		非赤	赤化	非赤	赤化	
C8-9	60.74	28.39		133.76	222.89	2	1		8	11
C8-10	87.19	149.22		30.57	266.98	2	3		1	6
C8-11				51.99	51.99				2	2
C8-12	29.98	194.54	154.90	162.26	541.68	1	4	6	8	19
C8-13	485.41	518.73	934.72	617.55	2556.41	9	11	38	23	81
C8-14	181.13	256.57	241.05	195.38	874.13	4	4	14	19	41
C8-15	197.02	382.03	1039.63	1556.16	3174.84	5	10	56	47	118
C8-16	1178.40	1396.63	1537.97	1729.79	5842.79	28	26	68	59	181
C8-17	457.97	729.77	669.15	616.76	2473.65	12	21	37	37	107
C8-18	203.70	156.56	113.86	199.23	673.35	5	4	10	11	30
C8-19		52.15	38.65		90.80		2	3		5
C8-20				46.65	46.65				2	2
C8-21	96.66		54.07		150.73	1		1		2
C8-22	117.72	80.02	87.13	136.84	421.71	1	2	2	4	9
C8-23	96.31	133.17	176.43	288.90	694.81	1	3	8	6	18
C8-24	58.66	299.25	357.57	343.60	1059.08	1	4	20	13	38
C8-25	133.94	648.87	794.16	739.95	2316.92	2	12	37	41	92
C8-26	299.92	734.68	362.65	555.11	1952.36	8	17	25	27	77
C8-27	361.17	951.28	423.07	296.23	2031.75	11	16	27	17	71
C8-28	420.61	380.86	341.40	468.62	1611.49	8	11	19	19	58
C8-29	77.83	157.97	156.15	92.80	484.75	2	6	12	5	25
C8-30	176.65	97.36	61.44	25.12	360.57	5	2	4	1	12
C8-31		74.14	42.17	73.31	189.62		3	1	2	6
C8-32	55.67	61.95	36.65	83.85	238.12	2	3	2	4	11
C8-33	465.62	198.24	68.77	123.42	856.05	5	4	5	9	23
C8-34	24.64	212.76	87.11	295.92	620.43	1	6	5	12	24
C8-35	78.10	46.48	143.09	219.59	487.26	2	1	4	6	13
C8-36	185.35	167.63	21.53	117.47	491.98	2	6	3	7	18
C8-37	188.93	408.83	109.53	454.05	1161.34	6	13	6	21	46
C8-38	210.55	181.18	126.97	547.44	1066.14	5	6	8	33	52
C8-39	50.75	117.67	13.02	440.14	621.58	1	3	2	9	15
C8-40	181.83	49.85	30.44	26.18	288.30	3	2	3	2	10
C8-41		31.50		43.63	75.13		1	1	2	4
C8-42		97.08	14.32	31.69	143.09		2	1	3	6
C8-43		93.54	43.10	20.21	156.85		1	2	3	6
C8-44		111.14	111.38	171.77	394.29		3	4	8	15
C8-45	132.45	123.69	61.47	83.80	401.41	3	3	4	6	16
C8-46	295.31	449.17	146.47	299.03	1189.98	8	9	11	12	40
C8-47	68.64	72.66	164.81	188.16	494.27	2	3	8	8	21
C8-48	88.67	45.31		23.91	157.89	2	2		1	5
C8-49	47.06	42.00	54.36	85.42	228.84	1	2	3	3	9
C8-50	29.77			25.53	55.30	1			2	3
C8-51	31.35	92.61		42.35	166.31	1	2		5	8
C8-52	33.18	52.68	53.81	165.14	304.81	1	2	3	9	15
C8-53		129.54	23.07	181.62	334.23		5	3	10	18
C8-54		47.38	24.96	91.37	163.71		2	1	4	7
C8-55	34.54				34.54	1				1
C8-59				32.44	32.44				2	2

グリッド	完形質量(g)		破損質量(g)		総質量(g)	完形数		破損数		個数合計
	非赤化	赤化	非赤化	赤化		非赤	赤化	非赤	赤化	
C8-60	23.90	135.28	41.48	220.17	420.83	1	4	2	10	17
C8-61	86.31	646.53	115.35	130.00	978.19	1	16	5	9	31
C8-62	41.06	172.39	106.89	221.22	541.56	1	8	4	11	24
C8-63				69.67	69.67				2	2
C8-64			31.93	29.32	61.25			2	2	4
C8-66	3.56		8.32	48.24	60.12	1		1	4	6
C8-67	16.48	130.51		228.09	375.08	1	3		13	17
C8-68	56.78	156.93		260.95	474.66	2	4		9	15
C8-69		327.97		32.41	360.38		5		1	6
C8-70		224.48		300.48	524.96		7		12	19
C8-71		446.28	10.43	154.81	611.52		9	1	10	20
C8-76		51.79		216.18	267.97		2		4	6
C8-77		107.18		139.83	247.01		4		6	10
C8-78		31.73		55.65	87.38		1		3	4
C8-84	46.87	77.14	69.82	188.89	382.72	2	2	4	4	12
C8-85	164.71	105.21	17.75	101.43	389.10	2	3	3	5	13
C8-86	46.37	374.91	47.38	164.28	632.94	2	7	5	11	25
C8-87		61.26	53.83	165.93	281.02		3	6	10	19
C8-92		92.92			92.92		2			2
C8-93	73.89	123.24	72.34	135.61	405.08	2	3	2	5	12
C8-94		171.75	23.75	139.51	335.01		5	2	6	13
C8-95		59.33		79.94	139.27		2		7	9
C8-96		29.43	6.71		36.14		1	1		2
D7-50	37.96	33.76			71.72	1	1			2
D7-60	85.21	194.36	66.20	119.61	465.38	3	4	2	3	12
D7-61	29.83	83.14		33.99	146.96	1	3		2	6
D7-70		85.76		17.78	103.54		1		2	3
D7-71	34.43	117.66			152.09	1	4			5
D7-80	105.34	234.22	130.72	158.37	628.65	2	4	7	8	21
D7-90	21.99	62.96		60.01	144.96	1	2		3	6
D7-91			12.03	67.77	79.80			1	3	4
D8-0	16.63	50.25	46.83	267.81	381.52	1	2	4	9	16
D8-1			25.54		25.54			2		2
D8-10			14.92	14.22	29.14			1	1	2
D8-11	21.02			109.42	130.44	1			5	6
D8-20	17.89			28.41	46.30	1			1	2
D8-21	99.47	27.74	91.34	29.24	247.79	1	1	5	1	8
D8-30	41.19	25.81		53.15	120.15	1	1		1	3
D8-41	46.78	202.39		33.88	283.05	1	5		2	8
D8-42				100.03	100.03				1	1
D8-50		16.90		17.90	34.80		1		1	2
D8-51				48.47	48.47				4	4
D8-52				6.20	6.20				1	1
D8-70		78.90	8.18		87.08		1	1		2
D8-71		87.00	6.29		93.29		2	1		3
D8-80		167.65	26.08	22.50	216.23		1	1	1	3
D8-90		73.19	50.86		124.05		2	1		3
合計	12853.27	23096.37	14063.78	22102.21	72115.63	294	533	731	971	2529

第４節　奈良・平安時代（第108～110図，第20表，図版40～42）

奈良・平安時代の遺構は，方形周溝遺構３基，土坑１基，溝１条，石櫃２基が検出された。石櫃の１基は方形周溝遺構の主体部として検出されたものである。以下，順に出土遺物も合わせて説明することとする。

１　方形周溝遺構

調査区南部に集中して検出されたが，いずれも調査範囲の境界にかかるもので全掘されていない。

012（第108図，図版41）

調査区南部の北側境界でほぼ南側半分が検出された。東西軸はＮ－78°－Ｅである。主体部は検出されなかったが，調査区外に存在する可能性がある。周溝の幅は約50cm，西辺は1.8m・東辺は2.6mと一部であるが，南辺は全体が検出され，周溝外縁は5.5m・周溝内縁は4.0mである。全体規模を推定すると約30m²・周溝内は約16m²である。周溝は表土から40cm～50cm下から掘り込まれ，逆台形状を呈し，覆土は黒色土である。周溝覆土中の遺物出土はない。

018（第108図，図版42）

調査区南部の北側境界で012の西側で，南側のほぼ2/3が検出された。東西軸はＮ－77°－Ｅで012とほぼ同一である。東西軸の周溝外縁は2.4m・内縁は1.6mで，全体規模は推定約5.8m²・周溝内は2.6m²である。周溝は幅40cm～60cm・深さ約10cmで断面形状は半円形である。周溝内南側に一辺48cm・深さ15cm・断面形状は緩やかな逆台形の隅丸方形の穴が検出され，主体部と推測される。覆土は黒褐色土で，遺物の出土はなかった。

027（第109図，図版41）

調査区南端部の調査範囲境界で検出された。北部は中・近世の溝に切られ，南部は斜面によって消滅しており，周溝は北側と東側の一部が残存しているのみであるが，周溝内側に石櫃を埋納した主体部が存在する。東西軸はＮ－48°－Ｅ前後で他の方形周溝012，018とは若干ずれる。周溝は，長さが北側で1.8m・東側で3.4m残り，幅は北側が55cm前後，西側が70cm前後である。全体の推定規模は，周溝外縁が一辺５m前後で面積25m²前後，内縁が一辺4.5m前後で面積20m²前後である。石櫃については，次項に触れる。

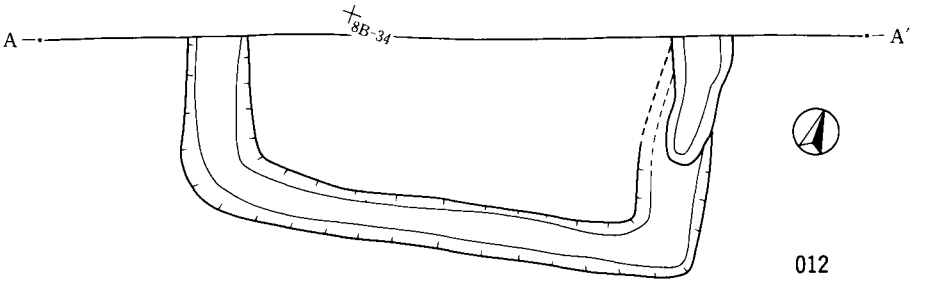
２　石櫃

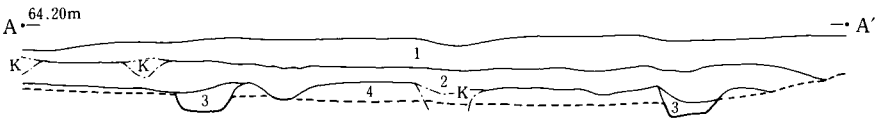
027主体部（第109図，図版42）

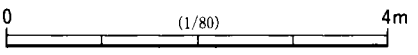
石櫃を埋納した主体部の掘方は，1.6m×1.4mの不整隅丸方形では深さは25cmである。石櫃は軟質砂岩製の身部で，直径45cm前後の不整円形を呈し，厚さは25cmで下部中央部がやや厚い。上面中央部に直径22cm・深さ７cmの窪みが造られている。内部には火葬骨は検出されなかった。

013（第110図，図版42）

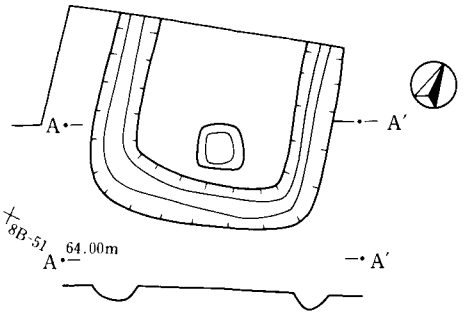
調査区北部で周溝等を伴わずに検出された。掘方は，長軸1.3m・短軸1.1mの楕円形で深さは22cmである。石櫃は軟質砂岩製で，耕作或いは表土除去の際に上部が削られた様である。全体は，長軸60cm・短軸45cmの不整方形で，厚さは40cmである。また，東側の下部には，厚さ６cm～７cmで両端部が南北に７cmほどの突出部があるが，この意味は不明である。本体は組み合わせ式で，長軸45cm・短軸35cmで不整方形の厚さ６cm～９cmの板状の石（図上のＣ部分）の上に，長軸60cm・短軸45cmの不整方形で厚さ17cmの石（図上のＢ部分）と20cmの石（図上のＡ部分）を載せている。なお，Ｂの底部は５cm前後抉られてＣが組み合わされており，その間には長軸22cm・短軸15cmの不整円形で厚さ２cmの空間部分があり，粉状の火葬骨が

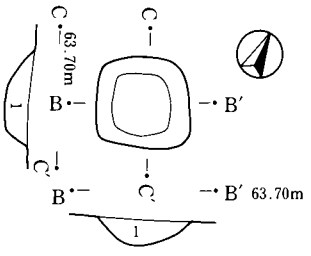




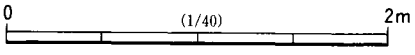


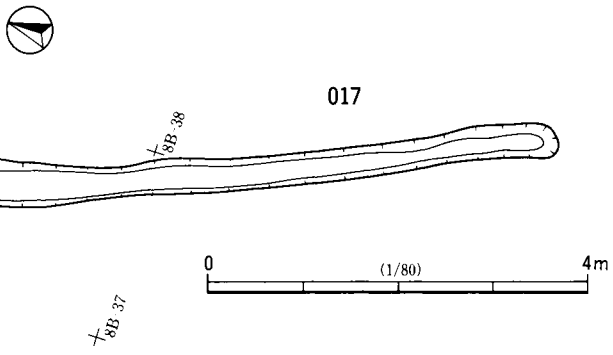
(012) 方形周溝状遺構
1．暗茶褐色土　(畑耕作土)
2．黒褐色土　ローム粒をまばらに含む。
3．黒色土
4．暗茶褐色土　ソフトローム粒を多く含む。

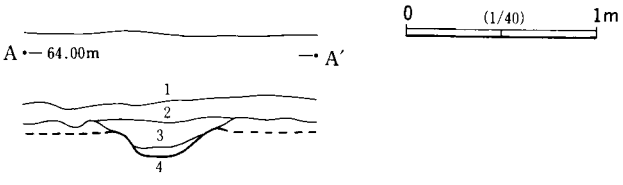


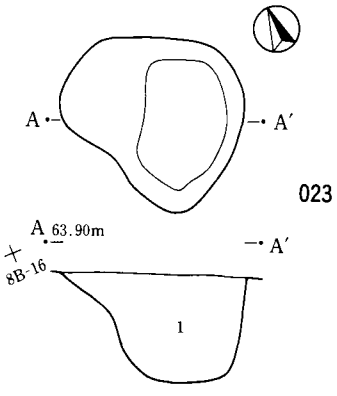


(018) 方形周溝状遺構内土坑
1．黒褐色土　ソフトローム粒を少量含む。





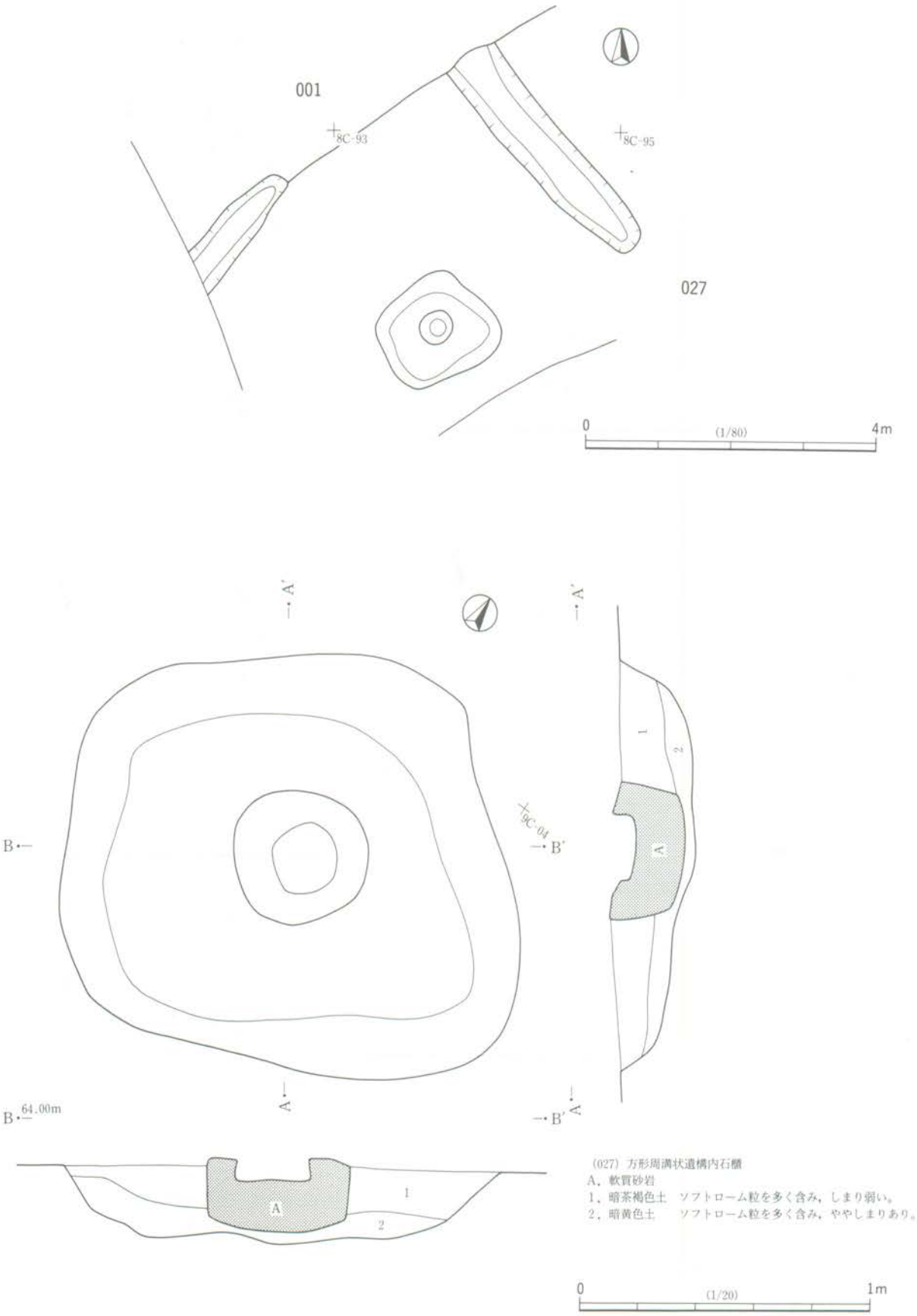




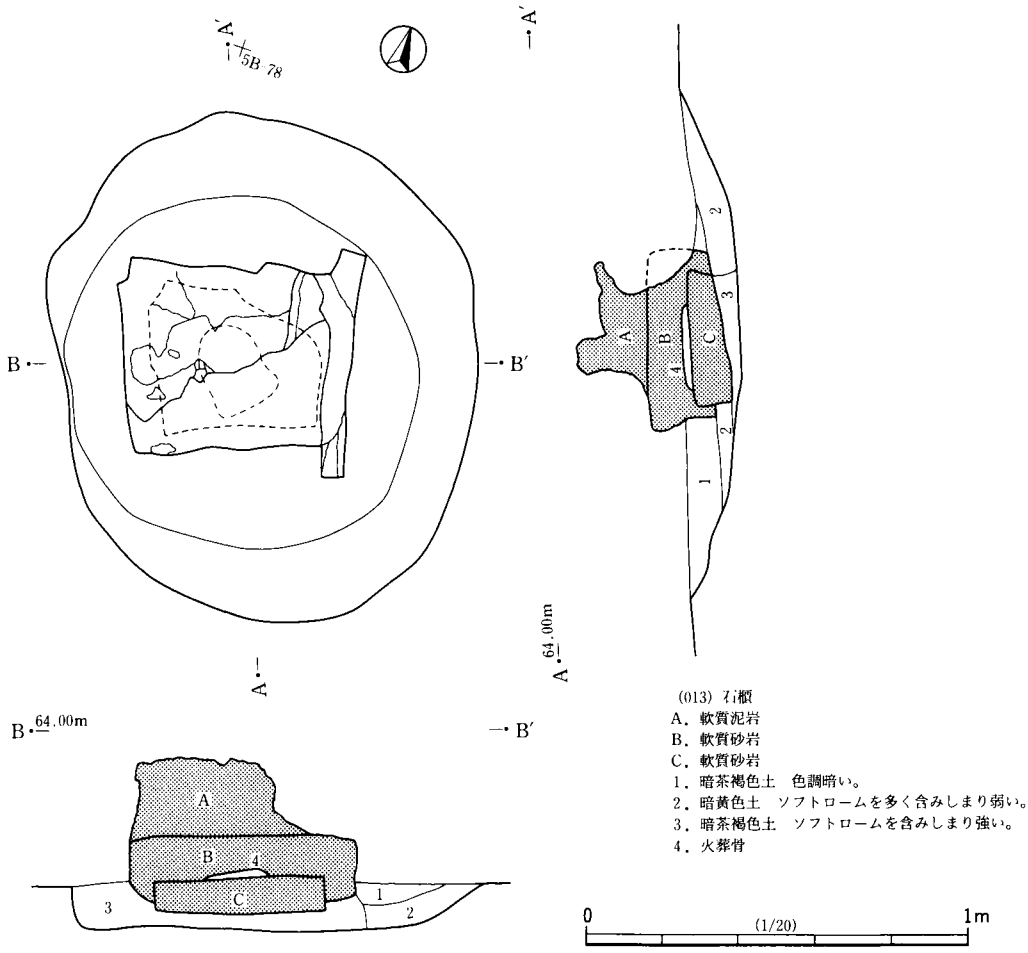
(017) 溝
1．表土
2．黒褐色土
3．黒色土
4．暗茶褐色土　ローム粒を多く含む

(023) 土坑
1．暗茶褐色土　ソフトローム粒をやや多く含む。

第108図　奈良・平安時代遺構（1）



第109図　奈良・平安時代遺構（2）



第110図　奈良・平安時代遺構（3）

納められていた。

3　溝

017（第108図・図版41）

調査区南部の北側境界に検出された幅32cm～50cmの溝で，南側は長さ6.5mで途切れ，北側に続く。主軸はN－24°－Wである。表土から90cmの掘り込み面からの深さは40cmで断面は逆台形である。覆土は黒色土を基本とする。遺物の出土は見られなかった。掘り込み面は方形周溝遺構の012と同一であるので，奈良・平安時代の遺構と推測できる。

4　土坑

023（第108図・図版40）

調査区北部で検出された。上端は長軸95cm・短軸90cmの不整楕円形で，深さは55cm，底部は長軸65cm・短軸44cmの不整楕円形である。西側上部の壁は緩やかに傾斜している。遺物は検出されなかったが，形状・覆土から奈良・平安時代の土坑墓と考えられる。

5　小結

本遺跡の奈良・平安時代の遺構は，方形周溝遺構・石櫃（方形周溝遺構の主体部と単独）・土坑（墓）・溝であり，住居跡は検出されず土器も出土していない。時期的には，唯一土製或いは陶器製骨蔵器を有し

ない石櫃2基の年代が上総地域の他事例から8世紀後半と考えられることから，奈良・平安時代の当地区は墓域であったことが推測される。

第5節　中・近世（第111～113図，図版40・43・47）

中世以降の遺構は，溝2条，土坑4基が検出され，遺物は常滑甕破片，砥石，キセル，銭貨が出土している。遺物は，表土中と溝001覆土中から出土したものであるが，一括して説明することとする。

1　溝・道路跡

溝は，調査区南部の台地縁辺に沿う形で2条が検出されたが，破壊を受けている南東部でつながっていたことが推測される。

001（第111図，図版43）

調査区南部にほぼ東西方向で検出された長さ33mの溝で，方向はN－62°－Eである。この溝の南側には土塁状の盛土が存在し溝の覆土に掛かる。盛土の構成土はしまりが弱く，近世から近代のものと推測される。溝は，上幅2.5m～4.2m，底部の幅は1m余，深さは60cm～85cmで，壁には若干の段差が形成されており，断面形状は段差を有する逆台形である。覆土は，基本的にはローム粒を多く含む暗茶褐色土で構成されるが，最下部（12層）と底から40cm～60cmに硬化面が形成されている。遺物は，東部の溝底部に掘り込まれた窪みから4枚の中国北宋銭（4～7）が，中央部の溝覆土最上層から寛永通宝（新寛永銭）（9）が出土した。この窪みは道に掘り込まれた土坑墓で銭は六文銭の可能性があろう。また，出土地点は不明ながら覆土中より砥石（2）が出土している。以上より，中世（恐らく15世紀以前）にまず道路として掘削使用され，土坑墓が造られ，その後近世（恐らく18世紀代）に埋められてまた道路として使用され，溝にかかる土塁状の盛土はさらにその後のものであることが推測できる。なお，覆土中には周辺から混入した縄文土器・礫も多く出土した。

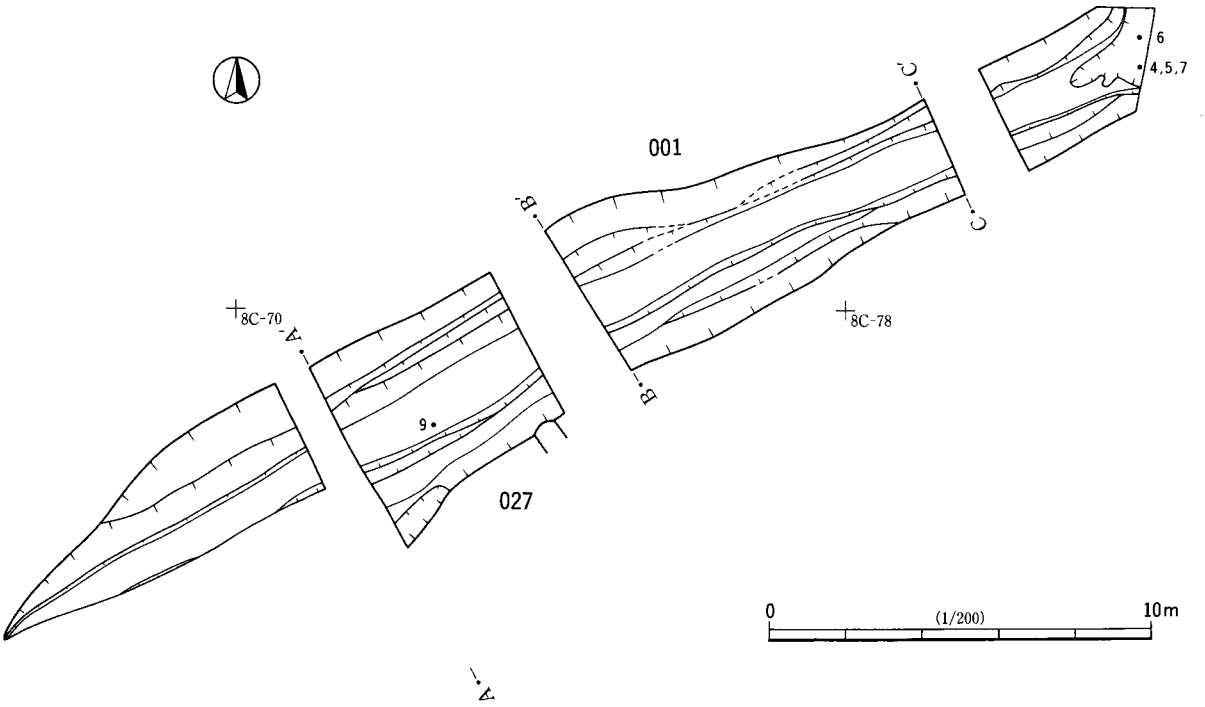
002（第112図，図版43）

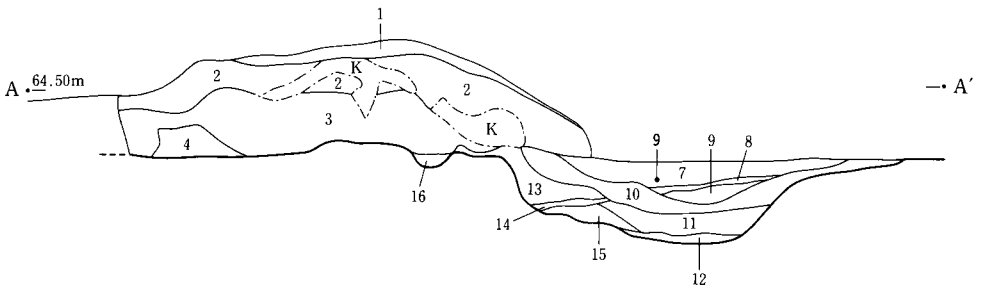
調査区南部から中央部で長さ27mの溝が北西－南東方向で検出された。方向はN－43°－W前後であるが，北側はさらに北方向（N－18°－W）へ曲がる。幅は1m～1.7m，深さは10cm～33cmと浅く，断面形状は下に膨らむ弧状を呈する。北半分の東側には幅30cm～1m・深さ5cmの浅い窪みがあり，硬化面を形成している。また，北端部には溝の縁辺部から土坑が2基掘り込まれている。北側は直径1.8mの円形土坑で，深さは確認面（溝上面）から33cm，溝の底部から17cmである。南側は長軸推定2m・短軸90cmの楕円形土坑で，深さは確認面から34cm，溝の底部から19cmである。以上より，001とは規模が異なり当該期の遺物の出土はないが，硬化面や土坑の存在と南端部の方向が001につながることから，中世から近世の道路跡に推測される。

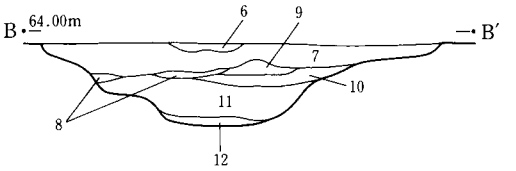
2　土坑

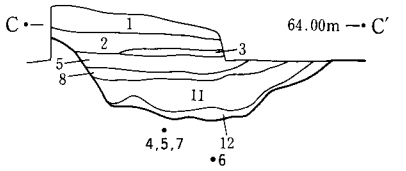
014（第112図，図版40）

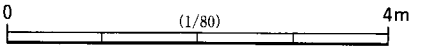
調査区南西部で検出された。上端は長軸3.4m・短軸2.7mの東西に長い楕円形で，上から60cmほどは緩やかに傾斜するが，以下は直からオーバーハング気味に落ち，深さは2.6mである。底部は長軸1.9m・短軸1.4mの南北に長い楕円形である。覆土はローム粒を多く含み，一気に埋め戻した様相が窺える。遺物の出土はないが，恐らく中・近世の土坑墓と考えられる。







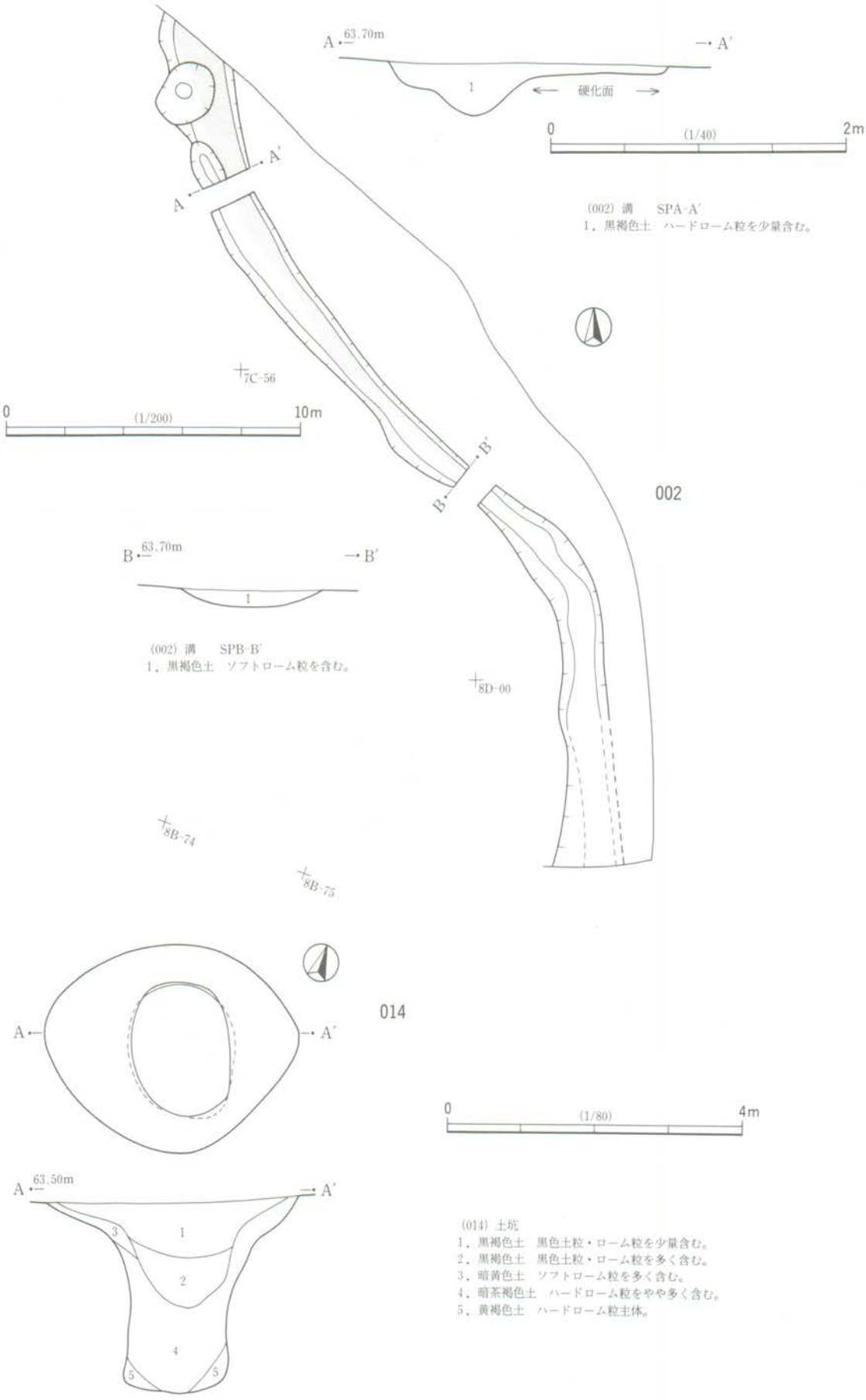




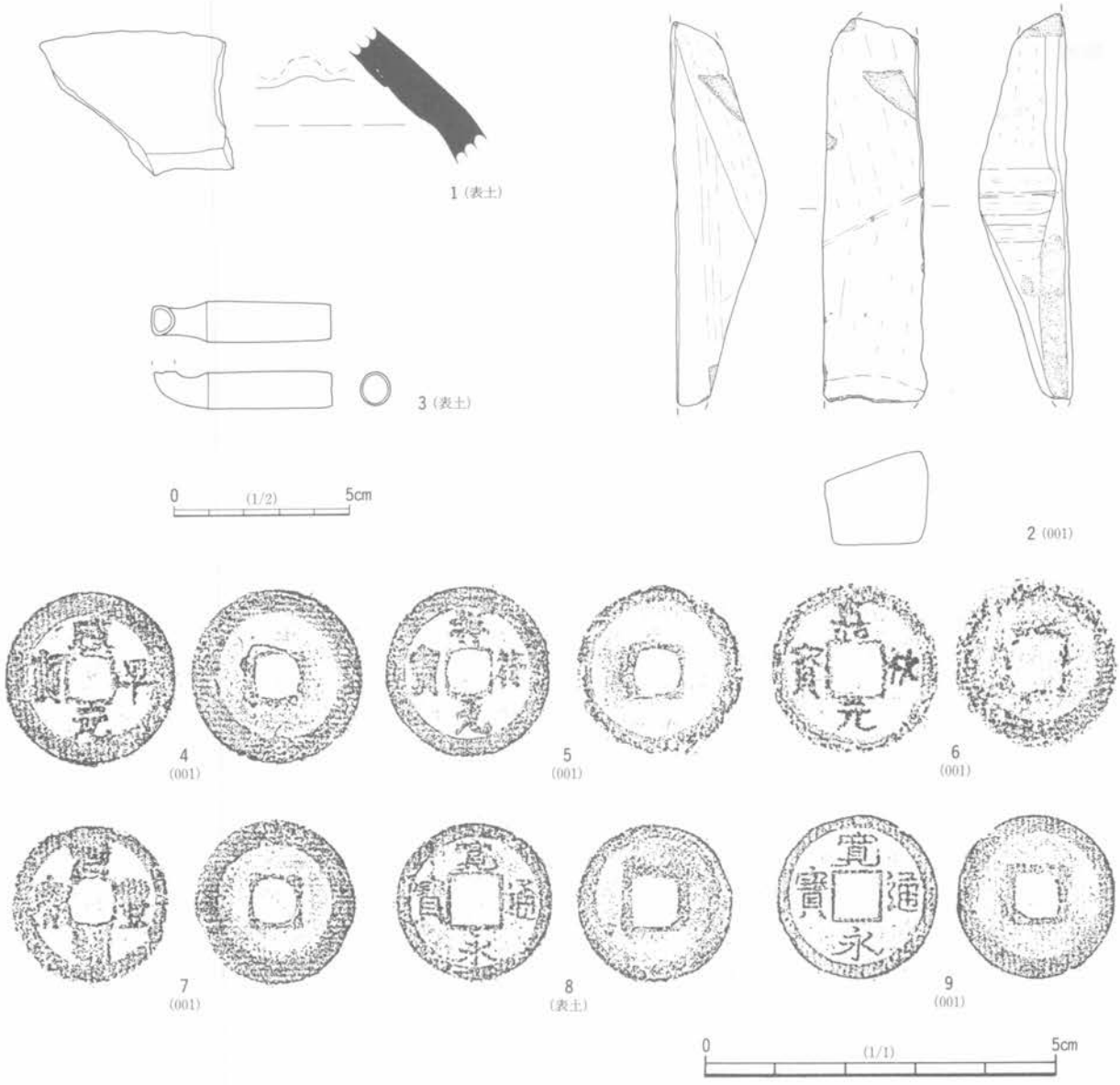
(001) 土塁・溝　SPA-A′, SPB-B′, SPC-C′

1. 表土　草・竹の根多い。
2. 暗茶褐色土　ローム粒多くしまり弱い。
3. 暗茶褐色土　ローム粒・焼土粒多くしまり弱い。
4. 暗茶褐色土　ソフトローム粒多くしまり弱い。
5. 暗茶褐色土
6. 暗茶褐色土　ハードローム粒を多く含み硬化している。
7. 暗茶褐色土　ソフトローム粒をまばらに含み炭化物粒を少量含む。
8. 黒褐色土　黒色土粒をやや多く含みやや硬化している。
9. 暗茶褐色土　ソフトローム粒を少量含み，しまり弱い。
10. 暗茶褐色土　9層と同様だが，色調やや暗い。
11. 暗茶褐色土　ソフトローム粒をまばらに含み均一にしまりあり。
12. 暗茶褐色土　ハードローム粒を多く含み，かなり硬化している。
13. 暗黒褐色土　しまりあり。
14. 暗茶褐色土　しまりあり。
15. 暗茶褐色土　しまりややあり。
16. 黒色土　(027方形周溝状遺構覆土)

第111図　中・近世遺構（1）



第112図　中・近世遺構（2）



第113図　中・近世遺物

第20表　銭貨計測表

挿図	図版	番号	遺構	銭種	書体	読み	鋳造地	初鋳年		材質	縁外径	縁内径	郭外長	郭内長	縁厚	肌厚	重量	備考
								元号	西暦									
113	47	4	001	咸平元宝	隷書	回読	北宋	咸平元	998	銅	24.80	18.40	7.83	6.10	1.00	0.53	3.10	
113	47	5	001	祥符元宝	真書	回読	北宋	大中祥符元	1008	銅	24.30	18.00	7.20	6.30	1.11	0.56	2.21	
113	47	6	001	嘉祐元宝	真書	回読	北宋	嘉祐元	1056	銅	23.45	18.90	9.03	7.40	1.35	0.79	2.14	
113	47	7	001	元豊通宝	篆書	対読	北宋	元豊元	1078	銅	23.25	17.70	7.25	6.20	1.05	0.49	2.37	
113	47	8	表土	寛永通宝	真書	対読	武蔵国江戸深川	元禄10または宝永5	1697または1708	銅	22.70	18.25	8.10	6.75	0.99	0.65	2.14	(四ツ宝銭)
113	47	9	001	寛永通宝	真書	対読	出羽国秋田川尻村上野	元文3	1738	銅	23.43	19.40	7.45	6.25	1.04	0.61	2.20	(出羽秋田銭)

3　遺物（第113図・図版47）

陶器

1は，中世常滑焼の大甕の肩部で，溝002の南端部近くのC7-79グリッド表土中から出土した。外面には全体に灰オリーブ色（7.5Y5/3）の自然釉が掛かり，内面は指頭によるナデが施されている。胎土・内面の色調は灰色（5Y5/1）である。小破片なので詳細な時期は特定できないが，14世紀～15世紀代の所産と考えられる。

石製品

2は，溝001覆土中出土の凝灰岩製砥石である。幅2.9cm・長さ10.9cm・最大厚2.6cmで，両端部は僅かに欠損している。断面形状は，短軸が台形であるが，長軸は中央部が厚く山型を呈する。使用痕跡は全面に見られる。色調は，褐色（10YR4/6）～灰白色（2.5Y8/2）である。

金属製品（第20表）

3は，表土中出土の銅製キセルの雁首部であり，火皿部分は欠損している。現存する長さは5.1cm・直径は9.0mm～9.5mm・内径は7.5mmである。火皿部分の折り返しが緩やかなので18世紀代の製品と考えられる[1]。4～9は銅銭で，4～7は溝001覆土中出土の北宋銭，8・9は寛永通宝（新寛永銭）で，8は表土中出土，9は溝001覆土中出土である。4は咸平元宝（初鋳年　北宋咸平元年　西暦998年），5は祥符元宝（初鋳年北宋大中祥符元年　西暦1008年），6は嘉祐元宝（初鋳年　北宋嘉祐元年　西暦1056年），7は元豊通宝（初鋳年　北宋元豊元年　西暦1078年），8は元禄10年（1697）または宝永5年（1708）江戸深川で初鋳の四ツ宝銭，9は元文3年（1738）出羽国秋田川尻村上野初鋳の出羽秋田銭に比定される[2]。

4　小結

中世から近世の本遺跡は，東側から南側の台地縁辺部で道路001・002が造られ，その内部（001東端部）・縁部（002北部）・近く（014）に土坑・土坑墓が造られている。建物等の生活遺構はなく遺物も僅少なことから，この時期は道の周囲には山林または原野が存在したことが想像できる。本遺跡のすぐ東側直下と北側に中・近世の主要道が通るが，検出された道路跡はその支道と考えられ，墓が造られたことは，南側直下の浄蓮寺へつながる道の可能性もあろう。

注1　キセルの年代観については，小泉弘ほか　1985『江戸－都立一橋高校地点発掘調査報告－』都立一橋高校内遺跡調査団 を参考とした。

2　銭貨の鋳造地・分類等については，小川浩　1972『寛永通宝銭譜』日本古銭研究会，静岡いずみ会　1992『穴銭入門寛永通宝－新寛永銭の部－』書信館出版　等を参考とした。

第4章　まとめ

第1節　旧石器時代

金二矢台遺跡から出土した旧石器時代の遺物は，Ⅳ・Ⅴ層に出土層位をもつ1枚の文化層で，12か所のブロックが，集中した1地点と単独の2地点から検出された。

文化層の特徴は，①石材構成では，黒曜石が全体の3分の2を占め，残りを頁岩・安山岩・チャート等で構成されている。②器種構成では，ナイフ形石器が量的に多く，他に礫器・削器・掻器等のバラエティーに富んだ器種構成を呈している。

量的に大勢を占めるナイフ形石器は，横長剥片の二側縁にブランティングを施した物が多く，石材も黒曜石が多用される。黒曜石による剥片剥離は，石核が確認されていないため明確ではないが，厚みのある短めの剥片が多い様である。黒曜石以外の石材による剥片剥離においても，長めの縦長剥片は少なく，接合関係の認められた石核においては，板状の剥片を素材として剥片剥離を行っているものが認めらるように，横長剥片に対する指向性が高いように見うけられる。

以上のことから，本遺跡における旧石器時代の文化層は，石刃状の縦長剥片から横長剥片にその素材の主体を移しつつ，2側縁加工のナイフ形石器を主体とする段階に近いものと考えられる。

第2節　縄文時代

1　金二矢台遺跡

金二矢台遺跡では，遺構として炉穴4基及び集石遺構3基を検出した。いずれも，土器の出土が希薄なため，明確な年代的位置づけは困難である。唯一，005集石遺構から，無文ではあるが，稲荷台式と考えられる土器片が伴って出土している。遺構外出土土器を見ると，前期後半のものが最も多く，他の遺構に関しては，これに近似する時期を考えたい。集石遺構については，001及び005から，敲石という生活用具が出土している点に注目したい。しかし，001は土坑を伴い，礫の赤化率も高い。対して，005は明確な掘り込みを伴わず，礫の赤化率も低い。この違いは，遺構としての機能差を示していると思われ，単純に考えるのであれば，001が調理施設，005が住居的な施設となるであろう。005に，極めて少数ではあるが，剥片や土器片が伴うことも，その考えを補強する。

遺構外出土の土器は，前期後半の浮島式・興津式土器を中心として，早期の撚糸文土器（稲荷台式）及び中期の阿玉台式土器が，比較的多く検出されている。主体を占める浮島式・興津式については，変形爪形文，爪形文及び縄文が混在するなど，諸磯b式の影響が随所に見られるものが多い。だが，明確な諸磯b式土器（4類～6類）は，少数にとどまっている。当時の君津郡域が，浮島式・興津式の分布圏にありながらも，諸磯b式圏域との交流関係を示していると考えられ，興味深い資料である。

また，石器類も剥片石器を中心として多く検出されている。時期的には，遺構外出土土器の数量に比例して，前期のものが主体となると思われる。石材は，黒曜石及びチャートを初めとして，頁岩，安山岩，砂岩，メノウなど多種にわたる。基本的に，黒曜石は石鏃製作に，他の石材は不定形剥片を生産して，ほとんど二次加工を加えず，掻器などに類する使用を行っていたと考えられる。

さらに，調査区全体から礫が大量に出土している。これも石器類と同様に，前期の所産と考えられる。興味深い点は，集中域と破損率及び赤化率の高い区域について，食い違いがあることである。このデータは，遺跡内への礫の持ち込みにも，複数の目的があったことを示しているものと考えられる。本遺跡のみでは，その目的を明らかにすることはできない。だが，周辺遺跡との比較を通じ，竪穴住居跡が希薄な時期の行動様式を想定することが可能になるものと考えられ，統計の取り方も含めて今後の課題としたい。

2　堀ノ内台遺跡

堀ノ内台遺跡では，遺構として土坑14基を検出した。一部を除き，早期の撚糸文土器（稲荷台式）を伴っており，おおむねこの時期のものと位置づけられる。いずれも小礫を伴い，その多くが赤化していることから，調理関係の施設であることが想定される。しかし，大量に検出された遺構外出土の礫を見ると，その分布が土坑の位置と異なるなど，必ずしも礫の利用目的を限定して捉えることはできず，慎重に考えたい。

遺構外からは，撚糸文土器及び石器類が多く検出された。撚糸文土器は，稲荷台式に比定できるものであるが，無文のものや沈線化したものも含まれており，撚糸文終末期により近い様相を示している。石器類は，原礫面を残した石斧類が主体を占めている。製作には，打撃と研磨を併用しているものが多く見られ，撚糸文土器期の一般的特徴とおおむね共通している。また，側面及び上面に摩耗が見られるものもあるが，着装の結果と考えられ，石斧の利用を検討する上で重要な資料となるものと考えられる。

第3節　奈良・平安時代

金二矢台遺跡では，竪穴住居跡4軒・石櫃2基が検出された。竪穴住居跡の時期は出土遺物から8世紀後半が2軒，9世紀前半が2軒であり，いずれも一辺4mほどの住居は柱穴が存在しカマドが北向きに位置するが，1辺1.6m～2mの小型の住居は柱穴がなくカマドはコーナー付近で東向きに位置し，大小の住居の距離がそれぞれの30m前後というセット関係とも考えられる様相が窺える。竪穴住居跡は，調査区の南側で集中して検出され，さらに南側は急斜面となるので，「集落」として完結するものと考えられる。この住居の形態等の差については，一概には言えないが，やや大型の住居が本家，やや小型の住居が下人クラス，或いは作業小屋という想像もできる。

また，軟質砂岩製石櫃は，1基は円形・1基は隅丸方形の2基で，いずれも直接火葬骨を入れる容器である。しかし，並んで検出されたこと，一方の納骨穴縁に凸帯が残存していること，納骨穴の大きさに差があり，凸帯のある方（身）に無い方（蓋）が被さる印籠型である可能性がある。恐らく後世蓋が開けられてしまったものと推測される。

堀ノ内台遺跡では，方形周溝遺構3基・土坑1基・溝1条・石櫃2基が検出され，石櫃の1基は方形周溝遺構の主体部として検出され，もう1基は単独出土である。住居跡は検出されず，当概期の土器も出土していないので，生活痕跡がなく墓域であったことが言える。

周辺の奈良・平安時代の遺構が検出された遺跡としては，金二矢台遺跡もその中に含まれ，堀ノ内台遺跡と間に位置する大畑台遺跡群がある。この中の大畑台遺跡における金二矢台遺跡の北北西約300mの調査区（5,000m²）では，8世紀後半～9世紀前半の竪穴住居跡6軒と火葬墓1基が検出され，金二矢台遺跡と同様な様相を示す[1]。ところが，金二矢台遺跡の北西約450mの調査区（2,500m²）では，古墳時代の大集落が検出されたが，8世紀以降の竪穴住居は検出されなかった。ただ，掘立柱建物跡10棟は奈良・平安時代

に比定されている[2]。また，金二矢台遺跡と堀ノ内台遺跡の中間に位置する小谷遺跡の調査区（4,200m²）では，次の様な変遷が考えられている。7世紀末に方形周溝遺構が3基造られ，8世紀前葉には竪穴住居跡1軒～2軒が出来，8世紀中葉には基壇建物が造られ，周辺に竪穴住居跡6軒～8軒・掘立柱建物跡3棟，8世紀後葉には基壇建物・竪穴住居跡5軒・掘立柱建物跡7棟と最盛期を迎えるが，8世紀末～9世紀初頭には基壇建物・竪穴住居跡3軒・掘立柱建物跡4軒と衰退する。8世紀後半～9世紀初頭に推定される瓦塔も出土しており，基壇建物は村落内寺院と推測されている[3]。一方，小谷遺跡の北西・堀ノ内台遺跡の北東約600mに位置する銭賦遺跡では，古墳時代後期の集落が主で8世紀代以降の集落は消滅するが，火葬墓と方形墳墓（方形周溝遺構）が散在し，墓域となる[4]。これは，堀ノ内台遺跡と同様である。つまり，当地域の奈良・平安時代には，小谷遺跡の宗教施設の近辺では，集落は減少しその外縁に営まれ，代わりに墓域が形成された様相が窺える。

石櫃は，千葉県内では40基余が出土しているが，その内，西上総地域がその殆どを占め，木更津市内は特に多い傾向がある。骨蔵器の外容器として使用する場合と，直接骨蔵器として使用する場合があるが，前者は少数で，多くは後者である。金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡共，後者である。周辺でも木更津市江川熊野神社境内遺跡で1基（江川火葬墓），大畑台遺跡で3基，中台遺跡で1基，マミヤク遺跡で1基が検出されている。江川火葬墓の石櫃は凝灰岩質砂岩製石櫃を外容器として，中に蛇紋岩製家型骨蔵器が納められ，その上に盛土された墳丘が築かれていた。大畑台遺跡では，方形区画墓（方形周溝遺構）主体部土坑から凝灰質砂岩製が1基，軟質砂岩製が2基検出され，いずれも方形であるが，組み合わせ式・印籠型・身の上に板状の蓋を載せたものの3種が検出された。中台遺跡では，方形区画墓主体部土坑から軟質砂岩製の家型石櫃が1基検出された。マミヤク遺跡では，軟質砂岩切石を組み合わせた方形石櫃が単独出土した。金二矢台遺跡の石櫃は隅丸方形の身に円形の蓋，堀ノ内台遺跡の石櫃は方形周溝遺構の主体部から円形石櫃，単独で切石を組み合わせた方形石櫃の2基である。この方形石櫃はマミヤク遺跡と同様と考えられるが，円形の石櫃は管見の限り県内では袖ケ浦市打越遺跡で1基，富津市岩坂大台遺跡で2基検出されているのみであり，円形印籠型は岩坂大台遺跡の1基のみであり[5]，珍しいタイプといえる。

第4節　中・近世

金二矢台遺跡では，道路跡と土坑1基が検出された。道路跡は，写真で見る限り現道に沿う溝状遺構であり，袖ケ浦市山谷遺跡[6]と同様，中世以来の道と考えられる[7]。土坑は奈良時代の竪穴住居跡覆土に掘り込まれたもので，木質が付着した鉄製金具が大量に出土していること，付近で新寛永銭や銅製天秤金具が出土していることから，江戸時代後期のものと考えられる。当地区の中世から近世の景観としては，山林内を通る道が想像できる。明治初期の迅速図（第1図）にも記載される様に，中世から近世にかけての主要道路であったことが想像できる。

堀ノ内台遺跡では，狭い台地の縁辺部にあたる調査区の東側から南側で，中世から近世の溝（道路跡）が検出され，それに沿う形で土坑4基が検出された。この内，土坑墓に推定できるのは，北宋銭4枚が検出された，溝底に浅い窪みとして痕跡が残されたものと，溝近くの深さ2.6mの円形土坑である。北宋銭は，土坑墓に伴う六文銭と考えられ，枚数と種類から推測すると14世紀から15世紀代と考えられる。この年代は表土中出土の常滑大甕破片の時期共一致する。銭は，新寛永銭も溝覆土上層（硬化面上）や表土中から出土しており，17世紀から18世紀後半にも道として使用されたことが推測される。第1章第2節の歴史的

環境で触れたが，すぐ北方の三叉路（大字境）に江戸初期と伝えられる「北ハかまくら道・右ハからす田道・左ハ高くら道」の石製道標が存在（第114図）し，当遺跡の北側に鎌倉街道に推定される[8]「かまくら道」，東側直下に「からす田道」が通る。また，南側直下には浄蓮寺（真言宗豊山派，中世の動向は不明）が存在すること，明治初期の迅速図に描かれた道は北西－南東方向に当遺跡の東側を通ること等も含めて，中世から近世の当地区は，主要道から枝別れして寺院と結ぶ道が寺院の裏山を通り，村や寺の墓域本体とは離れた墓が点在するという景観が考えられる。

第114図　中烏田所在石製道標

注1　井上　賢　他　1996『大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅰ－大畑台遺跡－』木更津市教育委員会

2　當眞嗣史　1997『大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅱ－大畑台遺跡－』木更津市教育委員会

3　甲斐博幸　1998『大畑台遺跡群発掘調査報告書Ⅲ－小谷遺跡－』木更津市教育委員会

4　今泉　潔・笹生　衛　1994『大畑台遺跡群遺跡発掘事前総合調査報告書－銭賦遺跡・小谷遺跡－』木更津市教育委員会

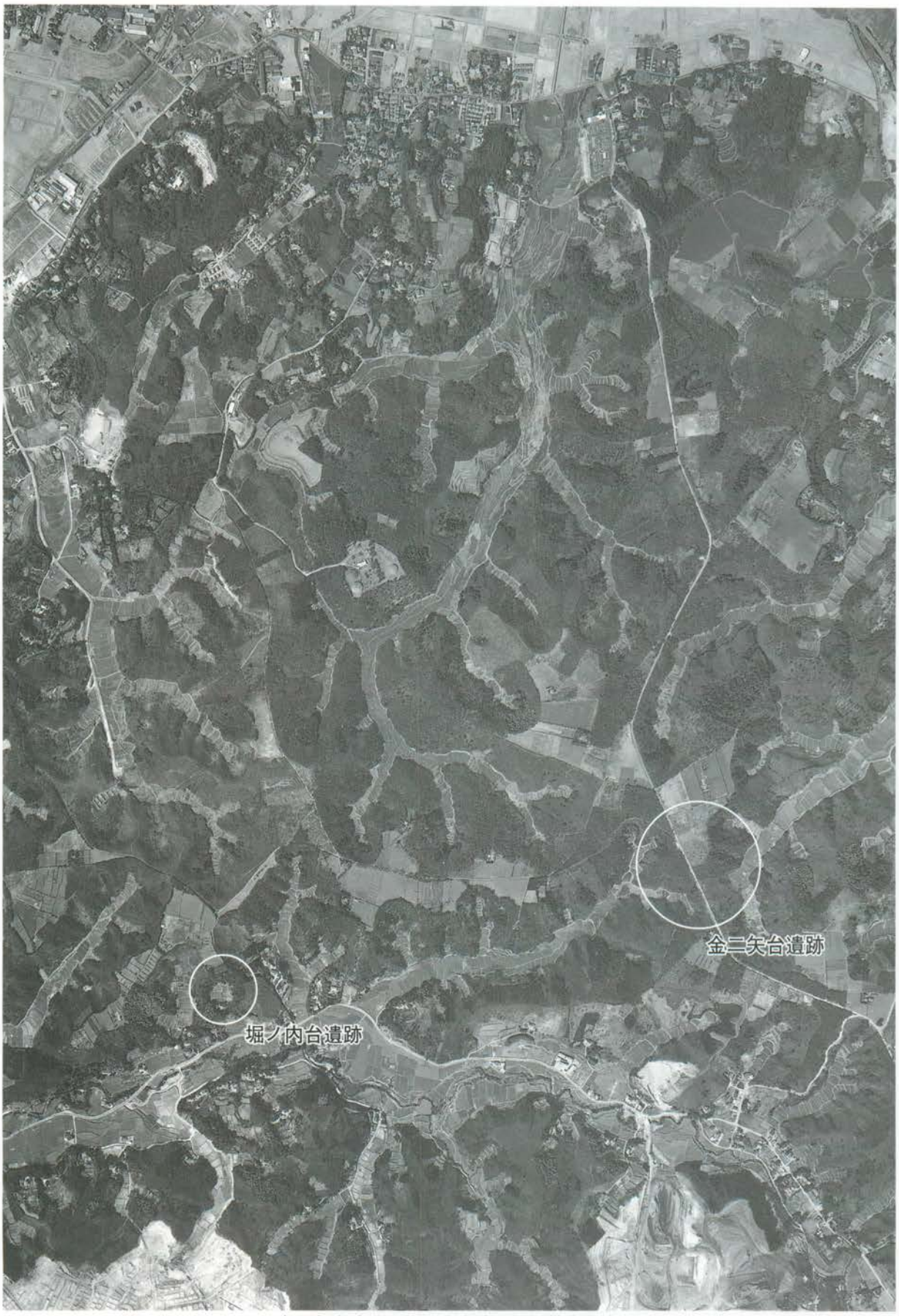
5　當眞嗣史・萩原恭一　他　1995『東日本における奈良・平安時代の墓制－墓制をめぐる諸問題－』第Ⅱ分冊　東日本埋蔵文化財研究会

6　柴田龍司　1994「鎌倉街道と市－袖ケ浦市山谷遺跡の成果から－」『研究連絡誌』第41号　財団法人千葉県文化財センター

7　大谷弘幸　1994「西上総地域の古道跡－いわゆる鎌倉街道を中心として－」『研究連絡誌』第41号　財団法人千葉県文化財センター

8　小熊吉蔵　1932「鎌倉街道」『千葉県史蹟名勝天然記念物調査報告』第十輯　千葉県

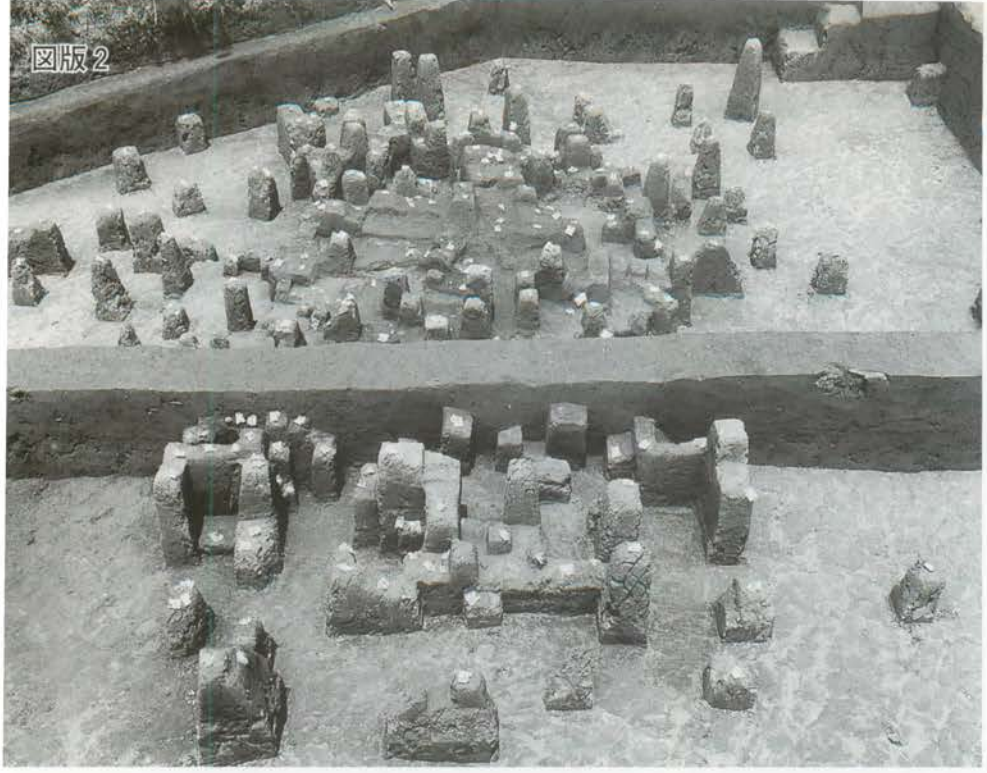
写 真 図 版



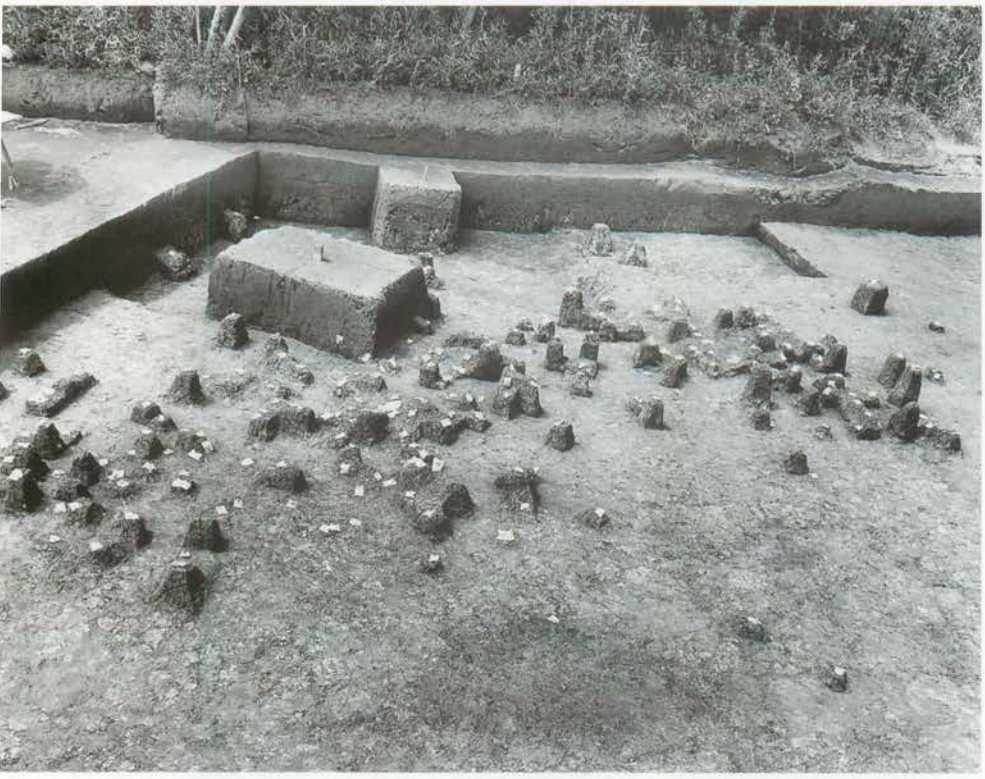
金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡周辺航空写真

図版2

金二矢台遺跡
旧石器時代遺物集中地点（1）



4B-12　旧石器時代　第1ブロック　（南から）



4C-00　旧石器時代　第4・5ブロック
（南から）

4C-00　旧石器時代　第4ブロック　炉状遺構
（南から）

4C-22　旧石器時代　第6ブロック
（南西から）

4C-31　旧石器時代　第7ブロック　（南から）

4C-42　旧石器時代 第8・9ブロック
（西から）

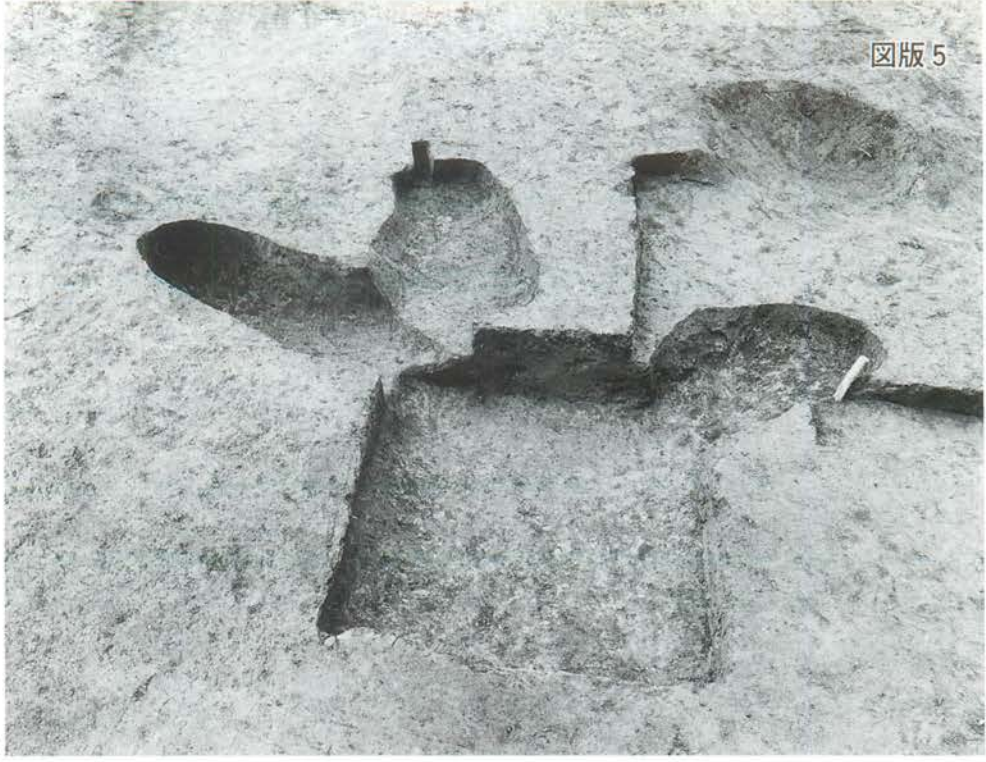
図版 4

旧石器時代遺物集中地点（3）

4E-42　旧石器時代　（北から）

4E-42　旧石器時代　（西から）

5G-20　旧石器時代　（北から）



007～009　全景　（北から）

001・002　集石　（北西から）

001　集石　（東から）

縄文時代集石遺構（2）

001　礫除去後　（東から）

002　（南東から）

005　集石　（南から）

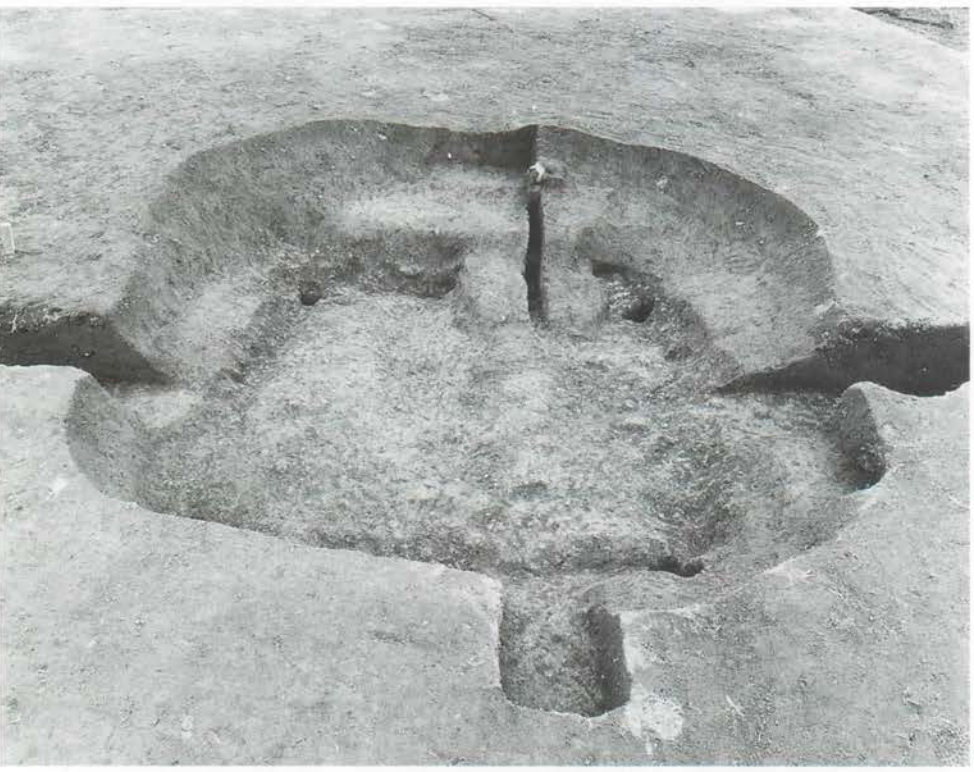
003　全景　（南から）

003　カマド半裁

003　カマド全景

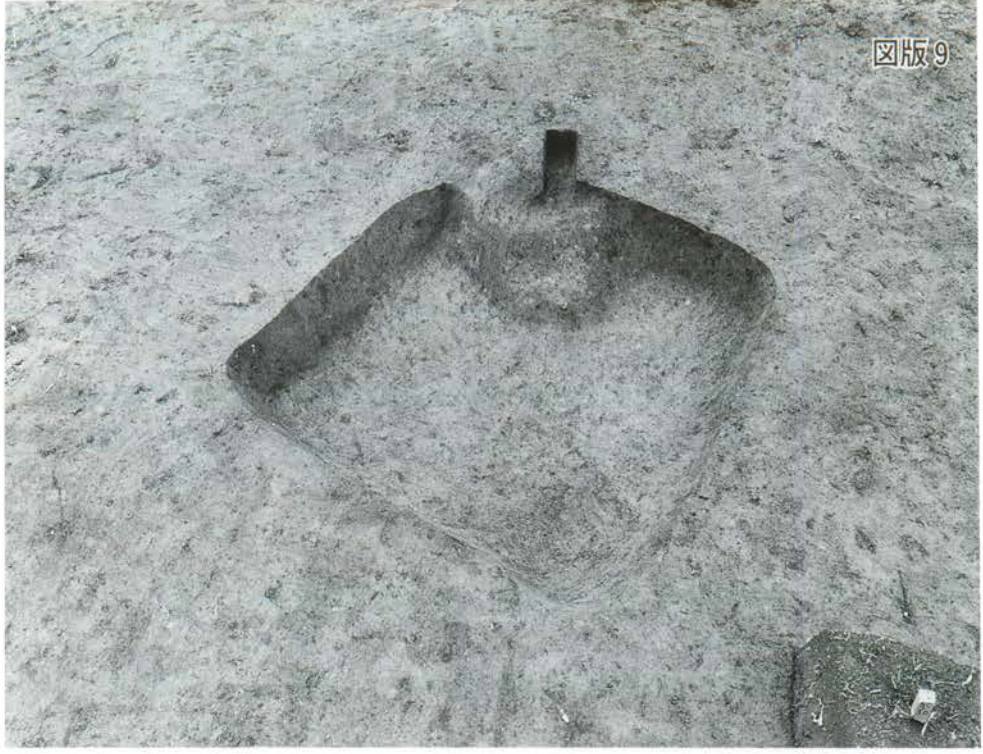
奈良・平安時代竪穴住居跡（2）

004　遺物出土状況　（南から）

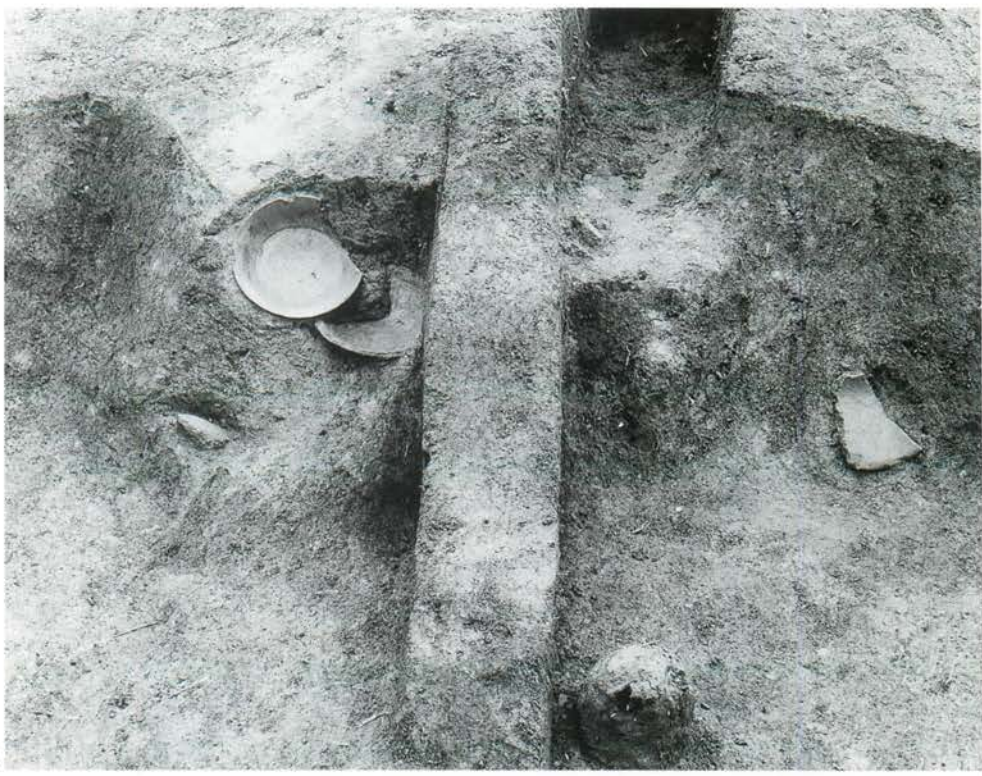


004　全景　（南から）

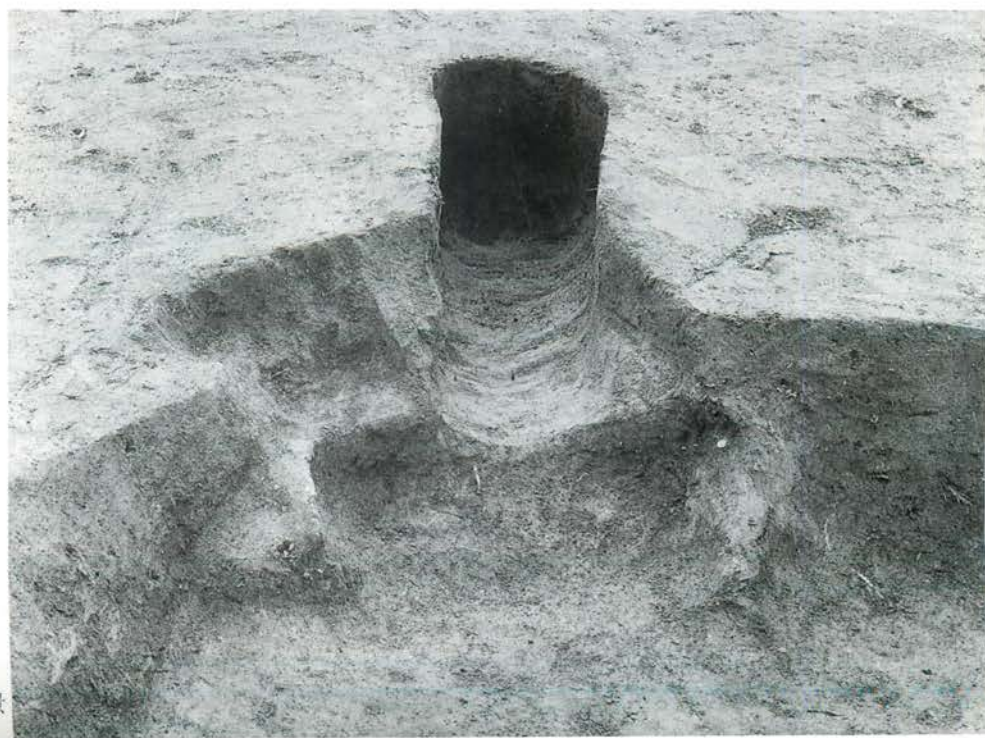
004　カマド全景



010　全景　（南西から）



010　カマド内遺物出土状況　（南西から）



010　カマド全景

図版10

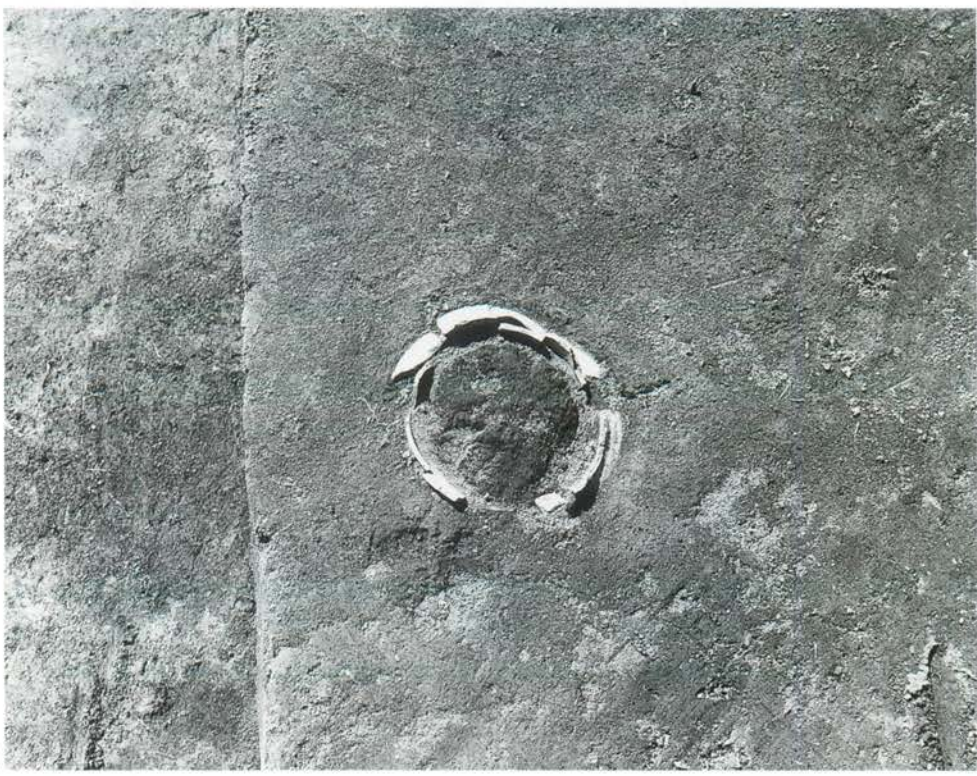
奈良・平安時代竪穴住居跡（4）

011　セクション　（西から）

011　遺物出土状況　（西から）

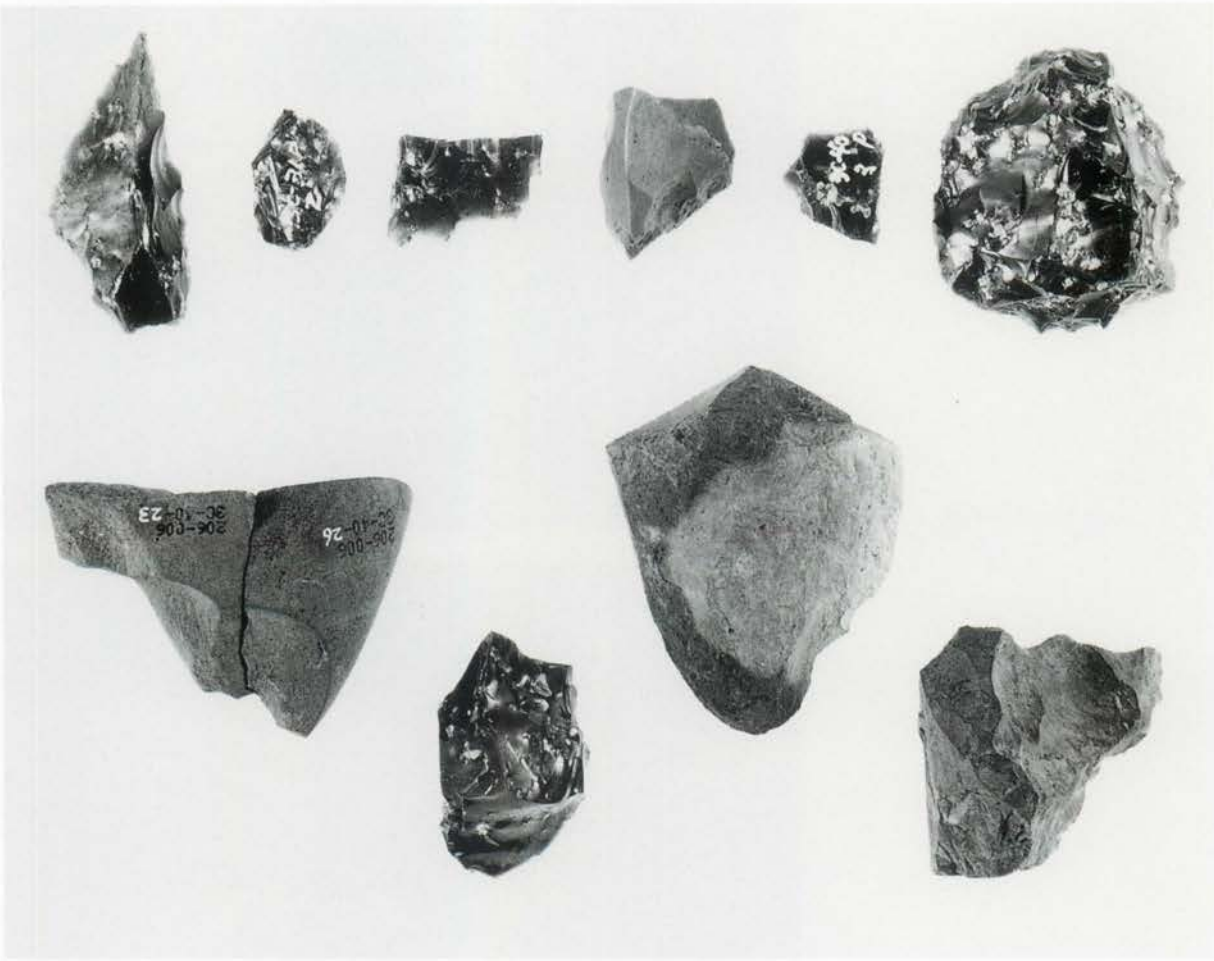
011　カマド全景

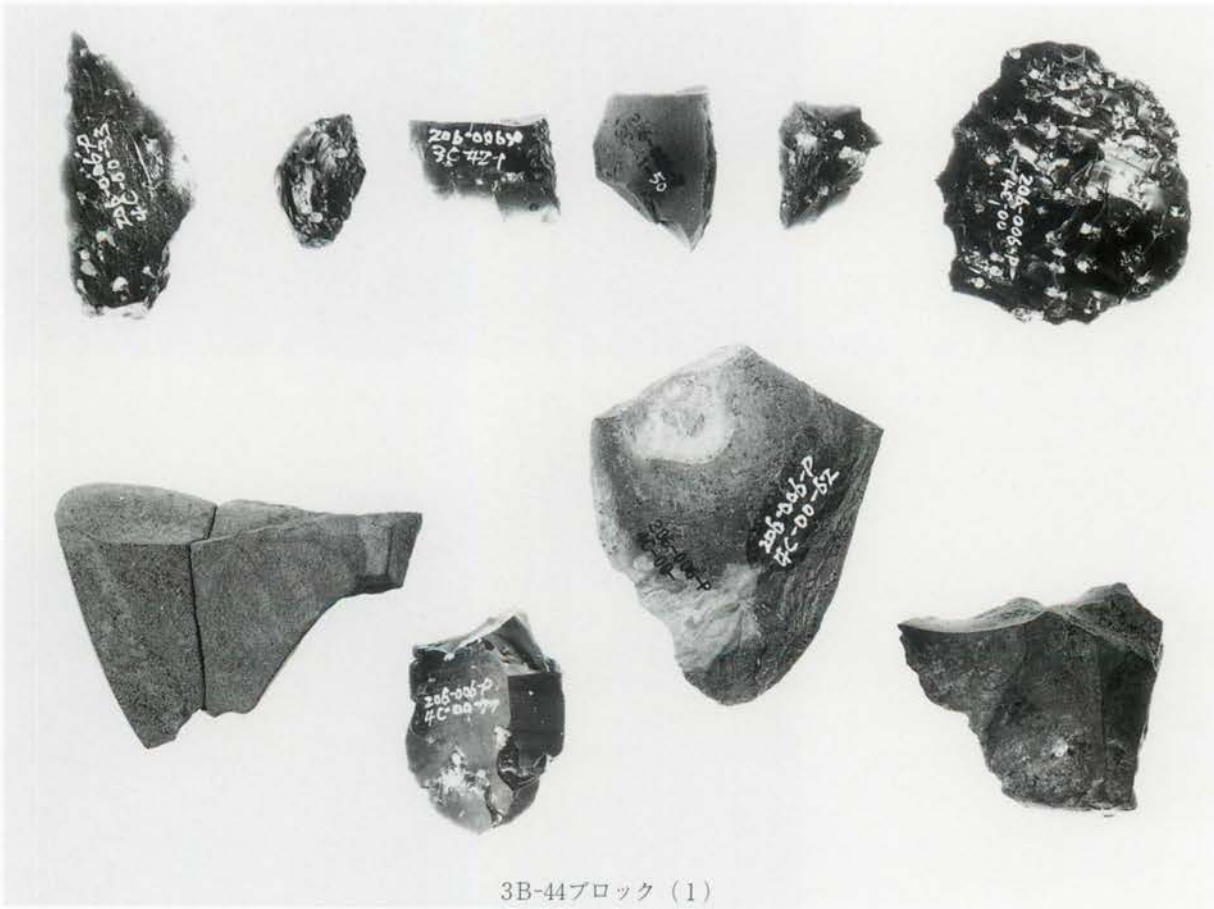
006A・B（石櫃）（西から）



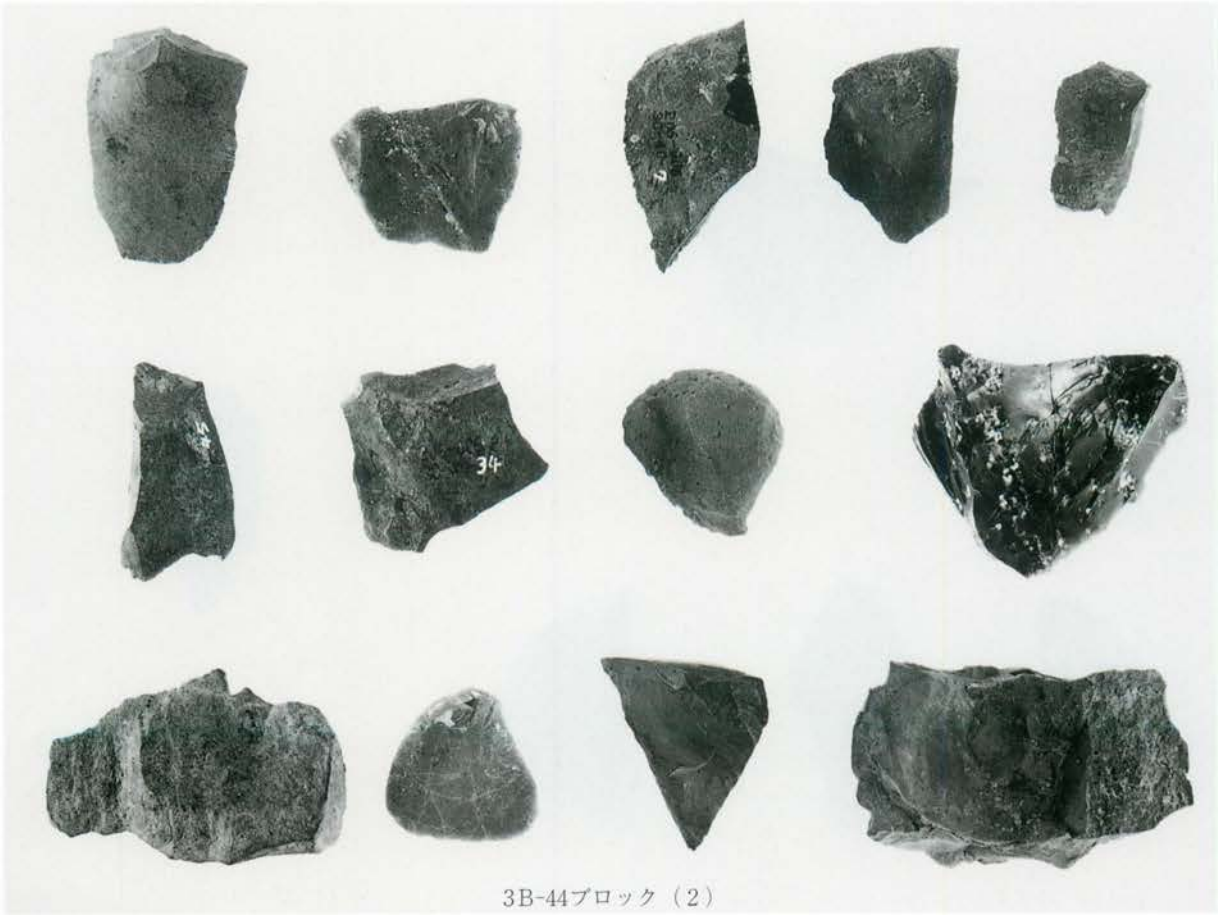
3G-20　骨蔵器出土状況　（東から）

調査前風景　（中近世道路跡）





3B-44ブロック（1）
旧石器時代石器（1）



3B-44ブロック（2）
旧石器時代石器（2）

3B-44ブロック（3）

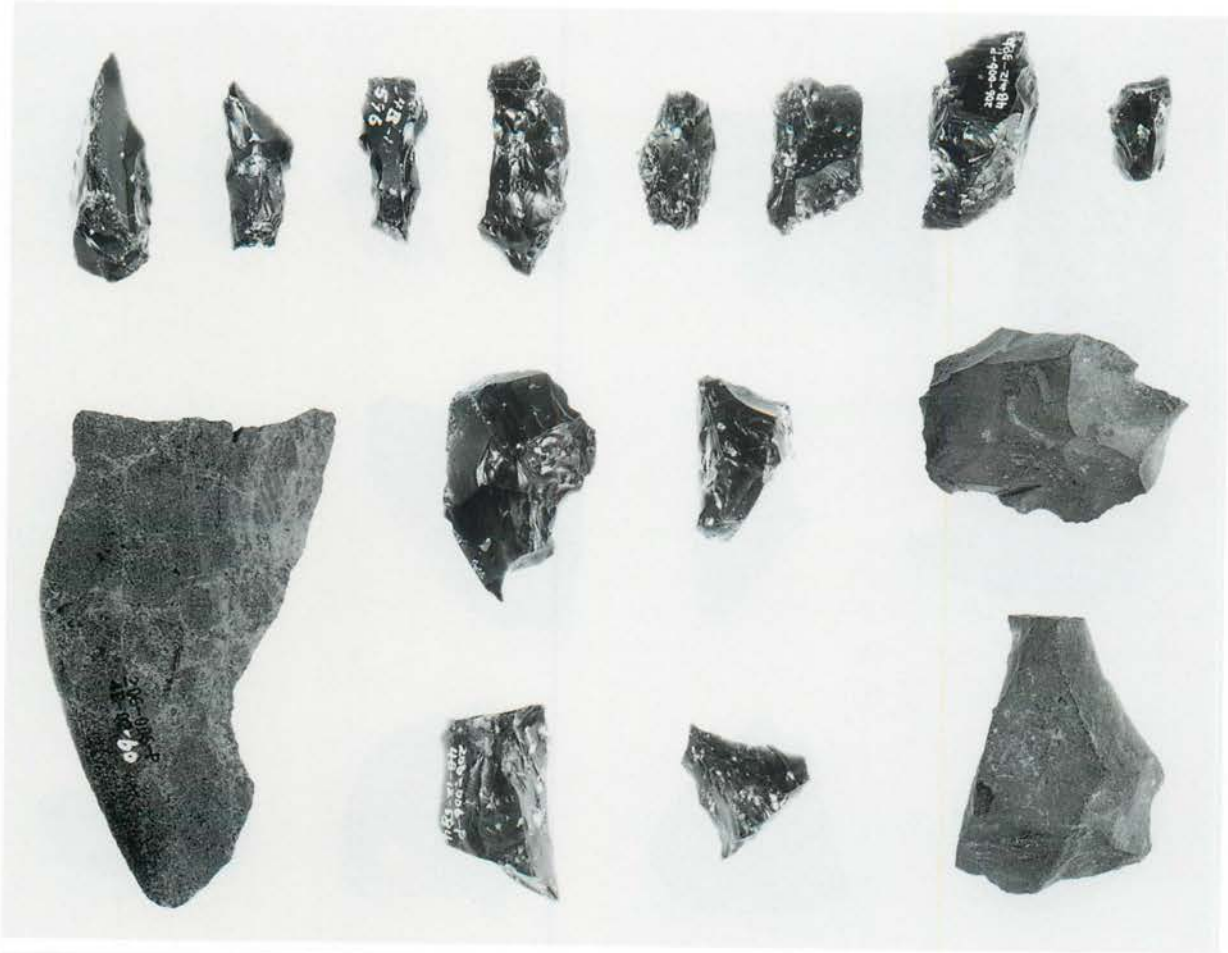
3B-44ブロック（4）

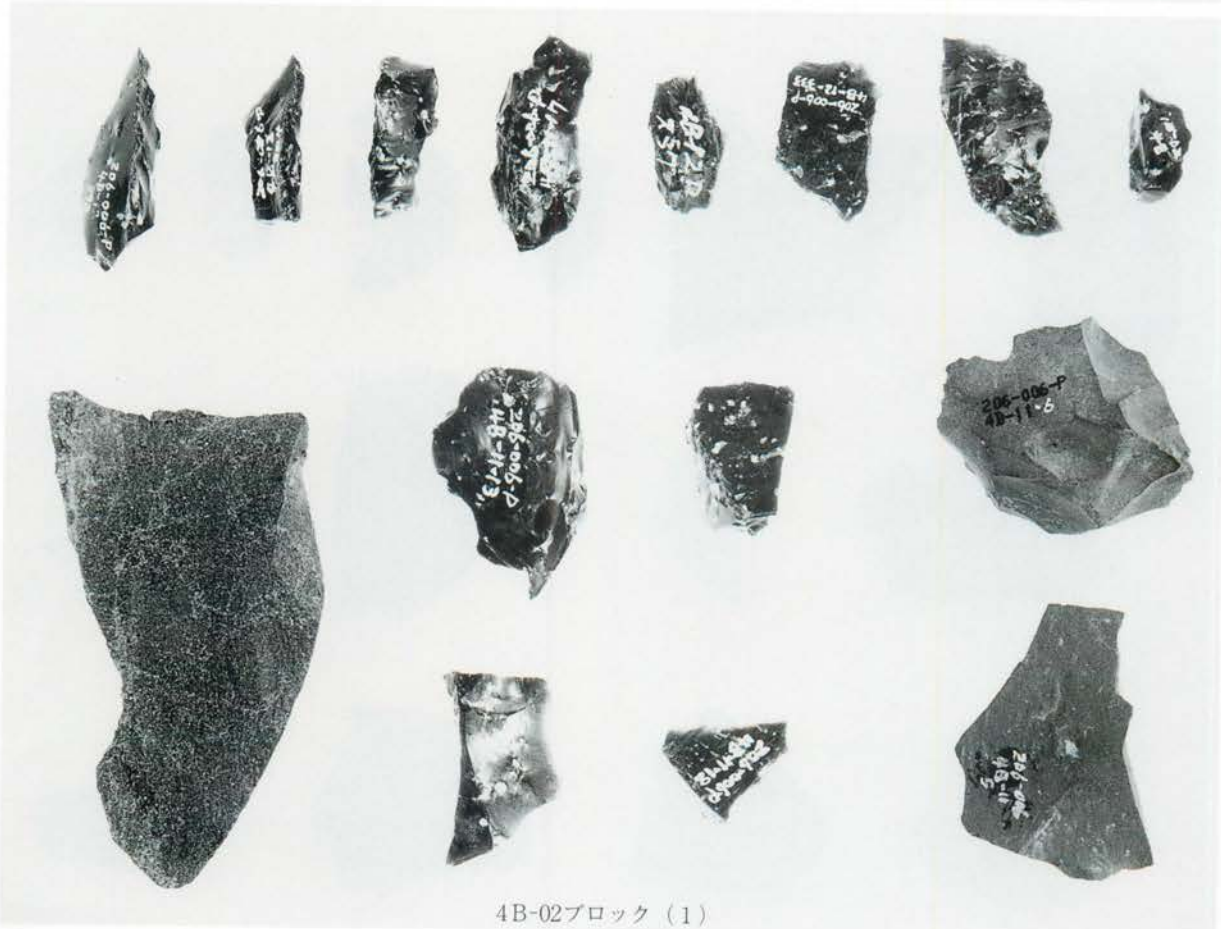
4B-22ブロック

4C-32ブロック

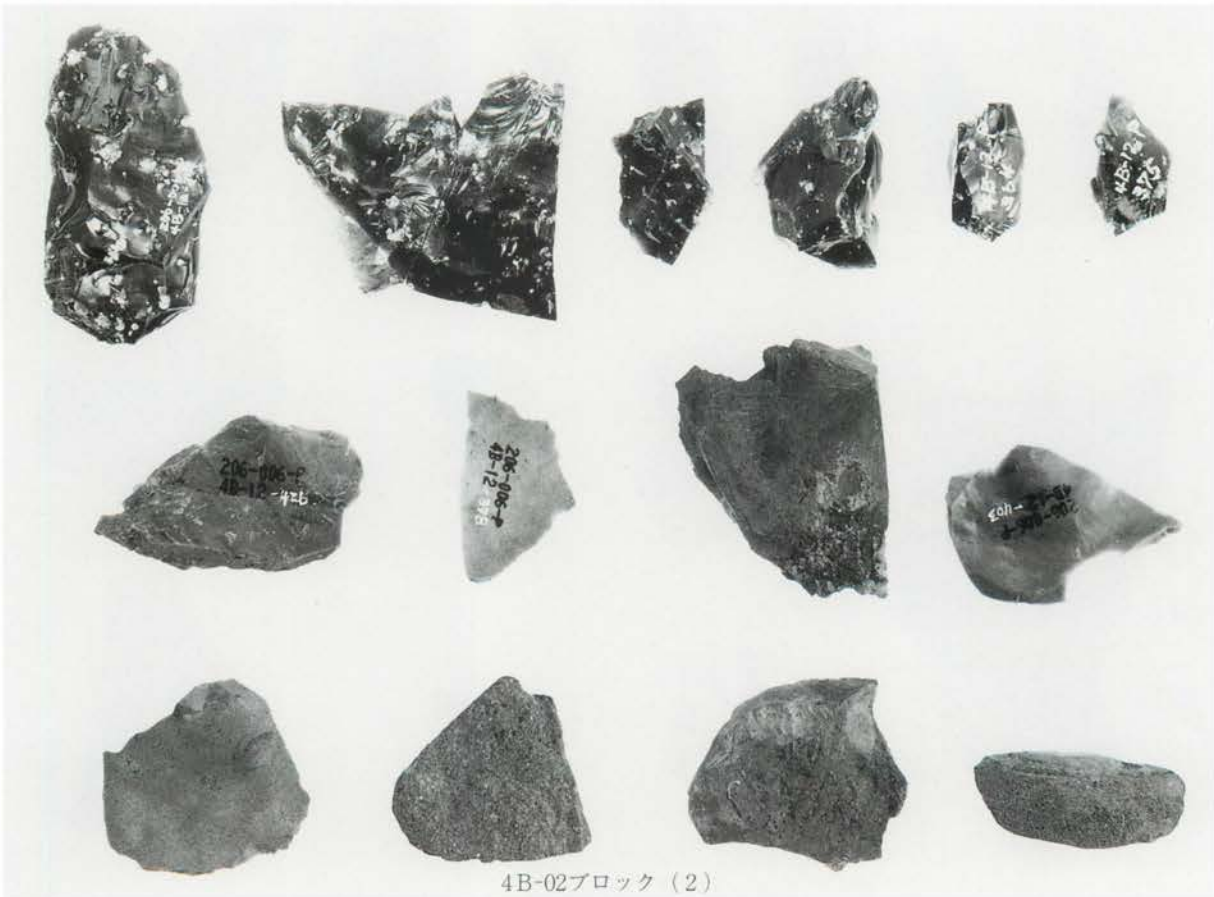
4C-30ブロック

旧石器時代石器（3）

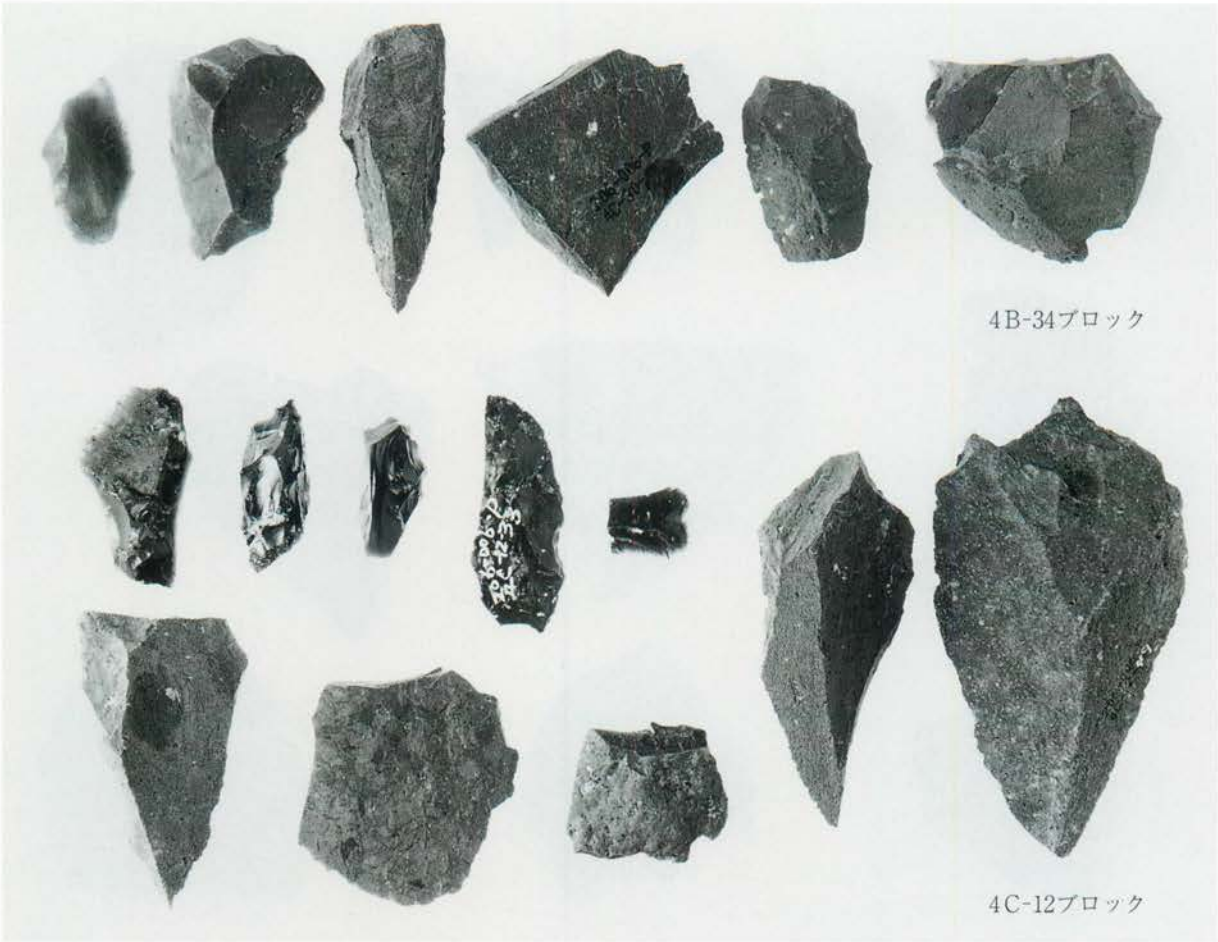


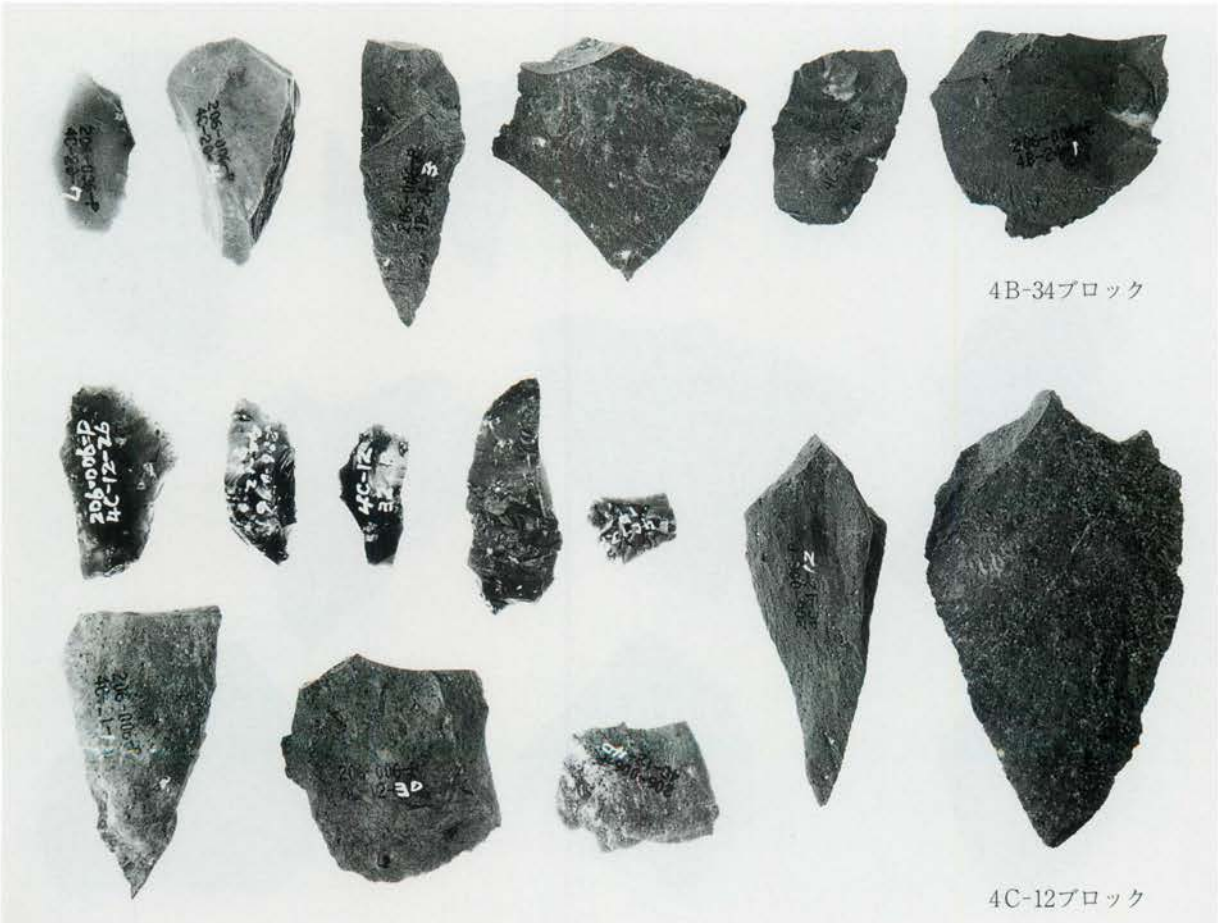


4B-02ブロック（1）
旧石器時代石器（4）



4B-02ブロック（2）
旧石器時代石器（5）

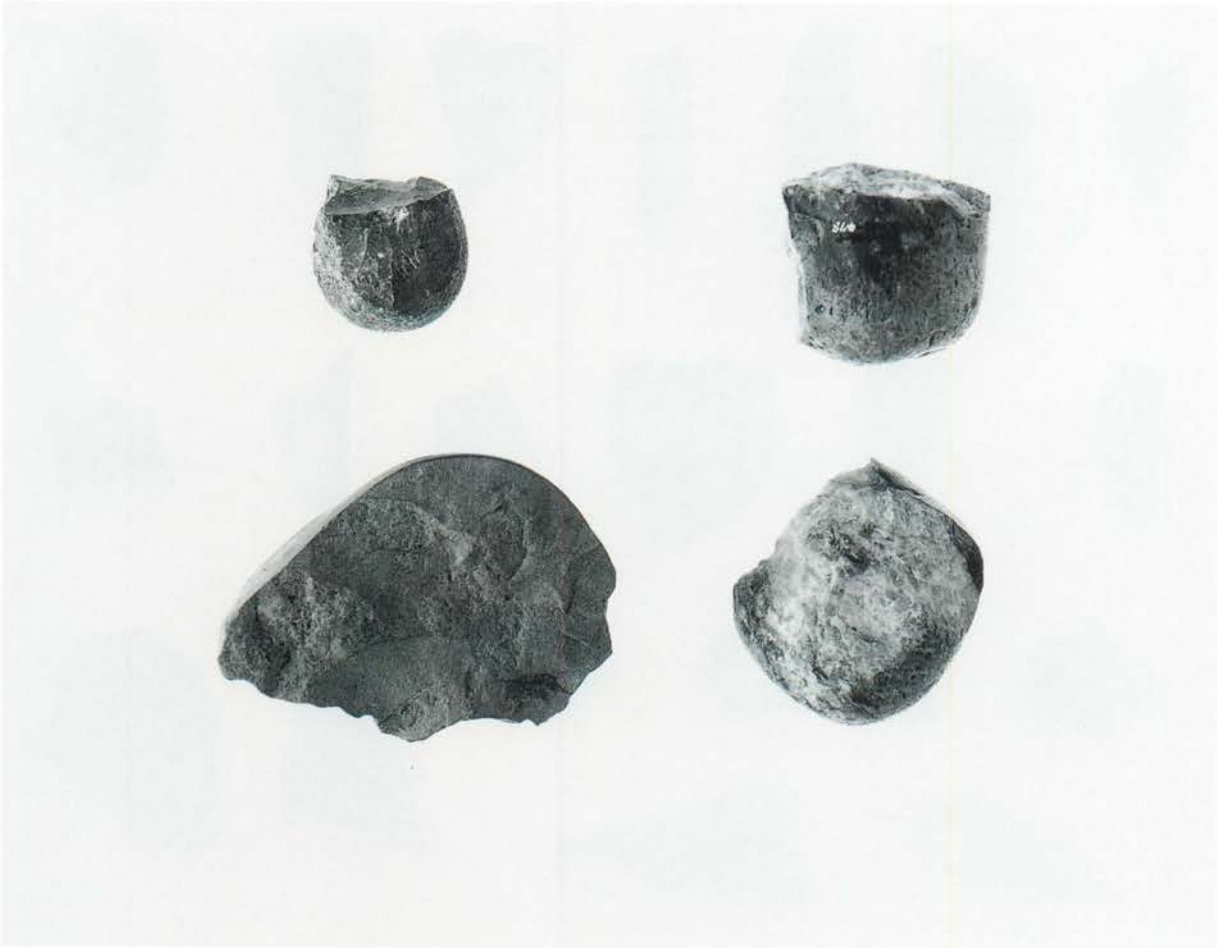




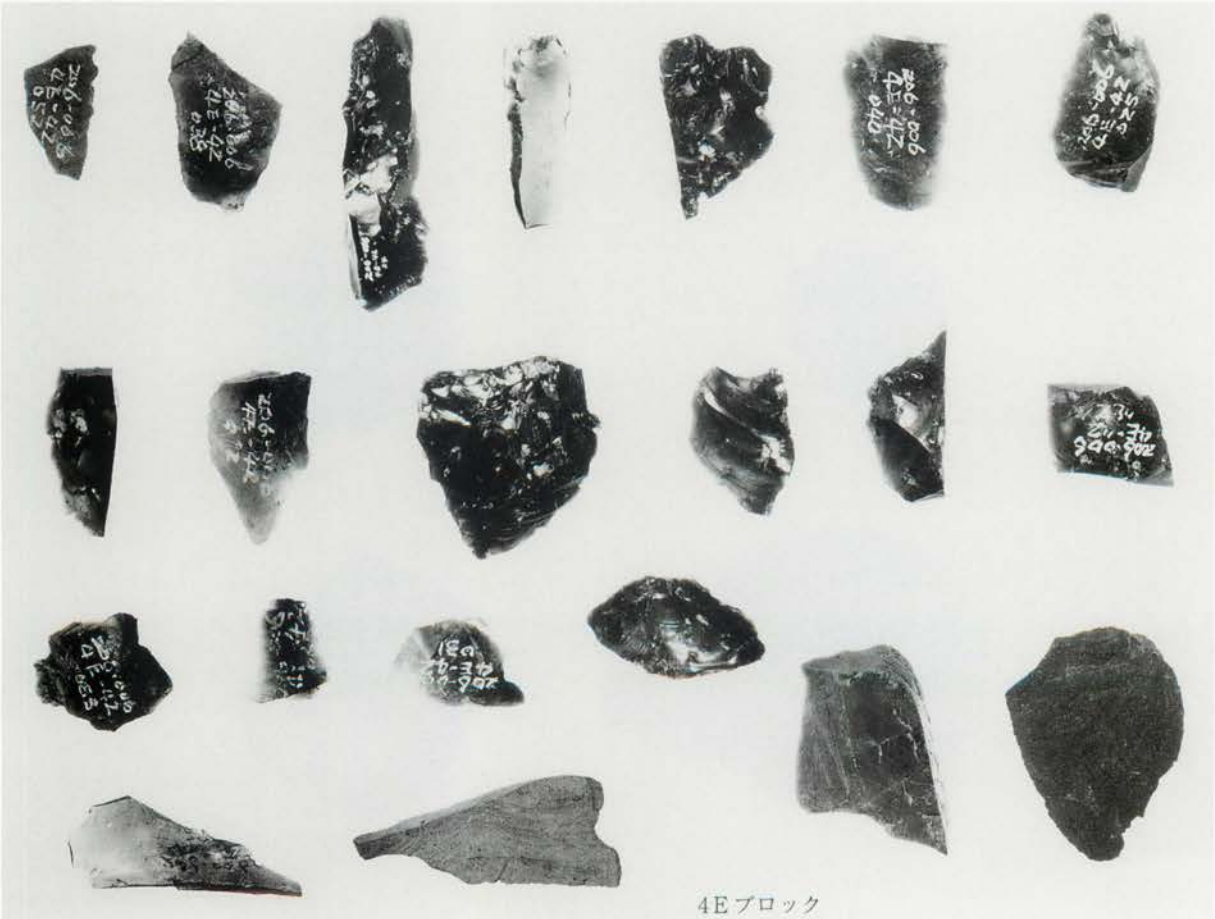
旧石器時代石器（6）

4C-42ブロック（1）

旧石器時代石器（7）

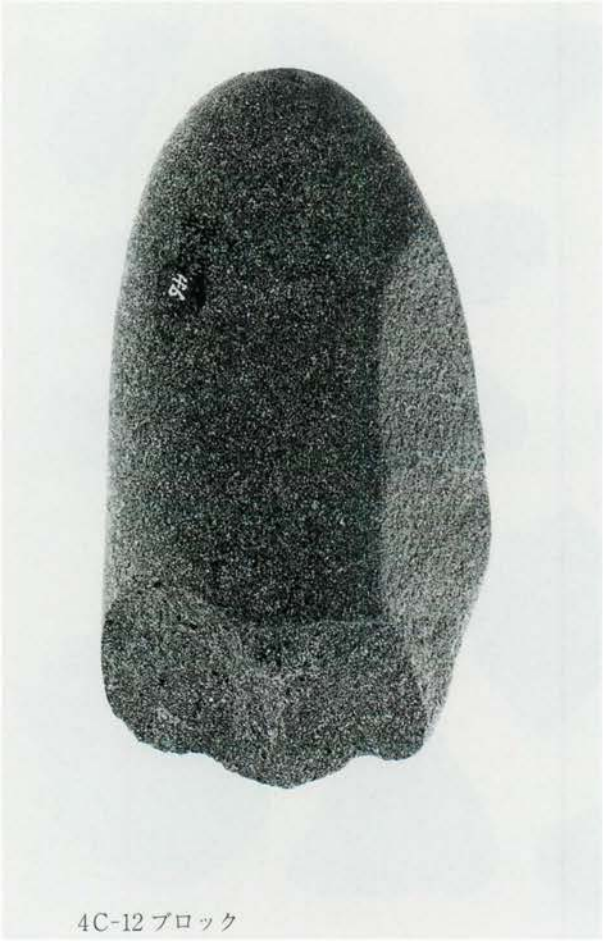


4C-42ブロック（2）
旧石器時代石器（8）



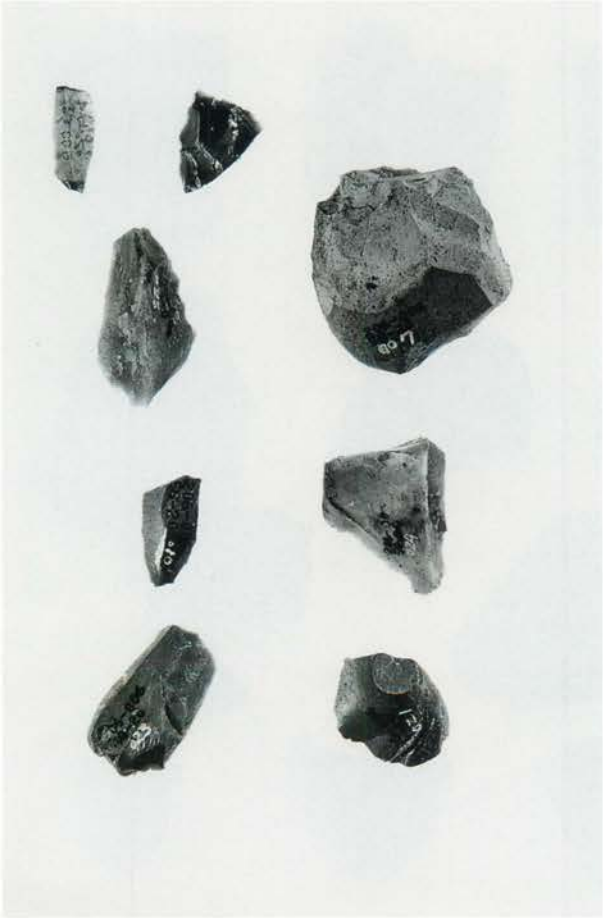
4Eブロック

旧石器時代石器（9）



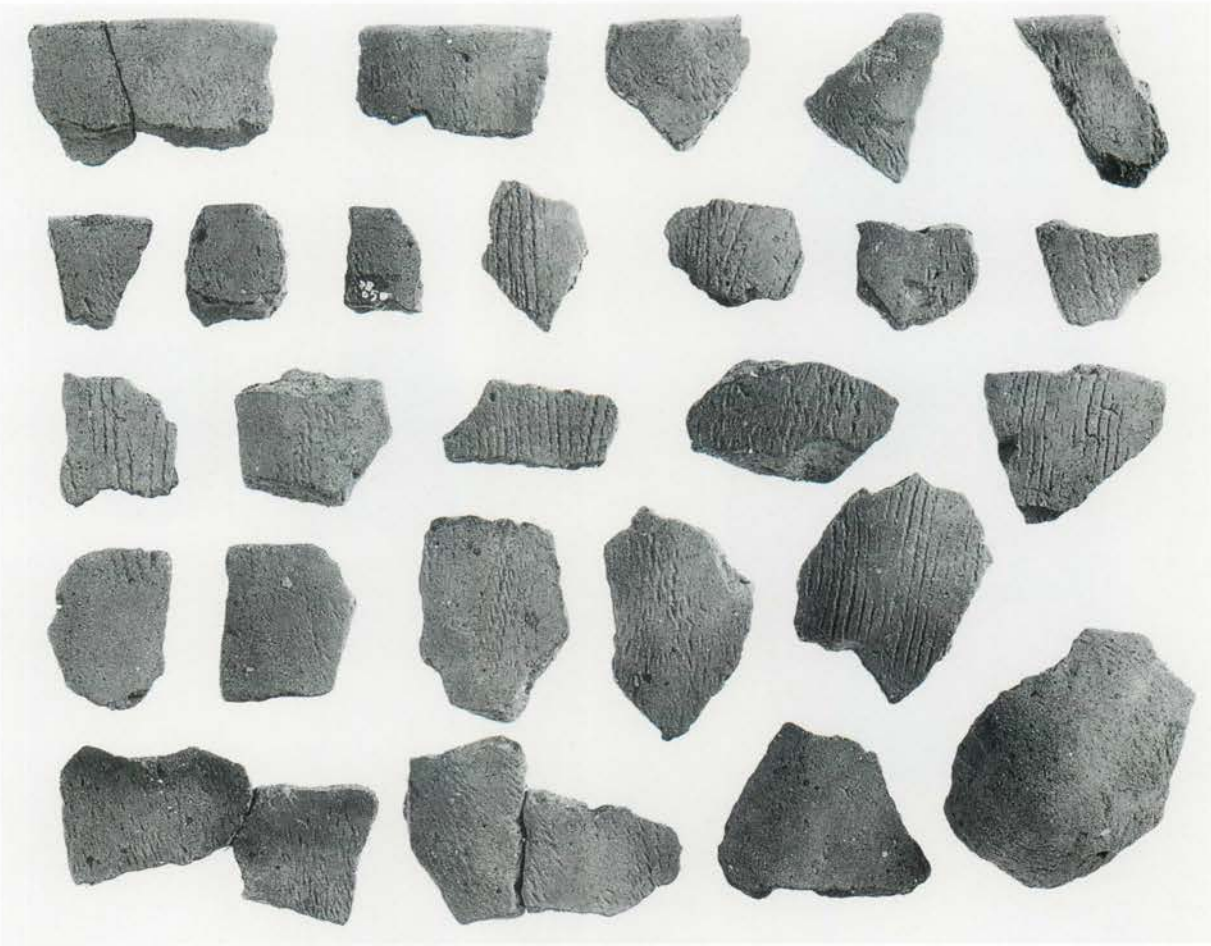
4C-12 ブロック

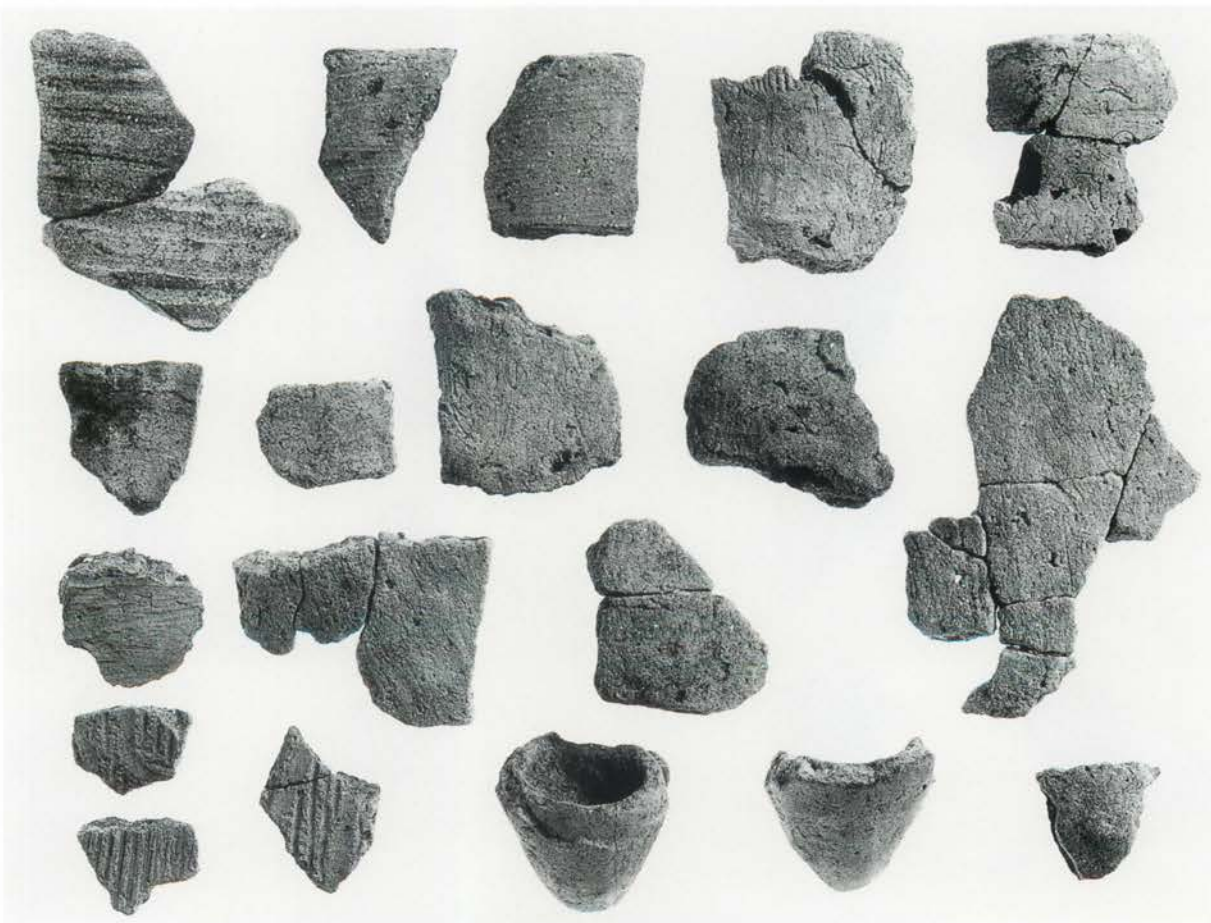
5C-01 ブロック



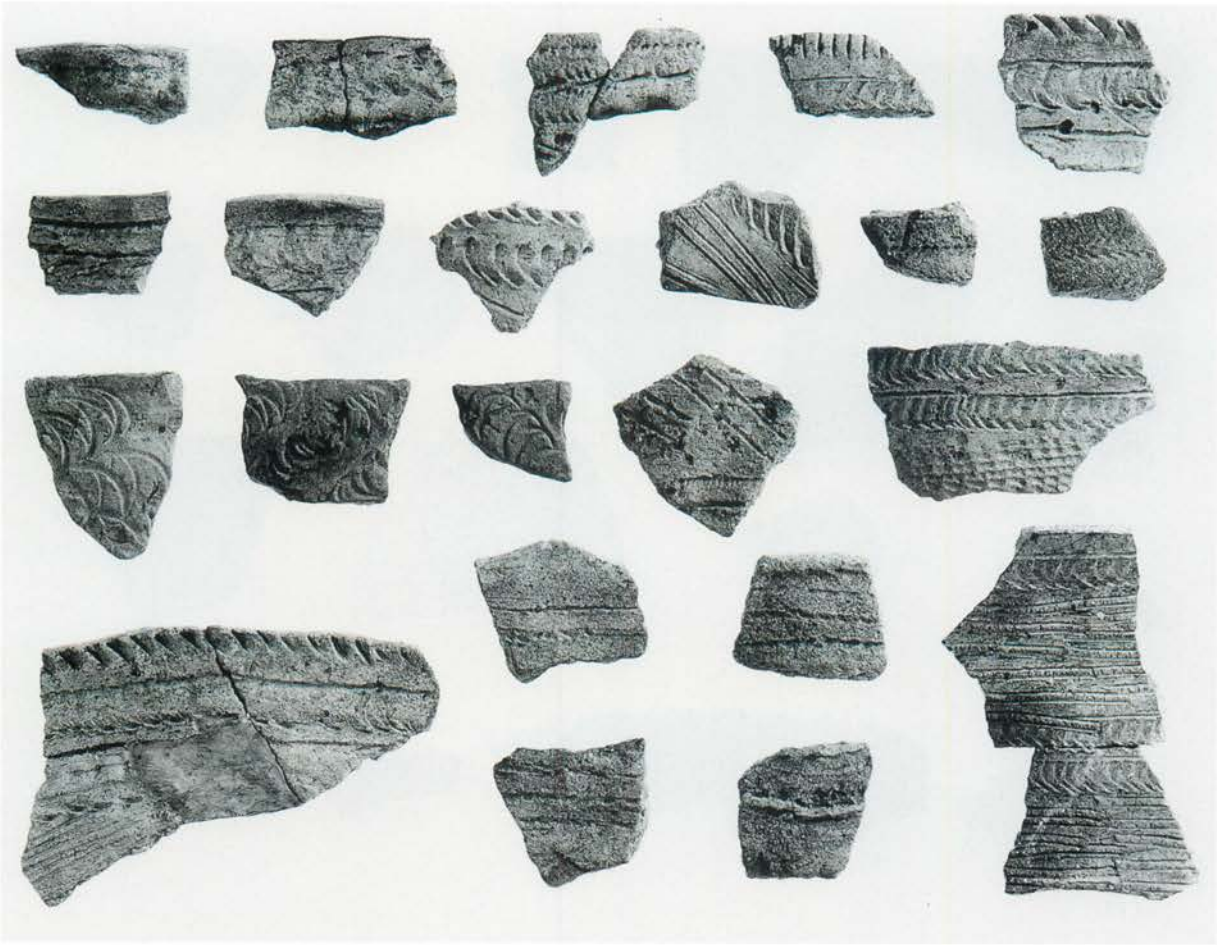
5G ブロック

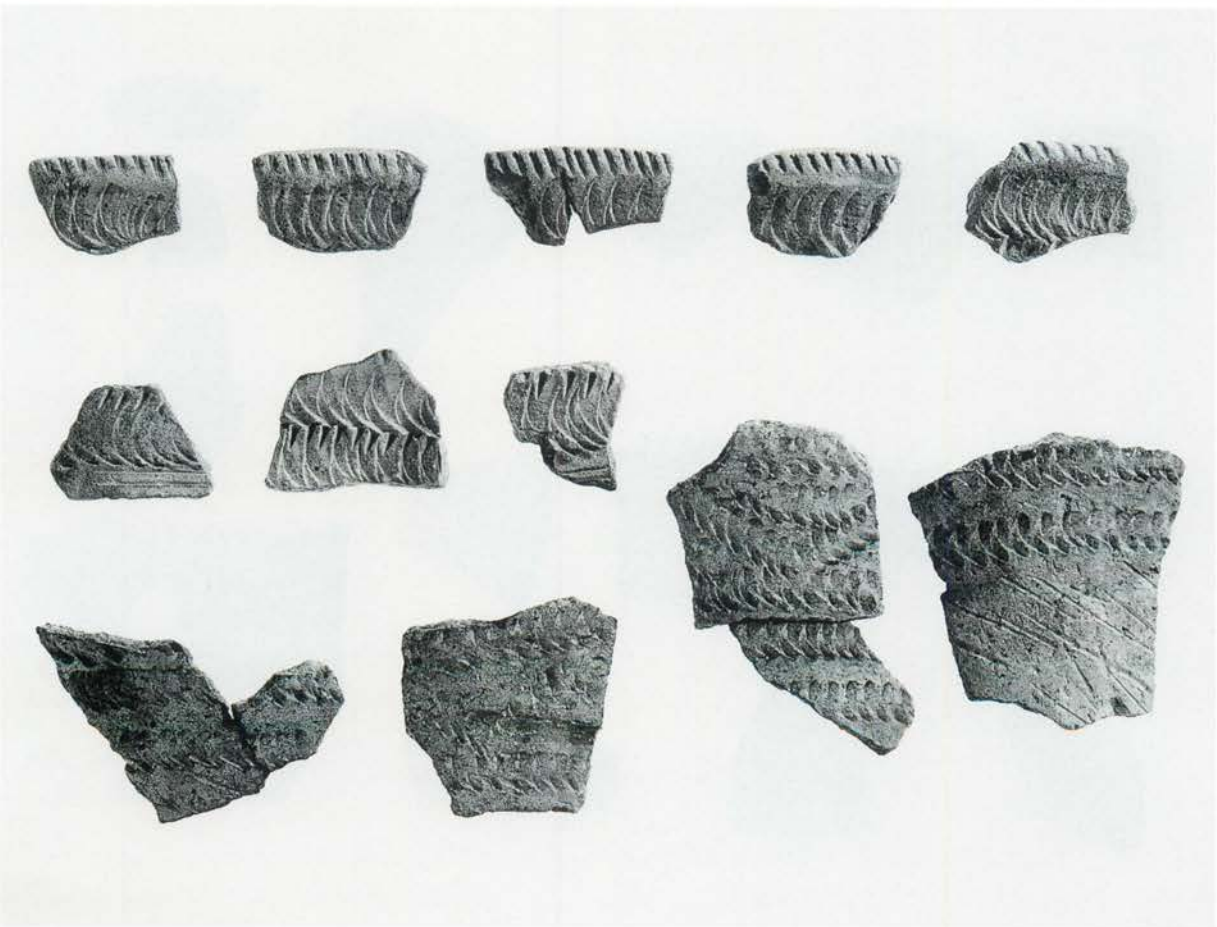
旧石器時代石器（10）



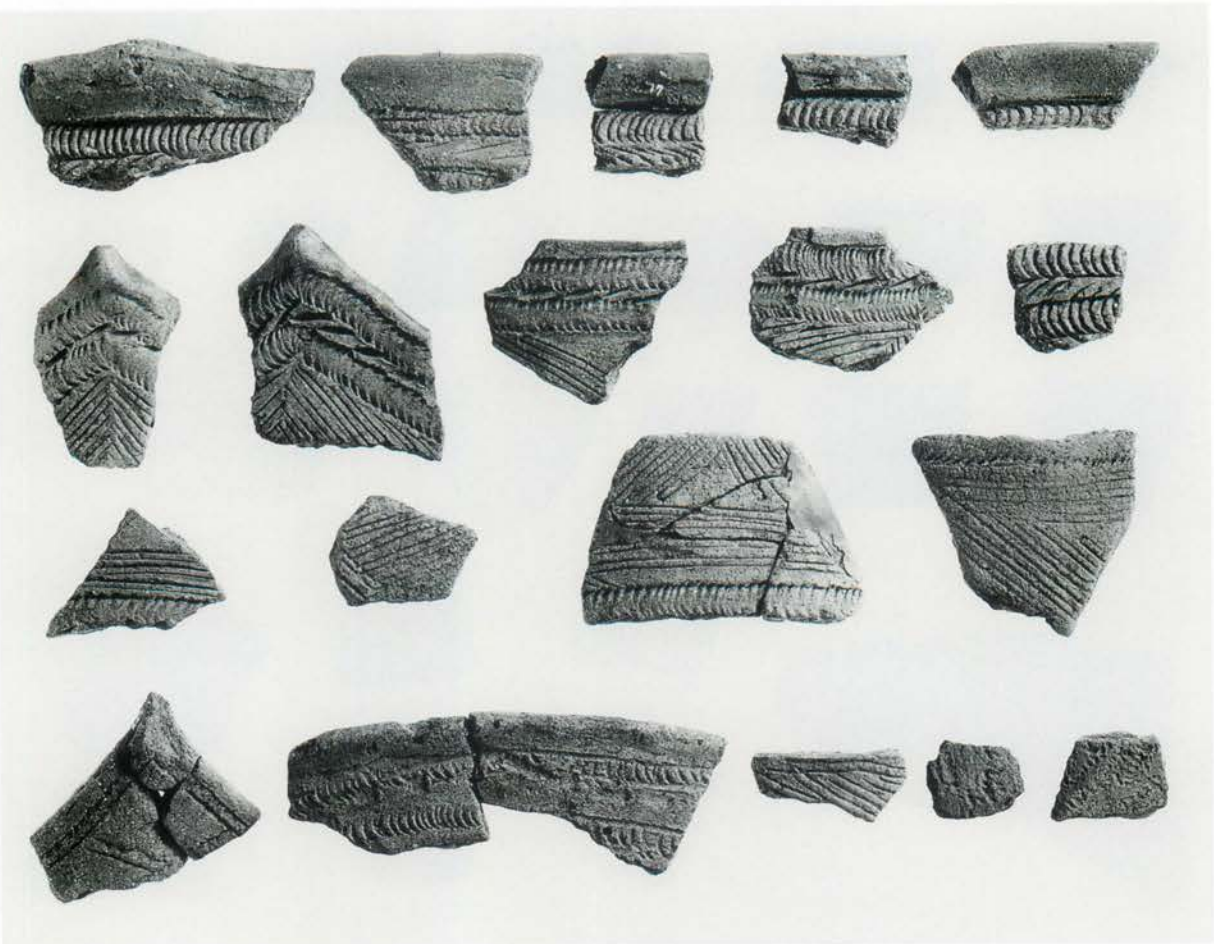


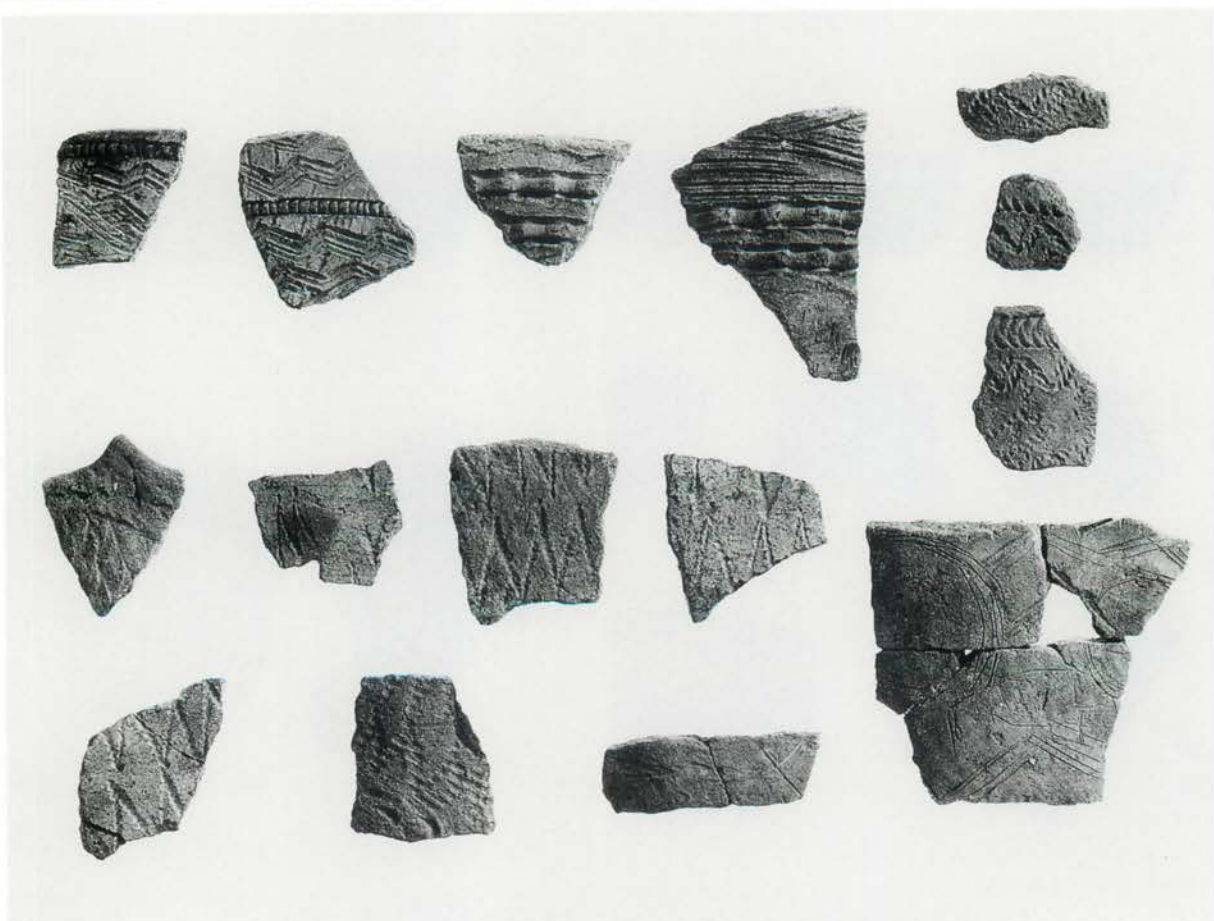
遺構外出土縄文土器（1）



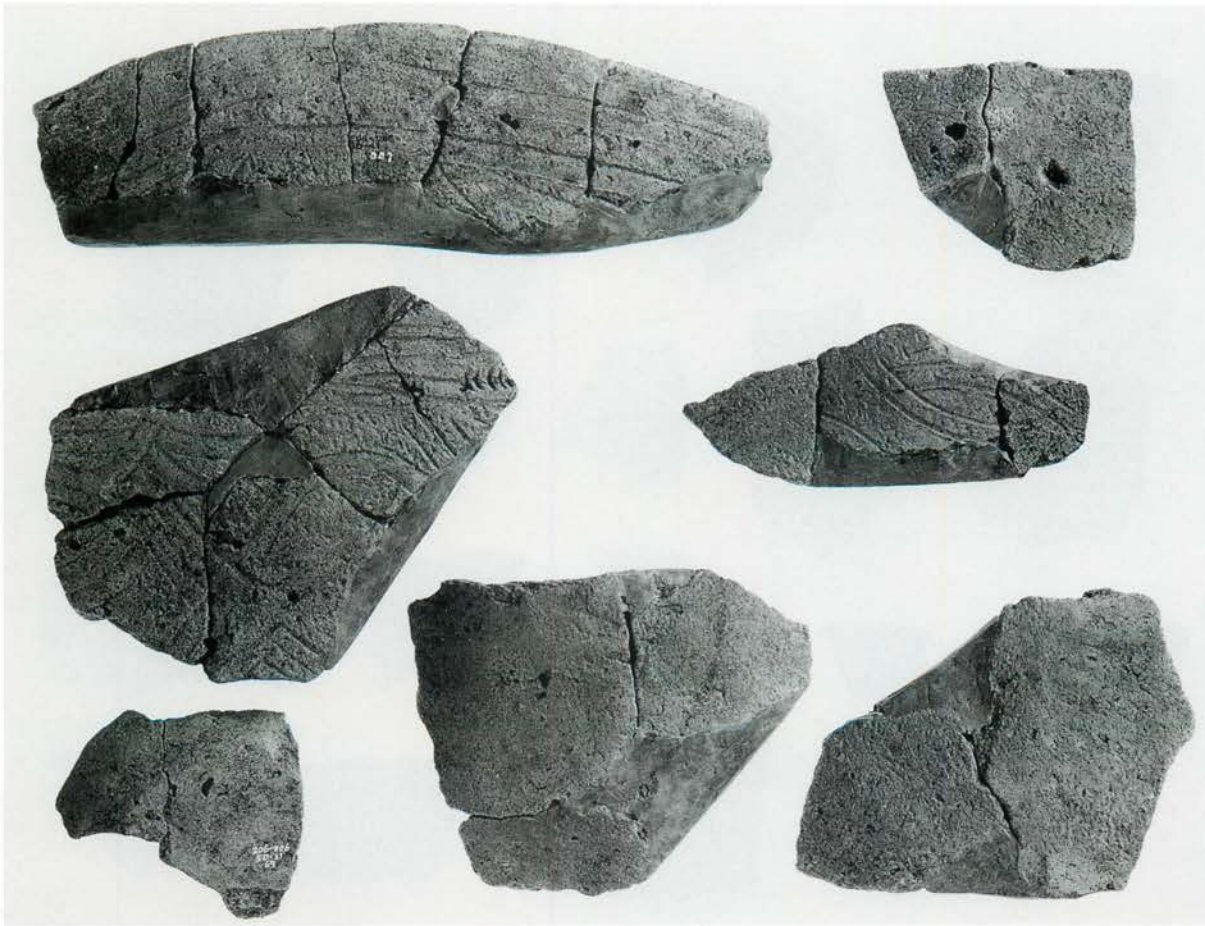


遺構外出土縄文土器（2）

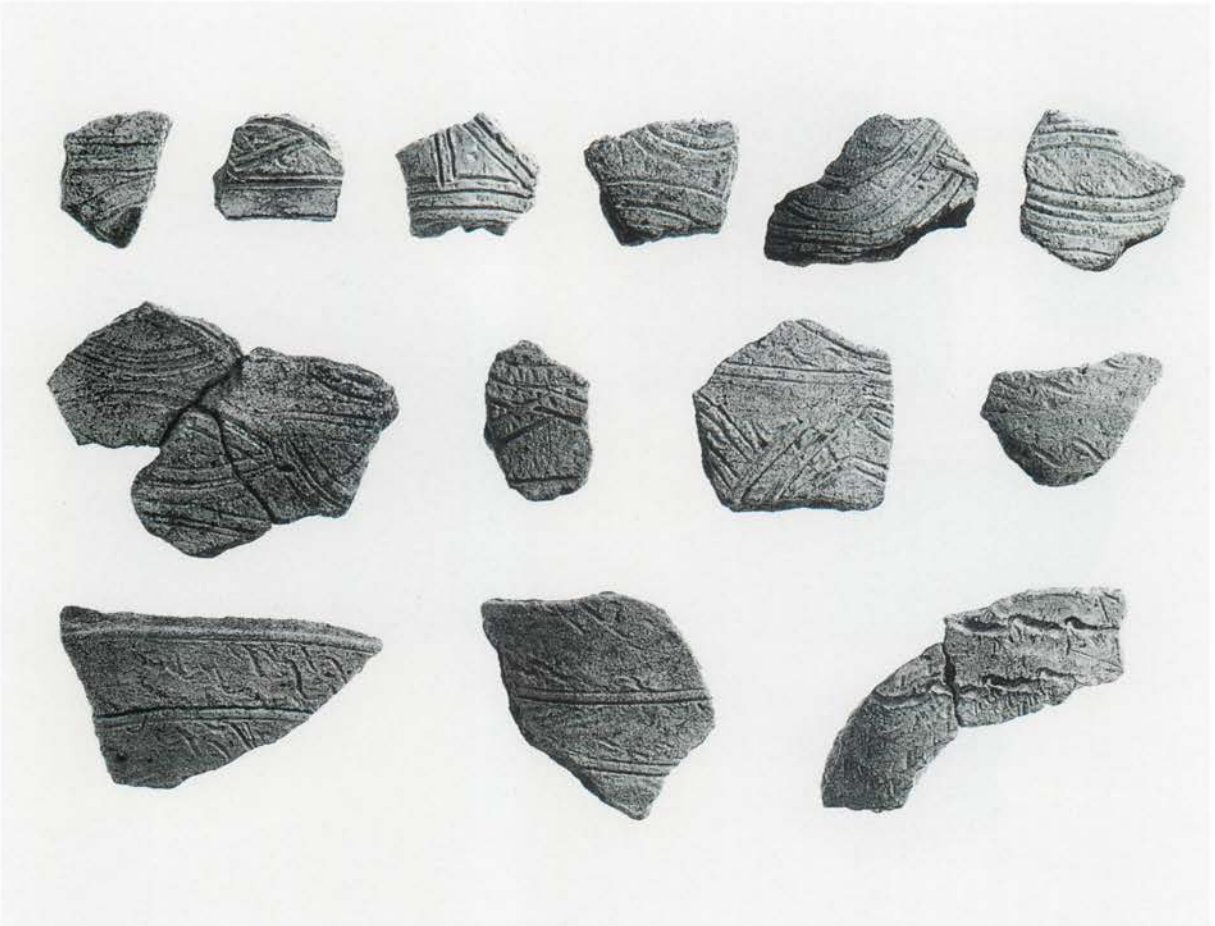


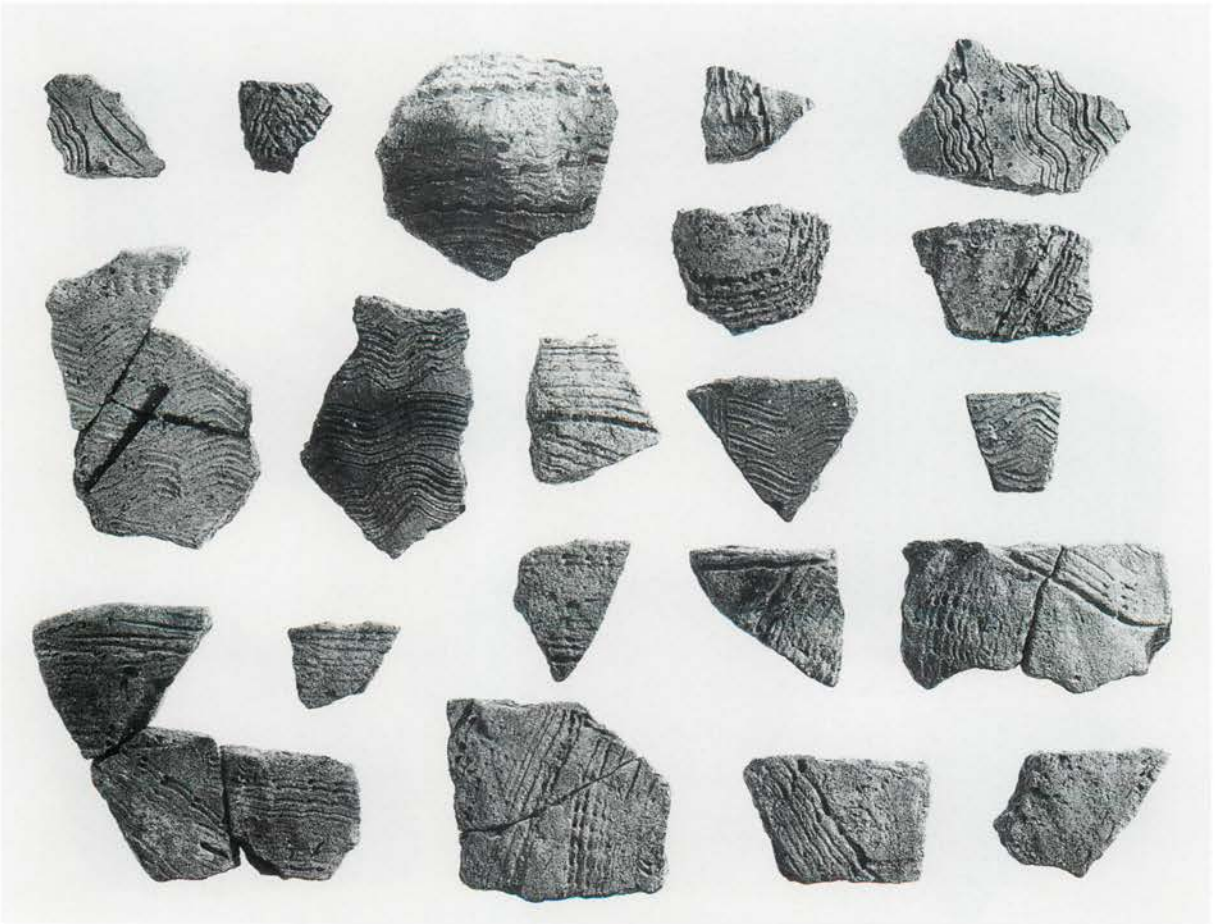


遺構外出土縄文土器（3）

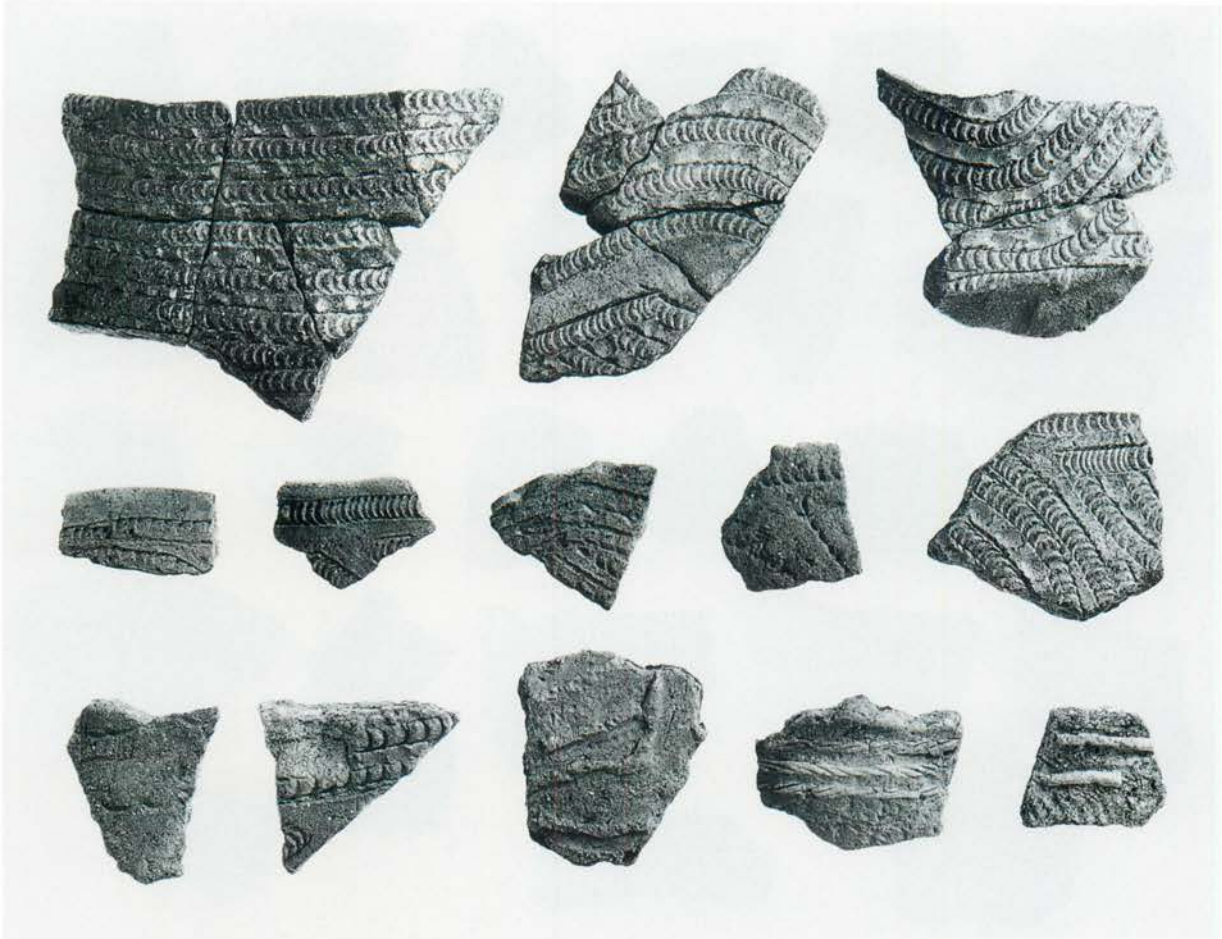


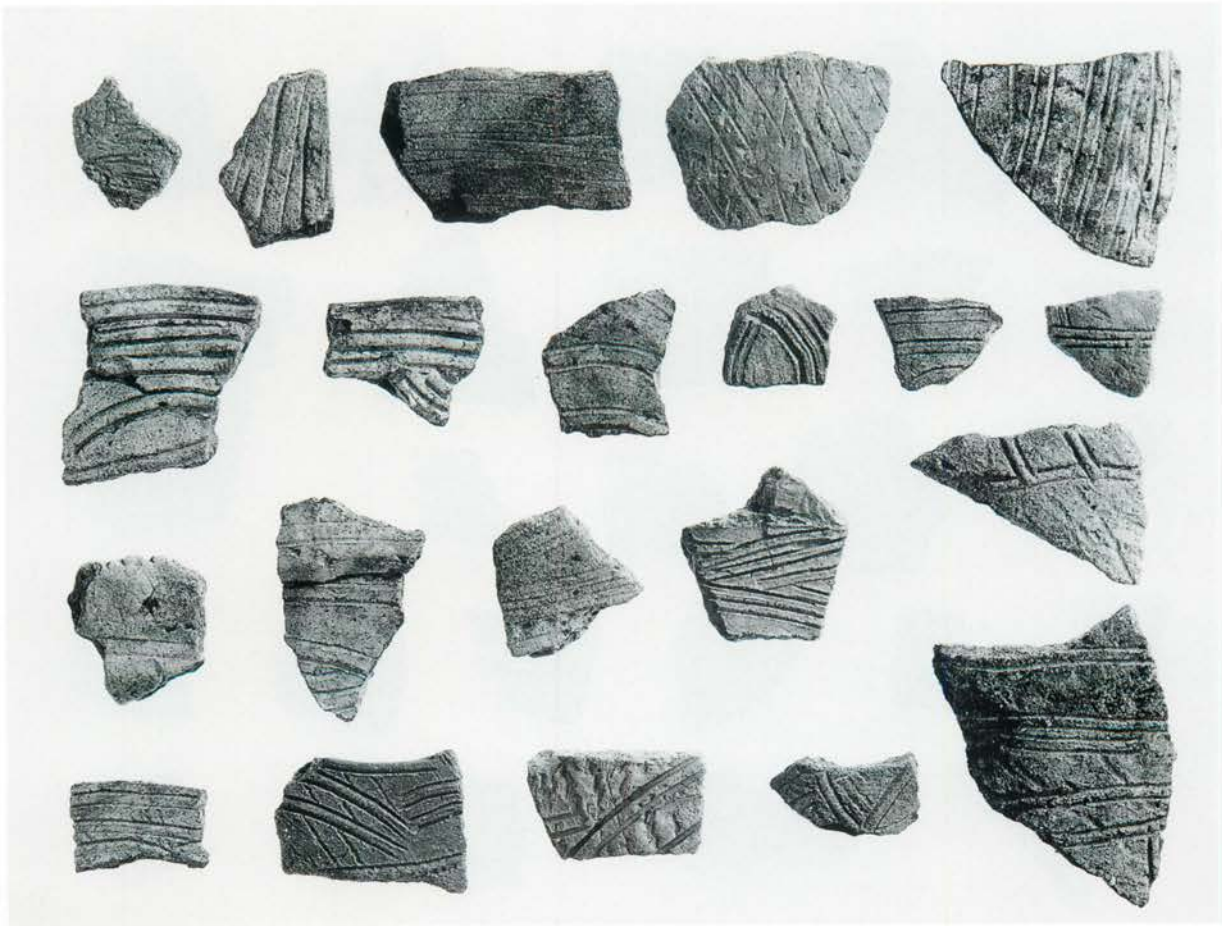
遺構外出土縄文土器（4）



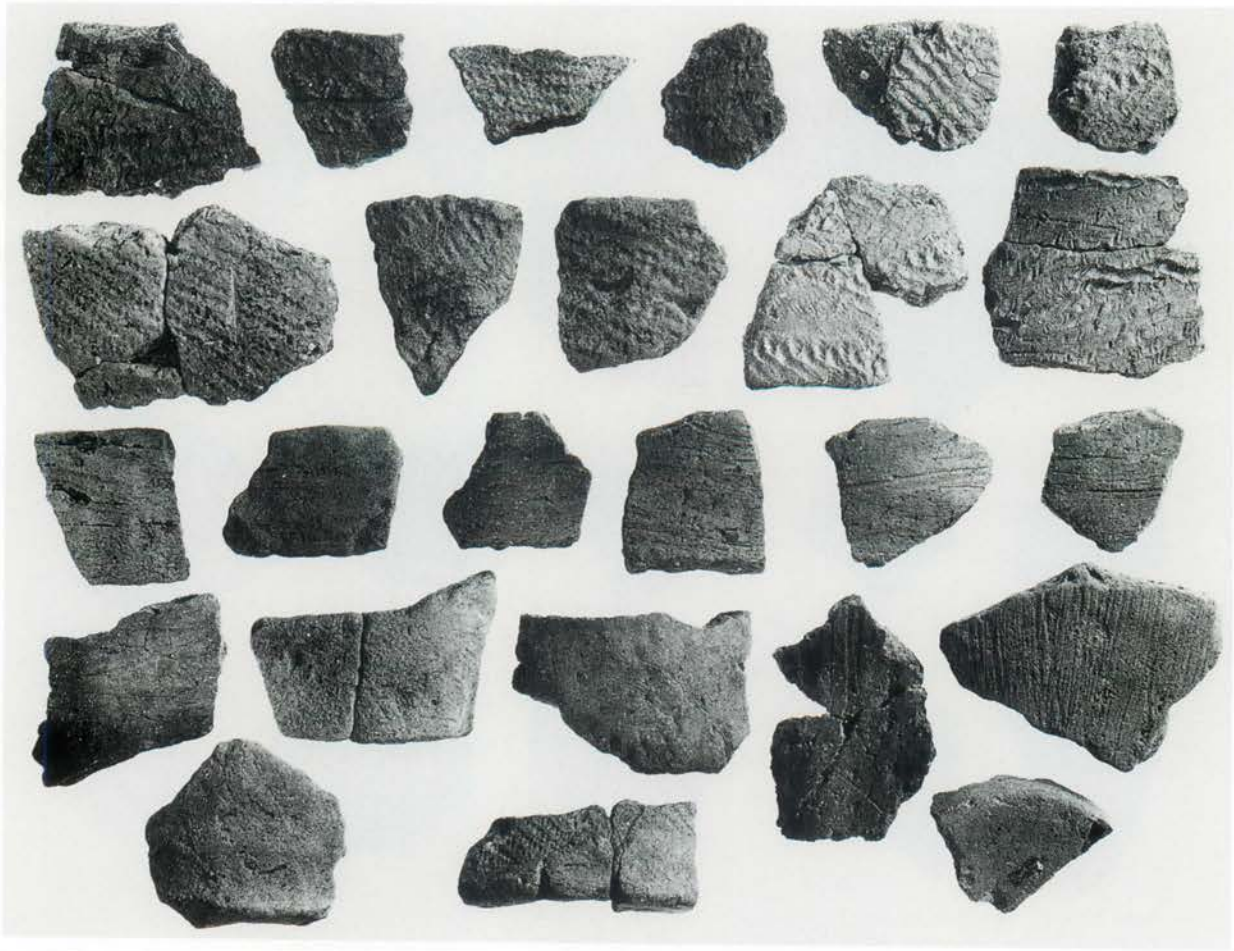


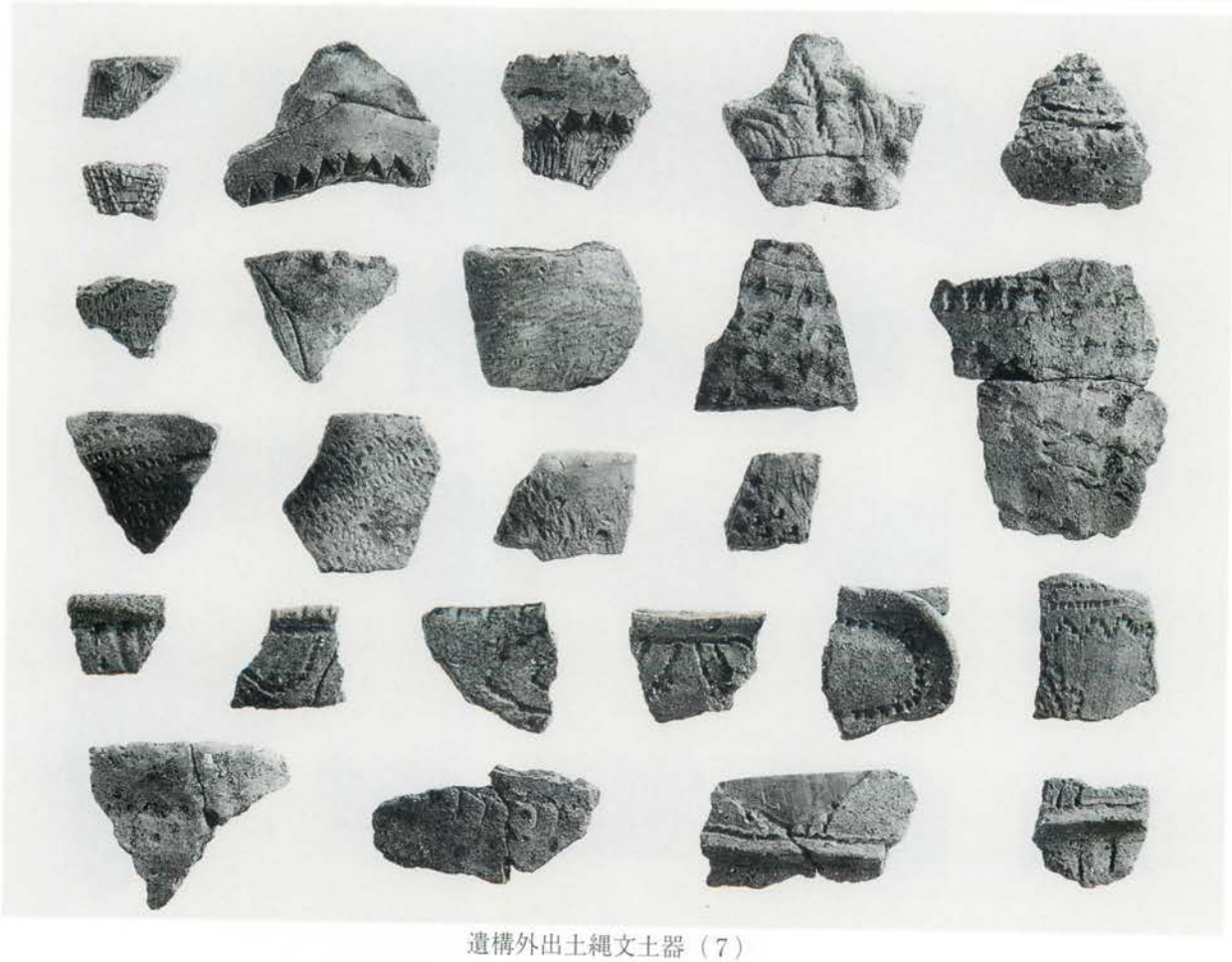
遺構外出土縄文土器（5）



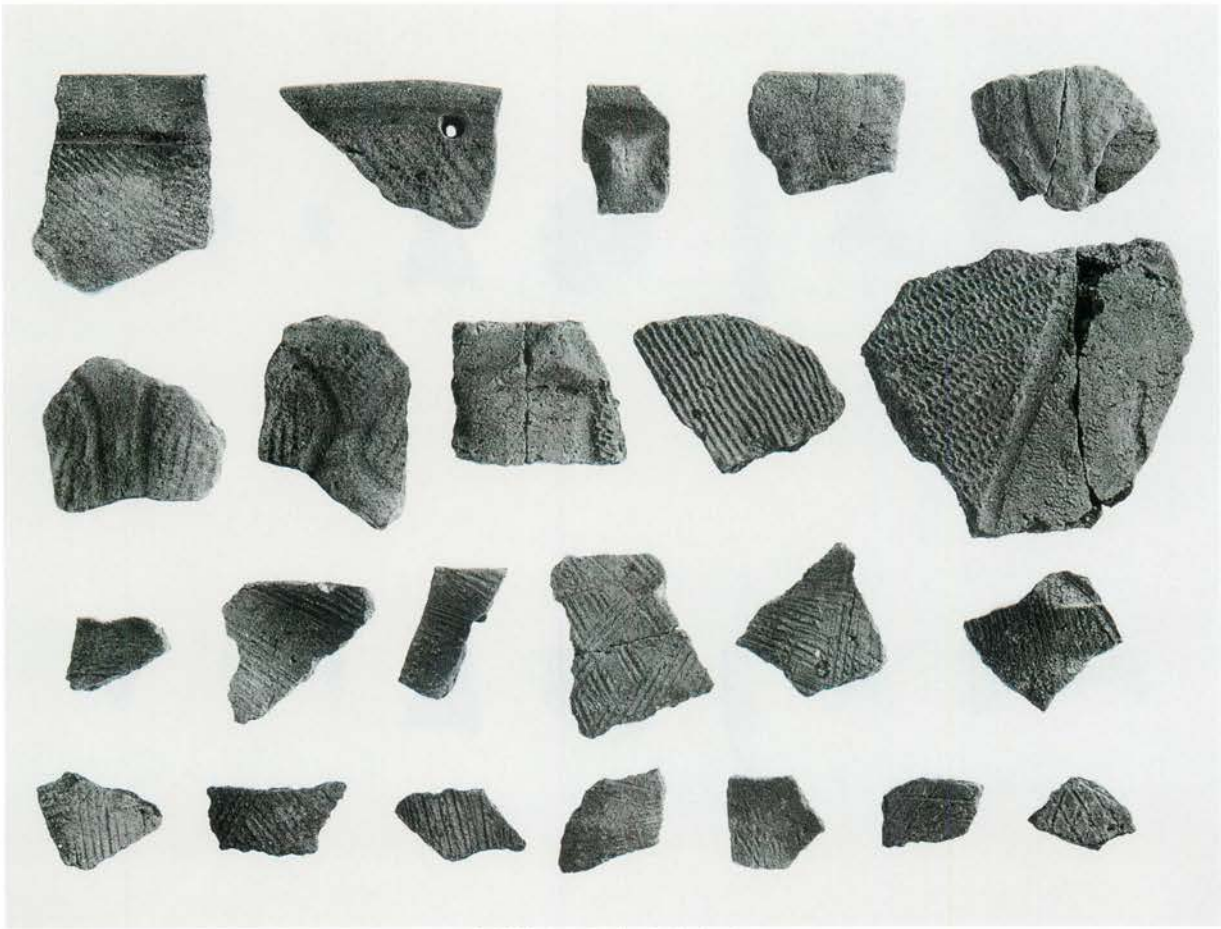


遺構外出土縄文土器（6）

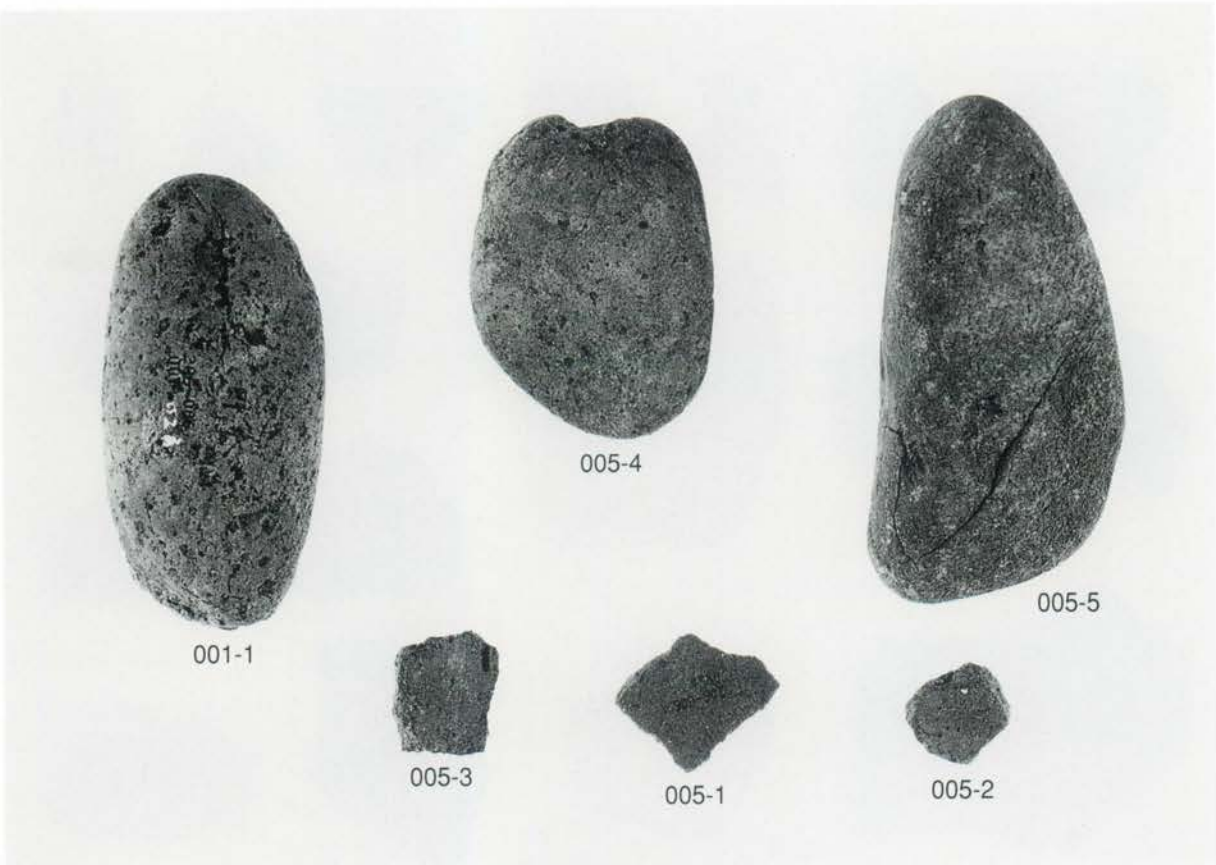




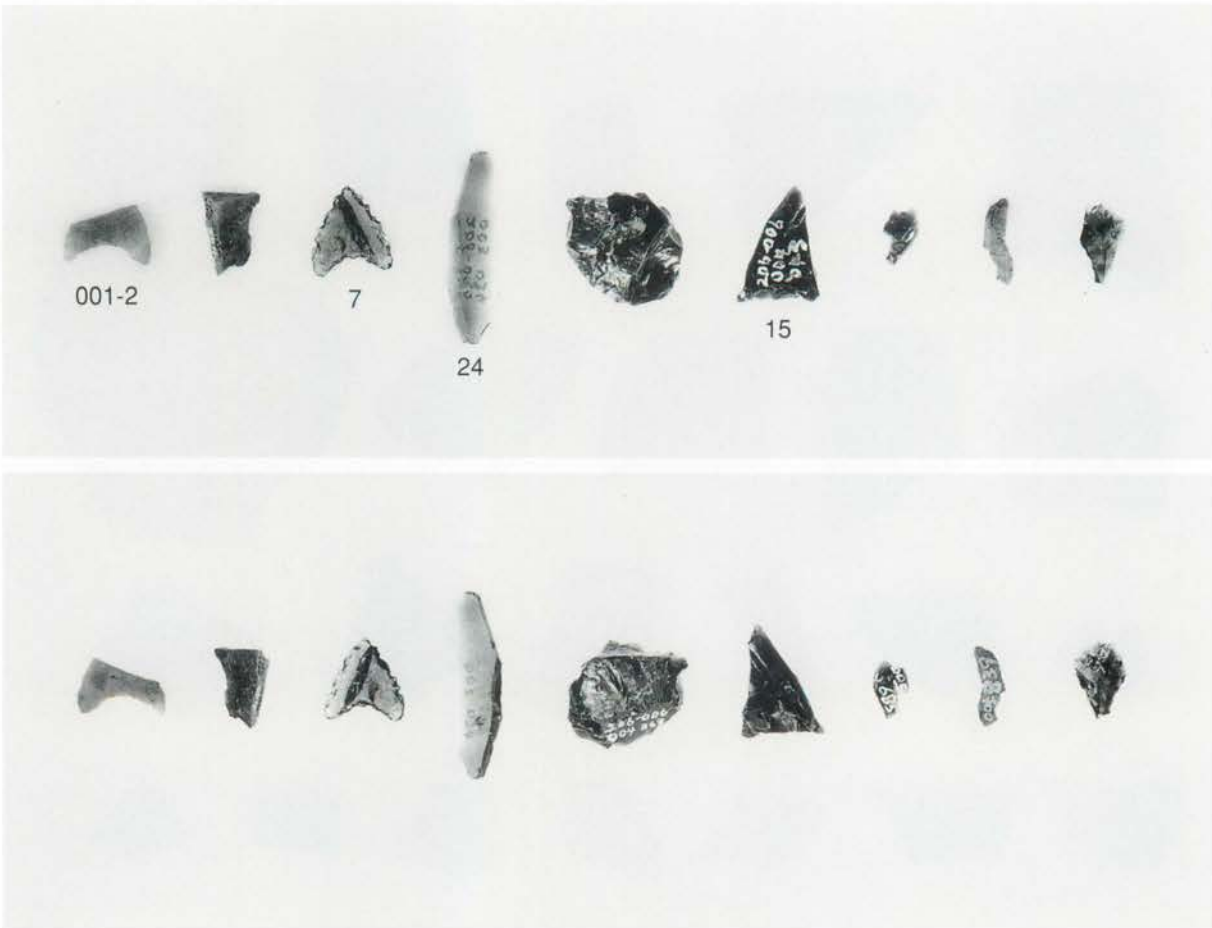
遺構外出土縄文土器（7）



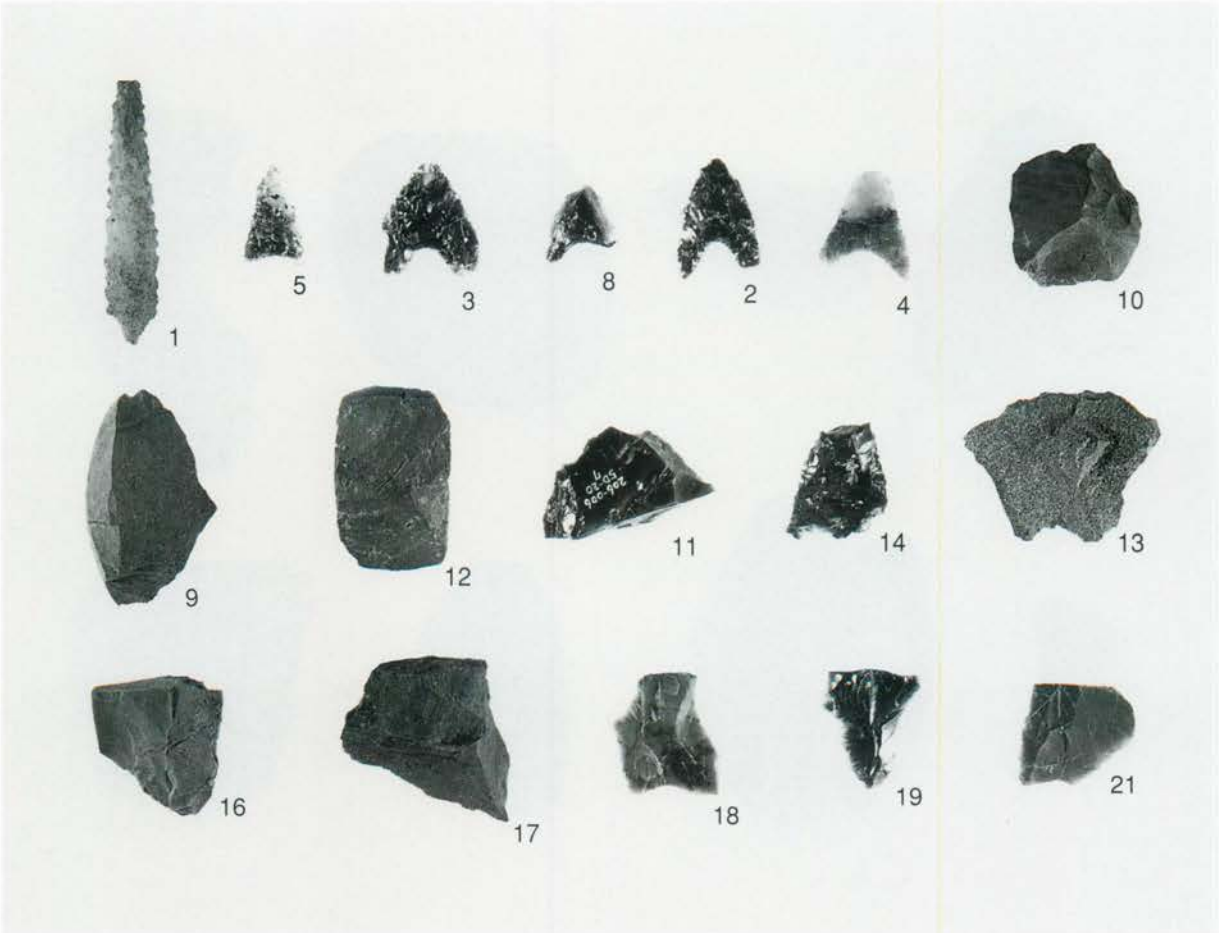
遺構外出土縄文土器（8）



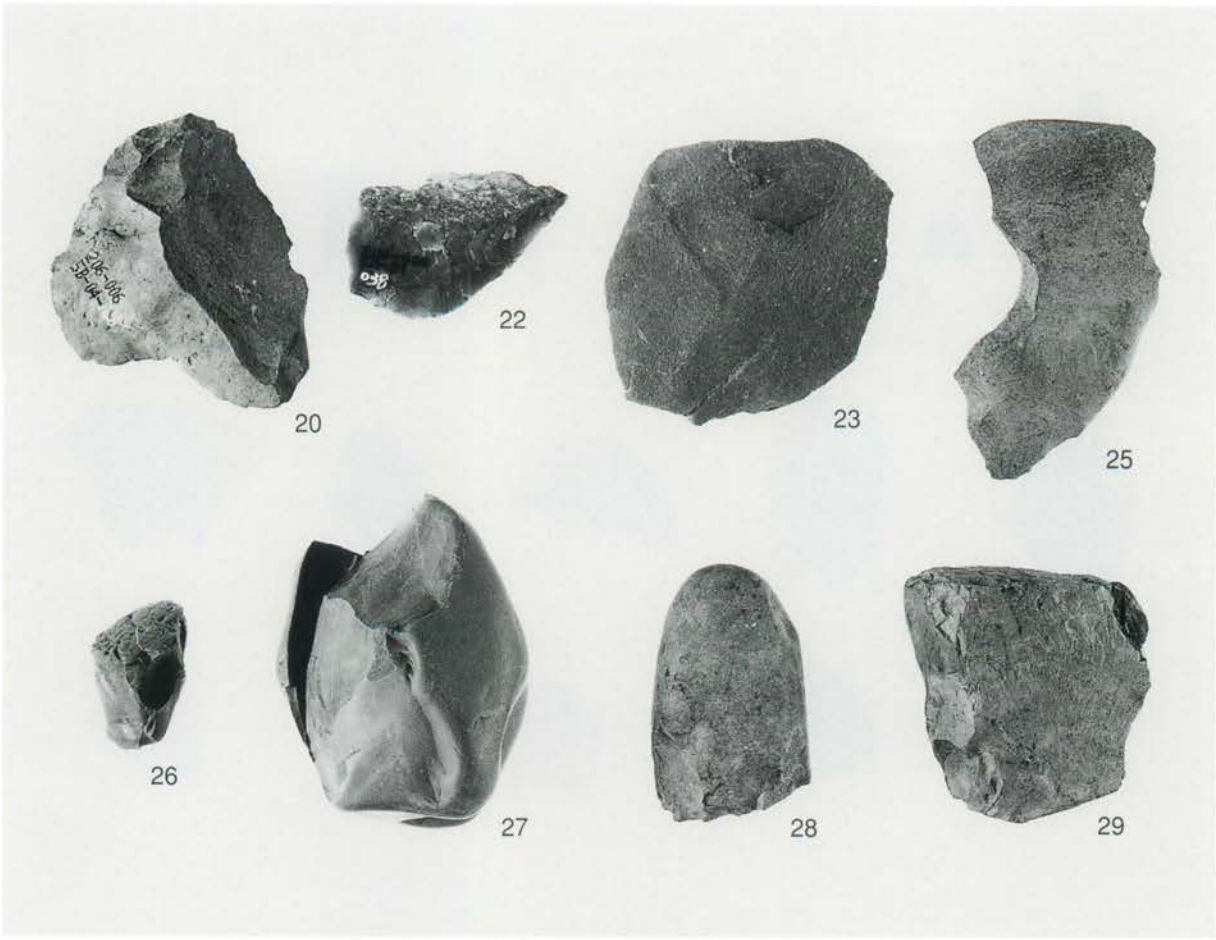
縄文時代遺構内出土遺物



遺構外出土縄文時代石器（1）※上段：表面，下段：裏面

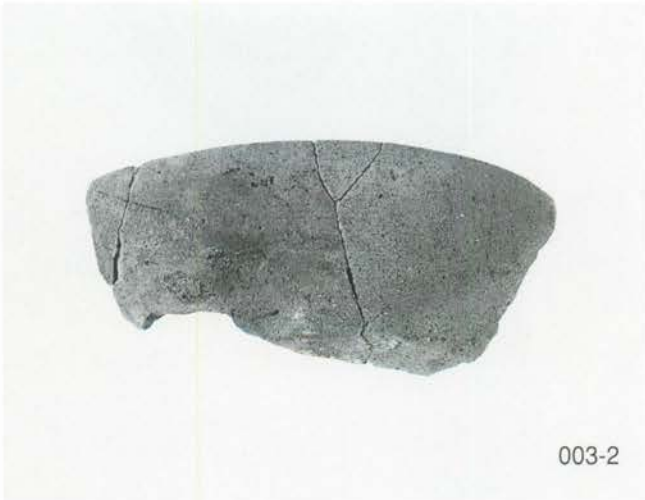


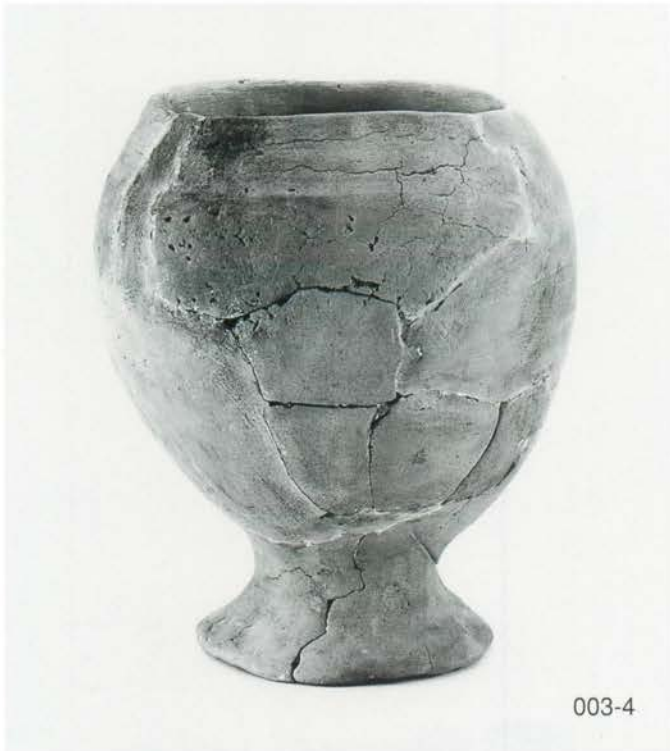
遺構外出土縄文時代石器（2）※上段：表面，下段：裏面



遺構外出土縄文時代石器（3）

003-1


003-2

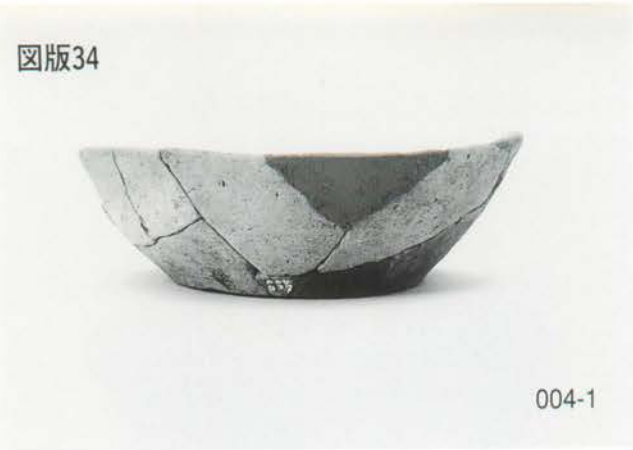

003-4

003-3

003-7

003-8

奈良・平安時代土器（1）


004-1

004-2

004-3

004-4

004-5

004-5

004-6

004-7

010-1

010-3

011-1

011-2

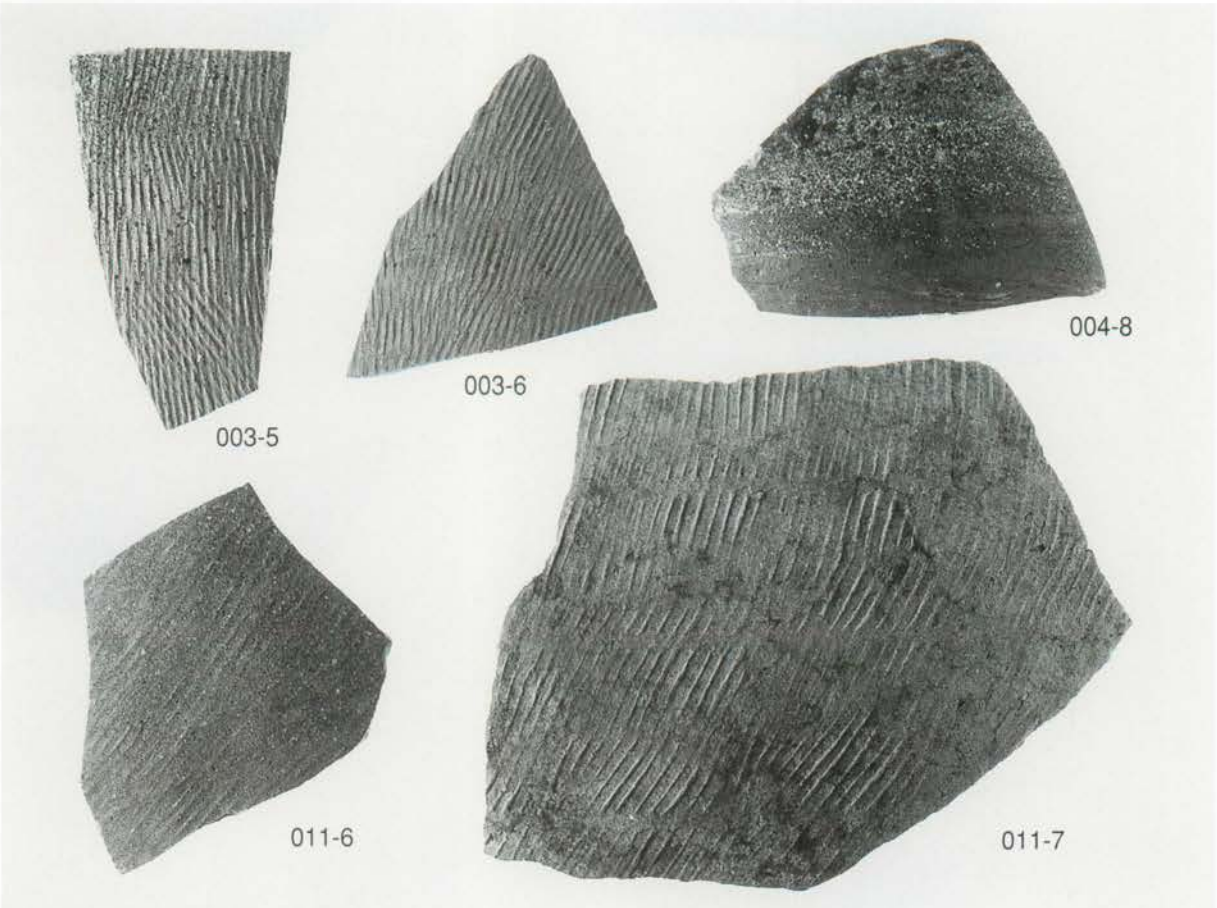
011-3

011-5

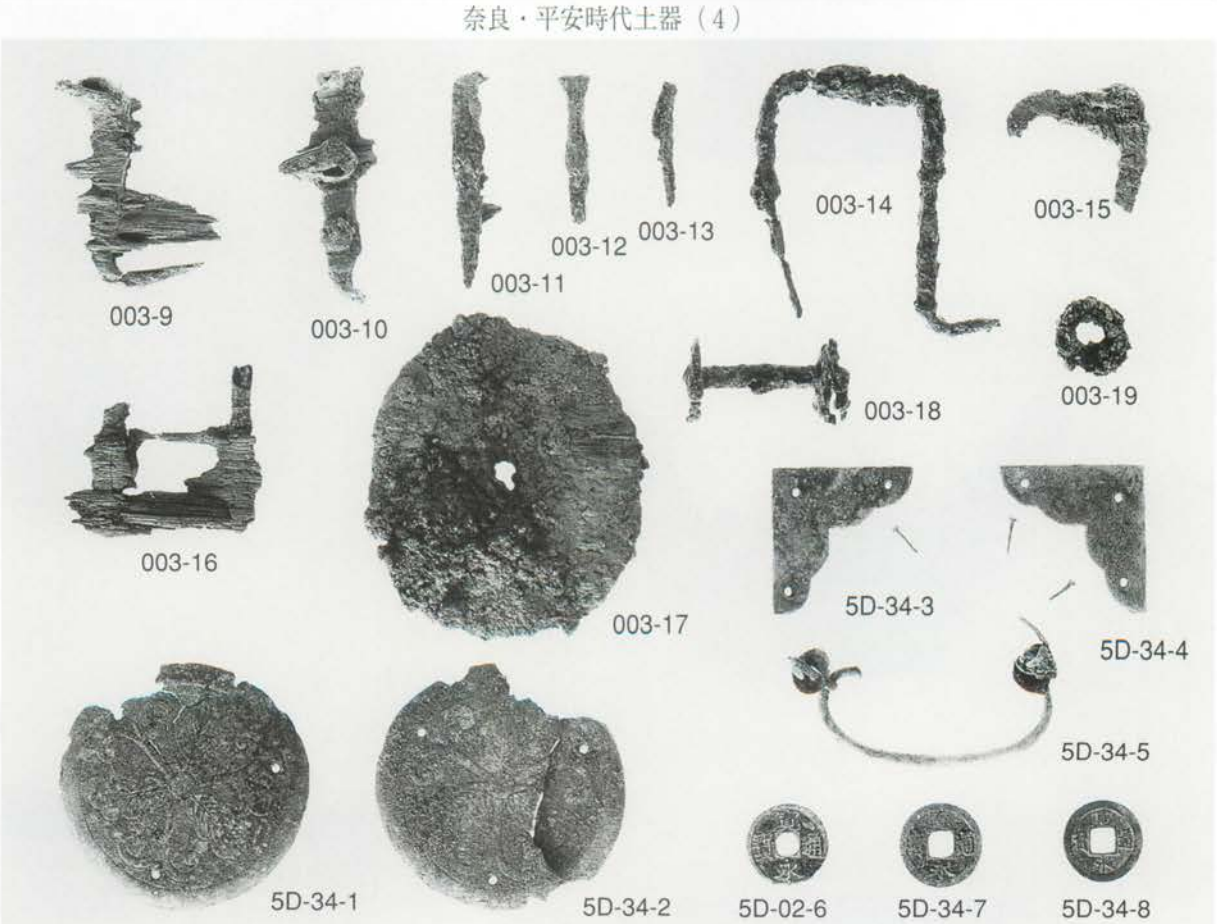
011-4

3G-20-1

3G-20-2



奈良・平安時代土器（4）

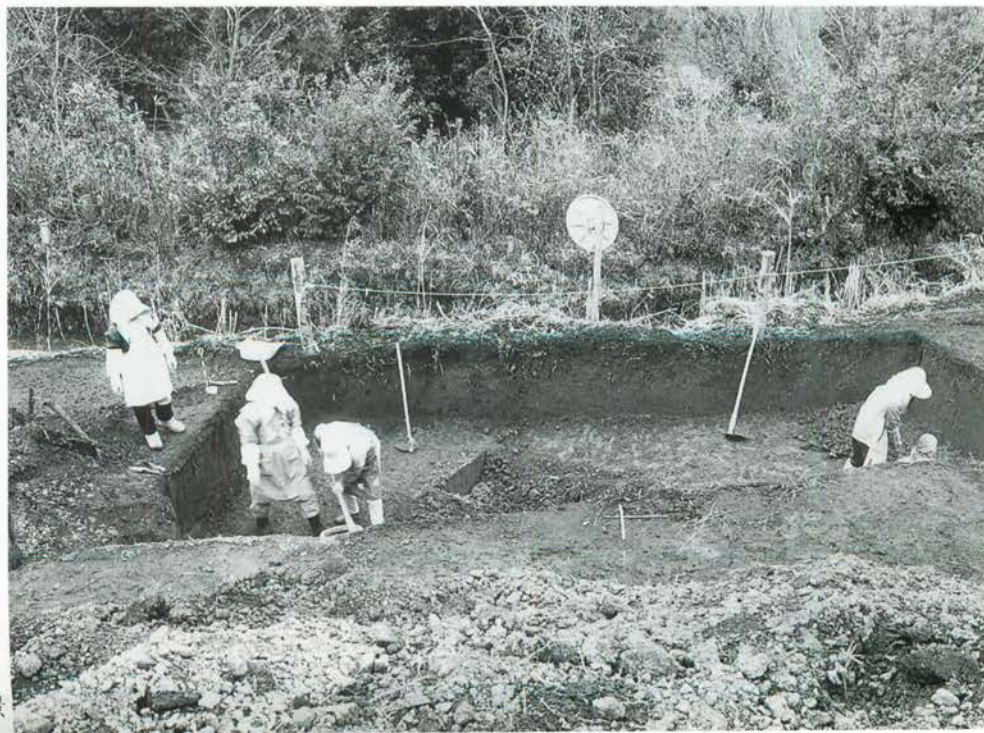


中・近世金属製品

堀ノ内台遺跡
旧石器時代本調査区

8B-73　北側壁　旧石器時代セクション

6C-82他　旧石器時代本調査　（南から）



旧石器時代本調査調査風景

003（北西から）

004（南西から）

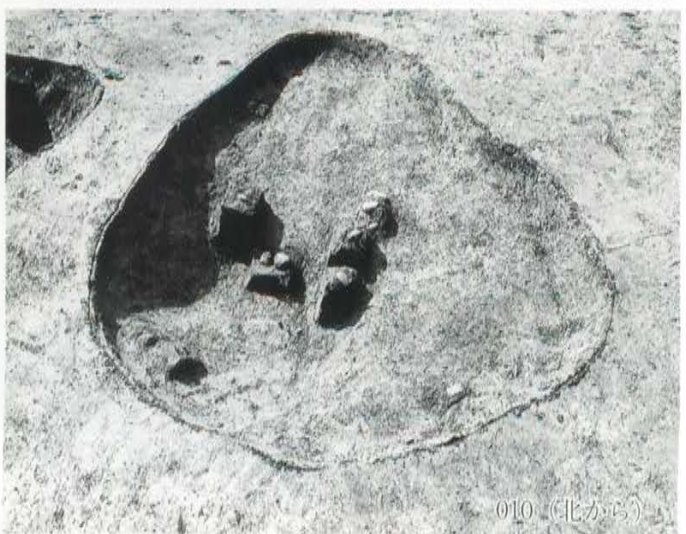
005（南から）

006（北から）

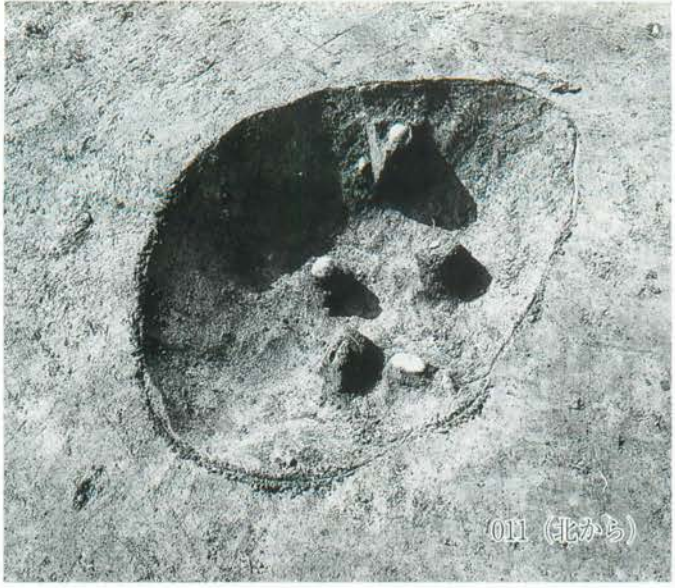
007（南から）

008（南から）

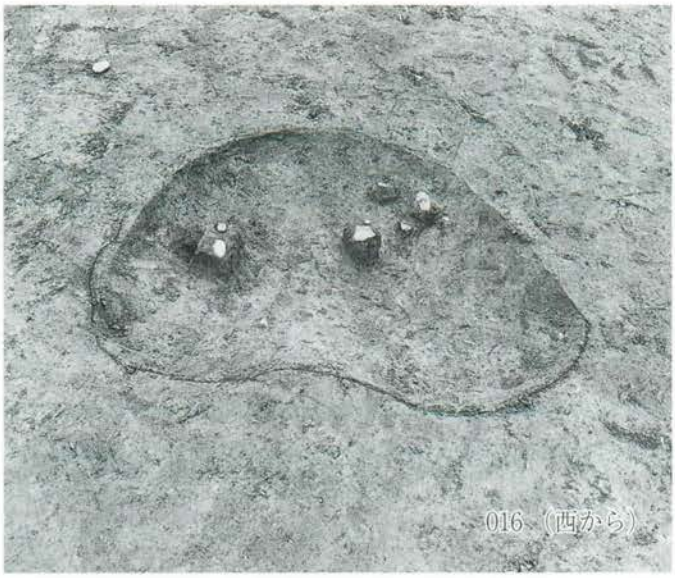
009（西から）


010（北から）

縄文時代土坑
（2）

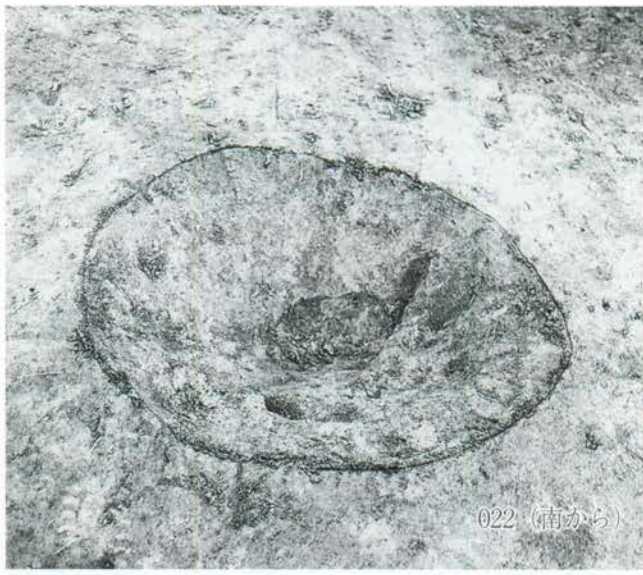

011（北から）

015（南西から）


016（西から）

019（北から）

020（西から）


022（南から）

021（西から）

024（南から）

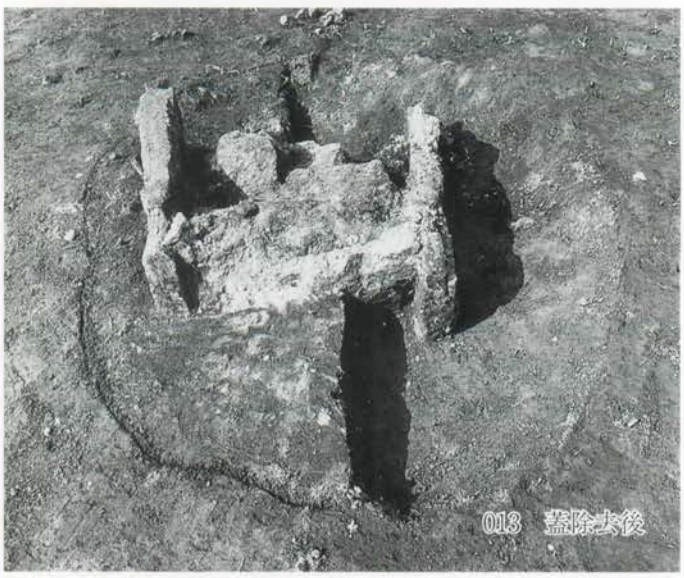
025（西から）

026（西から）

023（西から）

027（石櫃）

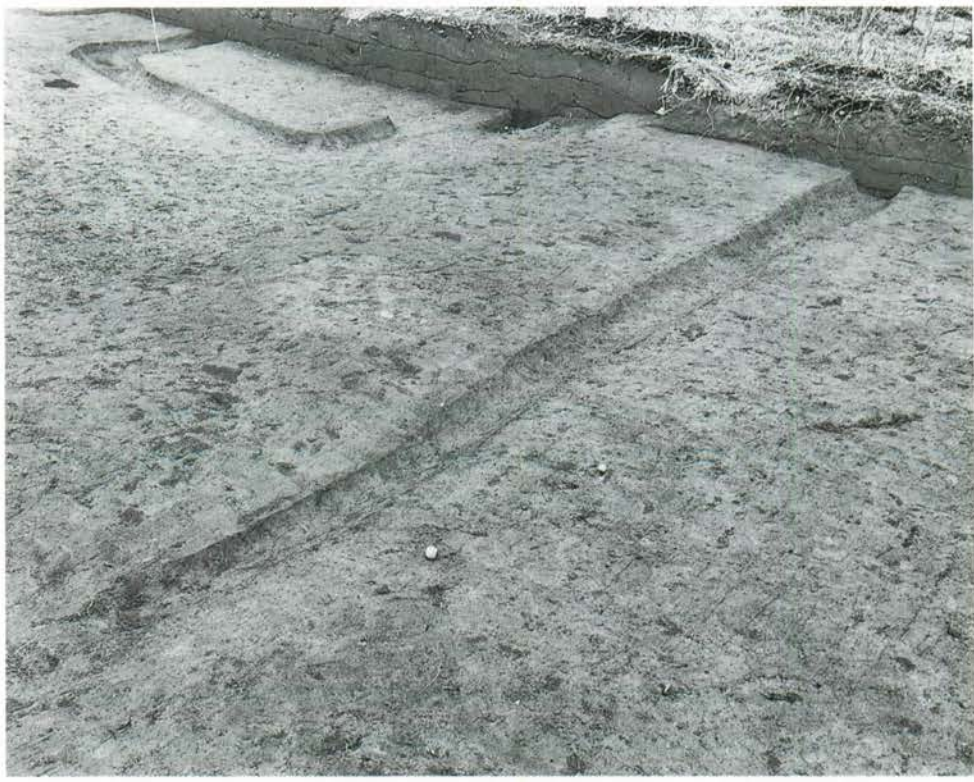
013　検出状況


013　蓋除去後

013　火葬骨出土状況

014（北から）

012　全景　（南東から）



012・017　全景　（南東から）

027　全景　（北西から）

奈良・平安時代遺構（2）

027（石櫃） 火葬骨出土状況 （北から）

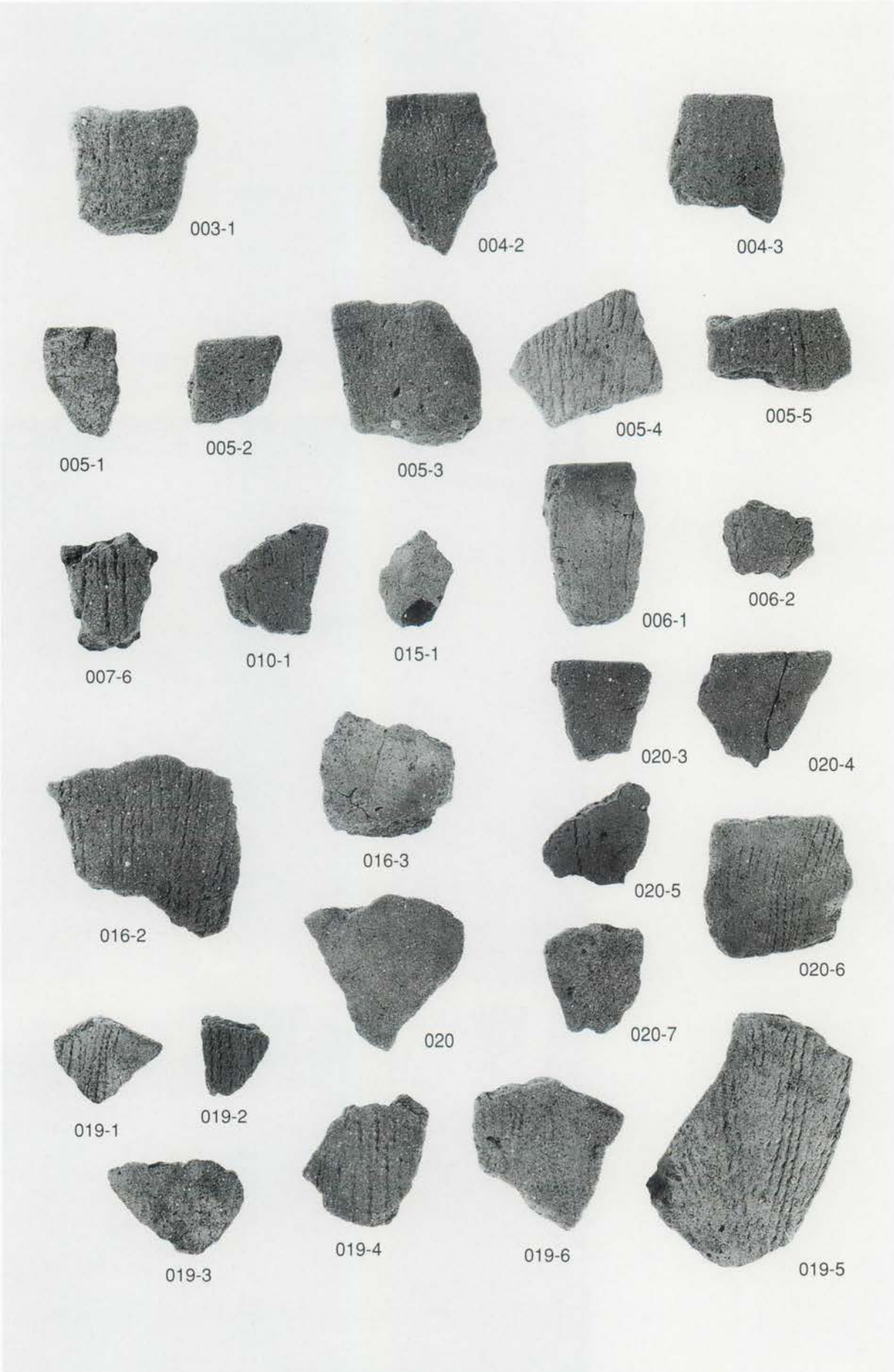
018 全景 （南から）

013（石櫃）

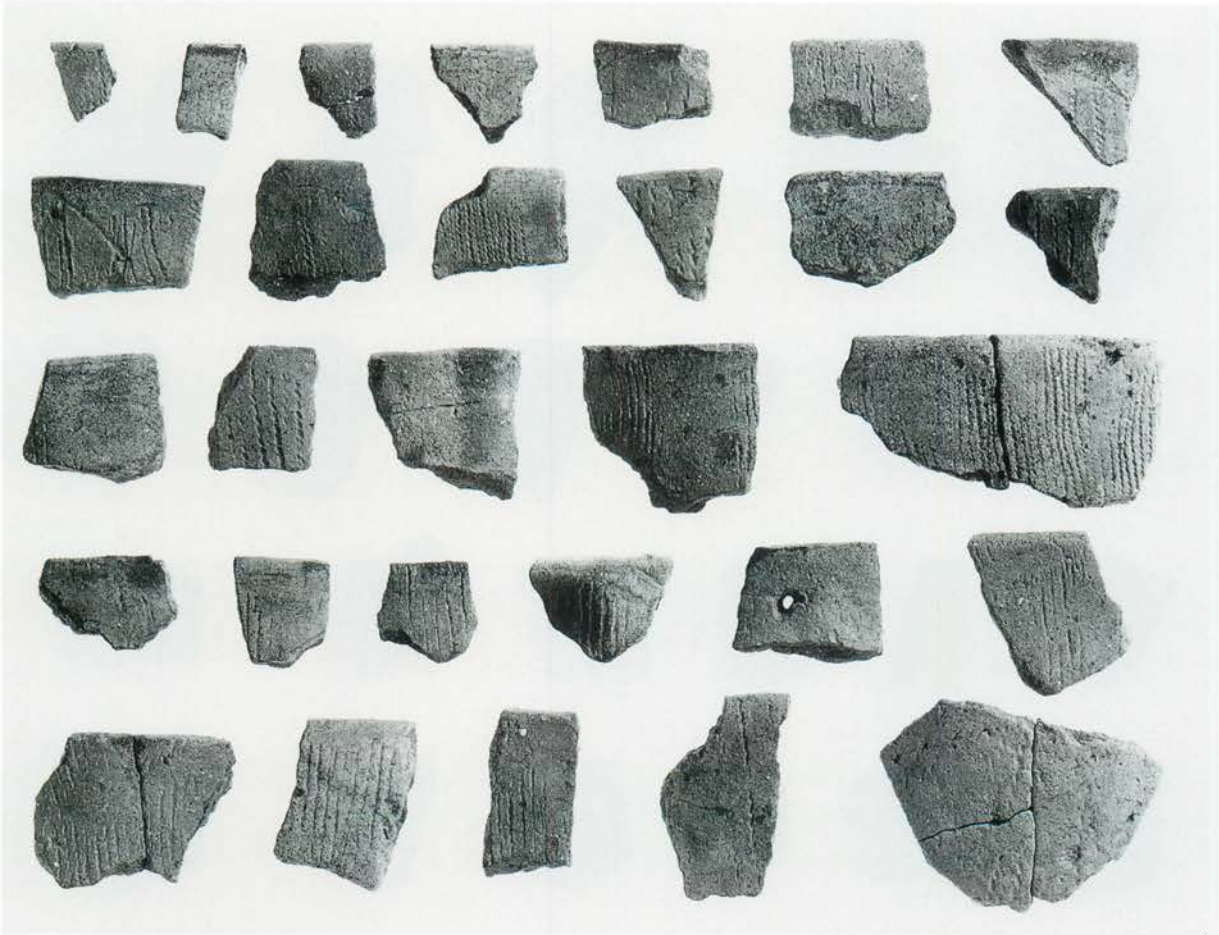
001（北東から）

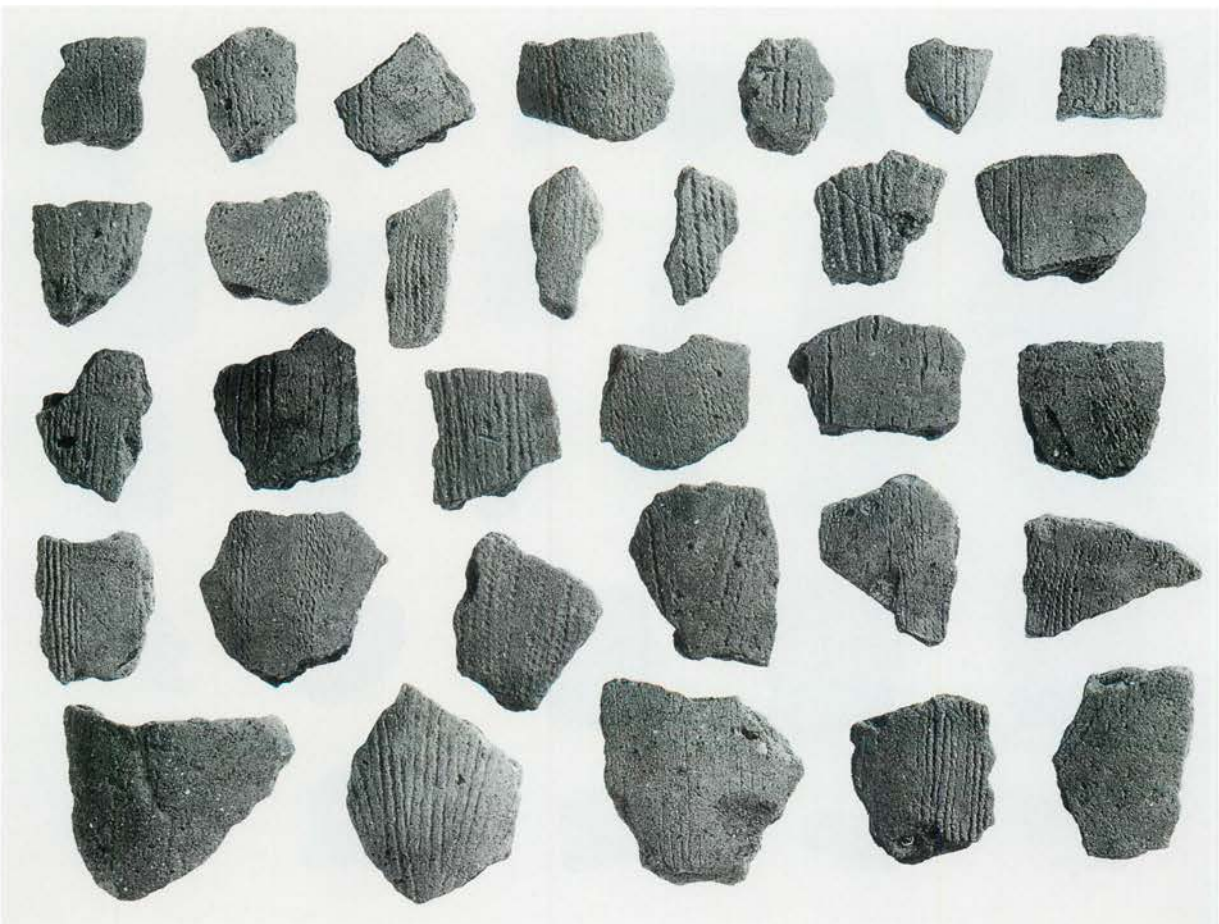
001（南西から）

002　（北から）

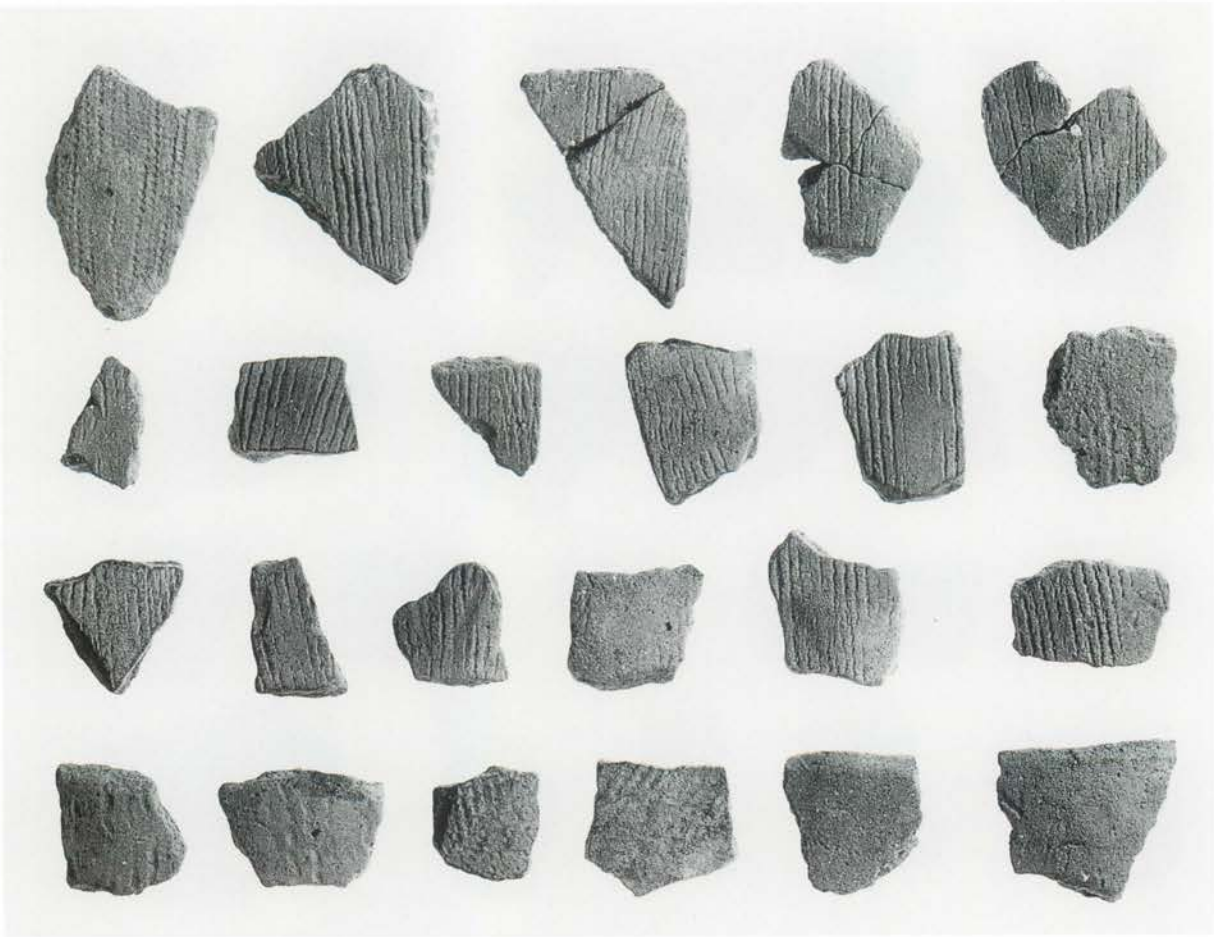

003-1
004-2
004-3
005-1
005-2
005-3
005-4
005-5
006-1
006-2
007-6
010-1
015-1
020-3
020-4
016-2
016-3
020-5
020-6
020
020-7
019-1
019-2
019-3
019-4
019-6
019-5

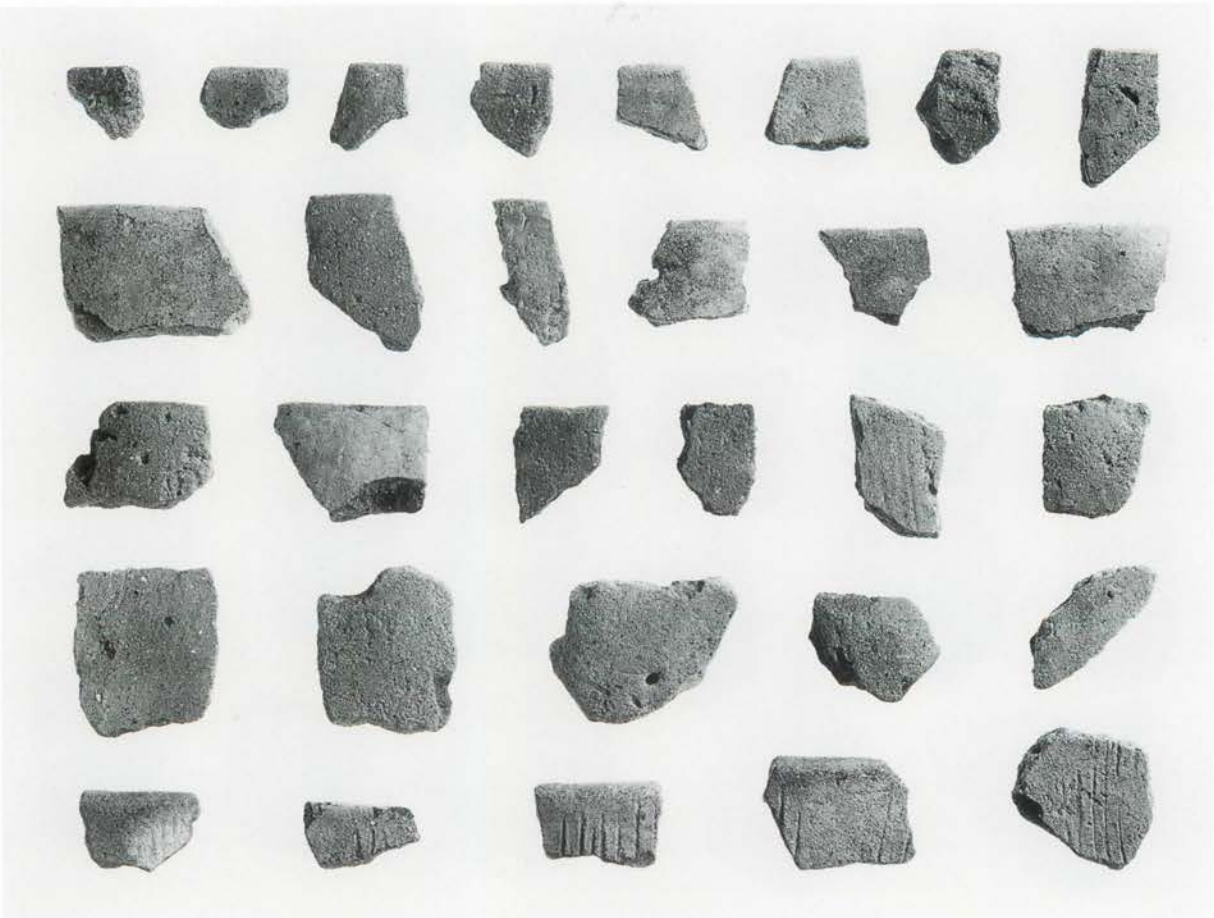
遺構内出土縄文土器



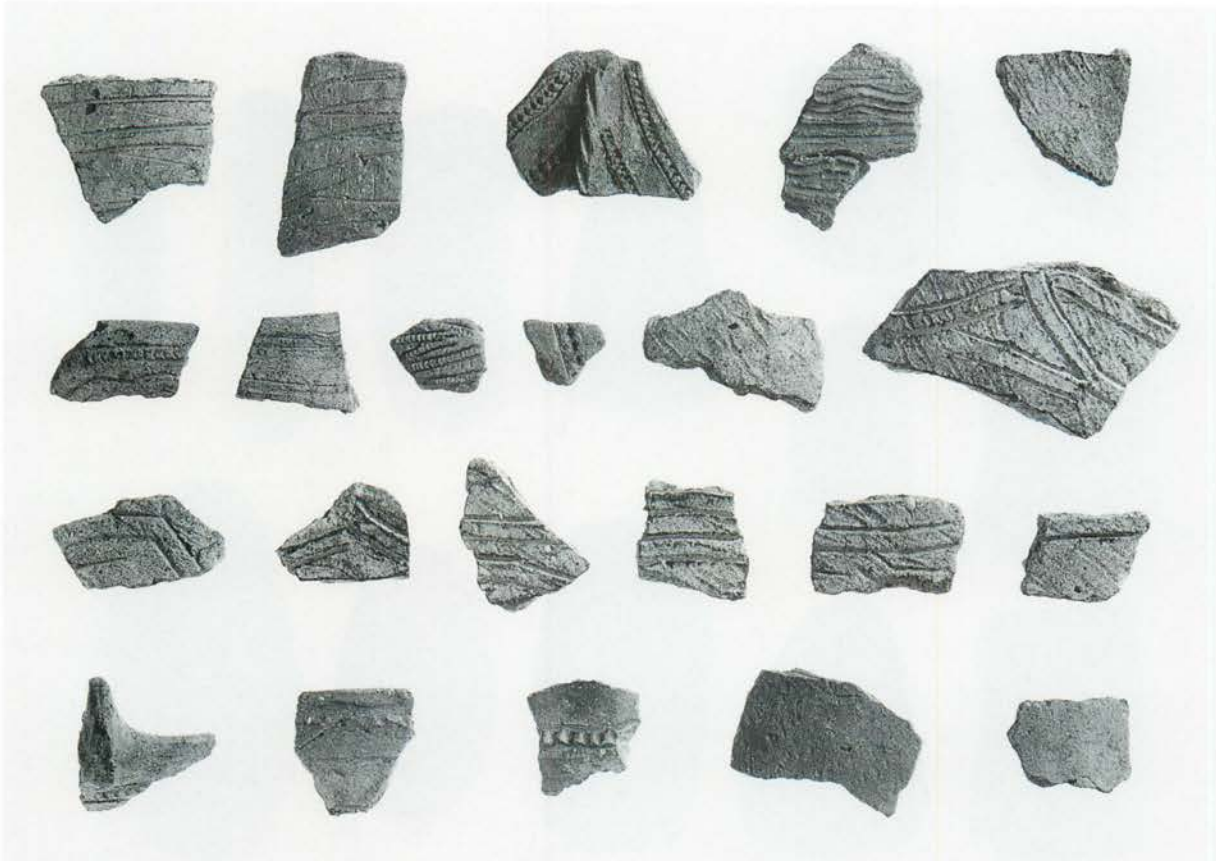


遺構外出土縄文土器（1）

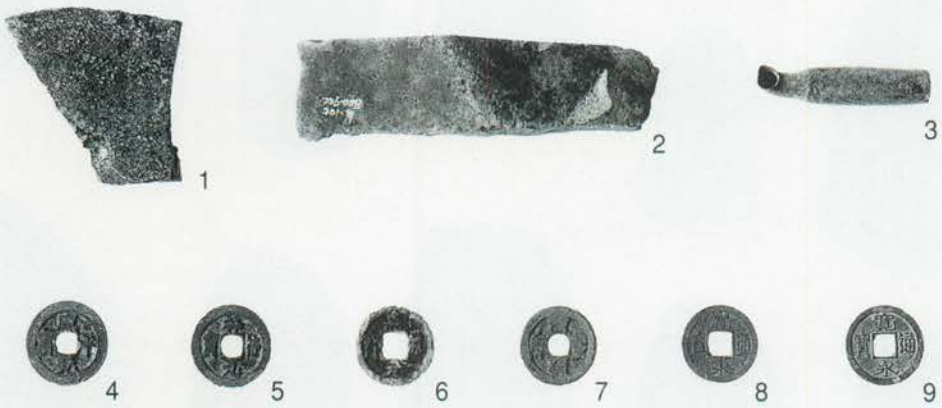




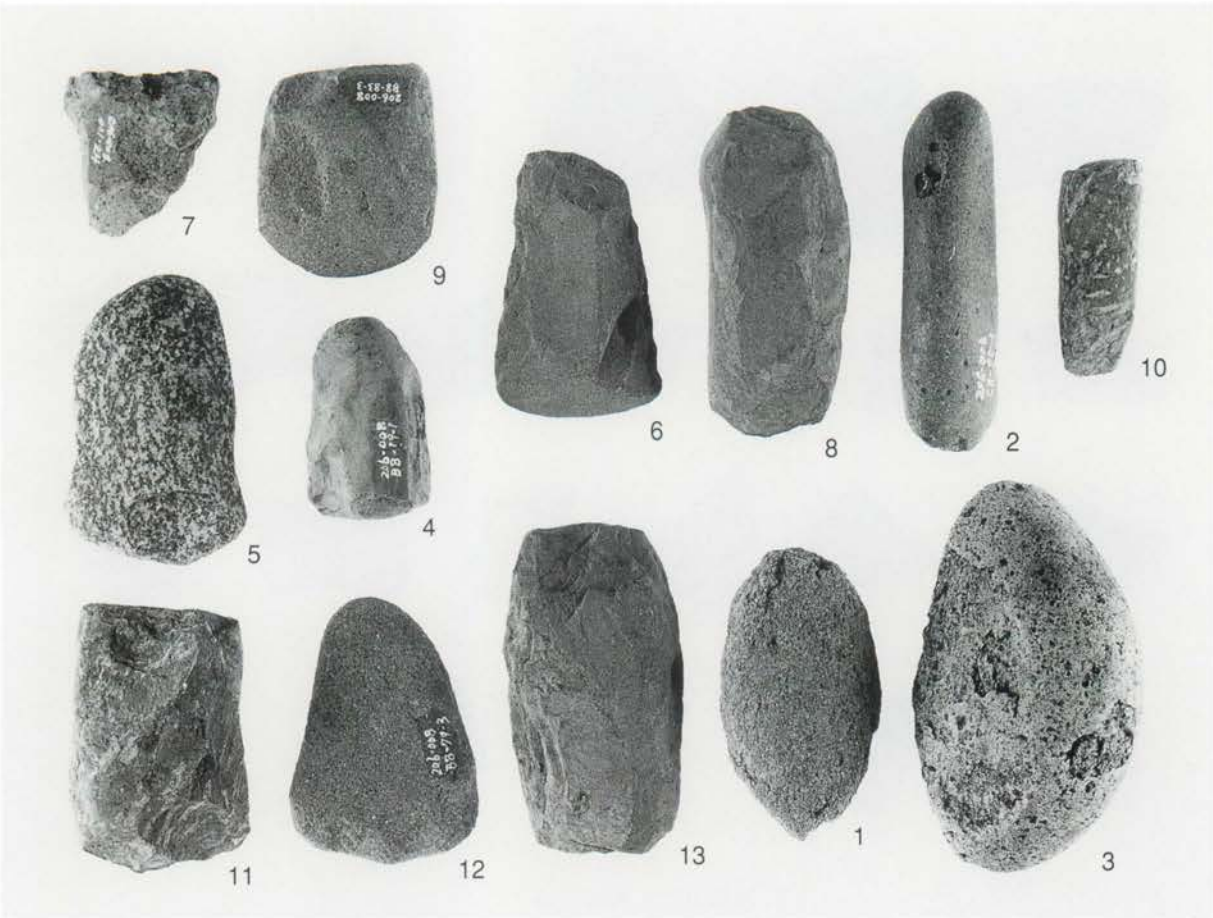
遺構外出土縄文土器（2）



遺構外出土縄文土器（3）



中・近世遺物



縄文時代石器（上段：表面，下段：裏面）

報告書抄録

ふりがな	ひがしかんとうじどうしゃどう(ちば・ふっつせん)まいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	東関東自動車道（千葉・富津線）埋蔵文化財調査報告書
副書名	木更津市金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡
巻次	6
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告
シリーズ番号	第384集
編著者名	井上哲朗・豊田秀治・小笠原永隆
編集機関	財団法人　千葉県文化財センター
所在地	〒284-0003　千葉県四街道市鹿渡809-2　　TEL　043-422-8811
発行年月日	西暦 2000年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
かなふたやだい 金二矢台遺跡	きさらづしやな 木更津市矢那 あざかなふたやだい 字金二矢台 4450-2ほか	12206	006	35度 21分 08秒	139度 57分 11秒	19910716～ 19910920 19920401～ 19920731	7,800	道路建設
ほりのうちだい 堀ノ内台遺跡	きさらづししもからすだ 木更津市下烏田 あざほりのうちだい 字堀ノ内台 400-1ほか	12206	008	35度 20分 57秒	139度 56分 23秒	19920201～ 19920327	1,300	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
金二矢台遺跡	集落跡 集落跡 集落跡	旧石器 縄文 奈良・平安 中・近世	遺物集中地点　12か所 炉穴　4基 集石遺構　3基 竪穴住居跡　4軒 石櫃　2基 道跡　1条 土坑　1基	石器 縄文土器・石器・礫 土師器・須恵器 灰釉陶器 鉄釘・鎹・銅製天秤金具・銭貨	旧石器時代は，Ⅳ・Ⅴ層に文化層が形成され，量的にもまとまる。 奈良・平安時代は，8世紀後半～9世紀前半の集落で，石櫃2基は身と蓋のセットの可能性がある。
堀ノ内台遺跡	集落跡 集落跡 墓域 墓域	旧石器 縄文 奈良・平安 中・近世	遺物集中地点　1か所 土坑　14基 方形周溝遺構　3基 石櫃　2基 溝　1条 土坑　4基 溝　2条	石器 縄文土器・石器・礫 銭貨・キセル・砥石	縄文時代は，撚糸文土器期が主体を占め，土坑を伴っている。また，石斧類が比較的多く出土した。 石櫃1基は方形周溝遺構の主体部に伴う。

千葉県文化財センター調査報告第384集

東関東自動車道(千葉・富津線)
埋蔵文化財調査報告書 6
－木更津市金二矢台遺跡・堀ノ内台遺跡－

平成12年3月31日発行

編　集　財団法人　千葉県文化財センター

発　行　日本道路公団
東京都港区虎ノ門1-18-1

財団法人　千葉県文化財センター
千葉県四街道市鹿渡809-2

印　刷　株式会社　正文社
千葉県千葉市中央区都町2-5-5